別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾑｺｶﾞﾜｶﾞｸｲﾝ 学校法人　武庫川学院								
フリガナ 大学の名称	ﾑｺｶﾞﾜｼﾞｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 武庫川女子大学								
大学本部の位置	兵庫県西宮市池開町6番46号								
大学の目的	武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用し、地球環境・自然環境問題に関わる諸課題を解決する計画立案力・実践力を備えた人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
	環境共生学部 環境共生学科	4	120	―	480	学士（環境共生学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号
	計		120	―	480				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	環境共生学部 　環境共生学科〔定員増〕　（　120）（令和7年4月） 生活環境学部 　生活環境学科〔定員増〕　（　30）（令和7年4月） 教育学部 　教育学科 　（3年次編入学定員）〔定員減〕　（△15）（令和7年4月） 健康・スポーツ科学部 　健康・スポーツ科学科 　（3年次編入学定員）（廃止）　（△20） 　※3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止 武庫川女子大学短期大学部（廃止） 　幼児教育学科　（△50） 　食生活学科　（△40） 　生活造形学科　（△60） 　※令和7年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	環境共生学部　環境共生学科	117科目	75科目	31科目	223科目	124単位			

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	環境共生学部　環境共生学科	人 10 (7)	人 4 (4)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 16 (13)	人 8 (5)	人 103 (71)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (13)			
	計	10 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (13)	8 (5)	— (—)	
既設分	文学部　日本語日本文学科	11 (9)	4 (3)	3 (1)	1 (1)	19 (14)	0 (0)	107 (100)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (9)	4 (3)	3 (1)	1 (1)	19 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	11 (9)	4 (3)	3 (1)	1 (1)	19 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	11 (9)	4 (3)	3 (1)	1 (1)	19 (14)			
	文学部　歴史文化学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	118 (111)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)			
	文学部　英語グローバル学科	10 (7)	8 (6)	4 (4)	0 (0)	22 (17)	0 (0)	108 (101)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (7)	8 (6)	4 (4)	0 (0)	22 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (7)	8 (6)	4 (4)	0 (0)	22 (17)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (7)	8 (6)	4 (4)	0 (0)	22 (17)			

既設分	教育学部　教育学科	18 (15)	16 (12)	4 (1)	0 (0)	38 (28)	1 (1)	119 (112)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (15)	16 (12)	4 (1)	0 (0)	38 (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	18 (15)	16 (12)	4 (1)	0 (0)	38 (28)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	18 (15)	16 (12)	4 (1)	0 (0)	38 (28)			
	心理・社会福祉学部　心理学科	6 (6)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	17 (16)	0 (0)	67 (60)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	17 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	17 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	17 (16)			
	心理・社会福祉学部　社会福祉学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	68 (61)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			
	健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	13 (13)	5 (4)	2 (1)	0 (0)	20 (18)	3 (3)	85 (78)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	5 (4)	2 (1)	0 (0)	20 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	13 (13)	5 (4)	2 (1)	0 (0)	20 (18)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	13 (13)	5 (4)	2 (1)	0 (0)	20 (18)			

既設分									
	健康・スポーツ科学部　スポーツマネジメント学科	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	64 (57)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)			
	生活環境学部　生活環境学科	10 (8)	13 (11)	1 (0)	0 (0)	24 (19)	4 (4)	85 (78)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (8)	13 (11)	1 (0)	0 (0)	24 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (8)	13 (11)	1 (0)	0 (0)	24 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (8)	13 (11)	1 (0)	0 (0)	24 (19)			
	社会情報学部　社会情報学科	11 (11)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	1 (1)	65 (58)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　13人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	11 (11)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	11 (11)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
	食物栄養科学部　食物栄養学科	17 (14)	7 (6)	3 (2)	0 (0)	27 (22)	10 (7)	72 (65)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (14)	7 (6)	3 (2)	0 (0)	27 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	17 (14)	7 (6)	3 (2)	0 (0)	27 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	17 (14)	7 (6)	3 (2)	0 (0)	27 (22)			

既設分									
	食物栄養科学部　食創造科学科	9 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	70 (63)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (14)			
	建築学部　建築学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	93 (86)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	建築学部　景観建築学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	97 (90)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	音楽学部　演奏学科	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	85 (78)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　4人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			

既設分

音楽学部　応用音楽学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	77 (70)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　4人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
薬学部　薬学科（6年制）	25 (25)	4 (4)	7 (7)	3 (3)	39 (39)	14 (14)	92 (85)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	25 (25)	4 (4)	7 (7)	3 (3)	39 (39)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　19人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	25 (25)	4 (4)	7 (7)	3 (3)	39 (39)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	25 (25)	4 (4)	7 (7)	3 (3)	39 (39)			
薬学部　健康生命薬科学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	5 (5)	77 (70)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	12 (12)			
看護学部　看護学科	14 (14)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	42 (42)	0 (0)	67 (60)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	42 (42)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	14 (14)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	42 (42)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	14 (14)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	42 (42)			

既設分	経営学部　経営学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	81 (74)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)			
	計	201 (188)	95 (83)	49 (41)	34 (34)	379 (346)	45 (42)	— (—)	
合　　計		211 (195)	99 (87)	51 (43)	34 (34)	395 (359)	53 (47)	— (—)	

職　　種	専　属	その他	計
	人	人	人
事　務　職　員	190 (180)	117 (107)	307 (287)
技　術　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図　書　館　職　員	2 (1)	0 (0)	2 (1)
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	1 (1)	1 (1)
指　導　補　助　者	10 (10)	0 (0)	10 (10)
計	202 (191)	118 (108)	320 (299)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	校　舎　敷　地	68,373.48㎡	168,941.93㎡	0㎡	237,315.41㎡	武庫川女子大学短期大学部の廃止認可後、共用部分を大学専用に変更予定
	そ　の　他	400.00㎡	10,640.27㎡	0㎡	11,040.27㎡	借用面積：1,129.19㎡　借用期間：2018年12月1日から2048年11月30日まで
	合　計	68,773.48㎡	179,582.20㎡	0㎡	248,355.68㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	73,414.99㎡ (72,155.83㎡)	119,601.86㎡ (119,601.86㎡)	0㎡ (0㎡)	193,016.85㎡ (191,757.69㎡)	武庫川女子大学短期大学部の廃止認可後、共用部分を大学専用に変更予定

教室・教員研究室	教　室	829室	教　員　研　究　室	16室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	環境共生学部	583,324〔103,041〕 (583,324〔103,041〕)	1,226〔384〕 (1,226〔384〕)	9,195〔1,796〕 (9,195〔1,796〕)	2,630〔2,503〕 (2,630〔2,503〕)	14,522 (14,522)	131 (131)	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	583,324〔103,041〕 (583,324〔103,041〕)	1,226〔384〕 (1,226〔384〕)	9,195〔1,796〕 (9,195〔1,796〕)	2,630〔2,503〕 (2,630〔2,503〕)	14,522 (14,522)	131 (131)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	17,535.74㎡	6,630.1㎡	11,274.47㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り 区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	教員１人当り研究費等		362千円	362千円	362千円	362千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		5,555千円	5,555千円	5,555千円	5,555千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	2,207千円	2,207千円	2,207千円	2,207千円	2,207千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	600,000千円	600,000千円	100,000千円	100,000千円	100,000千円	— 千円	— 千円	
	学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次		
			1,600千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入　等							

図書費には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

	大学等の名称	武庫川女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	文学部						0.85			
	日本語日本文学科	4	150	3年次 25	650	学士（日本語日本文学）	0.96	昭和33年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	歴史文化学科	4	80	—	80	学士（歴史文化学）	0.88	令和6年度	同上	
	英語グローバル学科	4	200	3年次 25	850	学士（英語グローバル学）	0.76	昭和33年度	同上	
	教育学科	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和38年度	同上	※平成31年度より学生募集停止
	心理・社会福祉学科	4	—	—	—	学士(心理学) 学士（社会福祉学）	—	平成12年度	同上	※令和5年度より学生募集停止
	教育学部						1.00			
	教育学科	4	240	3年次 40	1,025	学士(教育学)	1.00	平成31年度	同上	※令和6年度3年次編入学入学定員増（15人）
	心理・社会福祉学部						1.05			
	心理学科	4	150	—	300	学士(心理学)	1.05	令和5年度	同上	
	社会福祉学科	4	70	—	140	学士（社会福祉学）	1.05	令和5年度	同上	
	健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学部						0.92			
	健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学科	4	180	3年次 20	760	学士（健康・スポーツ科学）	0.97	平成23年度	同上	
	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	100	—	200	学士（スポーツマネジメント学）	0.74	令和5年度	同上	
	生活環境学部						1.10 《1.08》			
	生活環境学科	4	165	3年次 20	700	学士（生活環境学）	1.10 《1.08》	平成6年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	食物栄養学科	4	—	—	—	学士（食物栄養学）	—	平成6年度	同上	※令和2年度より学生募集停止
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	—	—	—	学士（情報ﾒﾃﾞｨｱ学）	—	平成6年度	同上	※令和5年度より学生募集停止
	建築学科	4	—	—	—	学士（建築学）	—	平成18年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号	※令和2年度より学生募集停止
	社会情報学部						1.00			
	社会情報学科	4	180	—	360	学士（社会情報学）	1.00	令和5年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	食物栄養科学部						0.94			
	食物栄養学科	4	200	3年次 10	820	学士（食物栄養学）	0.97	令和2年度	同上	
	食創造科学科	4	80	3年次 5	330	学士（食創造科学）	0.88	令和2年度	同上	
	建築学部						1.05 《1.02》			
	建築学科	4	45	—	180	学士（建築学）	1.14 《1.10》	令和2年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号	
	景観建築学科	4	40	—	160	学士（景観建築学）	0.95	令和2年度	同上	
	音楽学部						0.67			
	演奏学科	4	30	—	120	学士（音楽）	0.46	平成21年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	応用音楽学科	4	20	—	80	学士（応用音楽）	0.97	平成21年度	同上	
	薬学部（6年制）						0.77			
	薬学科	6	105	—	1,155	学士（薬学）	0.77	平成18年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号	※令和6年度入学定員減（△105人）
	薬学部（4年制）						0.97			
	健康生命薬科学科	4	60	—	180	学士（薬科学）	0.97	平成18年度	同上	※令和6年度入学定員増（20人）

既設大学等の状況	看護学部						1.10 《1.09》			
	看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.10 《1.09》	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	経営学部						1.00			
	経営学科	4	200	—	800	学士（経営学）	1.00	令和2年度	同上	
	文学研究科									
	日本語日本文学専攻（M）	2	12	—	24	修士（文学）	0.45	昭和46年度	同上	
	日本語日本文学専攻（D）	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	平成3年度	同上	
	英語英米文学専攻（M）	2	12	—	24	修士（文学）	0.16	昭和46年度	同上	
	英語英米文学専攻（D）	3	3	—	9	博士（文学）	0.33	平成12年度	同上	
	教育学専攻（M）	2	6	—	12	修士（教育学）	0.58	平成17年度	同上	
	臨床心理学専攻（M）	2	20	—	40	修士（臨床心理学）	0.67	平成11年度	同上	
	臨床教育学研究科									
	臨床教育学専攻(M)	2	16	—	32	修士（臨床教育学）	0.62	平成6年度	同上	
	臨床教育学専攻(D)	3	6	—	18	博士（臨床教育学）	0.94	平成9年度	同上	
	健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学研究科									
	健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学専攻（M）	2	20	—	40	修士（健康・スポーツ科学）	0.17	平成23年度	同上	
	生活環境学研究科									
	食物栄養学専攻（M）	2	—	—	—	修士（食物栄養学）	—	昭和41年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	※令和4年度より学生募集停止
	食物栄養学専攻（D）	3	—	—	—	博士（食物栄養学）	—	平成2年度	同上	※令和4年度より学生募集停止
	生活環境学専攻（M）	2	6	—	12	修士（生活環境学） 修士(情報ﾒﾃﾞｨｱ学)	0.50	平成12年度	同上	
	生活環境学専攻（D）	3	2	—	6	博士（生活環境学） 博士(情報ﾒﾃﾞｨｱ学)	0.16	平成12年度	同上	
	食物栄養科学研究科									
	食物栄養学専攻（M）	2	8	—	16	修士（食物栄養学）	0.81	令和4年度	同上	
	食物栄養学専攻（D）	3	2	—	6	博士（食物栄養学）	0.16	令和4年度	同上	
	食創造科学専攻（M）	2	4	—	8	修士（食創造科学）	0.50	令和4年度	同上	
	食創造科学専攻（D）	3	2	—	6	博士（食創造科学）	0.00	令和4年度	同上	
	建築学研究科									
	建築学専攻（M）	2	22	—	44	修士（建築学）	1.22	令和2年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号	
	建築学専攻（D）	3	2	—	6	博士（建築学）	0.16	令和2年度	同上	
	景観建築学専攻（M）	2	15	—	21	修士（景観建築学）	1.66	令和2年度	同上	※令和6年度より入学定員増（9人）
	景観建築学専攻（D）	3	1	—	3	博士（景観建築学）	0.00	令和2年度	同上	
	薬学研究科									
	薬学専攻（4年制D）	4	2	—	8	博士（薬学） 博士（臨床薬学）	0.37	平成24年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号	
	薬科学専攻（M）	2	30	—	60	修士（薬科学）	0.20	平成22年度	同上	
	薬科学専攻（D）	3	2	—	6	博士（薬科学） 博士（応用薬科学）	0.33	平成24年度	同上	
	看護学研究科									
	看護学専攻（M）	2	15	—	30	修士（看護学）	0.73	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	看護学専攻（D）	3	5	—	15	博士（看護学）	1.33	平成29年度	同上	

	大学等の名称	武庫川女子大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
既設大学等の状況		年	人	年次 人	人		倍		
	日本語文化学科	2	—	—	—	短期大学士（日本語文化学）	—	昭和26年度	兵庫県西宮市池開町6番46号
	英語キャリア・コミュニケーション学科	2	—	—	—	短期大学士（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	—	昭和25年度	同上
	幼児教育学科	2	50	—	200	短期大学士（幼児教育学）	0.44	昭和26年度	同上
	心理・人間関係学科	2	—	—	—	短期大学士（心理・人間関係学）	—	昭和62年度	同上
	健康・スポーツ学科	2	—	—	—	短期大学士（健康・ｽﾎﾟｰﾂ学）	—	昭和30年度	同上
	食生活学科	2	40	—	120	短期大学士（食生活学）	0.57	昭和26年度	同上
	生活造形学科	2	60	—	150	短期大学士（生活造形学）	0.64	昭和25年度	同上

附属施設の概要	名　称　：　武庫川女子大学薬用植物園 所在地　：　兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号 設置年月：　昭和37年4月（現施設は、昭和62年11月） 規模等　：　温室・寒地性植物栽培室　162.68㎡　　薬草園　　400.00㎡	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境共生学部環境共生学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	神話・伝説の世界から	1前・後			2		○								1	
			平安朝文学の世界	1前			2		○								1	
			日常生活からの哲学入門	1前・後			2		○								1	
			現代フランスの音楽事情	1前・後			2		○								1	
			ミュージカル歌唱法	1前・後			1				○						1	
			音楽の科学	1前・後			2		○								1	
			フランスの音楽と芸術文化	1前・後			2		○								1	
			自己発見アート	1前・後			1				○						1	
			未来造形	1前・後			1				○						1	
			歌舞伎鑑賞入門	1後			2		○								1	
			日本の文化Ⅰ	1前			2		○								1	
			日本の文化Ⅱ	1後			2		○								1	
			遊びの人類学	1後			2		○								1	
			SNSから日本語を見る	1前・後			2		○								1	
			英語圏の文学・文化	1前・後			2		○								1	
			ヨーロッパの名歌歌唱法	1前・後			1				○						2	オムニバス
			日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後			1				○						1	
			日本語の世界	1前・後			2		○								1	
			小計（18科目）	－	－	0	31	0	－			0	0	0	0	0	14	－
		社会科学科目	生涯福祉論	1前・後			2		○								1	
			社会福祉とボランティア	1前・後			2		○								1	
			福祉レクリエーションの実際	1後			2		○								1	
			子育てと家族関係	1前			2		○								1	
			子育てと母性の気づき	1前			2		○								1	
			現代社会と憲法	1前・後			2		○								1	
			教養としての法律	1前			2		○								1	
			暮らしと法律	1後			2		○								1	
			女性と子どものヘルスケア	1後			2		○								5	オムニバス
			消費者生活論	1前			2		○								1	
			英語で学ぶやさしい経済学	1前			2		○								1	
			英語で学ぶお金の知識	1後			2		○								1	
			メディア技術と文字デザイン	1前			2		○								1	
			現代の教育・保育事情	1前・後			2		○								4	オムニバス
			カウンセリングの実際	1前			2		○								1	
			実践カウンセリング	1後			2		○								1	
			建築と社会	1前			2		○								1	
			小計（17科目）	－	－	0	34	0	－			0	0	0	0	0	19	－
		自然科学科目	生命科学入門	1前			2		○			1						
			生活の中の物理学	1後			2		○								1	
			最先端物理学が描く宇宙	1後			2		○								1	
			薬の歴史と未来	1後			2		○			1					1	オムニバス
			薬とからだ	1後			2		○								2	オムニバス
			色彩情報	1前			2		○								1	
			科学から考える衣服と生活	1前			2		○								1	
			健康生活とライフステージ	1前			2		○								1	
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			2	0	0	0	0	7	－
		国際理解科目	韓国文化の理解	1前・後			2		○								1	
			中国文化論	1前・後			2		○								1	
			世界の中の日本人	1前			2		○								1	
			音楽から見る人と世界	1後			2		○								1	
			International Perspectives Ⅰ	1前			2		○								1	
			International Perspectives Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	5	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	女性のためのマーケティング	1前・後			2		○								1	
			Current Affairs in Japan Ⅰ	1前			2		○								1	
			Current Affairs in Japan Ⅱ	1後			2		○								1	
			心理学トピックス	1後			2		○								1	
			現代社会と保健医療	1後			2		○								1	
			社会福祉の学び	1後			2		○								1	
			スポーツツーリズムと地域創生	1後			2		○								1	
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門Ⅰ	1前・後			2		○								1	
			セクシュアリティ入門Ⅱ	1前・後			2		○								1	
			女性の身体とセクシュアリティ	1前・後			2		○								1	
			メディアに見るジェンダー	1前・後			2		○								1	
			女性と教育	1前・後			2		○								1	
			ジェンダーとアイデンティティー	1前・後			2		○								1	
			ジェンダーと社会	1前・後			2		○								1	
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	3	－
		キャリアデザイン科目群	女性のためのライフプランニング	1前・後			2		○								1	
			自己アピールトレーニング	1前・後			2			○							1	
			キャリアビジョンと人物評価	1後			2		○								1	
			ビジネスプラン構築概論	1後			2		○								1	
			小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	4	－
	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ	1前・後			2			○							1	
			英語コミュニケーションⅡ	1前・後			2			○							1	
			英語リーディングⅠ	1前・後			1			○							1	
			英語リーディングⅡ	1前・後			1			○							2	
			英語ライティングⅠ	1前・後			1			○							2	
			英語ライティングⅡ	1前			1			○							1	
			TOEIC演習Ⅰ	1前・後			1			○							1	
			TOEIC演習Ⅱ	1前・後			1			○							1	
			TOEIC演習Ⅲ	1前・後			1			○							1	
			Basics for Presentation Ⅰ	2前			1			○							1	
			Basics for Presentation Ⅱ	2後			1			○							1	
			Speaking & Listening Ⅰ	2前			1			○							1	
			Speaking & Listening Ⅱ	2後			1			○							1	
			Speaking & Listening Ⅲ	3前			1			○							1	
			Presentation	3後			1			○							1	
			Writing Ⅰ	3前			1			○							1	
			Writing Ⅱ	3後			1			○							1	
			English for Careers	3前			1			○							1	
			Reading & Discussion	3後			1			○							1	
			Global IssuesⅠ	4前			1			○							1	
			Global IssuesⅡ	4後			1			○							1	
			Current Events	4前			1			○							1	
			Reading & Critical Thinking	4前			1			○							1	
			Career Workshop	4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅰ	1前・後			2			○							2	
			ドイツ語Ⅱ	1後			2			○							1	
			フランス語Ⅰ	1前・後			2			○							2	
			フランス語Ⅱ	1後			2			○							1	
			フランス語ⅠA	1前			1			○							1	
			フランス語ⅠB	1後			1			○							1	
			中国語Ⅰ	1前・後			2			○							4	
			中国語Ⅱ	1前・後			2			○							3	
			イタリア語ⅠA	1前・後			1			○							1	
			イタリア語ⅠB	1前・後			1			○							1	
			スペイン語Ⅰ	1前・後			2			○							1	
			ハングルⅠ	1前・後			2			○							3	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングルⅡ	1前			2			○							1	
			特別英語演習Ⅰ	1前・後			4			○							1	集中
			特別英語演習Ⅱ	1前・後			4			○							1	集中
			特別中国語演習Ⅰ	1前			2			○							1	集中
			特別中国語演習Ⅱ	1前			2			○							1	集中
			特別ハングル演習Ⅰ	1前			4			○							1	集中
			特別ハングル演習Ⅱ	1前			4			○							1	集中
			English for Studying Abroad	1前・後			1			○							1	
			Trends in Society	1前・後			1			○							1	
			Successful English Discussion	1前・後			1			○							1	
			Leadership Development	4後			1			○							1	
			留学準備演習	1前・後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱ	1前・後			2			○							1	
			ハングル検定演習	1後			1			○							1	
			海外演習Ⅰ	1前			1			○							1	
			海外演習Ⅱ	1前			2			○							1	
			小計（52科目）	－	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	19	－
		情報リテラシー科目	Webデザイン基礎	1前・後			2			○							1	
			Webデザイン応用	1前・後			2			○							1	
			グラフィックデザイン基礎	1後			2			○							1	
			フォトレタッチ基礎	1前			2			○							1	
			データサイエンスの基礎とExcel	1前・後			2			○							1	
			データサイエンスの応用とExcel	1前・後			2			○							1	
			データリテラシー・AIの基礎	1後	○	2				○							2	メディア
			データサイエンスのためのPython	1前・後			2			○							1	
			実用的ITリテラシー	1前・後			2			○							1	
			小計（9科目）	－	－	2	16	0	－			0	0	0	0	0	4	－
	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	生涯スポーツ論	1前			2		○								1	
			スポーツと現代社会	1前・後			2		○								1	
			知っておきたい応急処置	1前			2		○								1	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	3	－
		スポーツ実技科目	スポーツ実技（テニス）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（ゴルフ）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（バレーボール）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（バドミントン）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（ジャズダンス）	1後			1				○						1	
			スポーツ実技（エアロビクス）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（スリムエアロ）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（水泳）	1後			1				○						1	
			スポーツ実技（軽スポーツ）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（ヨガ）	1前・後			1				○						1	
			からだと気づきと姿勢法	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（スタイルジャズ）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（バンジーエクササイズ）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（エアリアルワーク）	1前・後			1				○						1	
			スポーツ実技（フットサル）	1前・後			1				○						1	
			マッサージ実習	1後			1				○						1	
			小計（16科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	14	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	基礎科目	初期演習Ⅰ	1前	○	1			○			2	1					
		基礎化学	1前	○	2			○			1						
		基礎生物学	1前	○	2			○				2					オムニバス
		基礎環境工学	1前	○	2			○			1						
		情報リテラシー	1前	○	2			○								2	
		初期演習Ⅱ（環境共生学）	1後	○	1			○			2	1					
		生態学	1後			2		○				1					
		地球科学	1後			2		○			1						
		細胞生物学	1後			2		○				1					
		環境英語Ⅰ	2前	○	1				○							3	
		分析化学	2前			2		○			1						
		環境微生物学	2前			2		○			1						
		高分子化学	2前			2		○			1						
		環境英語Ⅱ	2後	○	1				○							3	
		植物生理学	2後			2		○			1						
		生命と地球環境	2後			1		○								1	集中
		環境英語Ⅲ	3前	○	1				○							3	
		環境英語Ⅳ	3後	○	1				○							3	
		環境英語演習（留学プログラム）	3前			2			○		1						集中
		環境研究英語Ⅰ	4前	○	1				○		10	4	2				
		環境研究英語Ⅱ	4後	○	1				○		10	4	2				
		小計（21科目）	－	－	16	17	0	－			10	4	2	0	0	6	－
	問題・課題の認識	環境共生学入門（学習設計）	1前	○	1			○			1						
		SDGs論	1前	○	2			○			1	1					オムニバス
		環境問題概論	1前	○	2			○			1						
		フィールド・環境施設実習	1前	○	2					○	2	2	1		5		オムニバス・共同（一部）
		小計（4科目）	－	－	7	0	0	－			4	3	1	0	5	0	－
	体験・技術習得	エコツーリズム実習	1通			1				○	1		1				オムニバス・共同（一部）
		基礎実験	1後	○	1.5					○	2	1			3		オムニバス・共同（一部）
		データ分析・統計学	1後	○	2			○					1				
		ラボローテーション実習Ⅰa	2前	○		1.5				○	6	2			8		
		ラボローテーション実習Ⅰb	2前	○		1.5				○	6	2			8		
		ラボローテーション実習Ⅱa	2後	○		1.5				○	4	2	2		8		
		ラボローテーション実習Ⅱb	2後	○		1.5				○	4	2	2		8		
		物理学実験	2後			1				○		1					集中
		地学実験	2後			1				○		1					集中
		環境技術実験	3後	○	1.5					○	4		1		5		オムニバス・共同（一部）
		小計（10科目）	－	－	5	9	0	－			10	4	2	0	8	0	－
	ソーシャルデザイン	環境経済学	1後			2		○					1				
		環境教育論	2後	○		2		○				1					
		環境政策論	2後	○		2		○			1						
		環境教育実践	3前			1			○			1			1		
		世界遺産学	3前			1		○								1	集中
		NPO・NGO論	3前			2		○								1	
		エコツーリズム論	3前			1		○								1	集中
		小計（7科目）	－	－	0	11	0	－			1	1	1	0	1	3	－
	環境管理技術	環境イメージング技術	2前	○		2		○			1						
		環境放射線工学	2前			2		○				1					
		防災技術Ⅰ	2後	○		2		○				1					
		環境アセスメント論	2前			2		○								1	集中
		環境情報工学	2後	○		2		○			1						
		防災技術Ⅱ	3前	○		2		○				1					
		野生生物管理工学	3前			2		○				1					
		水質管理工学	3前	○		2		○			1						
		環境モニタリング	3後	○		2		○			1						
		毒性学	3後			2		○					1				
		小計（10科目）	－	－	0	20	0	－			3	2	1	0	0	1	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	合成化学	1後			2		○			1						
		環境生物有機化学	2前	○		2		○			1						
		環境エネルギー概論	2前	○		2		○			1						
		バイオマスエネルギー学	2前	○		2		○			1						
		物理学と環境工学	2前			2		○				1					
		資源管理学	2後			2		○				1					
		機器分析学	2後			2		○			1						
		環境エネルギー技術	3前			2		○			1						
		グリーンケミストリー	3前			2		○					1				
		資源循環工学	3前	○		2		○			1						
		高機能材料工学	3後	○		2		○			1						
		小計（11科目）	－	－	0	22	0	－			5	2	1	0	0	0	－
	生物工学	生命情報科学	1後	○		2		○			1						
		バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2前	○		2		○				1					
		環境レメディエーション工学	2前	○		2		○			1						
		環境・バイオ産業論	2後			2		○					1				
		バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2後	○		2		○			1						
		バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	2後	○		2		○			1						
		生態工学	3前	○		2		○			1						
		バイオマス利活用工学	3前	○		2		○			1						
		小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			4	1	1	0	0	0	－
	研究・プロジェクト	社会連携プロジェクトⅠ	1後	○	3				○		8	3	2		5		共同
		社会連携プロジェクトⅡ	2前	○	3				○		8	3	2		5		共同
		プロジェクトコミュニケーションⅠ	2後	○	3				○		1	1			1		共同
		プロジェクトコミュニケーションⅡ	3前	○	3				○		1	1			1		共同
		卒業研究・活動	4通	○	6				○		10	4	2		8		
		小計（5科目）	－	－	18	0	0	－			10	4	2	0	8	0	－
合計（223科目）			－	－	48	341	0	－			10	4	2	0	8	103	－

学位又は称号	学士（環境共生学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、共通教育科目、専門教育科目の2つの科目区分を通して124単位以上を修得すること。また、科目区分ごとに修得すべき最低単位数は共通教育科目で6単位以上、専門教育科目で108単位以上とする。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位（2～8単位）を専門教育科目として認定する。 （履修科目の登録の上限：50単位未満（年間）） なお、専門教育科目のうち、ラボローテーション実習Ⅰaとラボローテーション実習Ⅰbから1科目、ラボローテーション実習Ⅱaとラボローテーション実習Ⅱbから1科目をそれぞれ選択必修とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（社会情報学部社会情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○								兼1	
			平安朝文学の世界	1前		2		○								兼1	
			日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○								兼1	
			現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○								兼1	
			ミュージカル歌唱法	1前・後		1				○						兼1	
			音楽の科学	1前・後		2		○								兼1	
			フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2		○								兼1	
			自己発見アート	1前・後		1				○						兼1	
			未来造形	1前・後		1				○						兼1	
			歌舞伎鑑賞入門	1後		2		○								兼1	
			日本の文化Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			日本の文化Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			遊びの人類学	1後		2		○								兼1	
			SNSから日本語を見る	1前・後		2		○								兼1	
			芭蕉をめぐる人々	1前		2		○								兼1	
			雨月物語に込められた情念	1前		2		○								兼1	
			芭蕉と旅	1後		2		○								兼1	
			「心中天網島」の女房「おさん」	1後		2		○								兼1	
			英語圏の文学・文化	1前・後		2		○								兼1	
			ヨーロッパの名歌歌唱法	1前・後		1				○						兼2	オムニバス
			日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1				○						兼1	
			建築文化論	1後		2		○								兼1	
			建築と歴史	1前		2		○								兼1	
			英語を学問する－理論と実践	1前・後		2		○								兼1	
			日本語の世界	1前・後		2		○								兼1	
			生活の中の心理学	1後		2		○								兼1	
			合唱表現	1後		1				○						兼1	
			小計（27科目）	－	0	48	0	－			0	0	0	0	0	兼20	－
		社会科学科目	生涯福祉論	1前・後		2		○								兼1	
			社会福祉とボランティア	1前・後		2		○								兼1	
			福祉レクリエーションの実際	1後		2		○								兼1	
			子育てと家族関係	1前		2		○								兼1	
			子育てと母性の気づき	1前		2		○								兼1	
			現代社会と憲法	1前・後		2		○								兼1	
			教養としての法律	1前		2		○								兼1	
			暮らしと法律	1後		2		○								兼1	
			女性と子どものヘルスケア	1後		2		○								兼5	オムニバス
			消費者生活論	1前		2		○								兼1	
			英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○								兼1	
			英語で学ぶお金の知識	1後		2		○								兼1	
			我々のくらしと日本の産業	1前・後		2		○				1					
			メディア技術と文字デザイン	1前		2		○				1					
			まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○								兼1	
			情報化と教育	1前・後		2		○								兼1	
			現代の教育・保育事情	1前・後		2		○								兼4	オムニバス
			カウンセリングの実際	1前		2		○								兼1	
			実践カウンセリング	1後		2		○								兼1	
			聴覚障害者の理解と手話言語	1前・後		2			○							兼1	
			建築と社会	1前		2		○								兼1	
			小計（21科目）	－	0	42	0	－			0	2	0	0	0	兼22	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	生命科学入門	1前		2		○								兼1	
			生活の中の物理学	1後		2		○								兼1	
			最先端物理学が描く宇宙	1後		2		○								兼1	
			薬の歴史と未来	1後		2		○								兼2	オムニバス
			薬とからだ	1後		2		○								兼3	オムニバス
			エコロジーと私たちのくらし	1後		2		○								兼1	
			数的能力の発達過程	1前・後		2		○								兼1	
			数や図形の科学	1前・後		2		○								兼1	
			環境問題の歴史	1前		2		○								兼1	
			科学技術の歩み	1後		2		○								兼1	
			生命科学の基礎	1前		2		○								兼1	
			色彩情報	1前・後		2		○				1					
			科学から考える衣服と生活	1前		2		○								兼1	
			健康を支える仕組み	1前・後		2		○								兼2	オムニバス
			生活習慣と脳と心と身体の科学	1前		2		○								兼1	
			健康生活とライフステージ	1前		2		○								兼2	オムニバス
			はたらく細胞とくすり	1後		2		○								兼1	
			身近にある科学	1後		2		○								兼1	
			発達障害の理解とリエゾン支援	1後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			0	1	0	0	0	兼18	－
		国際理解科目	韓国文化の理解	1前・後		2		○								兼1	
			中国文化論	1前・後		2		○								兼1	
			国際協力入門	1前		2		○								兼1	
			世界の中の日本人	1前		2		○								兼1	
			音楽から見る人と世界	1後		2		○								兼1	
			International Perspectives Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			International Perspectives Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		現代トピック科目	女性のためのマーケティング	1前・後		2		○								兼1	
			Current Affairs in Japan Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			Current Affairs in Japan Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			心理学トピックス	1後		2		○								兼1	
			現代社会と保健医療	1後		2		○								兼1	
			社会福祉の学び	1後		2		○								兼1	
			テレビ映像と現代社会	1前・後		2		○								兼1	
			スポーツツーリズムと地域創生	1後		2		○								兼1	
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼7	－
	ジェンダー科目群		セクシュアリティ入門Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
			セクシュアリティ入門Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
			女性の身体とセクシュアリティ	1前・後		2		○								兼1	
			メディアに見るジェンダー	1前・後		2		○								兼1	
			女性が輝く社会づくり	1前・後		2		○								兼1	
			女性と教育	1前・後		2		○								兼1	
			ジェンダーとアイデンティティー	1前・後		2		○								兼1	
			ジェンダーと社会	1前・後		2		○								兼1	
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼4	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	キャリアデザイン科目群		女性のためのライフプランニング	1前・後		2		○								兼1	
			自己アピールトレーニング	1前・後		2			○							兼1	
			キャリアビジョンと人物評価	1後		2		○								兼1	
			教員から見た社会人基礎力	1前・後		2		○								兼5	オムニバス
			文章表現の基礎	1前・後		2		○								兼1	
			プレゼンテーションの基礎	1前・後		2		○								兼1	
			公務員の魅力	1前・後		2		○								兼1	
			ベンチャービジネス概論	1前		2		○								兼1	
			ビジネスプラン構築概論	1後		2		○								兼1	
			SOAR 人生100年をきり拓く力	1前・後		2		○								兼1	
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼13	－
	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ	1前・後		2			○							兼1	
			英語コミュニケーションⅡ	1前・後		2			○							兼1	
			英語リーディングⅠ	1前・後		1			○							兼1	
			英語リーディングⅡ	1前・後		1			○							兼2	
			英語ライティングⅠ	1前・後		1			○							兼2	
			英語ライティングⅡ	1前・後		1			○							兼1	
			TOEIC演習Ⅰ	1前・後		1			○							兼1	
			TOEIC演習Ⅱ	1前・後		1			○							兼1	
			TOEIC演習Ⅲ	1前・後		1			○							兼1	
			Basics for Presentation Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			Basics for Presentation Ⅱ	2後		1			○							兼1	
			Speaking & Listening Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			Speaking & Listening Ⅱ	2後		1			○							兼1	
			Speaking & Listening Ⅲ	3前		1			○							兼1	
			Presentation	3後		1			○							兼1	
			Writing Ⅰ	3前		1			○							兼1	
			Writing Ⅱ	3後		1			○							兼1	
			English for Careers	3前		1			○							兼1	
			Reading & Discussion	3後		1			○							兼1	
			Global IssuesⅠ	4前		1			○							兼1	
			Global IssuesⅡ	4後		1			○							兼1	
			Current Events	4前		1			○							兼1	
			Reading & Critical Thinking	4前		1			○							兼1	
			Career Workshop	4後		1			○							兼1	
			ドイツ語Ⅰ	1前・後		2			○							兼2	
			ドイツ語Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			フランス語Ⅰ	1前・後		2			○							兼2	
			フランス語Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			フランス語ⅠA	1前		1			○							兼1	
			フランス語ⅠB	1後		1			○							兼1	
			中国語Ⅰ	1前・後		2			○							兼4	
			中国語Ⅱ	1前・後		2			○							兼3	
			イタリア語ⅠA	1前・後		1			○							兼1	
			イタリア語ⅠB	1前・後		1			○							兼1	
			スペイン語Ⅰ	1前・後		2			○							兼1	
			ハングルⅠ	1前・後		2			○							兼3	
			ハングルⅡ	1前		2			○							兼1	
			特別英語演習Ⅰ	1前・後		4			○							兼1	集中
			特別英語演習Ⅱ	1前・後		4			○							兼1	集中
			特別中国語演習Ⅰ	1前		2			○							兼1	集中
			特別中国語演習Ⅱ	1前		2			○							兼1	集中
			特別ハングル演習Ⅰ	1前		4			○							兼1	集中
			特別ハングル演習Ⅱ	1前		4			○							兼1	集中
			English for Studying Abroad	1前・後		1			○							兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Trends in Society	1前・後		1			○							兼1	
			Successful English Discussion	1前・後		1			○							兼1	
			Reading & Structure Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			Reading & Structure Ⅱ	2後		1			○							兼1	
			Leadership Development	4後		1			○							兼1	
			英語リーディングⅢ	1前・後		1			○							兼1	
			留学準備演習	1前・後		1			○							兼1	
			スペイン語Ⅱ	1前・後		2			○							兼1	
			ハングル検定演習	1後		1			○							兼1	
			海外演習Ⅰ	1前		1			○							兼1	
			海外演習Ⅱ	1前		2			○							兼1	
			小計（55科目）	－	0	82	0	－			0	0	0	0	0	兼19	－
		情報リテラシー科目	Accessデータベース基礎	1前・後		2			○							兼1	
			情報社会を生きる技術	1前・後		2			○							兼1	
			Webデザイン基礎	1前・後		2			○							兼1	
			Webデザイン応用	1前・後		2			○							兼1	
			Scratchによるプログラミング	1前・後		2			○							兼1	
			グラフィックデザイン基礎	1後		2			○							兼1	
			フォトレタッチ基礎	1前		2			○							兼1	
			データサイエンスの基礎とExcel	1前・後		2			○							兼1	
			データサイエンスの応用とExcel	1前・後		2			○							兼1	
			データリテラシー・AIの基礎	1後	2				○			1				兼1	メディア
			データサイエンスのためのPython	1前・後		2			○							兼1	
			実用的ITリテラシー	1前・後		2			○							兼1	
			現代社会と情報	1前		2		○			1						
			小計（13科目）	－	2	24	0	－			1	1	0	0	0	兼4	－
	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	生涯スポーツ論	1前		2		○								兼1	
			スポーツと現代社会	1前・後		2		○								兼1	
			知っておきたい応急処置	1前		2		○								兼1	
			障がい者とパラスポーツ	1前・後		2		○								兼1	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼4	－
		スポーツ実技科目	スポーツ実技（テニス）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（ゴルフ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（バレーボール）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（バドミントン）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（ジャズダンス）	1後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（エアロビクス）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（スリムエアロ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（ダンスエアロ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（水泳）	1後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（軽スポーツ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（ヨガ）	1前・後		1				○						兼1	
			からだと気づきと姿勢法	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（スタイルジャズ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（バンジーエクササイズ）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（エアリアルワーク）	1前・後		1				○						兼1	
			スポーツ実技（フットサル）	1前・後		1				○						兼1	
			マッサージ実習	1後		1				○						兼1	
			小計（17科目）	－	0	17	0	－			0	0	0	0	0	兼14	－
	初年次ゼミ		学び発見ゼミ（科学的に「測る」「図る」）	1前		2			○		1						
			（小計１科目）	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目		初期演習Ⅰ	1前	1				○		2	2					
		初期演習Ⅱ（社会情報入門）	1後	1				○		2	2					
		データ・情報リテラシー	1前	2				○		1						
		Oral Communication Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		Oral Communication Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		小計（5科目）	－	4	2	0	－			2	2	0	0	0	兼1	－
専門教育科目	生活と文化科目群	メディア論	1後		2		○			1						
		コンセプトデザイン論	2前		2		○			1						
		科学技術と社会	2後		2		○				1					
		メディアと生活文化	3前		2		○			1						
		メディア産業論	3後		2		○								兼1	
		メディアカルチャー論	3後		2		○			1						
		情報とコミュニケーション	1前		2		○				1					
		ネットワーク社会論	2前		2		○			1						
		SNSリテラシー演習	2前		2			○							兼1	集中
		映像文化史	4前		2		○								兼1	集中
		文化社会学	4前		2		○			1						
		文化社会学演習	4後		2			○		1						
		小計(12科目)	－	0	24	0	－			2	2	0	0	0	兼3	－
	生活と経済科目群	マーケティング論	1後		2		○			1						
		グローバルビジネス論	2後		2		○				1					
		マーケティング戦略論	3前		2		○			1						
		コンテンツプランニング演習	3前		2			○							兼1	集中
		企業経営論	3後		2		○			1						
		マーケットデザイン演習	4前		2			○		1						
		経営情報論	2後		2		○			1						
		経営情報演習	3前		2			○		1						
		組織コミュニケーション論	1前		2		○			1						
		広告メディア論	2前		2		○				1					
		広告メディア演習	2後		2			○			2					共同
		地域産業論	2後		2		○				1					
		IT活用とビジネス	3前		2		○				1					
		コミュニティビジネス論	3前		2		○				1					
		消費者経済学	3後		2		○				1					
		衣生活情報論	3後		2		○				1					
		小計(16科目)	－	0	32	0	－			2	4	0	0	0	兼1	－
	情報科学科目群	情報科学入門	1前	2			○			1						
		プログラミング入門	1後		2			○		2						
		プログラミング演習Ⅰ	2前		2			○		1	1					
		プログラミング演習Ⅱ	2後		2			○		1	1					
		ユーザインタフェース論	3後		2		○			1						
		アルゴリズム論	2後		2		○								兼1	
		ソフトウェアエンジニアリング	2後		2		○			1						
		ソフトウェアエンジニアリング演習	3前		2			○		1						
		システム設計	3前		2		○			1						
		システム設計演習	3後		2			○		1						
		情報基礎数学	2後		2		○			1						
		情報数学	3前		2		○			1						
		データベース入門	1後		2		○				1					
		コンピュータネットワーク入門	1前		2		○			1						
		コンピュータネットワーク演習	2前		2			○		1						
		コンピュータネットワーク論	4前		2		○			1						
		ウェブ入門	1後		2			○		1	1					
		ウェブプログラミング	2前		2			○		1	1					
		ウェブアプリケーション設計	2後		2			○			1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	情報科学科目群	ウェブアプリケーション開発演習	3前		2			○			1					
		ウェブエンジニアリング	3後		2			○			1					
		ウェブコンピューティング論	4前		2		○				1					
		プラットフォーム概論	3後		2		○			1						
		システムセキュリティ入門	2前		2		○			1						
		情報セキュリティ論	4後		2		○			1						
		小計(25科目)	－	2	48	0	－			6	2	0	0	0	兼1	－
	データサイエンス科目群	統計学Ⅰ	1後	2			○				1		1			
		統計学Ⅱ	2前		2		○			1			1			
		AI入門	1前		2		○			1						
		AI概論	2後		2		○			1						
		AI演習	3後		2			○		1						
		データサイエンス基礎演習	2後		2			○		2						
		データサイエンス演習<A>	3前		2			○		1						
		データサイエンス演習<B>	3前		2			○		1						
		データサイエンス演習<C>	3後		2			○		1						
		データサイエンス演習<D>	3後		2			○		1						
		データサイエンス論<A>	4前		2		○			1						
		データサイエンス論<B>	4前		2		○			1						
		社会調査入門	1後		2		○				1					
		社会調査Ⅰ	2前		2		○				1					
		社会調査Ⅱ	2後		2		○				1		1			
		社会調査演習	3前		2			○		1	1					
		小計(16科目)	－	2	30	0	－			4	2	0	1	0	0	－
	表現実習／研究手法科目群	デジタル表現入門	1後		2			○			1					
		デジタル表現	2前		2			○			1					
		ウェブデザイン演習	3前		2			○			1					
		ICT社会のビジネス	1前	2			○				1					
		オフィスツールの活用	1後		2			○			1					
		色彩情報論	2前		2		○				1					
		色彩情報演習	3前		2			○			1					
		情報英語Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		情報英語Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		情報倫理	2後		2		○								兼1	
		小計(10科目)	－	2	18	0	－			0	3	0	0	0	兼2	－
	総合科目群	社会情報学概論	1前	2			○			5						オムニバス
		プロジェクト演習入門	1前		2			○		1	3					
		プロジェクト演習Ⅰ	1後		2			○		1	1		1			
		プロジェクト演習Ⅱ	2前		2			○		2	1				兼1	共同（一部）
		プロジェクト演習Ⅲ	2後		2			○		4	6					
		ハッカソン	2後		2			○		7	2					集中
		卒業基礎研究	3通	4				○		11	8					
		卒業研究	4通	4				○		11	8					
		卒業基礎演習Ⅰ	3前	2				○		11	8					
		卒業基礎演習Ⅱ	3後	2				○		11	8					
		小計(10科目)	－	14	10	0	－			11	9	0	1	0	兼1	－
	キャリア	キャリアプランニング	2後		1			○			1					
		生涯学習論	3前		2		○				1					
		小計（2科目）	－	0	3	0	－			0	2	0	0	0	0	－
合計（286科目）			－	26	494	0	－			11	9	0	1	0	兼127	－

学位又は称号	学士（社会情報学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、共通教育科目16単位以上、基礎教育科目4単位以上、専門教育科目から80単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位（2～8単位）を基礎教育科目として認定する。ITパスポート資格の取得をもって2単位を専門教育科目として認定する。 （履修科目の登録の上限：50単位未満（年間）） 【情報メディア専攻】専門教育科目のうち、プロジェクト演習入門、プロジェクト演習Ⅲの4単位を必修とする。また、メディア論、科学技術と社会、情報とコミュニケーション、ネットワーク社会論、マーケティング論、経営情報論、広告メディア論、組織コミュニケーション論から10単位、アルゴリズム論、プログラミング入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、ソフトウェアエンジニアリング、データベース入門、コンピュータネットワーク入門、システムセキュリティ入門、ウェブ入門、ウェブプログラミング、統計学Ⅱ、データサイエンス基礎演習、AI入門から16単位、プロジェクト演習Ⅰ、プロジェクト演習Ⅱから2単位をそれぞれ選択必修とする。 【情報サイエンス専攻】専門教育科目のうち、メディア論、科学技術と社会、情報とコミュニケーション、ネットワーク社会論、マーケティング論、経営情報論、広告メディア論、組織コミュニケーション論から６単位、アルゴリズム論、プログラミング入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、ソフトウェアエンジニアリング、データベース入門、コンピュータネットワーク入門、システムセキュリティ入門、ウェブ入門、ウェブプログラミング、統計学Ⅱ、データサイエンス基礎演習、AI入門から22単位をそれぞれ選択必修とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（環境共生学部環境共生学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	神話・伝説の世界から		民衆の中から発生した文学の背景を見つめ、本質に触れながら作品を鑑賞し、多くの文学作品の根底に流れるものを読み取る力をつけることを目的とする。 古代の人々は、文字を持たない時代から、生活の中に起こるいろいろな事象を、感動や信仰に結びつけて語り伝えてきた。それが神話や伝説として記録されたのである。古代の人々は一体どのようなものを神と感じ、伝えようとしたのだろうか。この授業では、古事記神話や伝説を読みながら現代の私達の生活の中にも、神話的なものや伝説が生きていることを知り、日本を理解する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	平安朝文学の世界		平安朝の文学を通して、当時の人々の生活・風俗や考え方に触れ、我が国の文学や文化についての理解を深めることを目標とする。 平安時代には、仮名文字の発達により、物語文学や日記文学・随筆など、さまざまなジャンルの散文学が開花した。この時代の人々は、何を考え、どのように生活していたのだろうか。恋愛は、家庭生活は、そして仕事は？平安時代の文学作品を読み味わい、この時代を身近に感じることを通して、理解を深める。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日常生活からの哲学入門		この科目では、西洋と日本の哲学者のさまざまな議論を紹介しながら、「見る」「触れる」「感じる」といった日常にありふれた経験を分析する。これらの経験について考えた哲学者たちの議論の仕方を学ぶことによって、哲学的な考え方・ものの見方を身につけることを目的とする。 何気ない日常生活の中にひそむ哲学的な問題を取り上げ、関連する哲学者の議論を学ぶ。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発する。その上で、新しい眼差しのもとでこの現実を見つめ直していくような視点を、一つ一つ身につけていく。哲学の枠組みを通して現実を分析することで、日常生活の中にどのような問題が立ち現われてくるのか体験し、理解する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	現代フランスの音楽事情		フランスの音楽を中心とする芸術に関する事柄（文化政策や音楽活動）を通してフランスの一側面を学ぶと同時に、音楽と社会について考察できる力を培う。フランスの例から日本の音楽事情にも考えを巡らせ、更には自らの専門領域に対する深い思考力を身につける。 「芸術の都パリ」と言われるが、その表面的な煌びやかさだけでなくそれを支える背景、また社会における芸術の位置づけまで想像できるようにする。 まず、西洋音楽及びフランスに関する基礎知識を学んだ上で、フランスと文化芸術ないしは音楽の関係について学習する。全授業回数のうち2/3程度は、西洋音楽及びフランスに関する基礎知識、公的な文化支援について学び、関連する事柄について視聴覚資料などを参照する。残りの1/3では、「芸術音楽」と「ポピュラー・ミュージック」というふたつの側面から、音楽作品の鑑賞を中心に行う。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	ミュージカル歌唱法		音楽によって感受性を豊かにし、表現することで積極性を養う。歌を通じて客観的に自分を理解し、それを表現し伝えることを体感する。 「サウンド・オブ・ミュージック」を教材に、歌唱の基本的なトレーニング、発声練習をし、作品の理解を深めると共に豊かに表現することの実現をめざす。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	音楽の科学		音楽は今も昔も私たちの生活の一部であり、暮らしに彩りを添えてくれる。近年の研究において、音楽を聴く、歌う、演奏するといった活動を行っている時には、脳の様々な領域が働いていることがわかってきた。本講義では、音や音楽の科学的な側面と社会とのつながりに焦点を当て、音楽を享受する人間の本質の一端を明らかにすることを目的とする。 私たちの生活の中にある音や音楽、音楽と脳科学の関係について学習する。また、授業内容に関する小課題に取り組む。小課題の内容は適宜次回の講義でフィードバックを行い、他の学生の意見やコメントに触れることで視野を広げる。本講義では、高校までの音楽の授業では学習しない内容を多く含んでおり、音・音楽について多様な視点から考察していく。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	フランスの音楽と芸術文化		芸術的創造の世界的な中心都市としてパリは人を惹きつけ続けている。音楽を中心とする西洋の芸術文化を社会との関わりという視点を交えて体系的に学ぶことで、芸術文化について考察する力を培う。フランスの例から日本の芸術創造環境にも考えを巡らせ、更には自らの専門領域に対する洞察力を身につける。 先ずフランスに関する基礎知識を学びパリという都市について各地区の特色から考える。そして、パリで脚光を浴びた作曲家や作品を追いながら、音楽を中心とする芸術文化と社会の関係について学習する。その際、歴史にも目を向け、王室などの権力やキリスト教と音楽について見渡し、第五共和制以降は文化芸術政策として行われた具体的施策も紹介する。 各回の授業では、各時期の背景と主要作品について知識を学ぶと同時に、関連する作品の鑑賞を行う。授業後半では、ポピュラー音楽についても紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	自己発見アート		アート表現を使ったセラピー的学習。ものを創造し、表現していく過程から、普段の生活では自覚しにくい潜在的な自己を発見する。自分自身をうまく表現する術、自発的にものを考える力、さらには、人とうまくコミュニケーションをとる手段などを身につける。 様々な方法で自己表現の可能性を追求する。鉛筆を使ったドローイングや、紙を使った造形、プロジェクターを使った現代美術の紹介や、アートや表現についてのディスカッションを行う。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	未来造形		未来について考え、そのイメージを作品として表現することで、現代を生きる自分自身が未来を構築していくための一員であることを自覚する。既成概念に捕われない発想力や想像力の育成と、基本的な表現技術を習得する。物をつくる過程を通し、創造する喜びを知り、他の人の作品を通して未来の多様性を感じることを目標とする。 未来について考え、想像し、そこから生まれるイメージを絵本や作品にして表現する。様々な素材や方法を使い表現の可能性を追求する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	歌舞伎鑑賞入門		日本の伝統芸能の一つである歌舞伎について学び、その魅力に触れるとともに、そうした芸能を育んできた我が国の文化についても理解を深めることを目的とする。歌舞伎についての基本的な知識を身につける。歌舞伎の面白さを理解する。江戸時代の文化についても理解を深める。 歌舞伎は、江戸時代以来の歴史を持つ日本独自の演劇であるが、多種多様な娯楽があふれる現代においても、なお多くの観客に支持され続けている。時代の変化と共に新たな要素を盛り込み、現代も生き続けている歌舞伎の魅力を探るとともに、これから歌舞伎を見たい、どんな世界か知りたいといった初心者にも楽しめるよう、代表的な演目について、映像や資料を使い、エピソードも交えて、歌舞伎の見方を解説する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本の文化Ⅰ		世界の人たちと一緒に日本文化を学ぶことは大切である。日本文化を注意深く見ることは、グローバル社会を理解するのに役立つ。日本の伝統文化と現代文化の重要な概念を紹介することを目的としている。受講生には、自国の文化を批判的に見つめ、クラスの他の受講生と意見を交換することが求められる。 日本文化を批判的に見る能力、つまり自分たちの文化を批判的に見る能力に重点を置く。先入観を取り払う方法を学び、自分の意見や考えを仲間と共有する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本の文化Ⅱ		世界の人たちと一緒に日本文化を学ぶことは大切である。日本文化を注意深く見ることは、グローバル社会を理解するのに役立つ。「日本の文化Ⅰ」をベースに、伝統的な日本文化と現代日本文化について、さらに重要な概念を紹介していく。 日本の入浴スタイルや結婚、家族について学習し、日本の教育システムを他国と比較して考える。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	遊びの人類学		本科目の目的は「遊びとは何か」、遊びを文化（約束事）の問題として考えることである。近年、遊びを「する」ことと同じくらいに、遊びを「考える」ことが魅力的なものとなってきている。遊びに凝縮・刻印されている文化と社会を、異文化理解と自文化理解の展望のもとに「調べ・考え・まとめ・実践する」ことを進めてゆく。 遊びを論じようとするとき、むずかしいのが遊びの定義である。必ずと言ってよいほど引用されるのがＪ.ホイジンガとR.カイヨワである。とくにホイジンガの『ホモ・ルーデンス』による遊びの特性はつとに有名である。これ以前にも、プラトンやソクラテスは遊びに注目し、早くから教育的価値を見出していた。初めに、これまでの遊び論について整理しながら、俯瞰的に見ていく。 次いで、人類学、歴史学における世界各地の民族・集団における遊び現象についての豊富な事例研究の蓄積を分析することによって、遊びの当該社会においてもつ意味や価値について明らかにしていく。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	SNSから日本語を見る		身近な存在であるSNSの言葉そのものに焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知ることを第一の目的とする。また、SNSで用いられる特徴的な言葉を収集しその意味を記述できることを第二の目的とする。 SNSで用いられている言葉は、一般的な書き言葉とは異なる表記・表現が多く用いられている。しかし、それらも私たちが日ごろ使っている日本語の一部であることに変わりはない。その特徴的な表記・表現を具体的に取り上げ説明する。そして、それらの多くは無秩序に現れるのではなく傾向が認められることを確認する。また、SNSで用いられる身近な言葉の面白さを理解し、その面白さを他者に説明することを目的としてクラス全体で作品を作る。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	英語圏の文学・文化		英語圏の代表的な文学作品について学び、その作家や作品が生まれた時代および文化的背景などについて理解を深めることを目的とする。 アメリカ文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、その作品の特徴や時代背景について学び、アメリカの歴史・文化・社会についての理解を深める。取り上げる作品は以下の4つの小説である。ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』、Ｆ・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』、トニ・モリスン『ビラヴィド』。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	ヨーロッパの名歌歌唱法		（概要）イタリア、フランスおよびドイツの歌を中心に、それらを原語にて歌唱し、自らの声で表現する楽しさを経験し、各国の文化について学ぶことを目的とする。ヨーロッパの名歌に触れ、その美しさを知ることにより、曲の内容に沿った歌い方で心豊かに表現する。身体に負担のない理想的な発声法の習得、その理想的な発声法により各作品に求められる内容を表現できること、各原語の発音法の習得を目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （56　坂口　裕子／8回） イタリア、フランスの名歌を題材に、発音法の習得、曲の理解と歌唱についての講義を行う。 （18　藤村　匡人／7回） ドイツの名歌を題材に、発音法の習得、曲の理解と歌唱についての講義を行う。	オムニバス方式
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本舞踊に学ぶ着付けと作法		和の文化 日本舞踊に触れながら、一人でできる着付け・人に着せる着付けを学ぶ。そして楽しみながら自然にマナーを学び、美しい身のこなしや人とのつき合い方を身につけることを主な目的としている。 さまざまな動きを取り入れた日本人の文化遺産である“日本舞踊”を通して、和の心に親しみ’正しい姿勢とご挨拶’’美しい所作を生む和服の着こなし’‘たおやかな立ち居振る舞いと心得’など大人の女性として恥ずかしくない礼儀や作法を身につける。まずは簡単なわらべ唄を中心に踊りに親しむ。似合う浴衣の選び方からコーディネートの楽しさ、基本の着付けと帯結び、着物の種類とTPO別マナー、お手入れ、簡単にできるヘアスタイルとメイクなど浴衣のすべてを習得する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本語の世界		日本のことばを対象として、わたしたちを取り巻く言語や文化のあり方に関する広範な知見を獲得し、社会生活に求められる相互理解の礎とするとともに、人文科学の研究方法を学んで、実例や根拠に基づき、論理的に考察する態度を養成する。 現代生活における言語使用を客観的に見るため、まずは身の回りの日本語に注目する。教科書やスマートフォンで閲覧するSNSの文字、標識や看板の文字、俳句の単語、ニュースの文章というように、文字から始めて徐々に長い文章・話し言葉も調査対象とする。こうして文字と音声、意味と語彙、文章を理解した後（第10回以後）、研究資源として各種データベースを検索、専門知識を調べる方法として大学図書館の活用も並行する。文章・談話の観察としては、形態素解析ソフトを用いて計量し、スタイル（動詞と修飾部の比率による文体）を比較する。以上、現代日本語の観察と分析、図書館や論文データベースを使った文献調査を行い、考察したことを日本語学のレポートに表す。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	生涯福祉論		学生が、福祉における「ゆりかごから墓場まで」の生涯の中で、「快い生活とは何か」について考え、基本的な福祉制度を学びながら自分自身は「どう生きるか」を考えることを目的とする。 身近な生活をテーマに「ゆりかごから墓場」までの生涯福祉を「快い生活とは何か」を考えながら現状の社会やその現状に関連した基本的な福祉制度を学習する。日本やアメリカの社会の出来事、講師の経験談やエピソード、著書、新聞スクラップ記事、DVD等の視覚教材、男女共同参画白書などを用いて学ぶ。個別、または数名で授業内容から更に自身が学べたこと、そこから考えたことを共有（ディスカッションなど）しながら深く考え学ぶ。最終的に、授業内容全体を通して自分自身はどう生きるかを実際に考える。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	社会福祉とボランティア		学生が、福祉における医療、介護、障がい者、そして貧困の領域で、「よりよい生活の確立」と「生きる力」について考え、そこでボランティアが「生きる力」にどのように繋がるのか具体的に考えることを目的とする。 ボランティアについての基礎的な知識を学び、授業外の学修ー事前学習を用いてグループワーク、個別ワーク、ショートグループワークやディスカッションを授業で行い、ボランティアの意義、参加への難しさや喜びなど深く考える授業。社会と社会福祉の基礎的な知識と制度について、新聞スクラップ記事、講師の経験談、エピソードや事例（日本やアメリカでの）、著書、DVD等の視覚教材を用いて各テーマについて学ぶ。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	福祉レクリエーションの実際		コミュニケーションやレクリエーションの方法を実際に体験しそのスキルを身につけるとともに、学生自身がおかれている家庭環境や社会環境を通じて、そのスキルや考えがこの社会で生活するすべての人間が必要なことであると理解することを目的とする。 前半はレクリエーションゲームを体験しながら、コミュニケーションの変化や自分から他者へのアプローチについて学ぶ。後半は高齢者向けの「作る」レクリエーションを体験しながら、高齢者の理解と関わり方について学ぶ。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	子育てと家族関係		将来、親として子どもに接する自分像、あるいは家族像を構築するために、青年期から成人期における女性の発達をこれらの家族関係とのかかわりでとらえることにより、現在の家族の一員としての自分を再確認することを目的としている。 家族の意味と機能をふまえ、子育てという選択を自らの人生の中でどのように位置づけるのか、また、家族の中の人間関係がどのように影響し合っているのかについて講述する。さらに、家族をとりまく現代的課題を紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	子育てと母性の気づき		現代は、女性の社会進出によるライフスタイルの変化や、日常生活における乳児との接触機会の減少などの影響により、「産む」「育てる」ことが、個々の選択により委ねられる時代になったといえる。これをふまえた上で、出産というライフイベントに対する興味を喚起することを目的としている。 前半で子どもの発達について、特に変化の著しい乳幼児の身体発育、運動能力や感情の発達を、後半で母性に関するデータを紹介したり、子育て中の母親の問題をとりあげ、心理学的観点から講述する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	現代社会と憲法		日本国憲法の理念、体系について学ぶとともに、日本国憲法が具体的にいかなる形で日常生活に影響を与えているかを知ることによって、法的な思考プロセスの基礎を養うことを目的とする。 各回の該当項目につき、パワーポイントで作成した資料を掲げつつ、要点を説明する。主要な論点については、判例等の具体例を示しつつ、掘り下げた説明を行う。必要に応じて最新のトピックにも触れ、憲法の理念を日常生活の具体的事象に落とし込むプロセスを紹介する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	教養としての法律		初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。 法律の初学者向けの講義であるため、日常生活に根差した具体的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。また、法律は時代とともに変化する学問であることを理解するため、講義では裁判員制度や法改正による選挙権者の年齢の変化など、最新の状況を反映したテーマを扱う。さらに、法律に関係する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	暮らしと法律		初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。 法律の初学者向けの講義であるため、日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。取り上げるテーマは、暮らしと関係をもとに大別して、人権・生活・犯罪の３つに分け、それぞれのテーマについて法律がどのように日常生活と関わっているのかを意識しながら、事例とともに学ぶ。また、法律に関係する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	女性と子どものヘルスケア		（概要）思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて学ぶ。さらに子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策について学ぶことを目的とする。 思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて講義する。子どものヘルスケアに関しては、子どもの成長に伴う身体的・認知的特徴、事故の予防のための手立てや対策について講義する。 （オムニバス方式／全15回） （51　北尾　美香／3回） 授業オリエンテーションを行い、妊娠や月経についての講義を行う。 （19　和泉　京子／3回） 乳がんや子宮がんという女性特有の疾患と治療法についての講義を行う。 （20　片山　恵／3回） 姿勢と健康、睡眠と健康についての講義を行う。 （21　本間　裕子／3回） 子どもの身体的、認知的な成長の特徴についての講義を行う。 （22　師岡　友紀／3回） 生活習慣病予防や介護予防といったヘルスケアシステムについての講義を行う。	オムニバス方式
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	消費者生活論		学生が充実した消費生活を営むために、確かな目で商品・サービスを選択し、安全・安心な豊かな生活を手にすることができるようになることを主な目的としている。また、自身の消費行動が国内だけでなく世界の経済や環境に影響することについて学び、SDGsを達成するために消費者市民としての行動について考察することにより、卒業後の社会生活に活かせることを目的とする。 前半は消費生活における問題やしくみ、対処法について解説する。消費生活に関連した資格取得も視野に入れ、消費者政策や法律を学び、消費者トラブルにあわないための正しい知識を習得できる内容とする。後半は、日常生活に関わりの深いテーマを取り上げ、消費者市民として、一人ひとりが社会でどのように行動するのが望ましいか、具体的に学ぶことができる内容とする。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	英語で学ぶやさしい経済学		経済はビジネス・政治も大きく関わっており、グローバルな視野を持ち社会の一線で活躍する社会人には不可欠な知識である。経済学の基礎知識を日本語と英語で身近に学び、将来のキャリアに活かせる教養を身につけることを目的とする。 テキストから経済学の基礎知識を学び、日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付けたり、リサーチやレポートを通じて理解を深めていく。英語読解の授業ではなく、英語を使って、経済学の基礎知識を身近に学ぶことが目的である。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	英語で学ぶお金の知識		大学生活やライフイベント（就職、結婚、育児、老後）等、様々な場面で有用なお金の知識を日本語と英語で身近に学び、ライフプランに関する基礎知識やファイナンシャル・リテラシーを身につけることを目的とする。 日本語教材からパーソナルファイナンスの基礎知識を学び、英語教材を使って理解を深める。日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、リサーチやレポート等を通じて、理解を深めていく。英語読解の授業ではなく、英語を使って、パーソナルファイナンスの基礎知識を身近に学ぶことが目的である。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	メディア技術と文字デザイン		誰もが情報発信者となりうる高度情報化社会において、わかりやすく情報を発信していくための知識や技術は、あらゆる人にとって必要なことである。メディアテクノロジーと文字（書体/タイプデザイン）の歴史を紐解きつつ、メディアテクノロジーの進化が、人々の知覚にどのように関与してきたか考察する。それらを通して、人々の「みる」行為を意識するとともに、自身の情報発信のあり方（デザイン）を見直し、よりよい発信のための思考を身につけることが、本科目の目的である。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	現代の教育・保育事情		（概要）国内外における現代の教育・保育の状況や論点、問題点などを取り上げ、様々な視点・観点から分析し、今後の日本の教育・保育の課題やあり方について考察を深める。 現代教育のキーワードである「主体性の育成」の理念・問題点・方法、現代の保育事情や課題、Society 5.0時代の社会や学校における学びや資質能力の育成の在り方、今の時代のデジタル機器の活用能力の育成。いずれも現代の教育・保育における課題を理解し実践的に取り組む内容になっている。 （オムニバス方式／全15回） （115　山口　豊／4回） 子どもの発達と保育、近年の保育制度の動向についての講義を行う。 （24　鶴　宏史／4回） 自己肯定感の向上について、いじめや不登校の現状と課題についての講義を行う。 （25　森　篤嗣／4回） 教師の多忙化と教師不足、義務教育と高等学校教育についての講義を行う。 （52　矢野　裕俊／3回） 海外の教育の動向、現代日本の学校教育の特色についての講義を行う。	オムニバス方式
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	カウンセリングの実際		様々な分野から必要性が求められている対人支援のカウンセリングの実際を理解し、基礎力をつける。対人支援において人を理解するとはどのようなことか説明ができる、心のバランスを崩した状態の説明ができる、性格や心の葛藤について説明ができる、支援するときの聴き手の基本的な態度を説明できる、対人支援におけるものの見方について説明ができることを目標とする。 前半は、カウンセリングとは何か、対人支援とは何か、支援を必要としている人を理解するとはどのようなことかについて学ぶ。後半は、カウンセラーがカウンセリングを行うときのものの見方をベースに、態度や支援について、事例を交えて学ぶ。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	実践カウンセリング		カウンセリングの基本的な考え方や方法から、生活や仕事に役立つ実践力を学ぶ。人を支援するときの原則が説明できる、対人支援において人の話を聴くときの留意点が説明できる、人を理解するとは何か、子どものこころの病とは何かの説明ができる、家族評価について説明できる、さわやかな自己表現とは何かを説明できることを目標とする。 前半は、カウンセリングを行うときの基本姿勢、原則について学び、後半は、家族や自分自身についてふりかえるなど、事例とともに実践カウンセリングを学ぶ。	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	建築と社会		人間が日々の生活を営む上で必要不可欠な、建築とそれを取り巻く社会に着目し、両者のかかわりに関する多様な事例を学ぶ。この学びを通して、これからの建築や社会のあるべき姿と、その実現のために自分自身ができることを探求するための一助とすることを目的とする。 毎週の遠隔オンデマンド授業では、建築と社会にかかわるトピックに関する講義動画の視聴と、ミニレポートの作成を通して、建築と社会のあるべき姿について、受講生一人一人が自分で考える機会を提供する。建築やそれによってかたちづくられる集落、都市と、社会のかかわりはきわめて多様であり、そのすべてはもちろん紹介できない。しかし本授業で紹介するトピックだけでも、その多様性の一端を垣間見ることができるであろう。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	生命科学入門		「生物」「いきもの」に関わるテーマについて、自分の身の回りの事柄を科学的に考察し、知っている事実からその現象を連想し理解することで、「生物学」「生命科学」に対する探求心を養うことを目的とする。 「生命」とは何か？　どのようにできてきたのか？　自然とどのようにつながっているのか？など、自分が毎日「生きている」ことをあらためて考えてみるテーマを用意する。ニュースなどで「生命」に関する報道を聞いた時に、考えたり調べたりする初めの一歩になると同時に、専門講義に不安のある学生にとって「生物学」「生命科学」への第一歩となるように講義する。 自分自身も「生命体」であることを再認識するために、非常に大きな視点である地球・自然から始まり、生命の基本単位に到達する。その基本単位がどのように「ヒト」の身体を構成するのか、様々な視点から解説する。最終的に、いま「生きている」意味・意義にまで言及する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	生活の中の物理学		身の回りに見られる題材から、日常生活の素養となる物理学を習得する。論理的／数理科学的な考え方で自然を眺めたり、応用する力を養う。物理に限らず、科学的なリテラシー能力を得られるよう広い話題から講義を進める。 虹はどうしてできるのか、飛行機はなぜ飛べるのか、電子レンジのしくみは、など素朴な疑問を大切にして、日常生活の基礎に潜んでいる物理法則や理論を、トピックごとに掘り下げて解説する。また、自然現象に対する純粋な興味・疑問を持ち続けることの大切さも伝えたい。	
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	最先端物理学が描く宇宙		物理学の歴史的な進展も交え、我々が現在までに得ている「宇宙」の観測的描像と理論的描像を紹介する。論争によって発展をつづけた科学的世界観や、宇宙物理学の諸問題を理解する。現代物理学の2つの柱である相対性理論・量子論を紹介し、宇宙が膨張していること・ブラックホールが存在していることはどうやってわかったのか、素粒子の確率解釈が必要となった理由は何かなど、物理学の根源的な問題を（数式ではなく）論理的な展開を軸に解説する。自然界を解明していくサイエンスに触れ、教養を得るだけではなく、広くて柔軟な思考を身につけて欲しい。 宇宙の階層構造を説明したのち、歴史的な話に入る。近代科学の発端、そして相対性理論と量子力学が描く現代物理学の内容を紹介し、最先端の宇宙像を紹介する。話題となる科学ニュースの解説も適宜行う。	
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	薬の歴史と未来		（概要）人類の歴史において薬は常に身近にあり、薬の発展は人類の発展とともにあるといっても過言ではない。本科目では、近代から現代にわたる薬学の歴史を通じて、生命現象と薬のかかわり、社会と薬のかかわりを理解し、医療における薬の在り方について考える。 薬に関する歴史的事項、現在の医療における薬、今後の医療で期待される薬に関するトピックを取りあげ、個人での調査を基にグループワークで内容を掘り下げ、今後の薬のあるべき姿を考える。授業開始時には薬や生体に関する専門知識がなくてもよい（文系の方も歓迎する）が、授業の進行とともに内容を充実させながら、個人・グループの考えをまとめ・発表する練習を行う。 （オムニバス方式／全15回） （27　萩森　政頼／3回） 薬の歴史に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。 （9　矢野　義明／12回） 現在使用されている薬に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。まだこの世には存在しないが未来の医療での使用が期待される薬に関し、研究調査プラス想像力も働かせて、仮想の新薬開発企画の立案を目標にグループワーク・発表の演習を行う。	オムニバス方式
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	薬とからだ		（概要）薬は生きていく上で、多くの人が使用するため、本講義では薬や身体に関する正しい知識を身につけ、医薬品を適切に使用することを目的とする。様々な疾患に対する治療薬を紹介し、それぞれの特徴や注意点を習得することで、薬物治療に対する知識を深める。 まず医薬品の概要を示し、各疾患で使われる治療薬やその作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。 （オムニバス方式／全15回） （28　吉田　都／5回） 医薬品についての理解、神経系や病原微生物に作用する薬とからだについての講義を行う。 （117　麓　加菜／10回） 血液や呼吸器系、消化器系に作用する薬とからだについての講義を行う。また、骨やカルシウム代謝、免疫・アレルギーに作用する薬とからだについての講義を行う。	オムニバス方式
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	色彩情報		色の基礎知識として、色の見えるしくみ、色を正確に伝達する手法、その他、生活の中にみる色情報のしくみを理解することを目的とする。色はなぜ見えるのかを説明することができる、色を正確に伝達する手法を用いて色の説明ができる、生活を営む上での色の役割を説明することができる、習得した色に関する知識を実生活で活かすことができることを目的とする。 色彩検定の公式テキストを基に、色彩の基礎的な内容を身近な例を取り上げながら解説をしていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	科学から考える衣服と生活		衣服に関する科学的領域について、人体生理から素材、環境問題まで広くその科学的知識や考え方を教授するとともに、より良い衣生活について受講生と共に模索する。科学と生活のかかわりに気付くことで、科学を普段の生活に役立てられるようになることを目的とする。 衣服の役割や、衣服を健康・快適・安全に着用するための機能性、安全性、衣服管理全般について科学的視点から講義する。また、現在の衣生活における問題点についても取り上げ、社会や技術の進展とともに変わりゆくこれからの衣生活を考える。	
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	健康生活とライフステージ		（概要）乳児から高齢者にいたるまで、それぞれのライフステージ、性別などの違いにおいて、健康な生活を保つために、特に知っておきたい基礎知識を身につける。また、健康な生活を保つための社会の仕組みや法律の基礎についても理解する。これらにより、学生の皆さん、および大切な家族および隣人が健康な生活を保つことができるように行動、活動することを目的とする。 種々のライフステージにおいて、健康な生活を保つために、知っておきたい事柄を講義する。女性に特化した病気についても講義する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	韓国文化の理解		最近、「韓流」ということばが日本社会において大衆文化のキーワードになっている。本講座では韓国の文化と社会について基礎的な知識をはじめ、多様な韓国文化に対する理解を深めることを目標とする。 韓国・朝鮮半島における歴史の基礎知識を含め、「文化」というフレーム・ワークに注意を払いながら、韓国におけるサブ・カルチャーというものをテーマ別に分けて取り上げる。特に、現代の韓国文化だけではなく、その源泉ともなる伝統文化にも注目し、「韓国文化」全般に対する理解を深める。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	中国文化論		中国文化は古代から隣国日本に少なからず影響を与えてきた。中国は今後も日本の最も密接な関係を有する国である。この講義の目的は豊かな奥深い中国文化の基礎知識を概説することにある。 第一部分「風土と民族」（第1～3回）は、多様な環境から生み出された文化、移動と融合によって形成されてきた「中華民族」の変遷を説明する。第二部分「伝承と沈殿」（第4～6回）は、中国文化を伝承する最も重要な媒体である漢字について解説する。第三部分「家族と統合」（第7～9回）は、中国人の家族・宗族制度とこれを基礎とした社会のあり方を解説する。第四部分「教養と娯楽」（第10～12回）は、教養として文学と絵画、人々の心を引きつける演劇の魅力を映像によって感じてもらう。第五部分「心と体」（第13～15回）は、中国人の多様な宗教信仰、パワーの源である中華料理の魅力を伝える。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	世界の中の日本人		普段あまり意識することのない文化が自己形成や心のしくみにどのような影響を与えているのか、また文化の中で生きる人間の生き方が、どのように文化や社会を維持・変革しているのかを分析・考察できるようになることを目的とする。 まず、自己イメージや自己形成に文化がどのような影響を与えているのか、また差別や偏見に文化がどのように関わっているかについて概説する。その後、結婚や育児などの身近な事柄が、文化によってどのように異なるのか、また、日本や日本人は、他国と比較して、どのような特徴があるのかについて考察する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	音楽から見る人と世界		世界の様々な地域や時代における音楽のあり方を通して、音楽が人や社会に及ぼす影響について考える。学生が受講を通じて音楽と人、社会との関連について興味を持ち、今後の生活、専門領域に役立てることを目標とする。療法、教育、歴史、環境など多角的な観点から音楽が人と社会に及ぼす影響について考察する機会を提供する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	International Perspectives Ⅰ		日本文化に関連した歴史的、現代的なトピックについて、それぞれの視点を共有する。ビデオを見たり、短い記事を読み、他の文化的視点との比較を通して、日本の習慣についてより深く理解することができる。この授業の目的は、他の人々が文化や言語、価値観をどのように理解しているのかという好奇心を養うことである。 一般的な英語表現を使い、様々な国についての事実を学び、短いビデオを見ながら言語と文化の違いを識別できるようにする。	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	International Perspectives Ⅱ		国際的なコミュニケーションや文化的な問題についての知識と意識を高めることを目的とする。異なる文化的観点を探求することは、国際的な生活や考え方について学ぶ機会となる。文化はどの言語にも織り込まれており、異文化を考察することは英語への理解を深めることにつながる。国際的なコミュニケーションと文化についてより深いレベルで理解することで、自国の文化を新しい方法で理解することができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	女性のためのマーケティング		身近な事例にもとづいてマーケティングの基本を習得し、マーケティングへの理解と興味を深めて、将来的にマーケティングに関わる業務で活用できることを目的としている。 前半はマーケティングの定義と成り立ち、マーケティングの基本概念（STP、マーケティングミックス4P等）について、後半はマーケティングの応用理論としてマーケティングマネジメント（サプライチェーン・営業・リレーションシップ・ブランド・ソーシャル・サービス等）について学ぶ。講義内容を深く理解する為に、身近な商品・サービス事例を取り上げ、概念・理論と関連付けて説明する。定期的な小テストで講義内容の定着を図り、最終回では学んだ概念・理論を活用してマーケティングプランを具体的に立案してレポートを記述する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	Current Affairs in Japan Ⅰ		日本の時事問題における重要な概念を紹介することを目的とする。日本の時事問題や価値観がグローバル社会に与える影響を理解し、日本における現在の社会、環境、倫理的問題と、それらの世界的な影響を調査する。受講生はこの知識を応用し、将来の個人的・職業的目標を高めることが期待される。 日本で起きている時事問題を批判的に考察し、先入観を取り払う方法を学び、自分の意見や考えを仲間と共有する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	Current Affairs in Japan Ⅱ		日本の時事問題を世界の人々と学ぶことは重要である。日本の時事問題を深く知ることは、グローバル社会を理解することにつながる。日本の時事問題における重要な概念を紹介することを目的とする。受講生は、これらの知識を応用して、将来の個人的・職業的目標を高めることが期待される。 日本で起きている時事問題を批判的に考察し、先入観を取り払う方法を学び、自分の意見や考えを仲間と共有する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	心理学トピックス		人の心理に関する幅広いトピックについて専門的知見を基に解説を行い、「心理学とは何か」について多角的かつ総合的に学ぶことを目的とする。人の心や行動について心理学的視点から考えることができる、日常生活に心理学の知識が役立つことを理解できる、心理学に関する諸理論を日常生活の身近な出来事と関連付けることができる。 心理学のさまざまなトピックについて学び、毎回異なるテーマについて　、一人の担当者が概説する。幅広い心理学に触れるとともに、自分自身や人に関する社会現象に興味をもつきっかけとする。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	現代社会と保健医療		本授業では現代社会や世界が直面する保健医療問題とその解決の糸口について学ぶことで現代社会の一員としての自覚を深める。 2030年に達成を目指す持続可能な開発目標（SDGs）のゴール3として「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」という目標が掲げられている。本授業では現代社会や世界が直面する保健医療問題とその解決の糸口について学ぶことで現代社会の一員としての自覚を深める。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	社会福祉の学び		今社会で何が起こっていて、何が必要とされているのかについて社会福祉の視点・観点から学び、社会福祉への関心を深める。 文献、資料、映像などを用いながら、それぞれの担当教員が自身の専門分野（児童、高齢、障害、医療、地域、多文化等）について講義を行う。地域社会にすでに存在している福祉課題を知り、共生社会への理解を深め、福祉課題に対して受講生が自分なりの考えをまとめられるよう授業を展開する。	
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目	スポーツツーリズムと地域創生		スポーツツーリズムの歴史や概念、現状、事例などを学び、自分の身の回りで展開されているスポーツツーリズムを理解し、説明できるような基礎的知識を身につける。また、スポーツツーリズムの国内外の事例を通じて、その概念や現状を理解すること、近接領域である健康をテーマとしたヘルスツーリズムも加えて、ヘルス・スポーツツーリズムの役割や課題について学修する。 比較的新しい領域であるスポーツツーリズムを中心に、近接領域を含め、その関連を学んでいく。また、観光立国を目指す我が国の柱の一つとして期待されているスポーツツーリズムが、期待される理由、課題、地方自治体の取り組みなどについて、理解を深めていく。	
共通教育科目	ジェンダー科目群		セクシュアリティ入門Ⅰ		この科目の目的は、セクシュアリティという概念への着目を通して、性の多様性に関する知識と意識を高め、自分も含めた一人ひとりの違いを尊重できる感覚を培うことである。 セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。基本的には講義形式で進めるが、リアクションペーパーやレポートの共有を通して、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門Ⅱ		この科目の目的は、セクシュアリティに関するさらなる知識と理解を習得し、自分も含めた一人ひとりの違いと人権を尊重するだけでなく、社会正義とは何かを問う力を養うことである。 「セクシュアリティ入門Ⅰ」における学習を基盤に、セクシュアリティにまつわる歴史的・社会的な出来事を示し、さまざまな側面から人権と社会正義を考える。その上で、現代における性のあり方について自分の考えを言語化する。基本的には講義形式で進めるが、リアクションペーパーやレポートの共有を通して、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。	
共通教育科目	ジェンダー科目群	女性の身体とセクシュアリティ		この科目は、ジェンダーの理論やセクシュアリティに関する事柄を理解し、自分の身体や性について考察できるようになることを目的としている。 ジェンダーに関する理論や日本社会における女性が抱える問題について概説する。また、セクシュアリティに関する概念や若者の性行動や性意識について考察し、LGBTsについての理解を深める。最後に、女性が罹りやすい障害についての情報を共有し、それらへの対処法について考察する。	
共通教育科目	ジェンダー科目群	メディアに見るジェンダー		メディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析することにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考できるようになることを目的とする。 女性が被害に合うことが多いドメスティック・バイオレンスや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを、メディアを通して検討する。ほぼ毎回、授業の後にミニレポートを提出してもらう。課題に対し、きちんと回答している場合は平常点が加算される。また、ディスカッションを行ったり、指名して発言を求めることも多い。双方向型の授業なので、積極的な発言が求められる。	
共通教育科目	ジェンダー科目群	女性と教育		教育における自らの経験や現状をジェンダーの視点から分析・考察することによって、ジェンダーにとらわれないしつけや教育の可能性について考える力を養う。また、学校におけるアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）に基づく教育内容、慣習、言動などについて学び、その影響について知識を養う。さらには、将来起こり得る様々な出来事（就職、転職、進学、結婚、介護等）について主体的に考え、行動できる力を養う。 家庭教育や学校教育に見られる様々なジェンダーバイアスやアンコンシャスバイアスについて情報を得た上で、自らの経験や現状を振り返ることによって、教育の現状に「気づく」。 女性大学の創立の歴史や現状について学ぶことによって、女性大学の存在の意義を理解し、自らの学びに活かす。	
共通教育科目	ジェンダー科目群	ジェンダーとアイデンティティー		ジェンダーとセクシュアリティについて学ぶと同時に、性別二元論や性別分業（観）の問題について学ぶことを通じて、「個の尊厳」と多様性（ダイバーシティ）の尊重が、自分や他者が生きる上で、いかに重要かについて学ぶ。 ジェンダーやセクシュアリティについての基礎知識を得る。その上で、婚姻制度の現状と変化（パートナーシップ制度の導入など）や結婚や離婚の状況、労働における女性の状況について考察する。特に、日本における主要なジェンダー問題の例として、ドメスティックバイオレンス、セクシュアルハラスメント、女性の貧困問題などについて取り上げ、その実情を知り、対応のしかたを学ぶ。	
共通教育科目	ジェンダー科目群	ジェンダーと社会		女性やLGBTQ+に関わる様々な社会の変化について、ジェンダー、セクシュアリティ、格差という3つの視点から学ぶことにより、望ましい共生社会のあり方や自らの生き方について主体的に捉える力を養う。 現代社会における男女平等の概念、男女共同参画社会、女性活躍社会、SDGs等のキーワードの意味とそれらに関する批判的な議論、現代社会における様々な分野についてジェンダー、セクシュアリティ、格差の視点から学ぶ。扱う内容は現代的なものだが、歴史的な経緯も押さえることにより、断片的な理解に留まらないように注意する。各テーマについて講義で学んだ後、復習や理解の確認のために、随時、課題に取り組む。	
共通教育科目	キャリアデザイン科目群	女性のためのライフプランニング		自らの夢を実現するために、何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また、キャリアについてどう戦略的に考え行動するか、女性としてどう生きるかを重要なポイントととらえ、有意義なライフプランを考える。 まずライフプランニングの大切さを知り、学生の間にするべきこと、社会人として求められる力を理解して、自分が到達、習得できているかを知る。その後、女性を取り巻く社会環境を学習して、自らの理想のライフプランを確立する。また、円滑なコミュニケーションのためアサーティブコミュニケーションや正しい日本語表現も学習する。最後に、社会の動きを知るため時事問題を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	キャリアデザイン科目群		自己アピールトレーニング		就職試験の面接で必要な知識や技能を身につけ、自分自身を最大にプレゼンテーションすることを目標とする。 社会や企業が求める人材を知る。自分の長所を明確に出せるプレゼンテーションが面接でできるよう、発声、アクセント、立ち居振る舞い、ウォーキング、敬語、スピーチトレーニングを行う。実技や実践に重きを置き、撮影、フィードバックをすることにより、より確実にスキルを身につける。学生同士で気付いた事を話し合い、改善法を探る。	
共通教育科目	キャリアデザイン科目群		キャリアビジョンと人物評価		採用面接を客観的、分析的に理解することで、戦略的な事前準備の方法論を紹介し、良い意味で「印象」を残すための志望動機と自己アピールの「考え方」と実践方法（フレームワークの利用）を様々な事例を通じて学んでいくことで、就職活動における学生の不安を軽減することをその目的とする。 この授業では各自が自分の強み（希少性）を生かした自己アピールができるようになることを目標とする。 コロナ禍の影響により、就職活動がそのルールのみならず、手法等にも大きな変化がみられていることは事実である。しかしながら、優秀な学生を獲得したい企業側や行政側のスタンスには何ら変化はない。重要なことは、特別な経験を積むことではなく、学生各自に内在している潜在的な力を顕在化させることと考える。そのために「ないもの探し」から「あるもの探し」という発想の転換を促し、自分に合った職探しの契機をつくることを最大の目標とする。	
共通教育科目	キャリアデザイン科目群		ビジネスプラン構築概論		新しいアイデアを創出し、そのビジネスモデルを構築するための知見を獲得し、ワークを通じて深く理解することを目的とする。新しいビジネスアイデアの創出、ビジネスモデルを構築するマインド・知識・ノウハウを獲得する。 本講義では、さまざまな新規事業において重要となるアントレプレナーシップ（起業家精神）から、ビジネスモデル構築に至るまでの基礎的な知識を概観しつつ、現代のビジネスを、ローカルビジネスやソーシャルビジネスを含む多数のケーススタディを交えて学びながら、自分自身のビジネスモデルをブラッシュアップさせていく。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ		英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。 授業では、講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅡ		英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。 授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメイトと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語リーディングⅠ		初級レベルの学生がパラグラフの構造や読み方を知り、効率的、かつ確実に英文の内容を理解することができるようになることを目的とする。様々な英文を読み、文のパターンを理解し、英文の論理的な読み方を学ぶ。文法事項や表現を復習するとともに、語彙力も培う。 1回の授業で教科書の1ユニットを終了する。様々な種類の英文を読み、文法を理解して、読み方のコツを学習する。そして、各パラグラフの重要情報を読み取り、パラグラフの構成に対する理解を深める。そのうえで、内容理解度を問う問題を解き自らの理解度を知り、向上を目指す。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語リーディングⅡ		様々な話題・形式の英文を読み、長文を理解するトレーニングを行う。パラグラフの要点を読み取る方法(スキミング)を学び、必要な情報を収集する力(スキャニング)を身につける。専門分野の英語文献を理解するための素地を培うことを目的とする。 スキミングやスキャニングなどのリーディングスキルに加えて、短い意味のまとまり毎にスラッシュを入れて前から順に理解するフレーズリーディング（速読）の技術を学ぶ。また、リーディング課題のシャドーイングや音読も行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語ライティングⅠ		メールやLINEメッセージなどの日常的なライティングをはじめ、ネット利用の際に発生する「書く」やりとりにも活用できる語彙やフレーズを、「英作文」の練習を繰り返すことで習得し、短いセンテンスを用い、自分の意見を伝えることができるライティングの基礎力を身につけることを目的とする。 英語でメールを書く際に様々な状況で役に立つ表現を学ぶ。特に、相手を気遣ったり、相手との人間関係に配慮する「コミュニケーション」を重視し、さらに、英語文化の発想にも留意しライティングに必要な総合的な事柄を学ぶ。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語ライティングⅡ		エッセイやニュース記事など多種多用なジャンルの英文を読みながら、使用語彙・表現・パラグラフの成り立ちなどを学び、自分の意見・提案・説明など様々な状況に応じ、論理的な英文を書くために必要な文章構成力を身につけることを目的とする。音声言語・文字言語の違いを語彙レベルで確認し、より自然な英文を書く力を身につける。論理的な文章構成力を身につけ、辞書やオンライン資料、参考文献等の有効的な使い方を知る。文章で用いるコンマ等、記号を正しく用いることができる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	TOEIC演習Ⅰ		ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされる時代に、TOEICのスコアは実力を示す指標の一つとして幅広く利用されている。本授業は、TOEIC未受験者を含め、初級レベルの学生が、各設問形式に慣れることを目的とする。 授業では演習問題を通じて、各パートの設問形式を理解するとともに、TOEICに頻出する単語や表現と基礎的な文法事項を学ぶ。また、リピート練習や音読練習を行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	TOEIC演習Ⅱ		ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされる時代に、TOEICのスコアは実力を示す指標の一つとして幅広く利用されている。本授業は、基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れている学生が、多くの模擬問題にふれることで、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。 授業では、タイムマネジメントを意識しながら演習問題に取り組み、各パートを解く上での解法スキルをマスターする。また、正答の根拠を明らかにすることで、正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	TOEIC演習Ⅲ		ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされる時代に、TOEICのスコアは、実力を示す指標の一つとして幅広く利用されている。本授業では、上級レベルを目指す学生が、難易度が高い問題に数多く取り組むことにより、一層のスコアアップを図ることを目的とする。 授業では、高度な情報処理能力が問われるPart3、4、7を中心に大量の問題演習を行い、英語の処理スピードを上げることでスコアアップにつなげる。また、不正解の選択肢の間違っている理由を明確化することで正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Basics for Presentation Ⅰ		バランスのとれた高い英語力（話す・聞く・書く・読む）＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間にわたり学習を継続する英語チャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行う。パフォーマンスの基礎(声量・目線・ジェスチャーなど）を実践し、英語で3分程度の簡単な内容のスピーチを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Basics for Presentation Ⅱ		バランスのとれた高い英語力（話す・聞く・書く・読む）＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間にわたり学習を継続する英語チャレンジコースにおいて、コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる。英語で3分程度の即興スピーチを行い、聴衆の反応をコントロールする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Speaking & Listening Ⅰ		本科目ではしっかりとした英語コミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。様々な高度な状況において流暢な会話をするために必要なスピーキングストラテジーを身につけ、実際に話されている自然な英語を理解できるリスニング力を身につける。 大学生活、アルバイト、トレンドなど、学生の日常生活や将来に関連するトピックを取り上げる。また、ディクテーション活動を通して、TOEICのリスニングセクションにも慣れていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Speaking & Listening Ⅱ		「Speaking & Listening Ⅰ」で学んだスキルを用いて、英語でのコミュニケーションスキルを強化することを目的とする。高度な状況において流暢な会話をするために必要なスピーキングストラテジーをさらに発展させ、実際に話されている自然な英語を理解するためにリスニングスキルをさらに伸ばしていく。 教育、テクノロジー、社会など、生徒の日常生活や将来の生活に関連するトピックを取り上げる。TOEICリスニングセクションのディクテーションを通して、リスニングに慣れることを目指す。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Speaking & Listening Ⅲ		これまでのスピーキングとリスニングの授業で培った語学力を生かし、しっかりとしたコミュニケーションスキルを身につける。様々な言語ツールを使うことで、スピーキングとリスニングを上達させることができる。生徒が自分の考えや意見を表現するための積極的な言語環境を提供する。 様々なコミュニケーション活動を通して、自己表現を学び、英語の語彙を増やし、英語を効果的に聞く能力を向上させる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Presentation		人前で話すことは、練習すべき重要なスキルである。プレゼンテーションとは、創造的なアイデアや個人的な意見、興味深い情報を人々に伝えるためのものである。生徒が表現したい情報に合わせて最適なプレゼンテーションを選択できることを目的とする。 このクラスでは、メディアとテクノロジー、社会と人間関係、健康と環境、旅行と文化、教育などのトピックを取り上げる。学生は自分の専攻や個人的な興味に応じたトピックを選ぶことができる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Writing Ⅰ		質の高い英文パラグラフを書く能力の向上と、英作文能力の向上に焦点を当てる。トピックセンテンス、サポートセンテンス、結論センテンス、トランジション、リンキングワードなどの効果的な構成スキルを学ぶ。また、語彙、表現、文法構造の効果的な選択・使用方法などのライティングスキルも学習する。ライティングのチェックや編集のためにオンラインリソースを利用することに加え、自己評価や相互評価を通して編集スキルを身につけることにも重点を置く。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Writing Ⅱ		「Writing Ⅰ」で習得したスキルをさらに発展させ、質の高いエッセイを書く力を養成する。序論、本文、結論などの英作文の構成に加え、テーゼ・ステートメントの使い方、アイデアを効果的に結びつける方法などを学ぶ。パラグラフの構成や、語彙、表現、文法構造を効果的に使うトレーニングも行う。「Writing Ⅰ」で導入した編集スキルをさらに発展させる。様々なトピックについてのエッセイを書くことに加え、TOEFLやIELTSなどの資格試験のライティングセクションに備えるための試験ライティングも取り上げる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	English for Careers		多様な文化を持つ人々と柔軟にコミュニケーションを取る方法を考える。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自身のバックグラウンドを見つめ直し、文化を超えてコミュニケーションを取ることの難しさに対する理解を深めたい。コミュニケーションを取る際に英語を使うにあたって不可欠な単語や言い回しを学習すると同時に、英語がどのような役割を担っているかを理解する。電話・メール対応といった、ビジネスシーンで英語を使うことを想定した練習も行う予定である。授業内では、学生同士が協力して意見をまとめ、発表することもある。英語での電話対応やメールの書き方の練習、ビジネスシーンでも有効な単語や言い回しも学習する。本授業は英語で行われる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Reading & Discussion		現代社会が抱える様々な問題についてテキストおよび参考資料を読んだ上で、意見を述べたりディスカッションできるようになる。現代の社会問題に関する幅広い知識を「読み」を通して得ると同時に、他の意見を尊重しつつ自分の意見を発信し考えを深める。 エネルギー問題、移民問題、女性の社会進出、能力給など現代の社会問題に関するテキストを読み、物事を批判的に考える スキルを学びつつ、英語で自分の意見をまとめたり、それを基にディスカッションする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Global Issues Ⅰ		英語でのディスカッションを有意義に成功させる方法を理解する。ニュース記事を読み、重要なポイントを要約し、ディスカッションの質問を準備し、ディスカッションに参加し、ディスカッションをリードし、自分で選んだトピックについて発表する方法を学ぶ。様々なトピックについて構成された英語でのディスカッションに参加することで、グローバルな問題について学びながら、コミュニケーション能力と思考力の両方を伸ばすことができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Global IssuesⅡ		「Global Issues Ⅰ」で培ったスキルを基に、様々なトピックや問題についてディスカッションを行う。学生は英語でのコミュニケーション能力と、世界的な問題に対する理解の両方を身につける。また、ディスカッショングループのメンバーが記事やトピックの特定の側面に焦点を当てるロール・ディスカッションを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Current Events		新聞、インターネットにニュース、ラジオ、テレビでは、様々な出来事が報道されている。変化の激しい社会に生きる私たちにとって、時事問題について常に情報をアップデートしていく必要があると同時に、さまざまな情報源に目を向けることは現代を生きる我々にとって重要なスキルである。 この授業では、英語でのディスカッションを通じて、これらの出来事が私たちの生活にどのような影響を与えるのかを考える。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Reading & Critical Thinking		英語チャレンジコース最終年度にあたり、クリティカル・シンキングを踏まえたリーディングトレーニングを行い、より深く「読む」力を身につける。Critical Thinking (CT)とは、「何事も鵜呑みにせず、自分の頭で考えること」である。本授業では、英語リーディングにCTを応用し、科学的・客観的に物事を捉える力を身につけることを目的とする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Career Workshop		英語チャレンジコース最終年度にあたり、自己表現と相互理解のためのコミュニケーション力の総仕上げを行うことを目的とする。 大学入学後から現在までの自身を振り返り、卒業後の進路についてどのように思いが変化したか、あるいは一貫していたかについて自身の言葉で語り、グループで討論しながら今後に向け、自身に、またクラスメートに「エール」を送る。コース最終目標の一つである「TOEIC800点取得」を目指し問題に取り組む。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ドイツ語Ⅰ		学生がドイツ語の骨組みを理解できるようになることを目的とする。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全体をバランスよく学習する。また対話練習によってコミュニケーション能力を身につける。学生が、ドイツ語圏の文化的背景を具体的に理解できる視聴覚教材を使用する。文法面では、全体の見通し（テキスト最終項目まで）を第一とし、細部は「ドイツ語Ⅱ」にゆだねる。 ドイツ語をはじめて学ぶ人に、発音・文法の説明・練習を通じてドイツ語の読解力・コミュニケーション能力を養成する。また、レーゼテキストを活用した会話練習も行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ドイツ語Ⅱ		ドイツ語コミュニケーション能力を養成し、ドイツ語検定試験4級の合格を目指す。 教員が各課の文法を説明し、受講者の理解度を確認する。新たに学ぶ文法については練習問題を通じ定着を図る。そののち、受講者はテーマに沿った対話を作成し、発表する。数課ごとに、小テストを実施し、内容を理解できているかを確認する。また、視聴覚教材を使ってリスニングを鍛錬し、簡単な読み物で語彙力や表現力のバリエーションを習得する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	フランス語Ⅰ		初級文法および日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言語を学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。 授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜既習事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	フランス語Ⅱ		「フランス語Ⅰ」で習得したフランス語の基本の発展を目的とする。「フランス語Ⅰ」で説明しきれなかった文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。 授業では「暗記」よりも受講生の「理解」を前提とし、授業の指針としたい。文法については必要に応じてプリントを配布し、練習問題を通じて各文法事項が確実に身につくよう指導していく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	フランス語ⅠA		初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言語を学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。 授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。おおむね3週で1課のペースで進めるが、適宜既習事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	フランス語ⅠB		初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。基礎的なフランス語の文法事項を理解し、実用フランス語検定5級レベルの、簡単で実用的なフランス語を話すことを目的とする。近接未来と近接過去、数量や時間、天候の表現方法を習得する。 定期的に小テストおよび聞き取りテストを実施し、到達度を確認する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	中国語Ⅰ		初級レベルの中国語を習得する。発音、基礎文型を学び、「読む・聞く・書く・話す」の総合的な中国語力を身につけ、実際に中国語を使って基礎的な会話ができることを目的とする。 前半は、主に発音方法を学び、音読練習を重ねながら、中国語の正しい発音ができるよう訓練する。中、後半は、中国語の基本語彙、基本文型・表現を学ぶ。これらの総合的な習得が中国語力となる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	中国語Ⅱ		準中級レベルの中国語を習得する。基礎的な中国語力のある学生が、日常より多くの場面で中国語を使って会話できる力を身につけることを目的とする。会話に必要な語彙およびより高度な表現を学習する。 前半は、主に「中国語Ⅰ」で学習した発音、会話に必要な文法事項の復習、その内容を使っての会話を行う。中、後半は、より高度な表現、語彙を学ぶ。中国語の背景にある中国文化、風俗習慣、現代中国事情にも触れ、中国語及び中国への理解を深める。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	イタリア語ⅠA		学生は授業を通じて次の点を目指す。初歩的なイタリア語を学ぶ。「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をバランスよく学習する。簡単な日常会話、自己紹介、旅行会話ができるようになる。 ロールプレイを設定したコミュニケーションの表現を通して、主体的にイタリア語での会話ができるように導く反復練習を行う。イタリアの文化に触れ、理解を深め、将来の留学・研修にも役立つ実践的基礎力を培う。「イタリア語ⅠA」、「イタリア語ⅠB」を合わせて履修すれば、イタリア語検定5級レベル程度の語学力を獲得できることを目標とする。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	イタリア語ⅠB		学生は授業を通じて次の点を目指す。初歩的なイタリア語を学ぶ。「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をバランスよく学習する。簡単な日常会話、自己紹介、旅行会話ができるようになる。 表現と語彙の紹介、文法や変化などの練習、ペアやグループで練習、ロールプレイ、シミュレーションを行いながら、イタリア語を習得する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	スペイン語Ⅰ		スペイン語を初めて学習する学生を対象とする。まず学生はスペイン語の発音および文法の基礎を身につけ、これを用いて平易な文章を理解し、さらにスペイン語による簡単な日常会話の習得を目的とする。 授業では、スペイン語圏の国々の歴史や文化的背景といったトピックなども適宜取り上げ、学生が語学の外へも興味を広げていくことを目指す。 各回で取り上げられるモデル文、および語彙や文法事項を習得し、多くの問題やアクティビティをこなすことによってこれらを定着させる。また、モデル会話を繰り返し聞き、リピートすることで、スペイン語の音に慣れることを目指す。なお、履修生の理解度、および希望に応じて、授業計画を変更する場合がある。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングルⅠ		韓国語の基礎を学ぶ。コミュニケーション能力を身につけ、社会文化的背景を理解する。 授業では、まずはハングルの読み書きを学習し、挨拶、自己紹介、数字を使った会話ができるように反復練習、会話練習を取り入れる。さらに、現在形・過去形・未来形を使い分けられるように学ぶ。また物事の肯定・否定表現を理解し、勧誘や指示、依頼の表現を習得する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングルⅡ		韓国語での意思疎通に必要な中級の語尾や語彙を習得する。韓国語での情報発信能力と聴解能力をつける。合わせて韓国や日本の文化的な内容も学ぶ。 文法は、最初に「ハングルⅠ」の復習を行い、連体形や変則活用の用言を学んだ後に、テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。学んだ語尾や表現を用いた会話練習を行い、状況を設定したスキットを自分たちで作成し、会話の力をつける。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別英語演習Ⅰ		学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較することができる。 アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。	集中
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別英語演習Ⅱ		学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較することができる。 アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。	集中
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別中国語演習Ⅰ		学生が中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる。 中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。	集中
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別中国語演習Ⅱ		学生が中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる。 中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。	集中
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別ハングル演習Ⅰ		学生が、韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国社会で実践的に韓国語を学び、文化を実体験する。韓国滞在中、韓国の人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識できるようになる。 韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。	集中

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	特別ハングル演習Ⅱ		学生が、韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国社会で実践的に韓国語を学び、文化を実体験する。韓国滞在中、韓国の人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識できるようになる。 韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。	集中
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	English for Studying Abroad		新しい文化に出会い、新しい言語を使うことは、留学のチャレンジの一部である。海外旅行や留学の準備として、そのプロセスを楽しむことができる。この授業の目的は、学生が他国の習慣や生活様式について、自分自身の価値観を考えることである。 語学力を伸ばすと同時に、他国で経験する文化や日常生活と結びついた考え方に気づくようになる。日本以外の国で生活するための心構えを考えることができる内容を楽しみながら学ぶ。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Trends in Society		日々、新しいものが作られ、議論され、探求されている。個人的な興味やアイデアを通して、社会の潮流について楽しく共有することができる。生徒たちは興味深い時事問題について議論し、それが日本や国際的なトレンドにどのように影響しているかについて知識を広げる。生徒たちはクリティカルシンキング（批判的思考）のスキルを練習し、発表や議論する中で、自分の意見を明確に表現することを学ぶ。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Successful English Discussion		英語で効果的かつ生産的なディスカッションを行う方法に焦点を当てる。リスニングやスピーキングといったコミュニケーション英語能力だけでなく、英語でのディスカッションに積極的に参加する力を身につけることを目的とする。ディスカッションに役立つ様々なフレーズを学び、それらを使用する練習を何度も行う。英語でのディスカッションを成功させるために必要不可欠なツールとトレーニングの機会を提供する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Leadership Development		私たちの世界に様々な貢献をしてきた人々を取り上げる。これまでのチャレンジコースの授業で学んだスキルや情報をもとに、コミュニケーション能力や推論力をリーダーシップの場面で活用する。 ロールモデルの特徴を明らかにすることで、対人関係の発展や効果的なコミュニケーション戦略を含むリーダーの資質について学ぶ。本科目でのリーダーシップ・トレーニングは、卒業後に経験するであろう対人関係に備える。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	留学準備演習		初めての留学を考えている人向けの本科目では、海外で生活を送るために必要な手続きや知識、心構えについて事前に学び、留学生活をより有意義なものにできるよう準備を行う。 入国の手続きや、ホームステイ先でのマナー、留学先の国と日本の文化の違いについて事前に知り、海外での生活で直面する可能性があるトラブルやカルチャーショック、ホームシックなど様々な問題への対処法を考える。英語圏で日常生活や学校生活を送る際に必要な基本的な英会話表現にも触れながら実際の留学生活をイメージし、各自が留学前と留学後で自分自身にどのような変化が起こるのか、実りのある留学とは何かについて考える。毎回単語テストを行う。興味のある留学先についてリサーチをしたり、最終日には「わたしの留学」というテーマで理想の留学プランをクラス内で発表する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	スペイン語Ⅱ		スペイン語の文法を一通り習得し、明瞭な話し方であれば日常的なやりとりが理解できるようになる。過去の行為や出来事、将来のことなどについて、比較的平易な文を使って表現できるようになる。 教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック、学生による学習のふりかえり、学生同士の意見交換（グループ・ペアワーク等含む）を行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングル検定演習		これまで学んだことをもとに、ハングル検定4級・韓国語能力検定2級合格という具体的な目標に向かって学習を進める授業である。 ハングル検定4級・韓国語能力検定2級合格レベルの問題を解く力をつける。学んだ語尾を用いて、会話の練習も行う。自ら積極的に学び、わからないことはどんどん質問をすることでどん欲に学ぶ姿勢を期待する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	海外演習Ⅰ		学生が外国語によるコミュニケーション力を付けることを目的とする。学生がこれまで学んだことを生かし、基礎的な表現を用いて、身近な話題について外国語で話すことができる。 本学の協定校、または本学が認めた教育機関のオンライン語学授業を受講する。日常生活で使用する表現や海外の習慣、現代トピックや海外文化などを学習し、プレゼンテーションを行う。	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	海外演習Ⅱ		学生が外国語によるコミュニケーション力を付けることを目的とする。学生がこれまで学んだことを生かし、基礎的な表現を用いて、身近な話題について外国語で話すことができる。また日本と異なる文化・歴史・生活を知り、自国の文化との比較を簡単な外国語で発信することができる。 本学の協定校、または本学が認めた教育機関のオンライン語学授業により、集中的にそれぞれの国の様子、歴史、自然等に触れながら外国語、異文化理解、現代トピックなどを学ぶ。また、それぞれの国の様子、歴史、自然などに触れながら、外国語を学ぶ。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	Webデザイン基礎		ホームページの作成に利用されるHTML言語の基礎を学び、ホームページの仕組みを理解することが目的である。さらに、HTML言語を用いて、オリジナルのホームページが作成できるようになることが、この科目の目的となる。 毎回の授業では、Webページを作成する際に利用するHTML言語の基本を段階を追って学習する。具体的には、Webページ作成に用いるHTML言語の命令であるタグを基礎的なものから応用的なものまで学習する。多数の例題演習を通じて段階的に学習し、その成果物としてオリジナルのWebページを制作する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	Webデザイン応用		基礎科目「Webデザイン基礎」の応用科目である。Web制作の基礎知識を土台にして、CSSを利用した実践的なWebサイトの制作技術を学ぶ。Webサイト制作の実習を行い、サイトコンセプトに応じたWebページを効率よく構築する技法を学習する。これにより今日のWebサイトの仕組みを理解し、仕様に応じたWebサイトを構築する手法を習得する。 前半はWebサイト制作例題にそって、Webサイトの制作手法と、CSSによる効率的なデザイン手法を中心に学ぶ。後半はWebサイト掲載用の写真編集、JavaScriptなどインタラクティブ要素の導入、CSSレイアウト機能とレスポンシブデザインについて実習する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	グラフィックデザイン基礎		DTPなどグラフィックデザイン分野で、必要不可欠な技術となったコンピュータによるデザイン描画について、その基礎技法を習得する。DTP業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のIllustratorを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。 Illustratorでの描画操作の実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は図形描画技法を実習し、オリジナルマークを制作する。中期は文字・段落の表現技法を実習し、オリジナルCDラベルを制作する。後期は立体表現やグラフ描画など発展的な制作手法を学び、オリジナルのカタログを制作する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	フォトレタッチ基礎		写真表現において、必要不可欠な技術となったコンピュータによるフォトレタッチについて、その基礎技法を習得する。写真業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のPhotoshopを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。 Photoshopでの写真加工実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は描画機能と文字機能を実習し、オリジナルバナーを制作する。中期は写真の合成手法を実習し、オリジナルのファンタジー写真を制作する。後期は汚れの除去や色調の補正手法を実習し、オリジナルの合成写真を制作する。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	データサイエンスの基礎とExcel		データサイエンスの基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても重要となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法を演習形式で習得することを目的とする。 前半の授業では、統計学の基本的な考え方として、記述統計学の内容を学習する。また、授業内容に関するExcelの演習問題に取り組む。授業の後半では、実際に行われたアンケート調査データやオープンデータを分析し、データの可視化から現状を分析したり、課題の解決策を提案するなど、課題演習に取り組む。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	データサイエンスの応用とExcel		「データサイエンスの基礎とExcel」の発展科目として、推測統計学と多変量解析の基礎について学習する。また、ビッグデータ時代の到来により、大量なデータを活用する能力が必要とされているが、本講義ではデータによる問題の発見、調査の計画、データの収集と分析、結論の導出など、一連の過程を体験し、データに基づいて課題を解決する能力を身につけることを目的とする。 前半の授業では、配布資料をもとに説明を行い、Excelを用いた統計解析を実施する。後半の授業では、地域企業 や自治体と連携し、提供されたデータセットを小グループで分析する課題演習を行う。また、その分析結果をパワーポイントにまとめ、最後にグループ全員でプレゼンテーション発表を実施する。課題演習を行うにあたり、必要に応じて現地調査を行う場合もある。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	データリテラシー・AIの基礎	○	AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき知識・技能（新たな読み書きそろばん）を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。 パソコン操作を通じて、e-Learning教材で幅広い視点からデータサイエンス・AIに関しての基礎的な知識を学習する。また、授業でわからない用語等については、自ら本やインターネットで調べながら理解を深める。	メディア 主要授業科目
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	データサイエンスのためのPython		Python言語の入門とプログラミングのための基礎知識の習得、特にデータサイエンス（DS）に必要となるプログラミングのための基礎知識の習得を目的とする。Python言語による基本的なスクリプティングが 自力でできるようになることを目的とする。文系の学生でも理解できるように配慮し，プログラミングの学びに入るための前提知識や統計学の基礎知識についても言及す。また将来、システム開発系の職に就くことを志す人のためにも最初の学びの機会となる。	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	実用的ITリテラシー		コンピュータとネットワークシステムの基礎知識に基づいた、実用的なIT リテラシーを身につける。学生生活をおくるため、あるいは社会で活躍するために必要となる基本的なITの知識を実用的な形で学ぶ。この科目では、インターネット利用のためのマナーやエチケット、倫理に関する内容よりも、具体的なテクノロジーやその活用方法について学ぶ。また、PC（パーソナルコンピュータ）の扱いに不慣れな人が「IT弱者」とならないための基礎知識を学ぶ。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	生涯スポーツ論		スポーツは現代社会において不可欠な文化と考えられる。この授業ではスポーツに関するさまざまな視点からの知識を学び、今後のライフステージにおける豊かな社会生活にそれらの情報を活かすことが目的である。授業を通して、スポーツに関する多面的知識を正しく理解する。その知識を元に他者とディスカッションできる能力を身につける。また生涯にわたるスポーツの実践の基礎となる知識を身につける。 スポーツの意味、その成り立ち、スポーツと社会の関連、生活とスポーツの関連等について、オンデマンド型の遠隔授業にて講義する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	スポーツと現代社会		現代のスポーツは、政治・経済・教育など、私たちの生活と密接に関連する文化現象となっている。本講義では、スポーツの歴史や文化現象を通して、スポーツの文化的特質や社会的役割を理解する。科目習得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。 現代社会においてビジネスに何らかのかたちで関わっていくことは必須であり、我々消費者の行動的原点であるといえる。スポーツ産業をケーススタディとして、経営学の基礎を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	知っておきたい応急処置		学校や日常生活の中で起こりえる急病やけがに適切に対処できる方法について正しく知り、活用できることを目的とする。 一般の人ができる「救急法」とは、傷病者を医療機関や医師に引き継ぐまでの「応急手当」であり、傷病者の発見現場で直ちに行うことにより、傷病者の命を救うことや重症化を防ぐ大きな手助けとなる。そこで、学校や日常生活で起こりうる外傷や事故、病気を救う手当、痛みの軽減、悪化防止の応急手当、予防方法等を科目の中で教授する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（テニス）		基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習し、できる喜びを感じる。 グランドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術を習得し、各ショットに適したグリップについても理解する。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナー、審判の仕方を理解する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（ゴルフ）		ゴルフスイングの練習を通して身体を動かす楽しみや充実感を味わうことを目的とする。またゴルフに関する様々な知識を増やすことを目的とする。 担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（バレーボール）		バレーボールの楽しさは、一つのボールをつなぎやラリーを行うことにある。本授業では、基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。 授業前半において主に基礎的なボールコントロール（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び）や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（バドミントン）		バドミントンは生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーショナルにも競技的にも楽しむことができる。 そのバドミントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツといった様々な角度から理解、実践し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。 前半は、バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということを多角的に学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（ジャズダンス）		アメリカのブラックカルチャーから派生したジャズダンスは、全世界のエンターテインメント界でもっとも親しまれているジャンルである。本授業では、ジャズダンスの歴史、特徴、スタイルを体験的に学ぶ。 授業前半では、ダンスを踊る基本的な身体トレーニングを行う。また、これについては授業内において継続的に実施することで、自身の身体の調子を整える技術として活用する。授業中盤～後半にはジャズダンスの基本的なステップを段階的に学習を進めながら、課題曲についての振付を覚え、踊れるようにする。授業終盤は、グループに分かれ部分的な振付の創作、フォーメーションの設定などを行いダンス発表を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（エアロビクス）		音楽に合わせて、リズミカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・健康体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。 日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（スリムエアロ）		健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。 エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（水泳）		水泳の基本的技術と水泳に関する知識を理解し、自己の水泳能力を高める。この授業を通じて得られた水泳の知識・技能を生涯にわたる健康的なスポーツライフに活かせることが目的である。 楽しい雰囲気の中で水泳に関する知識と各自が目標とする技能を身につけることが、この授業の前提である。水泳の特性・技術を理解し、それを再現することが求められる。そのためには、水泳動作として指先から頭の位置、体幹、脚、足先までも意識化することが重要となる。毎回の授業時に他者へのアドバイスを積極的に行うことで自己の泳ぎへの視点も明確になる（アクティブラーニング）。 授業グループを以下の3グループに分けて展開する。上級：水泳経験者（部活動、スイミングクラブ等で選手経験があるもの）。中級：クロールや平泳ぎは安定して泳ぐ力を持っている者、背泳ぎ、バタフライの経験もある者。初級：クロールや平泳ぎに自信が持てない者。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（軽スポーツ）		空中で自分の体を動かし新たな身体能力を発見する。個人スポーツなので各自のレベルに合わせて楽しく運動することができる。また、全身運動により美しいプロポーション作りに役立てる。脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養うことができる。 基本動作を身につけ器具の特性を知り、種目を覚える。その後は5級・4級のバッジテストに挑戦し、競技トランポリンの知識を増やすことを目的とする。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（ヨガ）		ヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディションワークとして身につけることを目的とする。 授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディションワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルベーダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディションアップに繋がる要点を学ぶ。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	からだと気づきと姿勢法		ネヘミア・コーヘン氏によってカナダで開発された姿勢調整法であるミツヴァ・テクニックを中心に、その基本的概念と実践の方法を学ぶ。授業では基本エクササイズを体得すること、またその過程において自己のからだの在り方に目を向け、耳を傾けることで、からだへの気づきを促すことを目的とする。 ミツヴァ・テクニックの基本である座る・立つ・歩く・触れあうことを、一つ一つ丁寧にからだに向き合いながら練習する。床でのエクササイズでは日常生活の中で生じる無駄な緊張からからだを解放する。椅子を使ったエクササイズでは背骨の動きと頭の位置をバランスの良い状態に調整する。これらをくり返し練習することで、本来生まれ持った自然の防衛・調整機能を取りもどすよう「からだ」を再教育していく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（スタイルジャズ）		スタイルジャズを学ぶことにより曲の理解を深め、身体表現の幅を豊かにすることを目的とする。 洋楽・邦楽(J-Pop)の歌詞に合わせたスタイルジャズの表現のしかた、アップテンポ・スローテンポの身体の使い方の違いを学ぶ。ジャズダンスの中でも、スタイルジャズは流行や話題になった曲で表現することにより、表現の幅が無限にある。 さらに、2012年より義務教育で「現代的なリズムのダンス」が必修となり、新学習指導要領への対応としてHIP HOPの基礎的な動きも取り入れる。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（バンジーエクササイズ）		医師であり運動科学者が発明したドイツ発の日本最新エクササイズである。様々な人々への体力づくりのために考案された。このエクササイズを学ぶことで自身のより高い体力の向上をめざす。 天井から吊るされたスリング（ゴム・バネ）器具を利用したサスペンションエクササイズである。実技を中心に行う。強力な弾力のスリングを使い、時には身体を委ね、漸進的なワークを繰り返し行うことで自身のフィットネスレベルを上げる方法を学ぶ。また4D（全方向）に動くことにより全身（体幹やバランス感覚、筋力など）が機能的に働くことを理解する。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（エアリアルワーク）		エアリアルワークの体験学習を通じて、学生生活、そして卒業後も心身の健やかさを保つ方法として身につけることを目的とする。 リハビリのレッドコードから進化させたシルクサスペンションや、アクロバティックなヨガ動作の補助具としてハンモックを用いたエアリアルヨガ、またサスペンションピラティス、ファンクショナルトレーニングなど多種多様な動作を包括的にフィットネス観点から安全に効果的に、かつ、段階的に学ぶ。身体の構造的なことを踏まえ動作を理解し､どのような種類のハンモック、サスペンションであれ、道具を選ばずとして動作を楽しめるように、フレキシブルに学ぶ。また自己のセルフコンディションワークとして取り組めるように、ハンモックを使用しない動作への変換、トランポリン、チューブやストレッチポールを代用しての変換ワークも体験することで、クリエイティブな発想力を促す。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	スポーツ実技（フットサル）		フットサルのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようになることとともに、フットサルを媒体として他者とコミュニケーションを図り、自分の身体や体力に目を向けることを目的とする。 生涯にわたって楽しむスポーツの一つとして、フットサルを十分に楽しむために必要となる知識・技能・態度の養成を目指す。具体的には、授業毎にテーマ（基本技能あるいは戦略）に応じたトレーニングを行い他者と協働しながら技能習得を図る。基本的には初学者を対象として授業を設計している。このため、「ボールを止めて蹴る」という基本的な動作から、ゆとりをもって徐々に学習を深めていく。	
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目	マッサージ実習		自分自身の体にある関節や筋肉について理解し、マッサージによる健康維持、血行の改善の方法を理解する。たくさんの人が経験する肩こり、腰痛に対するマッサージの方法を理解する。疲労回復、リラクゼーションを目的としたマッサージの技術を習得する。 マッサージの方法は軽擦法を中心にリスクの最も少ない方法を指導する。 上肢・下肢・体幹に対する基本的なマッサージを指導し、たくさんの人が経験する肩こり、腰痛に対するマッサージの方法を指導する。	
専門教育科目	基礎科目		初期演習Ⅰ	○	本学で習得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。また、守るべきルールや大学のイベント、利用できる各種ツールの利用方法などについても理解する。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の習得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目		基礎化学	○	化学は、分子レベルでの物質の性質やふるまい（化学物質の構造、化学反応、化学平衡など）を知る学問であり、有用な合成物質や物質処理技術を開発し、産業を発展させるための基盤となる学問の一つとして重要な位置を占めている。一方で、持続的な発展のためには、環境問題の原因となる化学物質の製造・使用を抑制し、環境に対しより「よい」影響を持つ物質を利用し、またそのための仕組みを考えることも重要である。この科目では持続可能な開発目標(SDGs)の各目標になぞらえたトピックを出発点として、これらの様々な側面から化学の基礎的知識を習得し、環境分野における科学的思考のツールとして活用する。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	基礎生物学	○	（概要）生物は、何十億年もかけて地球環境への適応と進化を続けてきた。結果すべての「生きとし生けるもの」は環境に応答・適応し世代を超えて存続するための極めて巧妙な仕組み（生体システム）を備えている。一方、人類活動の拡大の裏側で、生物量（バイオマス）や生物多様性が急速に減少している現状がある。この科目では生物の各階層における観測・計測手法の原理理解に向けて、SDGsの各目標になぞらえたトピックを出発点とし、分子レベル・細胞や組織のレベルでの生体の機能や外部環境に対する応答・適応に関する基礎的知識を習得する。加えて、環境の管理や生態系のデザイン等を理解する基盤として、個体や個体群レベルの基礎的知識を習得する。 （オムニバス方式／全15回） （12　三浦　健／11回） 分子細胞生物学に関連するトピックを担当する。 （13　石庭　寛子／4回） 生態学に関連するトピックを担当する。	オムニバス方式 主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	基礎環境工学	○	気候変動や自然破壊、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの環境問題に対処するためには、人間活動の状況や化学物質等の環境中での挙動など、その状況やメカニズムを計測・モデル化・数値化することにより把握・予測するとともに、技術により改善を図る工学的アプローチ（環境工学）が欠かせない。この科目では、環境工学が持続可能な社会の構築に密接に関わることを念頭に、SDGsと関連させつつ、環境工学の動向についての理解や知識の習得を行う。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	情報リテラシー	○	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。以下を到達目標とする。1）本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。2）基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。3）レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。これらを「データ分析・統計学」科目の前提知識・理解とする。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	初期演習Ⅱ（環境共生学）	○	「初期演習Ⅰ」、「環境共生学入門（学習設計）」に引き続き、環境共生学を基礎としたキャリアデザインを行う。西宮市あるいは近畿地区などの近隣の地域や、より広い社会全般における、自然環境と人との環境共生の実態や、解決の必要性が高い課題について、資料の購読、Web上で利用できる情報の活用などにより理解を深める。グループワークなどを通して、様々な角度から議論、考察し、洞察力を深めることで、キャリアデザインを行う基盤とする。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	生態学		生態学（ecology)とは「環境と生物との相互作用（やりとり）を記述し、その法則を定量化する学問」である。生態学が取り扱う領域は遺伝子から個体、個体群、地球環境まで多様な階層と分野を含み、環境共生社会を目指すためにはそれらに関わる幅広い知識と技術を習得する必要がある。本科目では、自然選択や繁殖戦略、個体間・生物種間の相互作用、物質生産やエネルギー循環など基礎的な理論を通じて生物の生活史がどのように営まれているのかを理解する。さらに、応用として生物多様性や気候変動などの現代における深刻な環境問題を概観し、生態学の理論や技術がどのように問題解決に貢献できるのかを議論するための基本素養とする。これらを「生態工学」や環境管理技術関連科目を学ぶための予備知識ともする。	
専門教育科目	基礎科目	地球科学		すべての生命活動・人間活動の基盤となる地球について、46億年の歴史を経て形成してきた過程と現在の状態を、科学的に学ぶ。地球の内部構造、公転と太陽系、自転と地軸の傾き等を理解したうえで、地球における大気の運動、海洋の循環、土壌の形成の関係性を学ぶ。大気・水・土壌環境と生命活動との相互作用について学ぶ。過去の公害問題・現代の環境問題について地球科学の視点から学び、将来の地球環境やその中の一員としての人間のあり方を考え、理解する。環境管理技術関連の科目を学ぶための予備知識とする。	
専門教育科目	基礎科目	細胞生物学		生命の最小単位は細胞であり、これを生物機能の基本単位とみなすことができる。本講義では、各種バイオテクノロジーやそれを利活用した環境保全技術の原理理解に繋げるために、環境・生命・健康等に関する生物資源分野の基本的な生命現象としての細胞の営みに関する知識を習得する。特に、細胞膜や各種細胞小器官の機能を下支えする脂質・タンパク質の構造とその機能、酵素動力学的モデル、細胞内代謝、細胞内情報伝達について学ぶ。	
専門教育科目	基礎科目	環境英語Ⅰ	○	環境問題への取り組みや共生社会の構築において、多様な背景を持つ他者と相互理解し、協力・協業することは重要である。英語はサイエンスの共通言語であり、筋道立てた説明の手段としても重要である。英語によるコミュニケーションは、国際的なパートナーシップを結ぶ基礎となる。この科目では、学科の実習・演習科目や専門科目などを通して培った、環境科学などに関する知識およびそれに関する自らの考えを英語で表現し、また相手の情報も共有し、グローバルコミュニケーションについて学習する。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	分析化学		分析化学は、定性分析及び定量分析の両面から、物質の化学的な特徴を知ることに関する学問分野である。我々が使用するすべてのものおよび環境は化学物質からできており、分析化学は環境を工学的な視点から観察する基盤ともなる。試料中の元素、イオンまたは化合物を同定する定性分析、および特定の物質が試料中にどれだけ含まれているかを測定する定量分析に関して、どのような情報が必要とされるか、全体を代表する試料をどのようにして得るか、分析のための試料をどのようにして調製するかを知り、化学分析法の基礎を学ぶ。	
専門教育科目	基礎科目	環境微生物学		環境中の微生物のなかで人間が識別して利用できているものはわずかである一方で、人類はその存在を知る前から生活のなかで多くの微生物を利用してきた。微生物に共通する構造的および生物学的な特徴を理解したうえで、各微生物種の特殊性に基づいて、環境（自然環境・人工環境・人体内部含む）における役割や適応および進化について説明する。共生や病原性などの微生物の生存戦略について概説する。微生物の特徴を利用した工業化・発酵技術に関する基礎的な知識を学ぶ。	
専門教育科目	基礎科目	高分子化学		一般に分子量が10,000程度以上の分子は「高分子」と呼ばれる。DNAなどの生体高分子だけでなく、機能性を持った高分子化学物質をデザイン、合成することができる。プラスチックやゴムなどが代表例である。本科目では、高分子の特徴や分子量の平均値の表し方を理解し、高分子の開発の歴史、合成法、性質やその測定法、などの基礎事項について学ぶ。また、生体高分子の核酸やタンパク質などの構造や特徴についても学ぶ。これらの知識や理解を、持続可能な社会の形成のためのツールとして役立てる。	
専門教育科目	基礎科目	環境英語Ⅱ	○	環境問題への取り組みや共生社会の構築において、多様な背景を持つ他者と相互理解し、協力・協業することは重要である。英語はサイエンスの共通言語であり、筋道立てた説明の手段としても重要である。英語によるコミュニケーションは、国際的なパートナーシップを結ぶ基礎となる。「環境英語Ⅰ」に引き続き、この科目では、学科の実習・演習科目や専門科目などを通して培った、環境科学などに関する知識およびそれに関する自らの考えを、英語で表現し、また相手の情報も共有し、グローバルコミュニケーションについて学習する。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	植物生理学		植物は無機物から有機物を作る、生態系における生産者であり、人間を含めた地球上のすべての生物の生存にとって不可欠である。一方、陸上植物は移動する能力を持たないため、存在する場所で生きていくためのしくみを進化の過程で獲得してきた。本講義では、植物の生命維持の基本的なしくみ、すなわち、植物がどのような構造を持ち、どのような機能を持つのかについて解説する。具体的には、植物の構造、光合成のしくみ、分化と成長に関わる因子（植物ホルモンなど）、外部の環境に対する応答などについて、生態系保全との関連や生物工学を用いた植物機能の修飾技術への応用も考えながら学ぶ。	
専門教育科目	基礎科目	生命と地球環境		現在の地球環境と生物多様性がどのように形成されてきたのかを学ぶ。生命の誕生以来、生命活動が地球環境を変え、地球環境の変化が生物進化を促し、それがさらに地球環境に影響を及ぼすというように、生物進化と地球環境は互いに影響を及ぼし合いながら現在の地球環境と生物多様性が形成されてきた。この歴史を理解することにより、生命活動と地球環境との関係を考え、人類が抱える環境問題等の論点を自ら整理し、将来を洞察する力を養うためのベースを身につける。これらを環境管理技術科目や、生物工学科目などのより深い理解に役立てる。	集中
専門教育科目	基礎科目	環境英語Ⅲ	○	環境問題への取り組みや共生社会の構築において、多様な背景を持つ他者と相互理解し、協力・協業することは重要である。英語はサイエンスの共通言語であり、筋道立てた説明の手段としても重要である。英語によるコミュニケーションは、国際的なパートナーシップを結ぶ基礎となる。この科目では、環境科学に関するグローバルコミュニケーションの場面において、交渉、折衝、立場の異なる他者との相互理解のツールとして英語を活用できるようになることを目指し、英語の論理的構成を考慮して、表現や理解のトレーニングを行う。また、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項も習得する。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	環境英語Ⅳ	○	環境問題への取り組みや共生社会の構築において、多様な背景を持つ他者と相互理解し、協力・協業することは重要である。英語はサイエンスの共通言語であり、筋道立てた説明の手段としても重要である。英語によるコミュニケーションは、国際的なパートナーシップを結ぶ基礎となる。「環境英語Ⅲ」に引き続き、この科目では、環境科学に関するグローバルコミュニケーションの場面において、交渉、折衝、立場の異なる他者との相互理解のツールとして英語を活用できるようになることを目指し、英語の論理的構成を考慮して、表現や理解のトレーニングを行う。また、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項も習得する。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	環境英語演習（留学プログラム）		本演習は、グローバルな社会問題を解決するための国際感覚を養成することを目的とし、環境問題を議論する際に必要な英語力のレベルアップをはかることを目標とする。本学のアメリカ分校MUSCに約4週間滞在し、現地教員（TESOL有資格者）によるカンバセーション、リーディング、ライティングの授業を受けて英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、アメリカ文化やアメリカの環境問題に関する理解を深める。地域の自然観察および環境活動についてヒアリングを含めて探究し、英語で他学科の学生や地域住民に対して発表・質疑応答することで理解を深める。	集中

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	環境研究英語Ⅰ	○	環境科学の関連分野では、研究において英語の文書を理解し、英語で文書を作成する必要がある。本科目は、英語を研究における情報収集や情報発信のツールとして使用するための基本的技能を習得することを目的とする。各自の研究分野に関連する最新の英語論文を取得し、論文の構成、内容を把握するとともに、第三者に説明できるようになる基礎を築くことを目標とする。また、その内容に基づき、批判的意見も含めた議論を行うための基礎を習得する。	主要授業科目
専門教育科目	基礎科目	環境研究英語Ⅱ	○	環境科学の関連分野では、研究において英語の文書を理解し、英語で文書を作成する必要がある。本科目は、「環境研究英語Ⅰ」を発展させ、英語を研究における情報収集や情報発信のツールとして使用するための基本的技能を習得することを目的とする。各自の研究分野に関連する最新の英語論文を取得し、論文の構成、内容を把握するとともに、第三者に説明できるようになることを目標とする。また、その内容に基づき、批判的意見も含めた議論を行うための基礎を習得する。	主要授業科目
専門教育科目	問題・課題の認識	環境共生学入門（学習設計）	○	SDGsや環境問題に興味を持ち入学してきた履修者が、グループワーク等を通じて「環境共生学」の学問体系とその概要をそれぞれの科目の内容から学び取り、学習設計を行うことを通じて自分の興味関心との関連を省察する。またその学習設計を、学年進行に伴って様々な専門科目を学ぶとともに、ラボローテーション実習で多様な専門的技能と考え方を身につける中で、自己成長に伴って更新し続ける態度を身につけることを目的とする。	主要授業科目
専門教育科目	問題・課題の認識	SDGs論	○	（概要）2015年9月の国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、この中で「持続可能な開発目標」(sustainable development goals (SDGs))が示された。この目標は広く知られ、企業活動においても、環境・社会・経済のサステナビリティを「事業を持続的に続ける本質」と捉えるえるようになりつつある。この科目では、SDGsの分類や階層を理解し、１７の目標（特に目標1-15）と具体的なターゲットを知るとともに、SDGsのような目標設定が、組織や個人のレベルで、環境と社会の持続可能な関係構築にどう役立つのか理解する。 （オムニバス方式／全15回） （11　穂坂　紀子／9回） 地域、教育に関連するトピックを担当する。 （5　高橋　一彰／6回） 産業、環境工学に関連するトピックを担当する。	オムニバス方式 主要授業科目
専門教育科目	問題・課題の認識	環境問題概論	○	環境問題は、人類が地球環境で活動を続けるために解決する必要がある問題であり、人類にとって最も重要な関心事のひとつである。この概論では、SDGsの各目標になぞらえて、人類の社会・経済活動が自然環境や人の健康へ及ぼす「よくない」側面（気候変動、大気・水環境問題、生物多様性の減少、廃棄物および有害化学物質の生成など）を、地理的観点、歴史的観点、社会経済活動との関連も含めて理解、知識習得する。またその影響を、データ（数値・図表・スキーム・マップ等）から読み取り、問題を定量的、時空間的に（いつ・どこで・どのように・どれだけ）とらえる視点を養う。	主要授業科目
専門教育科目	問題・課題の認識	フィールド・環境施設実習	○	（概要）人と自然の関係性について話し合うことを通じて、グループワークの基礎（コミュニケーション・思考・合意形成など）を学ぶと共に、地球・自然環境および持続的な社会生活に必要な環境関連施設を体感・体験し、体験や課題を共有・思考・表現する技能を習得する。フィールドワークでは安全行動や活動地について学んだのち、名塩野外活動センターを中心に甲子園浜、武庫川河川を訪問し、五感を使い自然環境下における経験を記録・表現する。サンプリングのルールと方法も学ぶ。環境関連施設（環境分析、装置製造、処理場など）も訪問調査し、調査した内容を発表・質疑応答・相互レビューする。これらを通し、課題発見・課題解決思考力の基礎を養成すると共に、サステナビリティ構築を志向する出発点、さらには、卒業後の進路を考えるきっかけとする。 (オムニバス方式／全15回) （6　大谷　壮介・14　平岡　真合乃・13　石庭　寛子・3　藍川　昌秀・16　澤田　隼佑／7回）（共同） グループワーク基礎、事前調査、訪問後のまとめと発表を行う。 （6　大谷　壮介・14　平岡　真合乃・13　石庭　寛子／1回）（共同） フィールド訪問の注意事項説明、事前準備を行う。 （6　大谷　壮介／1回） フィールド（海洋）に関する実習を行う。 （13　石庭　寛子／1回） フィールド（山林）に関する実習を行う。 （14　平岡　真合乃・13　石庭　寛子／1回）（共同） フィールド（河川）に関する実習を行う。 （3　藍川　昌秀・16　澤田　隼佑／4回）（共同） 環境施設訪問に関する実習を行う。	オムニバス方式・ 共同（一部） 主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	体験・技術習得	エコツーリズム実習		（概要）近郊に豊かな自然を有する西宮市の立地を活かした野外での実習を行う。多様な自然環境の中に身を置き、実際にその豊かさや厳しさを体感することを通じて、自然環境への理解と関心を深め人との共生について体験的に考え理解しようとする姿勢を育む。現代の生活が、文明による高い利便性を持つことや、生きることの原点、人間も自然の一部であることなどを再認識する機会ともする。事前に、野外活動の歴史や技術、特に安全行動について学習し準備とする。トレッキング、サイクリング、カヤック等の人力による移動手段で、生物観察も含め多様な自然を体感し、地域の歴史や文化にも触れる。事後に、体験したこと、実践できたこと、考えたこと等の記録をまとめ、共有・発表する。 （オムニバス方式／全5回） （2　來海　徹太郎・15　天沼　絵理／2回）（共同） 事前学習、事後学習に関する実習を行う。 （2　來海　徹太郎／1回） 野外活動（カヤックなど）に関する実習を行う。 （15　天沼　絵理／2回） 野外活動（トレッキング、サイクリングなど）に関する実習を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
専門教育科目	体験・技術習得	基礎実験	○	（概要）広範な工学系の実験の中から、環境科学分野の重要なテーマと関連し、なおかつ身近な話題と関連づけやすい化学、生物、物理系の実験を通して幅広い分野の実験手法に親しみながら、基本的な器具・装置の使用・操作法、安全・正確な動作の基礎を身につける。またグループ内で役割分担を話し合いながら実験を進めたり、得られた実験結果を適切に分析・要約したりすることで他の人にわかりやすく伝える訓練とする。 （オムニバス方式／全10回） （2　來海　徹太郎・12　三浦　健・9　矢野　義明／1回）（共同） データや器具の取り扱いに関する実習を行う。 （2　來海　徹太郎／3回） 機能性分子の合成に関する実験実習を行う。 （12　三浦　健／3回） 生物高分子の機能解析に関する実験実習を行う。 （9　矢野　義明／3回） 光・熱・電気の性質に関する実験実習を行う。	オムニバス方式・共同（一部） 主要授業科目
専門教育科目	体験・技術習得	データ分析・統計学	○	様々な調査研究活動を進めるに際して、多種多様大量のデータを活用して合理的かつ客観的な結論を得ることが必要になる。データ分析・統計学では、収集された個々のデータから集団の特徴を代表的な数値で表すとともに、他の集団との相違点を明らかにしたり多変量データから有意な傾向を得たりする一連の技術を学ぶ。特に、汎用的・基盤的なデータ分析の手法として、記述統計学、推測統計学、多変量解析の概念を学ぶとともに、解析演習を行うことで実践的にこれらの技術を理解する。	主要授業科目
専門教育科目	体験・技術習得	ラボローテーション実習Ｉａ	○	異なる専門研究領域での複数のラボでの体験と記録を通して、異分野における研究者の研究手段と、それをどのように課題解決に用いるかについて幅広い視野を得ることを目的とする。教員の専門分野の研究技術のうち、特に有用、代表的な技術を習得するとともに、研究の進展でどのように課題を解決していくかにも触れる。ラボノートによる活動記録の習慣も身につける。課題への解決手段やその考え方を教員と話し合いながら、実際の手技・技術を行うことを通じて、各分野の慣習や課題解決の思考を学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	体験・技術習得	ラボローテーション実習Ｉｂ	○	異なる専門研究領域での複数のラボでの体験と記録を通して、異分野における研究者の研究手段と、それをどのように課題解決に用いるかについて幅広い視野を得ることを目的とする。教員の専門分野の研究技術のうち、特に有用、代表的な技術を習得するとともに、研究の進展でどのように課題を解決していくかにも触れる。ラボノートによる活動記録の習慣も身につける。課題への解決手段やその考え方を教員と話し合いながら、実際の手技・技術を行うことを通じて、各分野の慣習や課題解決の思考を学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	体験・技術習得	ラボローテーション実習Ⅱａ	○	異なる専門研究領域の複数のラボでの体験と記録を通して、異分野における研究者の研究手段と、それをどのように課題解決に用いるかについて幅広い視野を得ることを目的とする。「ラボローテーション実習Ｉａ」、「ラボローテーション実習Ｉｂ」で経験したものとは異なる研究領域のラボにおいて、教員の専門分野の研究技術のうち、特に有用、代表的な技術を習得するとともに、研究の進展でどのように課題を解決していくかにも触れる。ラボノートによる活動記録の習慣も身につける。課題への解決手段やその考え方を教員と話し合いながら、実際の手技・技術を行うことを通じて、各分野の慣習や課題解決の思考を学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	体験・技術習得	ラボローテーション実習Ⅱｂ	○	異なる専門研究領域の複数のラボでの体験と記録を通して、異分野における研究者の研究手段と、それをどのように課題解決に用いるかについて幅広い視野を得ることを目的とする。「ラボローテーション実習Ｉａ」、「ラボローテーション実習Ｉｂ」で経験したものとは異なる研究領域のラボにおいて、教員の専門分野の研究技術のうち、特に有用、代表的な技術を習得するとともに、研究の進展でどのように課題を解決していくかにも触れる。ラボノートによる活動記録の習慣も身につける。課題への解決手段やその考え方を教員と話し合いながら、実際の手技・技術を行うことを通じて、各分野の慣習や課題解決の思考を学ぶ。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	体験・技術習得	物理学実験		物理学の基本的事項を理解し、実験原理・理論、および環境の測定法や測定器の作動原理を学び、実験計画法を身につける。実験では、器具・装置の使用・操作法、安全・正確な動作法を学び、測定技術を習得する。また、測定データの取り扱い、解析方法について学ぶ。さらに実験方法や実験装置の工夫について学ぶ。 実験を通して、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、自然の事物や諸現象を科学的に解明、探究するための物理的な見方や考え方、および基本的な実験技術を身につける。	集中
専門教育科目	体験・技術習得	地学実験		地学の基本的事項を理解し、実験を通して自然現象について物理法則を用いて説明できることを目標とする。地球全体と太陽系を含む自然現象の法則や原理を理解し、観察・実験・実習の手法を学ぶ。身近な材料を用いた実験器具および教材の創作を体験する。実験とデータの解析を通して、地学を総合的に理解して指導する能力を身につけることを目指すとともに、自然の事物や諸現象を系統的・論理的に考え、科学的に解明・探究するための見方や考え方を学習する。	集中
専門教育科目	体験・技術習得	環境技術実験	○	（概要）環境研究分野で特に汎用性の高い環境分析、生物工学などに関連する一連の実験技術やデータ解析法を習得する。データ解析等、日進月歩な技術の場合は、必要に応じて実験内容を更新する。HPLCや質量分析などの分析機器測定技術、遺伝子工学関連技術、遺伝子情報分析、データ分布等の解析のためのプログラム利用技術、環境アセスメント関連技術、フィールド調査関連技術などを含む。習得した内容は卒業研究で活用するとともに、卒業後の技術的な実践力とする。 (オムニバス方式／全10回) （7　田島　右副・4　久能　樹／4回）（共同） 分析機器測定技術に関する実習を行う。 （8　村田　成範・10　吉田　昌樹／4回）（共同） 生物工学関連技術に関する実習を行う。 （15　天沼　絵理／2回） データ処理、データ解析に関する実習を行う。	オムニバス方式・共同（一部） 主要授業科目
専門教育科目	ソーシャルデザイン	環境経済学		気候変動・森林破壊・大気汚染などの環境問題の発生は、人々の経済活動と密接につながっている。環境経済学は、それらの問題を経済学視点から分析する学問である。本講義では、環境問題が発生するメカニズムを経済学的に理解し、解決するための基本的な理論と分析手法を学ぶ。また、実際の環境問題に対して行われている政策を取り上げ、様々な環境問題に対する分析枠組みと政策を自ら考えることができる基礎を習得することを目標とする。	
専門教育科目	ソーシャルデザイン	環境教育論	○	環境教育とESD(持続可能な開発のための教育）について学び、ESDの視点を取り入れた環境教育の必要性と目的、および持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解する。また、グループワークやディスカッションを通して、持続可能な社会の担い手に求められる知識や行動について考えを説明できるようにする。 さらにESD環境教育の実践事例から環境教育で扱われるテーマや主要な概念、様々な教育手法について学び、現在の環境教育の課題や可能性について理解を深める。	主要授業科目
専門教育科目	ソーシャルデザイン	環境政策論	○	環境問題はわたしたちの日常生活や事業活動に関わり、不特定多数の者が原因者であると同時にその影響を受ける者にもなっていることから、その対応において公共政策は重要な役割を担っている。本授業では、公害対策や自然保護、廃棄物対策、地球環境問題などに対する政策的な対応について、環境倫理の側面も踏まえつつ、その意義やこれまでの経緯を事例をもとに概観する。併せて、環境政策の各手法（規制的手法、経済的手法、自主的取組、情報的手法、手続的手法）の特徴の他、科学的知見を踏まえた立案や合意形成など、政策形成の過程について学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	ソーシャルデザイン	環境教育実践		ESD(持続可能な開発のための教育）の視点から環境教育を広く捉え、多様な教育実践の具体的事例から教育手法や教材、ツール、およびそれらの活用方法について学んだ後、実際に環境教育プログラムを企画し、アクティビティや学習展開計画の作成、環境教育の実践（発表）を行う。 プログラムの企画と実践を通して、説明や表現の工夫、教材、ツールの活用の工夫など、教育現場はじめ様々な舞台で環境教育を実践する際の多様な工夫を学ぶ。ESD環境教育の実践におけるインタープリター、ファシリテーター、コーディネーターといった役割について理解し、互いに協力してプログラムを実践する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	ソーシャルデザイン	世界遺産学		世界あるいは日本各地の世界遺産（自然遺産および文化遺産）を幅広く取り上げ、それらの遺産が成立した歴史的・文化的背景やその価値、また遺産を保全するための政策や活動の動向、まちづくりや地域づくりにおけるすぐれた景観の活用事例について学ぶことを目的とする。また、これらの事例を通して、地域の自然や文化景観の固有性を読み解く方法を理解するとともに、理解した基礎的知識を環境・景観計画に活用する基礎的能力を培う。	集中
専門教育科目	ソーシャルデザイン	NPO・NGO論		近年、福祉や被災者支援、気候変動、国際協力等、様々な分野でNPO（非営利組織）、NGO（非政府組織）などのCSO（市民社会組織）が、SDGsの普及とともに社会を構成する重要な担い手であるという認識が深まっている。本講義では、企業や行政とは異なるNPO・NGOの存在意義と役割、組織や資金力などの課題を学び、理解を深める。また、気候変動による貧困や治安の悪化等、環境問題と社会問題のつながりを示し、多角的な視点で課題を捉えるとともに、様々な地域、国の歴史や社会問題の相関関係を理解したうえで地球規模課題に対するNPO・NGOの多様なアプローチを学ぶことで、市民社会の取り組みの特徴や市民社会のあり方について考察する。	
専門教育科目	ソーシャルデザイン	エコツーリズム論		エコツーリズムとは、地域の自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を活かし、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指す仕組みである。持続可能な発展という普遍的なテーマを背景とする観光の概念であるエコツーリズムについて、多角的に学ぶ。授業では、世界と日本におけるエコツーリズムの発展をベースとする理論および基本的知識の習得、事例を通じたエコツアーの実態や課題の理解を通して具体的に学ぶ。	集中
専門教育科目	環境管理技術	環境イメージング技術	○	光を利用する技術（光学技術）の中でも発展が続いている重要技術として、レーザーやLEDなどの光源、また光電子増倍管や画像センサーなどの光検出技術を取り上げる。これらの技術は例えば、天体観測、生体や材料などの顕微鏡イメージング、薬品や危険物の迅速な同定、などの様々な局面で活用されている。また、画像センサーをドローン等の小型モビリティに搭載することで、イメージングに基づく環境アセスメントなどにも応用され始めており、環境科学分野でも重要な技術である。光の性質と併せてこれらの技術を学び、調査などの省力化、輸送の自動化などへ活用する基礎とする。	主要授業科目
専門教育科目	環境管理技術	環境放射線工学		放射性物質は地球の誕生から身の回りに存在するが、近年では核実験や原子力発電所事故によって人工的に生成された放射性物質が環境中に拡散し、生物へ影響を与える懸念のひとつとなっている。我が国は原子力爆弾が投下された唯一の国であるとともに原子力発電所事故が発生した国でもあることから、放射線に関わる様々な問題がごく身近に存在する。本科目では初めに放射線の化学的性質や生物への影響、防護の原則、人類による放射線の活用とそれによってもたらされる功罪を学習する。さらに、福島原発事故後に実施されている環境モニタリングや除染事業を題材に環境試料の収集、放射性物質の分析手法や無害化技術などを学び、エネルギー問題など放射線に関する課題解決を考察するための基礎知識を習得する。	
専門教育科目	環境管理技術	防災技術Ⅰ	○	日本では毎年豪雨などに関連する自然災害が発生しており、特に山がちな国土における私たちの生活は土砂災害などと隣り合わせにある。この科目では、はじめに日本の地理的な特徴（気候・地質・地形など）を整理したうえで、災害を引き起こす自然現象を理解することを目指す。山から海までを「流域」という単位で一体的に捉え、流域内の水・土砂移動の発生機構を学ぶとともに、流域の持続的な開発利用・環境保全を考えるために必要な防災・減災対策および総合的な土砂管理について学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	環境管理技術	環境アセスメント論		環境問題（国内問題および地球規模の問題）を解決し、「持続可能な発展」を達成するためには、人の活動とそれによる環境の変化（影響）の程度を予測・評価し、その結果に基づいて適切な対策をとることが極めて重要である。本講義では、環境保全を考える上で欠かすことのできない環境アセスメントの理論と方法、実践について理解する。評価のしくみについては、重要な環境要素に対する調査計測・分析・予測技術と公衆との情報交流について学び、実践に関しては、現行の法制度について理解するとともに、事例を通じたアセスメントと環境保全の実態について学習する。	集中
専門教育科目	環境管理技術	環境情報工学	○	自然科学は学んだ基礎知識をもとに、自然現象について疑問を持ち、感じ、その疑問を実験・観測をもとに、定性的・定量的に解明する学問である。基礎知識の習得はその基盤であり、精確な実験・観測ができる技術を習得することは重要である。一方、その先において、苦労して取得したデータを正しく解析・解釈することができなければ自らが抱いた疑問に答えたことにはならない。環境情報工学では、データ分析・統計学で学んだ内容を発展させ、データを正しく解析・解釈することを、データの見方や統計的手法を用いた解析の実践を通じて学び、習得する。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	環境管理技術	防災技術Ⅱ	○	日本は「防災・減災、国土強靭化新時代」を迎え、防災技術がますます重要になっている。防災技術の多くは即時性や逐次性が求められ、デジタル技術の発展により、防災情報をリアルタイムで簡単に入手できるようになっている。この科目では、災害の軽減・防止のための降雨や地形に関連する基本的な調査解析手法に加え、防災に関する基本計画や工学的手法による対策技術についてハード対策およびソフト対策の両面から学習する。講義では、パソコン上でソフトウェアを動かしながら、降雨や地形などのデータに実際に触れることも想定している。	主要授業科目
専門教育科目	環境管理技術	野生生物管理工学		生態系は多様な野生動植物と大気や土壌などの非生物が調和を保つことで成り立っているが、近年は人為的要因によってそのバランスが急激に崩れ自然本来の回復能力では立ち行かず、人間の手による管理や改善が喫緊の課題となっている。本科目では、保全生態学及び生物多様性保全の基本概念と理論を基に、日本と世界各地における外来種問題や獣害問題を整理する中から、野生生物の管理のあり方を考える。日本国内及び世界各地の外来種・獣害問題を題材に、管理のための理念・基本的概念・手法について理解する。また現実的課題の解決を目指して、工学的解決手法に加えて人文・社会科学的視点を加味し、今後の野生生物管理の方向性を探る。	
専門教育科目	環境管理技術	水質管理工学	○	水は生命の源であり、河川・湖沼・海域などの水環境は、人を含む多様な生態系に多大の恩恵を与えてきた。これらの水環境において、自然の多様な生態系の健全性を保全・維持するとともに、自然と人間との共生を確保するために適切な水環境管理を行う必要がある。水に係わる環境管理を中心に、水質汚濁の歴史や水環境に関する法令、水質の測定方法および水処理技術・管理手法について学ぶ。さらに、自然環境との共生や環境保全型社会の構築に向けた地域の水環境管理および新技術の導入方法などについて学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	環境管理技術	環境モニタリング	○	モニタリング技術の理論および各種測定方法を学ぶ。環境問題と特に関係が深い大気・水・土壌環境の分析を中心に、環境分析（サンプリング、大気環境の分析、水環境の分析、土壌環境の分析）に関する知識を習得する。また、計測機器類を用いて、データを収集し、これらを利用して、モニタリングする仕組みや環境を構築する手法について学ぶ。さらに、現場における環境モニタリングシステムの開発やモニタリングデータを用いた解析方法について学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	環境管理技術	毒性学		我々は環境中に普遍的に存在する化学物質に曝露されており、その量が生体の許容量を超えることにより疾患を生じる。本講義では、今日の環境における化学物質の危険性および生体への影響について、これまで社会問題となった中毒事例などを取り上げる。さらに化学物質が生物の細胞や組織にどのように作用するか、生物分子との相互作用、遺伝子発現の変化、細胞死のメカニズムなど生理学的な機能や生体系統にどのような変化をもたらすかを科学的な根拠を示しながら分子レベルで解説する。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	合成化学		この科目では、近年発展が目覚ましい機能性有機材料の化学合成技術について紹介、解説する。また、生体機能関連化合物の合成に不可欠な、触媒的不斉合成反応やその過程で重要な有機触媒、光学活性素子の合成についても紹介する。さらに実験室レベルの合成法から、キロ単位、工業化単位のトンスケールの実験法や合成結果の評価についても実例を紹介して解説する。これらを持続可能な社会の形成のための重要な要素として理解する。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	環境生物有機化学	○	生体のエネルギー獲得、骨格形成を分子レベルで考察し、化学反応として捉える。植物であれば光合成によるエネルギー獲得や骨格形成、動物では、外界からの食物摂取による、代謝、分解によるエネルギー獲得、また同化による自身の骨格、筋肉、臓器形成である。これらは、すべて化学変化として捉えることができることから、酸化還元反応、脱水反応、加水分解反応、転位反応、置換反応などの理解が重要となる。さらに酵素反応の理解においては、補酵素群（有機分子、金属配位子など）についても種類、役割、触媒サイクルについて学ぶ。さらに、化学工学的、工業化学的要素を持つ、新しい生理活性物質の合成や環境に優しい工業製品の製造方法の開発に結び付く考え方も学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	環境エネルギー概論	○	生物システムは、光合成や化合物の代謝により生命活動に必要なエネルギーを得ている。また人類は石油等の燃焼、太陽光発電などによりエネルギーを得て生活や産業に利用している。本概論では、環境資源について概観したのち、どのような条件で電力のような「自由に使えるエネルギー（「仕事」という）」が取り出せるのか、またその効率（理論的上限）が何%なのかを規定する基礎理論である熱力学を学ぶ。地球環境で大気が対流し、雲ができる気象現象などを題材に、エネルギー保存則（第一法則）を、また、人類がどのようにエネルギーを取り出し（熱機関）、高効率の冷暖房に用いているか（ヒートポンプ）などを題材に、エントロピー増大則（第二法則）を理解する。また、化学反応とエネルギーの関係の基礎も理解する。これらをエネルギー問題等を考える上での基本として活用する。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	バイオマスエネルギー学	○	再生可能エネルギーの中でも、生物の物質産生に基づくバイオマスエネルギー技術について学ぶ。生態系の「生産者」、すなわち光合成機能を持つ生物である藻類・植物から、エネルギーを「収穫」することができる。二酸化炭素を炭素源として、光エネルギーを化学エネルギーに変換する酸素発生型光合成のメカニズムと、光合成の産物であるバイオマスの利用とを扱う。 従来からある「薪を燃やす」方式だけでなく、固形燃料としての汎用性を高めたバイオ炭、化石由来の液体燃料と互換性のあるバイオ燃料、生ゴミなどを原料とした微生物の活動による燃料ガスの産生など、現在の社会インフラに適合した多様なバイオマス活用を学習する。これらの生物機能に基づくエネルギー変換・産生技術を、持続可能な社会形成に取り入れる技術的思考、更なる新技術の開発につなげる。	主要授業科目
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	物理学と環境工学		自然環境は、時事刻々と変化する様々な「動き」を持っている。例えば、日常的には風、降水、日照などの気象現象、潮の満ち引き、などがある。また自然は、台風、地震、火山の噴火など、より激しく「動き」大災害をもたらすこともある。生物はこれらの動きの中で活動し、人類は光や電気のエネルギーを利用して巧みな動きを作り出している。これらの動きを数式や数値で表すための科学的な基礎となっているのが、物理学である。この科目では、物理学の基本的な考え方や物理量の取り扱いを学び、物理学がどのように環境工学の中で使われているかを理解する。特に、大気や物質の移動を表す力学・エネルギーの理解に必須な電気的な力、水などの流体に働く力などを詳しく学び、自然環境を定量的に表す、また自然のエネルギーや物質の工学的利用の基盤とする。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	資源管理学		地球上には様々な環境資源が存在しており、それらは私達の生活や産業の発展に不可欠なものである。この科目では、有限で貴重な環境資源を持続的に利活用するために、適切な保全管理の方法について理解することを目指す。特に、国土の7割近くを占める地表資源である森林等に焦点を当て、日本の山地の特徴と森林の多面的機能に関する基礎的事項を理解するとともに、関連法令および工学的な保全管理手法についても学ぶ。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	機器分析学		大気汚染、水質汚染、土壌汚染などの環境悪化は、化学物質のバランスが崩れることが原因であり、近年では地球温暖化のような地球規模の問題にも繋がっている。これらの物質の分析測定の大部分の局面において、分析機器の利用は必須である。この科目では、大気環境、水環境、土壌環境の分析で重要なサンプリング、化学分析法を学ぶ。分配平衡に基づく分離分析法であるクロマトグラフィー、光（電磁波）を利用する各種の分光法（紫外可視吸収スペクトル法、赤外分光法、ラマン分光法など）、質量分析法、電気化学分析法（電気泳動法）、熱分析法、抗体など分子認識に基づく分析法なども解説し、目的に応じて適切な機器や測定法を選択・提案できるように理解・整理する。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	環境エネルギー技術		近年定着したキーワード「再生可能エネルギー」の定義を理解したのち、自然環境からエネルギーを取り出す技術、取り出したエネルギーの貯蔵に関する基本事項を学ぶ。現在、再生可能エネルギーと呼ばれるものとして、高温熱源（バイオマスの燃焼、地熱、太陽熱など）からの熱移動を機械的仕事に変換する技術、水力・風力・波力などの力学的エネルギーを機械的仕事に変換する技術、太陽光により発電や物質生産を行う技術（太陽光発電、人工光合成）などが利用・研究されている。また蓄電池や水素など、それぞれのエネルギーに適した貯蔵および輸送の方法が検討・実装されている。各方法の短所・長所・持続可能性・リスクマネジメントを認識し、現状と課題を理解する。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	グリーンケミストリー		グリーンケミストリーの基本概念である、環境に優しい方法で化学反応や製品の設計を行うための原則や手法について学ぶ。従来の化学プロセスや合成方法に比べて、資源の効率的な利用、廃棄物の削減（原子効率が優れている、と表現する）、有害物質の排出の最小化など、環境配慮と持続可能性を重視した技術開発を取り扱う。具体的には、環境に悪影響を及ぼす有機溶媒に代わる代替溶媒の使用、無溶媒反応や固相反応、触媒反応の開発、など化学物質を合成する際の環境配慮型思考について講義する。	
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	資源循環工学	○	大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量の廃棄物が発生することにより、環境保全と健全な物質循環を阻害する側面を有している。更に、資源採取による自然破壊や資源の枯渇、温室効果ガスの排出などとも密接に関係している。これらから、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される循環型社会の形成が求められている。本授業では、ライフサイクル全体を通じた適正な資源循環による循環型社会の形成を念頭とした、廃棄物の発生抑制や製品の再使用、再生利用、熱回収、適正処分について、その方法を学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	エネルギー・資源・化学物質の利用	高機能材料工学	○	生物由来の原料から合成されるバイオポリマーを利用した高機能材料の製造、加工から応用までの工学的な取り組みについて学ぶ。近年、カーボンニュートラルの概念がもたらした環境意識の高まりにより、植物由来プラスチックが注目され、低環境負荷のエンジニアリングプラスチックや高機能材料としての活用が広がっている。本授業では植物由来プラスチックの種類や特徴を理解し、それらの機能を活かした用途展開について説明する。さらに、無機材料や繊維材料などとの組み合わせで飛躍的に機能を強化できる複合材料の歴史と現状についても解説し、これからの環境共生社会における物質科学の果たすべき役割について専門的に考える能力を身につける。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	生物工学	生命情報科学	○	環境を理解する目的で生物（動物、植物、菌類、微生物含む）の遺伝子DNA・RNA・タンパク質を解析する意義を理解する。遺伝子情報を物質として理解するために塩基・糖・リン酸の化学構造を学び、その上でDNA・染色体の構造と、複製・修復による情報維持機構、および発現・調節などにより生命情報が機能する過程を習得する。細胞生物学での学びと合わせて、細胞内外の環境と連動する細胞周期を理解して、バイオテクノロジーを学ぶ基礎とする。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	○	環境・生命・健康分野等において、遺伝子を用いて各種生物の機能を修飾する様々なバイオテクノロジーが応用されてきている。これらの技術の多くは、遺伝子の化学的な実体である核酸分子を組換えることで、その遺伝子が発現し得られるタンパク質のアミノ酸配列を変化させ、生物機能の修飾を達成する。本講義では、DNA組換え技術とその確認技術としての核酸配列決定法、細胞内遺伝子発現技術やその検出法を学ぶことで、生物機能の修飾を実現する分子基盤の基礎的知識を習得し、バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）の理解につなげる。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	環境レメディエーション工学	○	重金属や有害物質（環境汚染物質）などの化学物質による水・土壌汚染や酸性土壌など、地球環境の荒廃は人類だけでなく地球に存在する生命の生存を脅かしている。その一方で、人類や多くの生物にとって過酷な化学環境においても、ある種の生物（微生物や植物）は様々な適応能力を発揮して生存の場としている。このような生物の能力を利用した環境修復（環境レメディエーション）は、例えば汚水処理などの様々な状況で有用である。本講義では地球環境の汚染の原因、環境適応生物の特徴や解析手法、そして環境修復を目指した様々な応用的な試みについて学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	環境・バイオ産業論		これまで人類は、さまざまな産業を発展させることで豊かな生活を営んできた。一方で、大量生産・大量消費の過程で生じるエネルギーや産業廃棄物によって、地球温暖化や酸性雨などの種々の環境破壊が進み、世界規模で大きな問題となっている。上記の問題を解決するための一つの方向性として、地球環境に配慮した産業技術が現在重要視されている。そこで本科目の前半は、持続可能な社会を実現するバイオテクノロジー・ナノテクノロジー技術を基盤とした産業技術や企業について解説する。また後半では、これまで履修した知識に基づき、工学的な立場から今後どのような技術や産業が必要とされるのかグループディスカッションすることで、地球環境問題と産業の関連について理解を深める。さらに自身のキャリア形成についても考える。	
専門教育科目	生物工学	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	○	生命科学・バイオテクノロジーの基盤技術として遺伝子を素材とした工学的技術を学ぶ。核酸やタンパク質の配列が情報として機能することを理解するためにまず、生命における情報の伝達としての生殖・発生を学ぶ。その上でゲノム解析・ジーンターゲティング技術などの応用分野として、omicsとデータベース、siRNA・miRNA、遺伝子ノックアウトと遺伝子編集、マイクロアレイと次世代シークエンス技術・デジタルPCRなどの解析手法について理解する。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	○	微生物や動植物の細胞を人為的操作によって遺伝的あるいは生理的な機能を改変する技術として、細胞融合や遺伝子導入などが確立されている。このような技術は、細胞機能の解明といった基礎研究や品種改良、有用物質生産など応用研究に利用されており、工学領域の発展に寄与している。本講義では多様な細胞の基本構造を理解したうえで、細胞を改変する技術の知識を習得し、再生医療、遺伝子組換え植物、醸造工学に用いる微生物作出といった具体的な応用例について学習する。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	生態工学	○	人工物である建築物、道路や、河川などの周囲の整備を行う際には生態系に影響を及ぼすため、自然生態系を理解した上で、生き物に配慮することが望まれる。また、自然再生など生態学的な環境保全技術が必要となる。生態工学では対象地域の自然環境を考え、生態系を保全・修復するためのデザイン、すなわち空間的な計画・設計・施工・管理などを学ぶ。持続可能な社会の構築が、生態系に与えるインパクトを予測・評価し、生態学を基礎とした生態系の保全や環境修復技術について学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	生物工学	バイオマス利活用工学	○	微生物、菌類、植物などが持っている様々な生物機能を、人類の活動に利用する技術について学ぶ。化学的な観点からは、光合成に基づく食料生産および酸素等の物質の産生、物質の分解や無毒化、固定化などがある。物理的な観点からは、地盤強化、保水、防風・防波などの災害防止機能などがある。また実利目的だけでなく、植物や小型の生物を中心としたバイオマスの環景への利用、すなわち生物を鑑賞や愛玩の対象とする情緒的な活用もある。これらの有用な生物機能を生理学・分子生物学の水準から理解し、持続可能な社会の構築ツールとしてのバイオマスを使いこなし、多様な生物との共生による生活価値向上につなげる。	主要授業科目
専門教育科目	研究・プロジェクト	社会連携プロジェクトⅠ	○	複雑な要素が関係する、環境問題に関するシナリオに身を置き、グループワークを中心に課題発見、課題解決の案を立てる。履修者は、利害関係者の立場から演習する。企業・行政などの関係者とも必要に応じてやり取りし、連携などの展開を目指す。応用化学・生物工学等の技術も解決策に取り入れる工夫を行い、必要に応じて、フィールドワークや実験も計画・実行する。名塩野外活動センターも重要な活動拠点とする。これらを通し、環境分野での科学技術・共感・協働を組み合わせ、現実の課題を解決・あるいは持続的に改善する能力を養成する。 履修者が問題の本質を的確に把握するようにグループワークを促すとともに、現実的な課題の解決策の構築に向け一緒に探求する。	共同 主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	研究・プロジェクト	社会連携プロジェクトⅡ	○	「社会連携プロジェクトⅠ」に引き続き、グループワークを中心に課題発見、課題解決の案を立てる。履修者は、利害関係者の立場から演習する。企業・行政などの関係者とも必要に応じてやり取りし、連携などの展開を目指す。応用化学・生物工学等の技術も解決策に取り入れる工夫を行い、必要に応じて、フィールドワークや実験も計画・実行する。名塩野外活動センターも重要な活動拠点とする。これらを通し、環境分野での科学技術・共感・協働を組み合わせ、現実の課題を解決・あるいは持続的に改善する能力を養成する。 履修者が問題の本質を的確に把握するようにグループワークを促すとともに、現実的な課題の解決策の構築に向け一緒に探求する。	共同 主要授業科目
専門教育科目	研究・プロジェクト	プロジェクトコミュニケーションⅠ	○	「社会連携プロジェクトⅠ」および「社会連携プロジェクトⅡ」での学びをもとに、メンバーの持続的な貢献を考える、他者の考えを発展させる、異なる意見を活動に活かすなどの、より高度なプロジェクト内コミュニケーションについて学習する、さらにプロジェクトの内容を他者に伝えたり継承するためのコミュニケーション能力について学び、チームの再構成や他のチームとの意見交換による改善なども含めて実践することで、外部も含めた他者との相互理解、協働などの能力を養成する。 コミュニケーション、発表法、他者の貢献も考慮したグループワーク進行を促すとともに、現実的な課題の解決策の構築に向け一緒に探求する。	共同 主要授業科目
専門教育科目	研究・プロジェクト	プロジェクトコミュニケーションⅡ	○	「社会連携プロジェクトⅠ」および「社会連携プロジェクトⅡ」での学びをもとに、メンバーの持続的な貢献を考える、他者の考えを発展させる、異なる意見を活動に活かすなどの、より高度なプロジェクト内コミュニケーションについて学習する、さらにプロジェクトの内容を他者に伝えたり継承するためのコミュニケーション能力について学び、チームの再構成や他のチームとの意見交換による改善なども含めて実践することで、外部も含めた他者との相互理解、協働などの能力を養成する。取り組んできたプロジェクトを総括して発表し、外部発信のトレーニングの機会とする。 コミュニケーション、発表法、他者の貢献も考慮したグループワーク進行を促すとともに、現実的な課題の解決策の構築に向け一緒に探求する。	共同 主要授業科目
専門教育科目	研究・プロジェクト	卒業研究・活動	○	担当教員の専門分野の研究に関わり、3年次までに養成した課題解決思考力と課題解決実行力を活用しながら、研究テーマを進めるための実験等を計画・立案・実行・検証することで、課題解決能力を実践する。あるいは、社会連携プロジェクトでの企画と実践を発展させ、研究室の技術や器材を適用・応用することで、企業や自治体・団体等の外部機関と連携して社会実装できるように実行する。その結果を、卒業発表および卒業論文等としてまとめる。	主要授業科目

学校法人武庫川学院　設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
武庫川女子大学				**武庫川女子大学**				
文学部				文学部				
日本語日本文学科	150	3年次 25	650	日本語日本文学科	150	3年次 25	650	
歴史文化学科	80	－	320	歴史文化学科	80	－	320	
英語グローバル学科	200	3年次 25	850	英語グローバル学科	200	3年次 25	850	
教育学部				教育学部				
教育学科	240	3年次 40	1,040	教育学科	240	3年次 25	1,010	3年次編入学 定員変更（△15）
心理・社会福祉学部				心理・社会福祉学部				
心理学科	150	－	600	心理学科	150	－	600	
社会福祉学科	70	－	280	社会福祉学科	70	－	280	
健康・スポーツ科学部				健康・スポーツ科学部				
健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	健康・スポーツ科学科	180	3年次 0	720	令和7年4月 3年次編入学学生募集停止
スポーツマネジメント学科	100	－	400	スポーツマネジメント学科	100	－	400	
生活環境学部				生活環境学部				
生活環境学科	165	3年次 20	700	生活環境学科	195	3年次 20	820	定員変更（30）
社会情報学部				社会情報学部				
社会情報学科	180	－	720	社会情報学科	180	－	720	
食物栄養科学部				食物栄養科学部				
食物栄養学科	200	3年次 10	820	食物栄養学科	200	3年次 10	820	
食創造科学科	80	3年次 5	330	食創造科学科	80	3年次 5	330	
建築学部				建築学部				
建築学科	45	－	180	建築学科	45	－	180	
景観建築学科	40	－	160	景観建築学科	40	－	160	
音楽学部				音楽学部				
演奏学科	30	－	120	演奏学科	30	－	120	
応用音楽学科	20	－	80	応用音楽学科	20	－	80	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	105	－	630	薬学科(6年制)	105	－	630	
健康生命薬科学科	60	－	240	健康生命薬科学科	60	－	240	
				環境共生学部				学部の設置（届出）
				環境共生学科	120	－	480	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	－	320	看護学科	80	－	320	
経営学部				経営学部				
経営学科	200	－	800	経営学科	200	－	800	
計	**2,375**	3年次 **145**	**10,000**	計	**2,525**	3年次 **110**	**10,530**	
武庫川女子大学大学院				**武庫川女子大学大学院**				
文学研究科				文学研究科				
日本語日本文学専攻(M)	12	－	24	日本語日本文学専攻(M)	12	－	24	
日本語日本文学専攻(D)	3	－	9	日本語日本文学専攻(D)	3	－	9	
英語英米文学専攻(M)	12	－	24	英語英米文学専攻(M)	12	－	24	
英語英米文学専攻(D)	3	－	9	英語英米文学専攻(D)	3	－	9	
教育学専攻(M)	6	－	12	教育学専攻(M)	6	－	12	
臨床心理学専攻(M)	20	－	40	臨床心理学専攻(M)	20	－	40	
臨床教育学研究科				臨床教育学研究科				
臨床教育学専攻(M)	16	－	32	臨床教育学専攻(M)	16	－	32	
臨床教育学専攻(D)	6	－	18	臨床教育学専攻(D)	6	－	18	
健康・スポーツ科学研究科				健康・スポーツ科学研究科				
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	－	40	健康・スポーツ科学専攻(M)	20	－	40	
生活環境学研究科				生活環境学研究科				
生活環境学専攻(M)	6	－	12	生活環境学専攻(M)	6	－	12	
生活環境学専攻(D)	2	－	6	生活環境学専攻(D)	2	－	6	
食物栄養科学研究科				食物栄養科学研究科				
食物栄養学専攻(M)	8	－	16	食物栄養学専攻(M)	8	－	16	
食物栄養学専攻(D)	2	－	6	食物栄養学専攻(D)	2	－	6	
食創造科学専攻(M)	4	－	8	食創造科学専攻(M)	4	－	8	
食創造科学専攻(D)	2	－	6	食創造科学専攻(D)	2	－	6	
建築学研究科				建築学研究科				
建築学専攻(M)	22	－	44	建築学専攻(M)	22	－	44	
建築学専攻(D)	2	－	6	建築学専攻(D)	2	－	6	
景観建築学専攻(M)	15	－	30	景観建築学専攻(M)	15	－	30	
景観建築学専攻(D)	1	－	3	景観建築学専攻(D)	1	－	3	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2	－	8	薬学専攻(4年制D)	2	－	8	
薬科学専攻(M)	30	－	60	薬科学専攻(M)	30	－	60	
薬科学専攻(D)	2	－	6	薬科学専攻(D)	2	－	6	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	15	－	30	看護学専攻(M)	15	－	30	
看護学専攻(D)	5	－	15	看護学専攻(D)	5	－	15	
計	**216**	－	**464**	計	**216**	－	**464**	
武庫川女子大学短期大学部				**武庫川女子大学短期大学部**				令和7年4月学生募集停止
幼児教育学科	50	－	100		0	－	0	
食生活学科	40	－	80		0	－	0	
生活造形学科	60	－	120		0	－	0	
計	**150**	－	**300**	計	**0**	－	**0**	

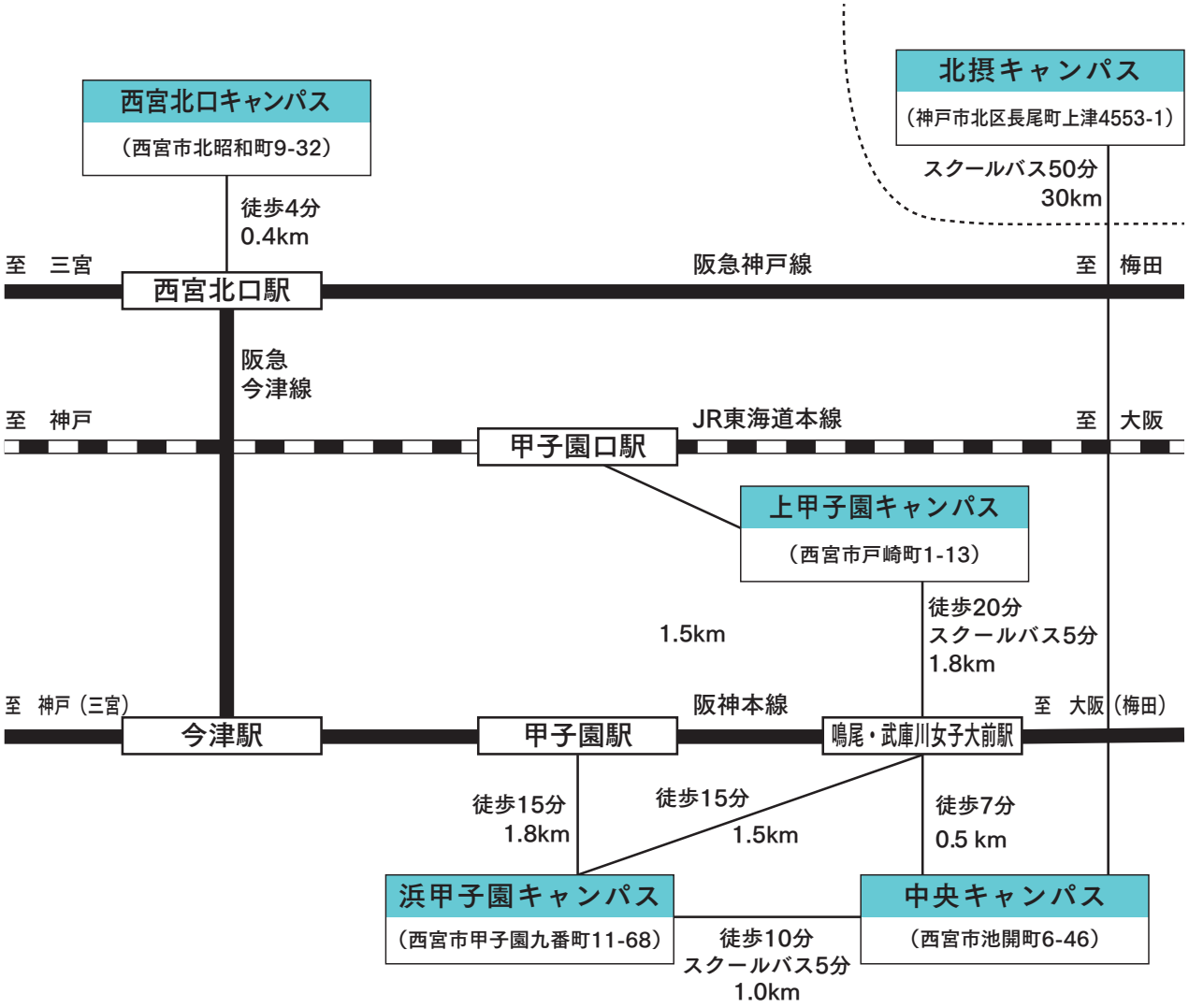
（1）都道府県（兵庫県）内における位置関係の図面



（2）最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

武庫川女子大学キャンパス関係図

（註：本図は、校地面積不算入施設用地を除く。）



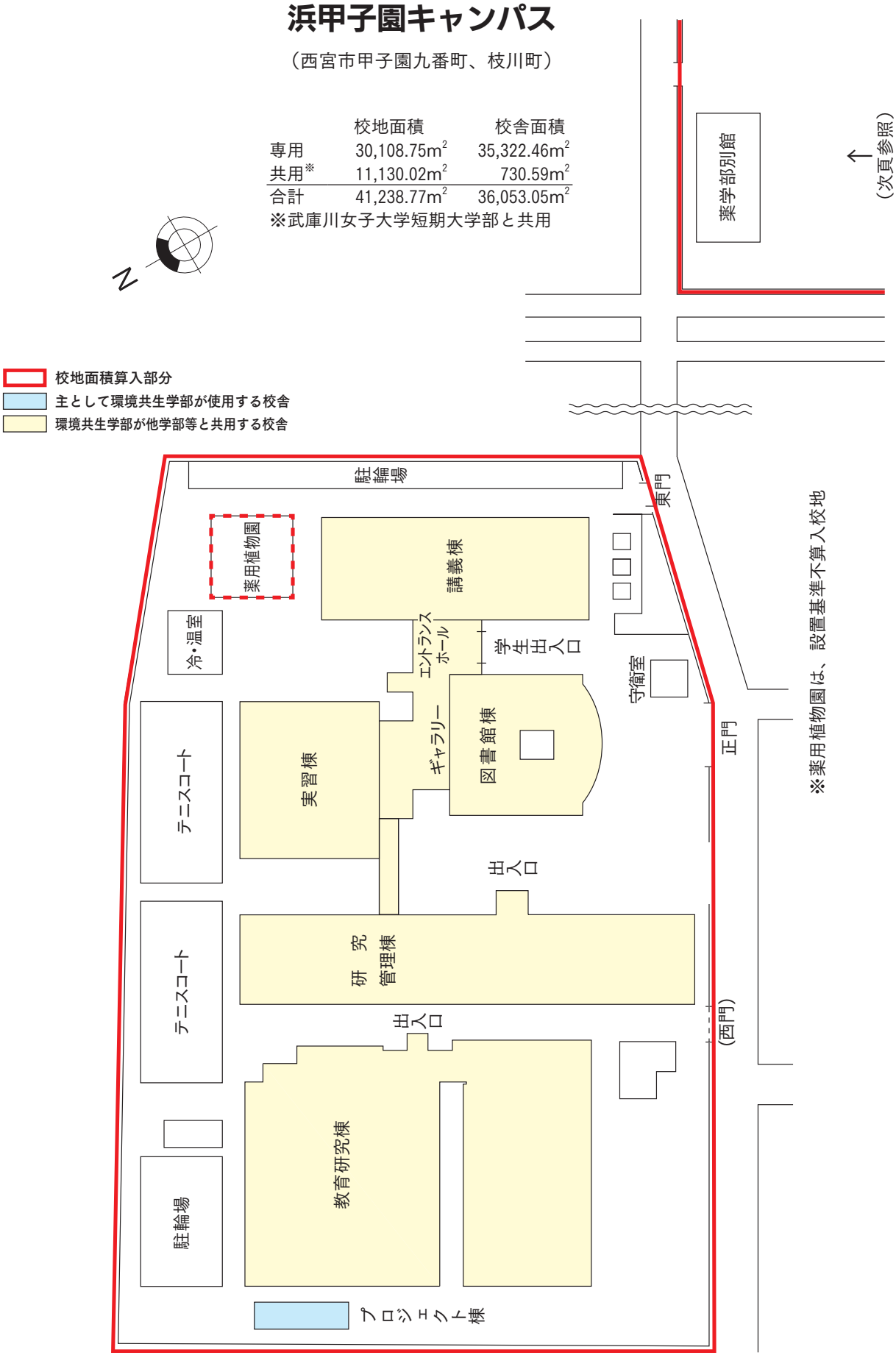
（3）校舎、運動場等の配置図

浜甲子園キャンパス

（西宮市甲子園九番町、枝川町）

	校地面積	校舎面積
専用	30,108.75m^2	35,322.46m^2
共用※	11,130.02m^2	730.59m^2
合計	41,238.77m^2	36,053.05m^2

※武庫川女子大学短期大学部と共用



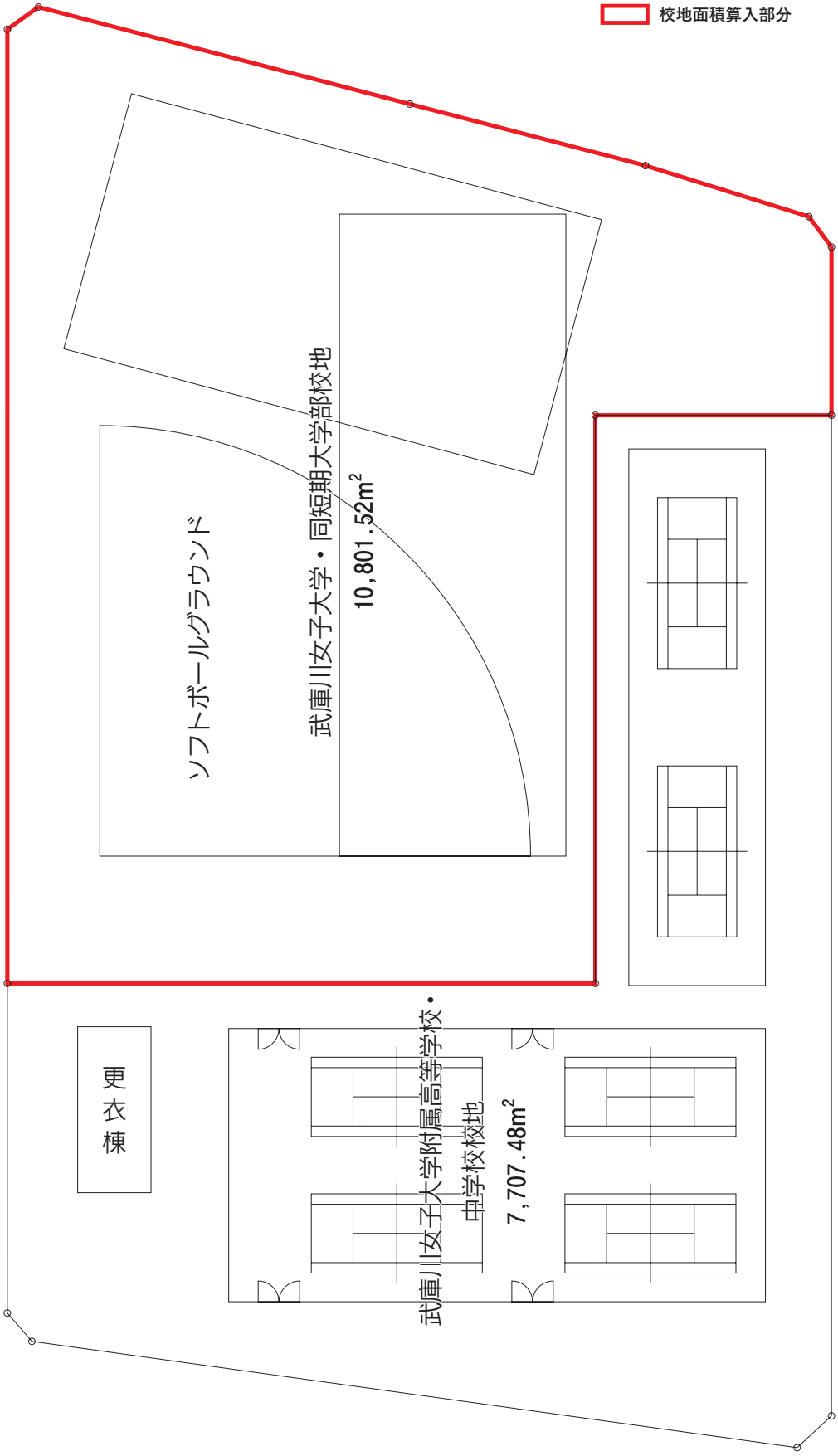
（浜甲子園キャンパス）

（西宮市枝川町）

※淳正寮（寄宿舎）は、設置基準不算入校地

（浜甲子園キャンパス）
浜甲子園グラウンド

（西宮市枝川町）



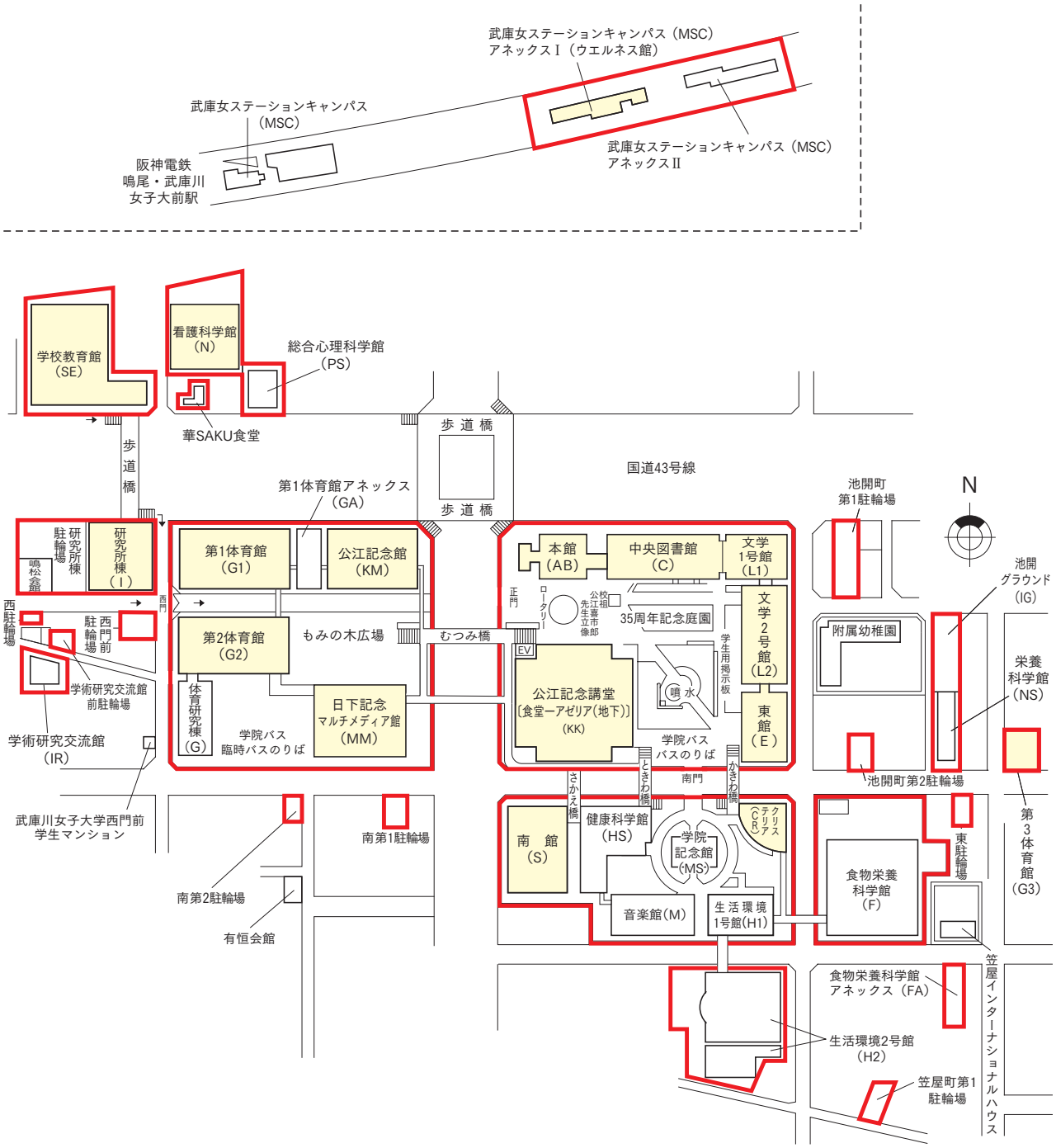
中央キャンパス

（西宮市池開町他）

校地面積算入部分
環境共生学部が他学部等と共用する校舎

	校地面積	校舎面積
専用	2,316.11m^2	20,490.22m^2
共用※	113,936.14m^2	109,287.34m^2
	（うち借用1,129.19m^2）	
合計	116,252.25m^2	129,777.56m^2

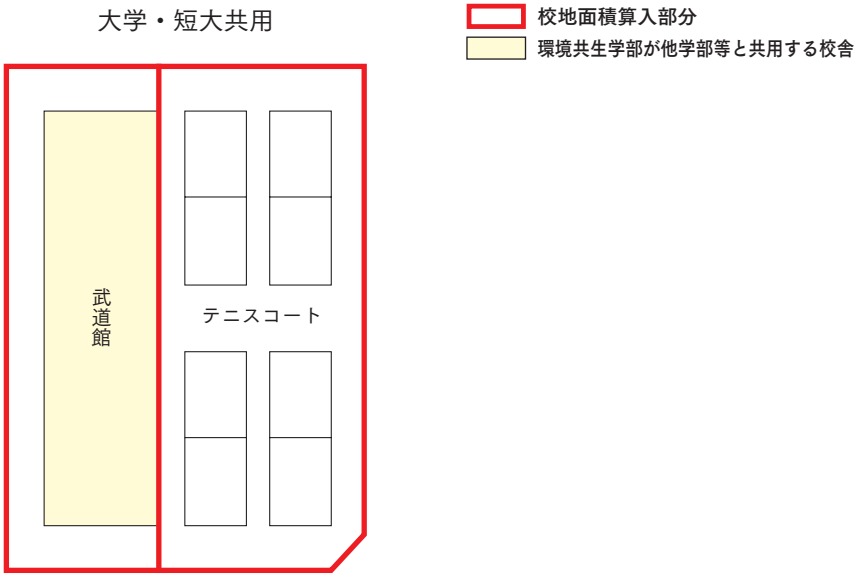
※武庫川女子大学短期大学部との共用



（中央キャンパス）
上田テニスコート

（西宮市上田西町）

大学・短大共用

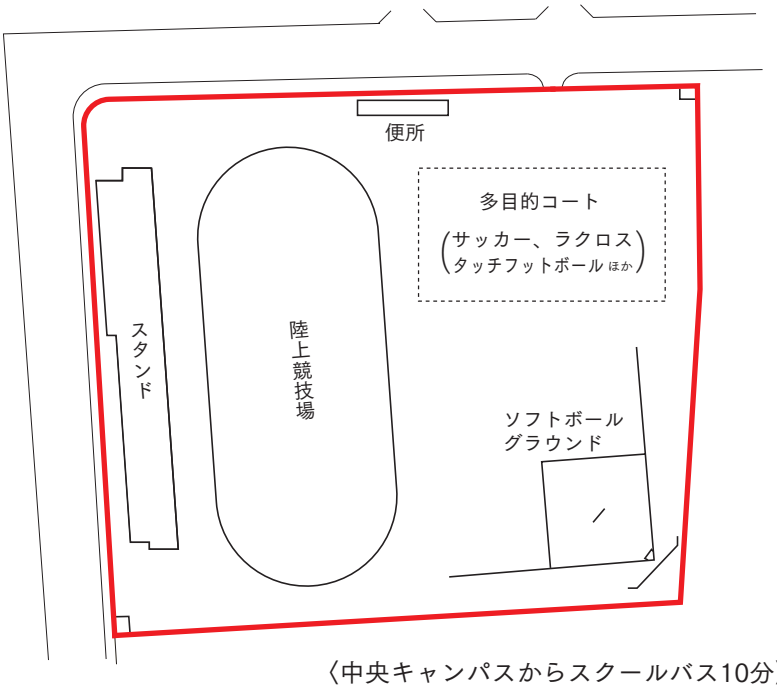


〈中央キャンパスから徒歩５分〉

（中央キャンパス）
総合スタジアム

（西宮市鳴尾浜）

大学・短大共用



〈中央キャンパスからスクールバス10分〉

校地面積算入部分

上甲子園キャンパス

（西宮市戸崎町）

	校地面積	校舎面積
専用	35,948.62m^2	17,602.31m^2

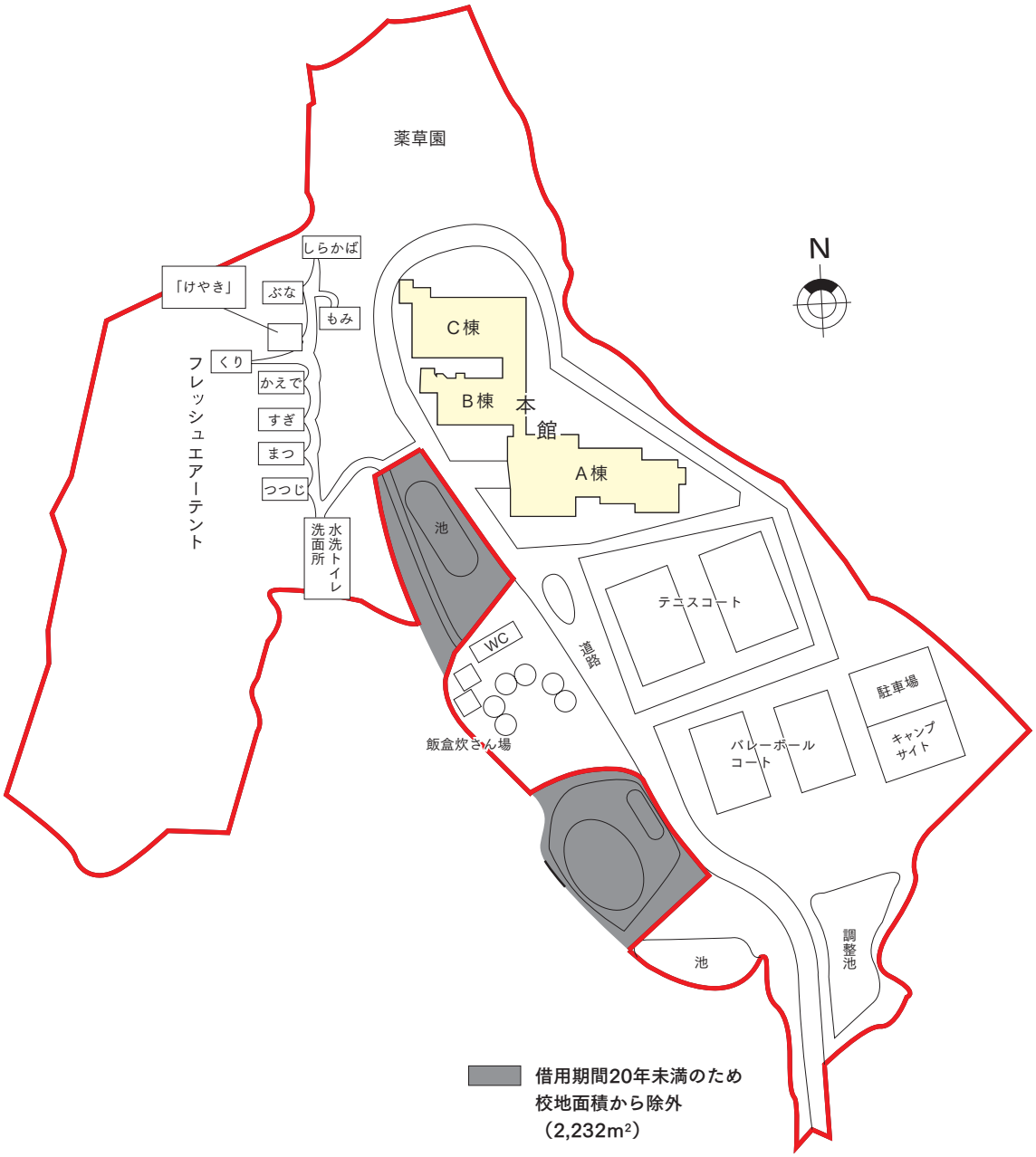


北摂キャンパス

（神戸市北区長尾町）

	校地面積	校舎面積
共用※	40,220.00m^2	4,243.68m^2

※武庫川女子大学短期大学部と共用



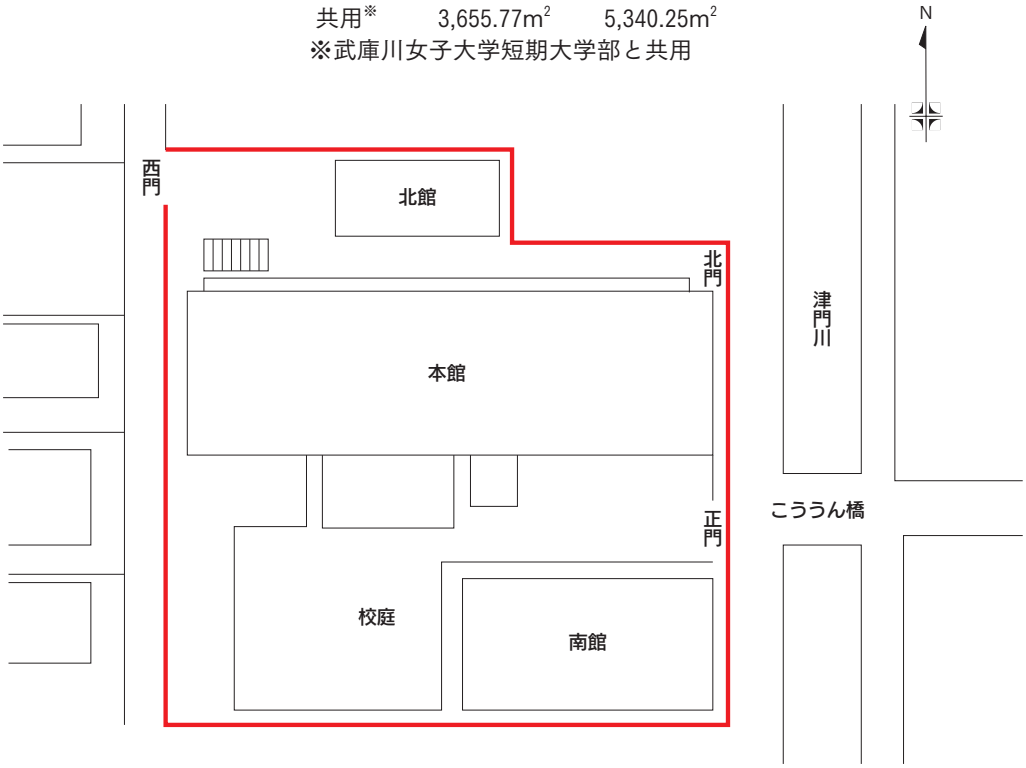
校地面積算入部分

西宮北口キャンパス

（西宮市北昭和町）

	校地面積	校舎面積
共用※	3,655.77m^2	5,340.25m^2

※武庫川女子大学短期大学部と共用



（4）校舎平面図

記載省略

令和７年４月１日　改正

学　　則（案）

武庫川女子大学

第１章　総則

（目的）

第１条　本学は、武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。

（名称）

第２条　本学は、武庫川女子大学と称する。

（所在地）

第３条　本学は、兵庫県西宮市池開町６番46号に設置する。

（自己点検及び評価）

第４条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、第１条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努める。

２　前項の点検及び評価の実施に関して必要な事項は、別に定める。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第４条の２　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、本学における研修及び研究を組織的に実施するものとする。

２　前項の教育内容等の改善のための組織的な研修等の実施に関して必要な事項は、別に定める。

第２章　学部・学科・収容定員・目的及び修業年限

（学部・学科及び収容定員）

第５条　本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	150	3年次 25	650
	歴史文化学科	80	—	320
	英語グローバル学科	200	3年次 25	850
教育学部	教育学科	240	3年次 25	1,010
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600
	社会福祉学科	70	—	280
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	—	720
	スポーツマネジメント学科	100	—	400
生活環境学部	生活環境学科	195	3年次 20	820
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次 10	820
	食創造科学科	80	3年次 5	330
建築学部	建築学科	45	—	180
	景観建築学科	40	—	160
音楽学部	演奏学科	30	—	120
	応用音楽学科	20	—	80
薬学部	薬学科	105	—	630
	健康生命薬科学科	60	—	240
環境共生学部	環境共生学科	120	—	480
看護学部	看護学科	80	—	320
経営学部	経営学科	200	—	800

（目的）

第５条の２　各学部・学科の目的は次のとおりとする。

２　文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。

⑴　日本語日本文学科は、日本語日本文学の教育研究を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。

⑵　歴史文化学科は、現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を養成することを目的とする。

⑶　英語グローバル学科は、英語英米文化文学の教育研究を通して、言語や文化、文学を深く理解し、自文化のみならず異文化の優れた理解者として、実践的に英語を使って国際社会で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

３　教育学部教育学科は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。

この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。

４　心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない（leave no one behind）世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

⑴　心理学科は、自身の理想を探求・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に発見し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

⑵　社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人たちと共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。

５　健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成

することを目的とする。

⑴　健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。

⑵　スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

6　生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

7　社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかんなく発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8　食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。

⑴　食物栄養学科は、食物栄養の分野にとどまらず、公衆衛生学、臨床医学、栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学分野等の専門的な知識と技術を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、管理栄養士として必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目的とする。

⑵　食創造科学科は、初年次よりキャリア意識を育みながら、栄養士関連科目を修得して専門性を高め３年次後期には全員に食産業企業へのインターンシップ参加を義務づける。在学中の就業体験を通じて、実践的な知識を深め、人間形成・キャリア形成を図り、次世代の食産業を牽引する女性人材の輩出を目的とする。

9　建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。

⑴　建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応した世界基準の学びを通して培うことを目的とする。

⑵　景観建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が 異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎

的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことを目的とする。

10　音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。

⑴　演奏学科は、音楽演奏を通して、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門知識・技術を養い、演奏家、指導者として文化・社会の発展に寄与する有為な女性を養成することを目的とする。

⑵　応用音楽学科は、豊かな人間性と幅広い教養、音楽専門知識・技術に基づく音楽の応用によって、地域・社会の活性化及び人間の心身の健康の維持・安定に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

11　薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。

⑴　薬学科は、薬剤師として高度な臨床能力と実践力を有し、医療人としての使命感を持ち、病院・薬局などの医療機関をはじめ、薬の専門家としてあらゆる場面で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

⑵　健康生命薬科学科は、健康科学、生命科学を重視した薬科学教育によって、研究機関、医薬品関連業界、環境衛生行政など、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

12　環境共生学部環境共生学科は、幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用して、地球環境・自然環境問題に関わる諸課題を解決する計画を立案し実践できる人材の養成を目的とする。

13　看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

14　経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

（大学院及び専攻科）

第６条　本学に大学院及び専攻科を置く。

２　大学院の学則並びに専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

（修業年限及び在学年限）

第７条　本学の修業年限は４年とする。ただし、薬学部薬学科については６年とする。

２　第16条の規定により編入学した者、再入学及び転入学した者の修業年限の取扱いについては、別に定める。

３　在学年限は、修業年限の２倍を超えることができない。

４　本条第３項のほか、薬学部薬学科においては、同一学年に在学することができる年数は２年を限度とする。

第３章　学年・学期及び休業日

（学年）

第８条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（学期）

第９条　学年を次の２学期に分ける。

前 学 期　　４月１日より８月31日まで

後 学 期　　９月１日より３月31日まで

（休業日）

第10条　休業日は次のとおりとする。

⑴　国民の祝日に関する法律に規定する休日

⑵　創 立 記 念 日　　２月25日

⑶　日　曜　日

⑷　夏 季 休 業　　８月５日より９月14日まで

⑸　冬 季 休 業　　12月25日より翌年１月７日まで

⑹　春 季 休 業　　３月20日より４月２日まで

２　学長は、必要がある場合、前項の休業日を臨時に変更することができる。

３　学長は、第１項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第４章　入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍

（入学の時期）

第11条　入学期日は学年の始めとする。ただし、後学期の始めに入学させることができる。

（入学資格）

第12条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

⑴　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者

⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑷　大学入学資格検定規程により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

⑸　高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑹　文部科学大臣が高等学校若しくは中等教育学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑺　文部科学大臣の指定した者

⑻　大学において、相当の年齢に達し高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学の出願）

第13条　本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

（入学者の選抜）

第14条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより選抜を行う。

（入学手続き及び入学許可）

第15条　前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の入学金を納付しなければならない。

2　学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

3　入学を許可された者は、所定の期日までに、入学誓書兼同意書・保証書・その他本学所定の書類を提出しなければならない。

4　前項の保証書の保証人は、独立の生計を営む満25歳以上の者で、確実に保証人の責務を履行し得るものでなければならない。若し、本学において不適当と認めたときは、保証人の変更を命ずることがある。

5　保証人が死亡又はその他の理由で、その責をつくし得ないときは、新たに保証人を選定して、直ちに届け出なければならない。

6　保証人が転居した場合は、直ちにその旨を届け出なければならない。

（編入学）

第16条　本学に、編入学を志願する者があるときは、編入学定員を定める学科等のほかは、欠員のある場合に限り、選抜の上、入学を許可することがある。

2　編入学の入学資格は、次の各号の一に該当するものとする。

⑴　短期大学を卒業した者

⑵　大学に２年以上在学し、本学が定める所定の単位を修得した者

⑶　高等専門学校を卒業した者

⑷　学校教育法第132条の規定により、大学に編入学することができる者

3　第１項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

4　編入学について必要な事項は、別に定める。

（再入学）

第16条の２　本学に、再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

２　前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

３　再入学について必要な事項は、別に定める。

（留学）

第16条の３　本学と交換留学協定又は派遣留学に関する協定を締結している外国の大学に留学を志願する者があるときは、選考の上、留学を許可する。

２　前項により留学した期間は、第７条に規定する修業年限及び在学年限に算入する。

３　留学に関する規定は、別に定める。

（転学部・転学科）

第17条　本学学生が、同一学部に属する他の学科へ転学科を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

２　本学学生が、他学部に属する学科へ転学部を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

３　転学部又は転学科した者の在学年数には、転学部又は転学科前の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

（他大学等からの転学）

第18条　他の大学等の学生が、正当な理由により、本学に転学を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

２　前項の転学生については、第16条第３項の規定を準用する。

（他大学等への転学）

第19条　他の大学等に転学を志望する者があるときは、やむを得ない事情のある場合にのみ許可することがある。

（退学）

第20条　退学しようとする者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。

２　第７条第４項の規定に基づき、在学することができない者は退学とする。

（休学）

第21条　疾病その他やむを得ない事情により、２か月以上修学することのできない者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

２　疾病のため、修学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることがある。

（休学の期間）

第22条　休学の期間は、１年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、引き続

き更に１年まで延長することができる。

２　休学の期間は、通算して２年を超えることができない。

３　休学の期間は、第７条第３項及び第４項の在学年限に算入しない。

（復学）

第23条　休学期間中に、その理由が消滅した場合は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、復学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

（除籍）

第24条　次の各号の一に該当する者は除籍する。

⑴　第７条第３項に規定する在学年限を超えた者

⑵　第22条第２項に規定する休学の期間を超えて、なお修学できない者

⑶　休学期間満了後正当な理由なくして、復学、休学の継続、退学のいずれかの願い出がない者

⑷　学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

⑸　長期間にわたり所在不明の者

⑹　法に定める在留資格が得られない者

⑺　死亡した者

第25条　入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍する者は、教授会の意見を聴いて、学長が定める。

第５章　教育課程及び履修方法等

（授業科目）

第26条　授業科目を分けて、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

２　前項の授業科目のほか、特別教育科目を置く。

３　共通教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第１のとおりとする。

４　基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第２のとおりとする。

５　特別教育科目の授業科目並びにその授業時間数は、別表第３のとおりとする。

第27条　前条に規定するもののほか、教職、司書、司書教諭及び学芸員に関する専門教育科目を置く。

２　前項の各授業科目並びにその単位数は、別表第４から第７のとおりとする。

（教育職員免許状）

第27条の２　教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第１、第２及び履修方法（別表第１、第２の備考）、並びに別表第４に従い修得しなければならない。

２　本学で開設する教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」の授業科目並びにその単位数は、別表第４のとおりとする。ただし、教育学部教育学科においては別表第２のとおりとす

る。健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科における教育職員免許法施行規則第66条の６に定める「日本国憲法」は別表第４のとおり、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」は別表第２のとおりとする。スポーツマネジメント学科における教育職員免許法施行規則第66条の６に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」は別表第４のとおり、「各教科の指導法」は別表第２のとおりとする。

3　食物栄養科学部食物栄養学科の学生で栄養教諭一種免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第１項によるほか、栄養士法、同法施行規則及び管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

4　本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学　部	学　科	免許状の種類	免許教科又は領域
文学部	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	国語・書道
	歴史文化学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
	英語グローバル学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語
教育学部	教育学科	幼稚園教諭一種免許状	―
		小学校教諭一種免許状	―
		中学校教諭一種免許状	国語・英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者 肢体不自由者 病弱者
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科 スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
生活環境学部	生活環境学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
社会情報学部	社会情報学科	高等学校教諭一種免許状	情報
食物栄養科学部	食物栄養学科	栄養教諭一種免許状	―
音楽学部	演奏学科 応用音楽学科	中学校教諭一種免許状	音楽
		高等学校教諭一種免許状	音楽
薬学部	健康生命薬科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
環境共生学部	環境共生学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科

（図書館司書、学校図書館司書教諭）

第27条の３　図書館司書課程履修可能な学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、第35

条の規定によるほか、図書館法及び同法施行規則に定める単位を別表第５に従い修得しなければならない。

２　学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件取得可能な学科において学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を得るために必要な単位を修得するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に定める単位を別表第６に従い修得しなければならない。

（博物館学芸員）

第27条の４　博物館学芸員課程履修可能な学科において博物館学芸員の資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、博物館法及び同法施行規則に定める単位を別表第７に従い修得しなければならない。

（保育士）

第27条の５　教育学部教育学科の学生で保育士証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、児童福祉法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

２　教育学部教育学科の指定養成施設としての定員は100名である。

３　履修方法は別に定める。

（栄養士、管理栄養士）

第27条の６　食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科の学生で栄養士免許証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、栄養士法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

２　食物栄養科学部食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、前項の規定により栄養士免許証交付の資格要件を得るとともに、管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

３　履修方法は別に定める。

（建築士）

第27条の７　生活環境学部生活環境学科及び建築学科、建築学部建築学科及び景観建築学科の学生で本学を卒業後２年以上の実務の経験を経て一級建築士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、建築士法第14条第１号に基づき、国土交通大臣の指定する建築に関する科目の単位を修得しなければならない。

２　履修方法は別に定める。

（社会福祉士、精神保健福祉士）

第27条の８　心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

２　心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならな

い。

3　心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。

4　心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5　心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。

6　履修方法は別に定める。

（看護師）

第27条の９　看護学部看護学科の学生で、看護師国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2　履修方法は別に定める。

（単位の計算方法）

第28条　第26条第１項並びに第27条第１項に規定する各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって１単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容及び授業の方法に応じ、教育効果を考慮して、30時間の授業をもって１単位とすることができる。音楽の個人指導による実技の授業については、特に授業時間外に必要な学修を考慮して、５時間又は10時間の授業をもって１単位とすることができる。なお、社会福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ」、精神保健福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅳ」、保育士資格に係る「保育実習、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ」、及び公認心理師国家試験受験資格に係る「心理実習」として開設の授業科目のうち実習施設における授業時間数については、厚生労働省がそれぞれの指定基準に定める実習時間数に基づき、40時間又は45時間の授業をもって１単位とする。

⑶　１の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち２以上の方法により行なう場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準により算定した時間の授業をもって１単位とする。

2　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3　特別教育科目である、ボランティア活動、インターンシップ活動及び就業体験活動による単位認定は30時間の活動をもって１単位とする。対象となる活動については、別に定める。

（多様なメディアを高度に利用した学修）

第28条の２　文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（１年間の授業期間）

第29条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（単位の授与）

第30条　特別教育科目を除く授業科目にあっては、その授業科目を履修し、成績評価の結果、合格した者には所定の単位を与える。ただし、第28条第２項の授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

２　第28条第３項の基準に従って認定された者には所定の特別単位を与える。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第31条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の協定した他の大学又は短期大学の授業科目を履修し修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が第16条の３の規定により外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第32条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

３　第１項に規定する学修に対する単位の認定等について必要な事項は、別に定める。

（入学前の既修得単位の認定）

第33条　本学の第１年次に入学した学生が、入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について、修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本学の第１年次に入学した学生が、入学する前に行った前条第１項に規定する学修を本学が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第31条第１項及び第２項並びに前

条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（成績の評価）

第34条　試験等成績の評価は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、不合格、Ｅ、Ｆ、認をもって表わし、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、認を合格とする。

２　この学則に定めるもののほか、成績の評価に関する必要な事項は、別に定める。

第６章　卒業及び学位の授与

（卒業の要件）

第35条　本学の卒業要件は、第７条に規定する修業年限以上在学し、別表第１、第２に掲げる授業科目の中から、同表に定める履修方法に従い、124単位以上を修得しなければならない。ただし、生活環境学部建築学科及び建築学部の学生は128単位以上を、薬学部薬学科の学生は190単位以上を、看護学部看護学科の学生は127単位以上を修得しなければならない。

２　前項に規定するもののほか、別表第４から第７に掲げる授業科目を履修し、単位を修得した場合、20単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位数に含めることができる。

（卒業）

第36条　本学に第７条に規定する修業年限以上在学し、前条に規定する所定の単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

（学位の授与）

第37条　学長は、卒業を認定した者に対して、武庫川女子大学学位規程の定めるところにより、学士の学位を授与する。

第38条　削除

第７章　入学検定料・入学金・学費

（入学検定料等の金額）

第39条　本学の入学検定料・入学金及び学費は、別表第８のとおりとする。

（学費の納入期）

第40条　学費は年２回に分けて納入しなければならない。

２　学費の納入時期については、別に定める。

第41条　納入した入学検定料及び入学金は、事情の如何にかかわらず返還しない。

２　納入した授業料・教育充実費及び学生研修費等の取扱いについては、別に定める。

（退学・停学・休学・復学の場合の学費）

第42条　退学・停学・休学・復学の場合の学費の納入方法については、別に定める。

２　休学中は、学費の納入は免除する。ただし、休学中は、休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料に関する必要な事項は、別に定める。

（留年・卒業延期の場合の学費）

第42条の２　留年・卒業延期の場合の学費に関する必要な事項は、別に定める。

第８章　教育研究実施組織

（教育研究実施組織）

第43条　本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、副手、事務職員、技術職員、その他必要な職員を置く。

（学長）

第44条　学長は本学の学務を掌理し、所属職員を統督する。

（副学長）

第45条　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

２　学長に事故あるときは、その職務を代行する。

（学部長）

第46条　本学に学部長を置く。

２　学部長は、当該学部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

（共通教育部長）

第46条の２　本学に共通教育部長を置く。

２　共通教育部長は、共通教育部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

（学科長）

第47条　本学に学科長を置く。

２　学科長は、当該学科の学務を掌理し、所属職員を統督する。

（共通教育科長）

第47条の２　本学に共通教育科長を置く。

２　共通教育科長は、共通教育の学務を掌理し、所属職員を統督する。

（幹事教授）

第48条　本学に幹事教授を置く。

２　幹事教授は、学科長を補佐する。

第９章　学部教授会、共通教育部教授会及び大学評議会

（学部教授会）

第49条　本学に学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

（共通教育部教授会）

第49条の２　本学に共通教育部教授会を置く。

（教授会の構成）

第50条　教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2　教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

（共通教育部教授会の構成）

第50条の２　共通教育部教授会は、当該部の専任教授をもって構成する。ただし、共通教育部長が必要と認めたときは、当該部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2　共通教育部教授会は、共通教育部長が招集し、その議長となる。

（教授会の審議事項）

第51条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

⑴　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

⑵　学位の授与に関する事項

⑶　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（共通教育部教授会の審議事項）

第51条の２　共通教育部教授会は、学長が、共通教育に係る教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2　共通教育部教授会は、学長及び共通教育部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる共通教育に係る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（大学評議会）

第52条　本学に大学評議会を置き、全学部を横断する事項について審議する。

第53条　削除

第54条　削除

（その他）

第55条　本章に定めるもののほか、教授会、共通教育部教授会及び大学評議会に関する規程は、別に定める。

第10章　科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生

（科目等履修生・特別聴講生）

第56条　本学において、特定の授業科目の履修を志望する者があるときは、本学の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として在籍を許可することがある。科目等履修生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

2　他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生が、本学の授業科目について履修を願い出たときは、選考の上、これを特別聴講生として履修を許可することができる。特別聴講生が受講した授業科目について試験を受け、

これに合格した場合は、所定の単位を与える。

3　科目等履修生の履修料等は、別表第９のとおりとし、特別聴講生の聴講料等は、別に定める。

（研究生）

第57条　本学において、特に研究を志望する者があるときは、その願い出により、研究生として許可することがある。

2　研究生の研究料は、別表第10のとおりとする。

（研修員）

第58条　本学以外の機関に所属する者で、その所属機関の長の委託により、大学において特定事項について研修しようとするときは、願い出により、研修員として許可することがある。

2　研修員の研修料は、別に定める。

（外国人留学生）

第59条　外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、選抜の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

（その他）

第60条　科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生の許可については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

2　科目等履修生・特別聴講生・研究生及び外国人留学生の本学則の適用については、修学上必要な事項のほか第62条並びに第63条の規定を準用する。

3　この学則に定めるもののほか、科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第61条　削除

第11章　賞罰

（表彰）

第62条　学生として全学生の模範となる善行のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰する。

（懲戒）

第63条　本学の規則、命令に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2　前項の懲戒の種類は、退学・停学及び訓告とする。

3　前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当な理由がなくて出席常でない者

⑷　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4　前２項により停学となった期間は、第７条に規定する修業年限に含めることはできない。

5　この学則に定めるもののほか、懲戒に関する必要な事項は、別に定める。

第12章　附属図書館

（附属図書館）

第64条　本学に附属図書館を置く。

2　附属図書館に関する規定は、別に定める。

第13章　研究所等附属施設

（研究所）

第65条　本学に教育総合研究所、健康科学総合研究所、女性活躍総合研究所を置く。

2　研究所に関する規定は、別に定める。

（その他附属施設）

第66条　本学に附属総合ミュージアム、スポーセンター、学校教育センター、女性研究リーダー育成推進センターを置く。

2　前項の附属施設に関する規定は、別に定める。

第14章　公開講座

（オープン・カレッジ）

第67条　本学にオープン・カレッジを置く。

2　オープン・カレッジに関する規定は、別に定める。

第15章　学寮

（学寮）

第68条　本学に学寮を置く。

2　学寮に関する規定は、別に定める。

第16章　改廃

（改廃）

第69条　本学則の改廃は、大学評議会の意見を聴いて、理事会において決定する。

附　則

この学則は、昭和24年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和27年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和33年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和34年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和37年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和38年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和39年８月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和40年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和41年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和43年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和44年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和47年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和48年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和49年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和50年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和51年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和52年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和53年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和54年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和55年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和56年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和58年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和59年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和60年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和62年１月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和62年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和63年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成元年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３年９月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３年10月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成11年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成11年10月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成12年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成13年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成14年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成14年７月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成15年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成16年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成17年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成17年10月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成18年１月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成20年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成22年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成24年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成25年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成26年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成26年９月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成27年４月１日から施行する。

2　第７条第４項、第20条第２項及び第22条第３項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の在学年限、退学及び休学の期間については、なお従前のとおりとする。

3　第26条第４項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

4　第27条の２第２項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の授業科目並びにその単位数（別表第４）については、なお従前のとおりとする。

5　第35条の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、平成28年４月１日から施行する。

2　第26条第４項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

附　則

この学則は、平成28年11月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成29年４月１日から施行する。

2　第26条第４項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

3　第27条の３第１項及び第２項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、平成30年４月１日から施行する。

2　第26条第４項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

3　第27条の２の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の中学校・高等学校教諭「教職に関

する科目」の授業科目及びその単位数（別表第４）、並びに教育職員免許状授与の所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域については、なお従前のとおりとする。

4　第28条第１項第３号の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

5　第35条の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、平成31年４月１日から施行する。

2　文学部教育学科は、平成31年３月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第26条第４項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

4　第27条の２、第27条の５及び第27条の８の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。

2　生活環境学部食物栄養学科は、令和２年３月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　生活環境学部建築学科は、令和２年３月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　第５条の２第６項、第７項及び第11項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

5　第26条第４項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお、従前のとおりとする。

6　第27条の２第３項及び第４項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

7　第27条の６の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和３年４月１日から施行する。

2　第26条第４項の規定にかかわらず、令和２年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

3　第27条の２（別表第４）の規定にかかわらず、令和２年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

4　第35条の規定にかかわらず、令和２年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。

2　第26条第４項の規定にかかわらず、令和３年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

3　第27条の２の規定にかかわらず、令和３年度以前の入学生の各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目の授業科目並びにその単位数（別表第４）については、なお従前のとおりとする。

4　第35条の規定にかかわらず、令和３年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。

2　第５条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和５年度から令和７年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和５年度 収容定員	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員
心理・社会福祉学部　心理学科	150	300	450
心理・社会福祉学部　社会福祉学科	70	140	210

3　文学部心理・社会福祉学科は、令和５年３月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　第27条の８の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生の文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は30名である。

5　第５条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和５年度から令和７年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和５年度 収容定員	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員
健康・スポーツ科学部　スポーツマネジメント学科	100	200	300

6　第５条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和５年度から令和７年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和５年度 収容定員	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員
社会情報学部　社会情報学科	180	360	540

7　生活環境学部情報メディア学科は、令和５年３月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

8　第５条の２第４項、第５項及び第７項の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

9　第26条第４項の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目

の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお、従前のとおりとする。

10　第27条の２第４項の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

11　第27条の８の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

12　第35条の規定にかかわらず、令和４年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。

2　第５条に規定する文学部歴史文化学科の収容定員は、令和６年度から令和８年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員	令和８年度 収容定員
文学部　歴史文化学科	80	160	240

3　第５条に規定する教育学部教育学科の収容定員は、令和６年度は次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和６年度 収容定員
教育学部　教育学科	1,025

4　第５条に規定する薬学部薬学科の収容定員は、令和６年度から令和10年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員	令和８年度 収容定員	令和９年度 収容定員	令和10年度 収容定員
薬学部　薬学科	1,155	1,050	945	840	735

5　第５条に規定する薬学部健康生命薬科学科の収容定員は、令和６年度から令和８年度までの間、次のとおりとする。

年度 学部・学科	令和６年度 収容定員	令和７年度 収容定員	令和８年度 収容定員
薬学部　健康生命薬科学科	180	200	220

6　第26条第４項の規定にかかわらず、令和５年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

7　第35条の規定にかかわらず、令和５年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

8　第26条第４項の規定にかかわらず、令和５年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお従前のとおりとする。

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。

2　第５条に規定する教育学部教育学科の収容定員は、令和７年度は次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和７年度 収容定員
教育学部　教育学科	1,025

3　第５条に規定する健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科の収容定員は、令和７年度は次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和７年度 収容定員
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	740

4　第５条に規定する生活環境学部生活環境学科の収容定員は令和７年度から令和９年度までの間、次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和７年度 収容定員	令和８年度 収容定員	令和９年度 収容定員
生活環境学部　生活環境学科	730	760	790

5　第５条に規定する環境共生学部環境共生学科の収容定員は令和７年度から令和９年度までの間、次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和７年度 収容定員	令和８年度 収容定員	令和９年度 収容定員
環境共生学部　環境共生学科	120	240	360

6　第26条第４項の規定にかかわらず、令和６年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第２）については、なお、従前のとおりとする。

7　第27条の２第４項の規定にかかわらず、令和６年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8　第35条の規定にかかわらず、令和６年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

別表第１

共通教育科目

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教養科目群 人文科学科目				子育てと母性の気づき		2	
神話・伝説の世界から		2		現代社会と憲法		2	
平安朝文学の世界		2		教養としての法律		2	
日常生活からの哲学入門		2		暮らしと法律		2	
現代フランスの音楽事情		2		女性と子どものヘルスケア		2	
ミュージカル歌唱法		1		建築と社会		2	
音楽の科学		2		消費者生活論		2	
フランスの音楽と芸術文化		2		英語で学ぶやさしい経済学		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1		英語で学ぶお金の知識		2	
自己発見アート		1		**基礎教養科目群 自然科学科目**			
未来造形		1		生命科学入門		2	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1		生活の中の物理学		2	
歌舞伎鑑賞入門		2		最先端物理学が描く宇宙		2	
日本の文化Ⅰ		2		色彩情報		2	
日本の文化Ⅱ		2		科学から考える衣服と生活		2	
遊びの人類学		2		薬とからだ		2	
SNSから日本語を見る		2		健康生活とライフステージ		2	
英語圏の文学・文化		2		薬の歴史と未来		2	
日本語の世界		2		**基礎教養科目群 国際理解科目**			
基礎教養科目群 社会科学科目				音楽から見る人と世界		2	
メディア技術と文字デザイン		2		韓国文化の理解		2	
現代の教育・保育事情		2		中国文化論		2	
カウンセリングの実際		2		International Perspectives Ⅰ		2	
実践カウンセリング		2		International Perspectives Ⅱ		2	
生涯福祉論		2		世界の中の日本人		2	
社会福祉とボランティア		2		**基礎教養科目群 現代トピック科目**			
福祉レクリエーションの実際		2		Current Affairs in Japan Ⅰ		2	
子育てと家族関係		2		Current Affairs in Japan Ⅱ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
心理学トピックス		2		Successful English Discussion		1	
現代社会と保健医療		2		英語コミュニケーションⅠ		2	
社会福祉の学び		2		英語コミュニケーションⅡ		2	
女性のためのマーケティング		2		英語リーディングⅠ		1	
スポーツツーリズムと地域創生		2		英語リーディングⅡ		1	
ジェンダー科目群				英語ライティングⅠ		1	
セクシュアリティ入門Ⅰ		2		英語ライティングⅡ		1	
セクシュアリティ入門Ⅱ		2		ＴＯＥＩＣ演習Ⅰ		1	
女性と教育		2		ＴＯＥＩＣ演習Ⅱ		1	
ジェンダーとアイデンティティー		2		ＴＯＥＩＣ演習Ⅲ		1	
ジェンダーと社会		2		Ｗｒｉｔｉｎｇ Ⅰ		1	
女性の身体とセクシュアリティ		2		Ｗｒｉｔｉｎｇ Ⅱ		1	
メディアに見るジェンダー		2		Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ		1	
キャリアデザイン科目群				Ｃｕｒｒｅｎｔ Ｅｖｅｎｔｓ		1	
女性のためのライフプランニング		2		Leadership Development		1	
自己アピールトレーニング		2		Ｇｌｏｂａｌ Ｉｓｓｕｅｓ Ⅰ		1	
キャリアビジョンと人物評価		2		Ｇｌｏｂａｌ Ｉｓｓｕｅｓ Ⅱ		1	
ビジネスプラン構築概論		2		留学準備演習		1	
言語・情報科目群　言語リテラシー科目				ドイツ語Ⅰ		2	
English for Studying Abroad		1		ドイツ語Ⅱ		2	
Reading & Critical Thinking		1		フランス語Ⅰ		2	
English for Careers		1		フランス語Ⅱ		2	
Reading & Discussion		1		フランス語ⅠＡ		1	
Trends in Society		1		フランス語ⅠＢ		1	
Career Workshop		1		中国語Ⅰ		2	
Speaking & Listening Ⅰ		1		中国語Ⅱ		2	
Speaking & Listening Ⅱ		1		イタリア語ⅠＡ		1	
Basics for Presentation Ⅰ		1		イタリア語ⅠＢ		1	
Basics for Presentation Ⅱ		1		スペイン語Ⅰ		2	
Speaking & Listening Ⅲ		1		スペイン語Ⅱ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
ハングルⅠ		2		スポーツ実技(ジャズダンス)		1	
ハングル検定演習		1		スポーツ実技（水泳）		1	
ハングルⅡ		2		スポーツ実技(エアロビクス)		1	
特別英語演習Ⅰ		4		スポーツ実技(軽スポーツ)		1	
特別英語演習Ⅱ		4		スポーツ実技（ヨガ）		1	
特別中国語演習Ⅰ		2		マッサージ実習		1	
特別中国語演習Ⅱ		2		からだと気づきと姿勢法		1	
特別ハングル演習Ⅰ		4		スポーツ実技(スリムエアロ)		1	
特別ハングル演習Ⅱ		4		スポーツ実技(バンジーエクササイズ)		1	
海外演習Ⅰ		1		スポーツ実技(エアリアルワーク)		1	
海外演習Ⅱ		2		スポーツ実技(スタイルジャズ)		1	
言語・情報科目群　情報リテラシー科目				スポーツ実技(フットサル)		1	
Webデザイン基礎		2					
Webデザイン応用		2					
グラフィックデザイン基礎		2					
フォトレタッチ基礎		2					
データサイエンスの基礎とExcel		2					
データサイエンスの応用とExcel		2					
データリテラシー・ＡＩの基礎	2						
データサイエンスのためのPython		2					
実用的ITリテラシー		2					
健康・スポーツ科目群　健康・スポーツ科学科目							
生涯スポーツ論		2					
スポーツと現代社会		2					
知っておきたい応急処置		2					
健康・スポーツ科目群　スポーツ実技科目							
スポーツ実技（テニス）		1					
スポーツ実技（ゴルフ）		1					
スポーツ実技(バレーボール)		1					
スポーツ実技(バドミントン)		1					

別表第２

基礎教育科目及び専門教育科目

文学部　日本語日本文学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				日本語学特講Ⅰ		2	
初期演習Ⅰ	1			日本語学特講Ⅱ		2	
初期演習Ⅱ（日本語日本文学）	1			社会言語学		2	
漢文入門	2			言語学Ⅰ		2	
日本語表現入門		2		言語学Ⅱ		2	
文章表現演習Ⅰ	1			日本語教育学入門		2	
文章表現演習Ⅱ	1			日本語教授法		2	
言語文化活動演習	1			日本語教授法実習		1	
情報リテラシーⅠ	2			日本語教材研究Ⅰ		2	
情報リテラシーⅡ	2			日本語教材研究Ⅱ		2	
Oral Communication		2		日本語教育史		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		言語発達論		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		言語と心理		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		異文化間コミュニケーション		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		多文化共生論		2	
専門教育科目				日本語教育インターンシップ		2	
日本語学概論Ⅰ	2			古典文学概論	2		
日本語学概論Ⅱ	2			近代文学概論	2		
音声・音韻論		2		古典文学史Ⅰ		2	
語彙・意味論		2		古典文学史Ⅱ		2	
文法論		2		近代文学史		2	
文字・表記論		2		上代文学講読Ⅰ		2	
談話・テキスト論		2		上代文学講読Ⅱ		2	
コーパス日本語学Ⅰ		2		中古文学講読Ⅰ		2	
コーパス日本語学Ⅱ		2		中古文学講読Ⅱ		2	
日本語史Ⅰ		2		中世文学講読Ⅰ		2	
日本語史Ⅱ		2		中世文学講読Ⅱ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
近世文学講読Ⅰ		2		書道表現Ⅲ(篆・隷・篆刻)		2	
近世文学講読Ⅱ		2		書道表現Ⅳ(作品研究)		2	
近代文学講読Ⅰ		2		書道史		2	
近代文学講読Ⅱ		2		書の理論と鑑賞		2	
古典文学研究Ⅰ		2		身体表現法		2	
古典文学研究Ⅱ		2		プレゼンテーション入門		2	
古典文学研究Ⅲ		2		文芸創作		2	
古典文学研究Ⅳ		2		データサイエンス		2	
近代文学研究Ⅰ		2		テキスト解析		2	
近代文学研究Ⅱ		2		プログラミング		2	
児童文学論		2		文学・メディアとAI		2	
現代文学論Ⅰ		2		デジタル表現		2	
現代文学論Ⅱ		2		ウェブデザイン		2	
日本文学特講Ⅰ		2		コンテンツ制作Ⅰ		2	
日本文学特講Ⅱ		2		コンテンツ制作Ⅱ		2	
漢文学講読Ⅰ		2		中国語概説		2	
漢文学講読Ⅱ		2		韓国語概説		2	
漢文学研究Ⅰ		2		英語で読む日本Ⅰ		2	
漢文学研究Ⅱ		2		英語で読む日本Ⅱ		2	
国語教育実践研究		2		海外文化体験演習		4	
阪神間の文化		2		演習Ⅰ	2		
文化交流史		2		演習Ⅱ	2		
美術史		2		卒業論文(卒業制作)	4		
日本の芸能		2					
日本の伝統文化		2					
日本の現代文化		2					
書道基礎Ⅰ		2					
書道基礎Ⅱ		2					
書道表現Ⅰ(仮名)		2					
書道表現Ⅱ(楷・行・草)		2					

文学部　歴史文化学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				日本近世史史料を読むⅠ		2	
初期演習Ⅰ	1			日本近世史史料を読むⅡ		2	
初期演習Ⅱ（歴史文化研究）	1			日本近現代史史料を読むⅠ		2	
歴史文化資料論	2			日本近現代史史料を読むⅡ		2	
文化と民族	2			古記録と古文書		2	
文化・歴史研究と情報	2			地誌学		2	
歴史文化フィールドワーク基礎	2			文化遺産論		2	
文章表現法（歴史文化）	2			食の文化誌		2	
情報リテラシー（歴史文化）	2			言語と文字の史的変遷	2		
Oral Communication		2		江戸の風俗と絵画		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		縄文・弥生の考古学		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		歴史のなかの女性		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		日本の生活文化	2		
専門教育科目				古墳・中近世の考古学		2	
日本史概説	2			日本の祭礼 春夏秋冬		2	
日本史料概説	2			中世の文化史 刀剣・武具		2	
考古学概説	2			地理と情報		2	
人文地理学	2			装いの日本文化		2	
日本美術史		2		すまいの日本文化		2	
女性史概説	2			出版・メディアの文化史		2	
古文書入門		2		信仰の民俗学		2	
自然地理学		2		古代中世の都市と交通		2	
民俗資料を読む		2		画像文化論		2	
文化人類学概説	2			地域社会論		2	
日本思想史		2		観光文化論		2	
地理学概説	2			意匠・デザインの基礎		2	
日本古代史史料を読むⅠ		2		日本芸能文化史		2	
日本古代史史料を読むⅡ		2		文化財の活用と保存	2		
日本中世史史料を読むⅠ		2		伝統工芸の保存と継承		2	
日本中世史史料を読むⅡ		2	必修8	地域の伝承		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
古代史研究の方法と課題		2	必修4	経済学		2	
中世史研究の方法と課題		2		社会学		2	
近世史研究の方法と課題		2		倫理学		2	
近現代史研究の方法と課題		2					
地域政策論		2					
災害と歴史		2					
地域文化研究		2					
地域文化フィールドワークⅠ		2					
地域文化フィールドワークⅡ		2					
歴史文化フィールドワークⅠ		2					
歴史文化フィールドワークⅡ		2					
歴史文化フィールドワークⅢ		2					
歴史文化フィールドワークⅣ		2					
映像メディア・理論と実践		2					
歴史文化とプレゼンテーション		2					
演習Ⅰ	2						
演習Ⅱ	2						
卒業論文	4						
中国語入門		2					
韓国語入門		2					
英語で読む日本		2					
観光英語		2					
キャリアとコミュニケーション		2					
くらしと言語景観		2					
東洋史		2					
西洋史		2					
近代の世界史		2					
多文化共生論		2					
観光と行政		2					
法律学		2					

文学部　英語グローバル学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				Academic Writing Ⅲ		3	
初期演習Ⅰ	1			Reading and Writing Ⅰ		1	
初期演習Ⅱ（海外留学に向けて）	1			Reading and Writing Ⅱ		1	
情報リテラシーⅠ	2			Reading and Writing Ⅲ		1	
情報リテラシーⅡ		2		Reading and Writing Ⅳ		1	
キャリアデザイン演習		1		Presentation and Discussion Ⅰ		1	
Interactive Listening Ⅰ		1		Presentation and Discussion Ⅱ		1	
Interactive Listening Ⅱ		1		Debate and Discussion Ⅰ		2	
Oral Presentation		1		Debate and Discussion Ⅱ		2	
Oral Communication Ⅰ		1		ストラテジック TOEIC 600		1	
Oral Communication Ⅱ		1		アメリカンスタディズ		2	
Oral Communication Ⅳ		1		Lectures in English（GS）		2	
Integrated Reading Ⅰ		1		MUSC Fieldwork		2	
Integrated Reading Ⅱ		1		Lectures in English（BZ）		2	
Integrated Reading Ⅳ		1		English for Communication Ⅰ		2	
Academic Writing Ⅰ		1		English for Communication Ⅱ		2	
Academic Writing Ⅱ		1		ライティング Ⅰ Theory		1	
Academic Writing Ⅳ		1		Writing Ⅱ Practice		1	
TOEIC 演習 Ⅰ		1		リーディング Ⅰ		1	
TOEIC 演習 Ⅱ		1		Reading Ⅱ		1	
TOEIC 演習 Ⅲ		1		ボキャブラリー・ビルディングⅠ		1	
TOEIC 演習 Ⅳ		1		Vocabulary Building Ⅱ		1	
検定英語演習		1		プラクティカル・グラマーⅠ		1	
Intensive Speaking Seminar		1		Practical Grammar Ⅱ		1	
資格認定英語Ⅰ		2		Workshop		2	
資格認定英語Ⅱ		2		Academic Reading & Writing Ⅰ		1	
資格認定英語Ⅲ		2		アカデミック リーディング&ライティングⅡ		1	
資格認定英語Ⅳ		2		Academic Listening Ⅰ		1	
Oral Communication Ⅲ		3		アカデミック リスニングⅡ		1	
Integrated Reading Ⅲ		3		Power Writing Ⅰ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
パワーライティングⅡ		2		英語研究のためのデータ分析		2	
パワープレゼンテーションⅠ		2		ＩＣＴと英語教育		2	
パワープレゼンテーションⅡ		2		英語クラシック文学を読む		2	
パワーネゴシエーションⅠ		2		英語文学とジェンダー		2	
パワーネゴシエーションⅡ		2		英語の音声と音韻		2	
ストラテジック TOEIC 700		1		英語の発話と意味		2	
論理的表現法（日本語）		1		英語学と英語教育		2	
ストラテジック TOEIC 800		1		英語学習指導論		2	
専門教育科目				英語グローバル文学論		2	
異文化理解Ⅰ		2		英語文学とビジュアル表象		2	
異文化理解Ⅱ		2		英語の形態と統語		2	
異文化理解Ⅲ		2		英語の談話とコミュニケーション		2	
コミュニカティヴ・グラマーⅠ		2		英語文学と英語教育		2	
コミュニカティヴ・グラマーⅡ		2		早期英語教育		2	
英語文学入門		2		異文化理解研究（英語文学）		2	
英語学入門		2		異文化理解研究（英語学）		2	
英語教育学入門		2		異文化理解研究（英語教育学）		2	
英語文学概論		2		Critical Thinking Seminar Ⅰ		2	
英語学概論		2		Critical Thinking Seminar Ⅱ		2	
英語教育学概論		2		Intercultural Issues Ⅰ		2	
American Culture		4		Intercultural Issues Ⅱ		2	
American Society		4		Contemporary Topics Ⅰ		2	
American Profiles		4		Contemporary Topics Ⅱ		2	
American West		4		メディア英語Ⅰ		2	
Business English		2		メディア英語Ⅱ		2	
Public Speaking		2		実践情報活用Ⅰ		2	
English Literature		2		実践情報活用Ⅱ		2	
English Linguistics		2		卒業研究Ⅰ	2		
English Education		2		卒業研究Ⅱ	2		
英語圏児童文学論		2		卒業研究Ⅲ	4		

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
Global Career Development Ⅰ		2		地域研究（アジア）		2	
Global Career Development Ⅱ		2		グローバルマネジメントⅠ		2	
グローバル・コミュニケーション概論		2		グローバルマネジメントⅡ		2	
Global Japan Studies		2		ビジネス・ライティングⅠ		2	
American Literature		4		ビジネス・ライティングⅡ		2	
Multi-Cultural Communication		2		ビジネス通訳Ⅰ		2	
Introduction to Global Studies		2		ビジネス通訳Ⅱ		2	
Multiculturalism		2		実務翻訳Ⅰ		2	
ダイバーシティ論		2		実務翻訳Ⅱ		2	
University Preparation		2		ビジネスディスカッション		2	
English & American Literature		2		ビジネススピーチ研究		2	
Intro. to Eng. Linguistics		2		言語政策論		2	
Business Communication		2		グローバル特殊講義（GS）Ⅰ		2	
ビジネスコミュニケーション概論		2		グローバル特殊講義（GS）Ⅱ		2	
国際ビジネスコミュニケーション		2		グローバル特殊講義（BZ）Ⅰ		2	
地域言語演習（米州）		2		グローバル特殊講義（BZ）Ⅱ		2	
地域言語演習（欧州）		2		グローバル特殊講義（GS）Ⅲ		2	
地域言語演習（アジア）		2		グローバル特殊講義（GS）Ⅳ		2	
ツーリズム概論		2		グローバル特殊講義（BZ）Ⅲ		2	
グローバル社会とテクノロジー		2		グローバル特殊講義（BZ）Ⅳ		2	
国際協力論		2					
グローバル化と日本		2					
２年次演習		2					
国際関係論Ⅰ		2					
国際関係論Ⅱ		2					
国際社会と英語情報		2					
NGO・市民社会論		2					
国際機構論		2					
地域研究（米州）		2					
地域研究（欧州）		2					

教育学部　教育学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				発達心理学		2	
初期演習Ⅰ	1			教育行政学	2		
初期演習Ⅱ	1			特別支援教育総論	2		
日本国憲法		2		国際教育論		2	
英語Ⅰ	2			器楽基礎		1	
英語Ⅱ	2			子ども家庭福祉		2	
教育とＩＣＴ	2			理科内容論		1	
体育Ⅰ		1		音楽科内容論		1	
体育Ⅱ		1		体育科内容論		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		外国語科内容論		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		国語科教育法		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		算数科教育法		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		社会科教育法		2	
外国語コミュニケーションⅠ		1		理科教育法		2	
外国語コミュニケーションⅡ		1		生活科教育法		2	
専門教育科目				音楽科教育法		2	
２年次演習	1			図画工作科教育法		2	
教育演習	2			家庭科教育法		2	
卒業研究	2			体育科教育法		2	
国語科内容論		1		外国語科教育法		2	
算数科内容論		1		教育課程論		2	
社会科内容論		1		道徳教育の理論と実践		2	
生活科内容論		1		教育方法の理論と実践	2		
家庭科内容論		1		生徒指導・進路指導の理論と実践		2	
図画工作科内容論		1		教育相談の理論と実践	2		
保育内容総論		2		特別活動の指導法		2	
教職入門		2	必修２	総合的な学習の時間の指導法		2	
保育者論		2		学校教育参加実習		1	
教育原理	2			教育実習事前事後指導Ⅰ（小幼）		1	
教育心理学総論	2			教育実習Ⅰ（小幼）		4	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
教職実践演習		2		教育プログラミング		2	
教育社会学		2		学級担任論		2	
教育史		2		教科指導演習		1	
教育哲学		2		教職総合実践		1	
人権教育と福祉		2		教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1	
子ども理解と教育		2		教育実習Ⅱ(小)		2	
社会調査法Ⅰ		1		知的障害者の心理・生理・病理		2	
学校教材としての文学		1		肢体不自由者の心理・生理・病理		2	
児童文学論		2		病弱者の心理・生理・病理		2	
日本現代文学の探究		2		ＬＤ等教育総論		2	
言語学概論		2		教育課程・保育計画論		2	
英語文法論Ⅰ		2		子どもと健康		1	
異文化理解とコミュニケーション		2		子どもと人間関係		1	
英語文学入門		2		子どもと環境		1	
英語児童文学		2		子どもと言葉		1	
時事問題と英語表現		2		保育内容・健康		2	
国際教育フィールドワークⅠ		1		保育内容・環境		2	
国際教育フィールドワークⅡ		1		保育内容・人間関係		2	
海外教育参加実習指導		1		保育内容・言葉		2	
海外教育参加実習		1		保育内容・表現Ⅰ		1	
世界の子どもたち		1		保育内容・表現Ⅱ		1	
子どもと数学		1		子ども理解と幼児教育		2	
理科教育実践		1		教育実習事前事後指導Ⅱ(幼)		1	
音楽科教育実践		1		教育実習Ⅱ(幼)		2	
子どもと音楽表現		1		特別支援教職論		2	
子どもと造形表現		1		知的障害教育		2	
調理と裁縫の生活スキル		1		障害児指導法		2	
子どもと身体表現		1		肢体不自由教育		2	
体育・スポーツ演習		1		病弱教育		2	
教室で使う英語表現		1		知的障害教育総論		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
肢体不自由教育総論		2		外国語コミュニケーションⅣ		1	
病弱教育総論		2		ライティングⅠA		1	
視覚障害教育総論		2		ライティングⅠB		1	
聴覚障害教育総論		2		リーディングⅠA		1	
重複障害等教育総論		2		リーディングⅠB		1	
特別支援学校教育実習事前事後指導		1		中等英語科教育法Ⅰ		2	
特別支援学校教育実習		2		中等英語科教育法Ⅱ		2	
日本語表現Ⅰ		2		中等英語科教育法Ⅲ		2	
日本語表現Ⅱ		2		中等英語科教育法Ⅳ		2	
日本語学概論Ⅰ		2		教育実習事前事後指導(中)		1	
日本語学概論Ⅱ		2		教育実習(中)		4	
日本語文法		2		日本古典文学の探究Ⅰ		2	
日本語の歴史		2		日本古典文学の探究Ⅱ		2	
日本古典文学概論		2		日本近代文学の探究		2	
日本近代文学概論		2		英語文法論Ⅱ		2	
日本古典文学史		2		英語文学の探究		2	
日本近代文学史		2		外国語コミュニケーションⅤ		1	
漢文入門		2		教育実習事前事後指導Ⅰ(幼小)		1	
漢文学		2		教育実習Ⅰ(幼小)		4	
書道Ⅰ		2		保育・教職実践演習(幼)		2	
書道Ⅱ		2		教職総合実践(幼)		1	
中等国語科教育法Ⅰ		2		学級担任論(幼)		2	
中等国語科教育法Ⅱ		2		幼児教育実践演習		1	
中等国語科教育法Ⅲ		2		運動遊び演習		1	
中等国語科教育法Ⅳ		2		アンサンブルと弾き歌い		1	
英語学		2		保育原理		2	
英語文学と日本		2		社会福祉		2	
英語文学と世界		2		子ども家庭支援論		2	
異文化間教育Ⅰ		2		子ども家庭支援の心理学		2	
外国語コミュニケーションⅢ		1		社会的養護Ⅰ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
子どもの保健		2					
子どもの食と栄養		2					
乳児保育Ⅰ		2					
乳児保育Ⅱ		1					
子どもの健康と安全		1					
障害児保育		2					
社会的養護Ⅱ		1					
子育て支援		1					
地域福祉論		2					
施設経営論		2					
家庭支援論演習		1					
保育実習指導ⅠA		1					
保育実習指導ⅠB		1					
保育実習Ⅰ（保育所）		2					
保育実習Ⅰ（施設）		2					
保育実習指導Ⅱ		1					
保育実習Ⅱ		2					
保育実習指導Ⅲ		1					
保育実習Ⅲ		2					
国際教育フィールドワークⅢ		1					
国際教育フィールドワークⅣ		1					
共生社会論		2					
シティズンシップ教育		2					
グローバル社会論		2					
異文化間教育Ⅱ		2					
環境教育論		2					
地域問題研究		2					
データリテラシーと教育		2					

心理・社会福祉学部　心理学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				神経心理学		2	
人間と社会（HEARTプログラムコア）	2			心理学的支援法Ⅰ		2	
初期演習Ⅰ	1			心理学的支援法Ⅱ		2	
初期演習Ⅱ（心理学実験演習）	1			認知心理学		2	
英語Ⅰ	2			グループダイナミクス		2	
英語Ⅱ	2			心理学実験		2	
Oral Communication Ⅰ		1		社会調査概論		2	
Oral Communication Ⅱ		1		社会調査実習		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		心理学日本語文献講読		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		心理学英語文献講読		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		心理学統計法		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		応用心理学統計法		2	
専門教育科目				データ処理論Ⅰ		2	
心理学概論	2			データ処理論Ⅱ		2	
臨床心理学概論	2			障害者・障害児心理学		2	
心理学史		2		臨床人格心理学		2	
感情・人格心理学		2		言語心理学		2	
メディアリテラシー		2		プロジェクトマネジメントの実践		2	
発達心理学Ⅰ		2		行動変容・ナッジ		2	
発達心理学Ⅱ		2		公認心理師の職責		2	
心理学研究法		2		教育・学校心理学		2	
臨床心理学研究法		2		健康・医療心理学		2	
知覚・認知心理学		2		司法・犯罪心理学		2	
学習・言語心理学		2		消費者心理学		2	
神経・生理心理学		2		データ解析法		2	
社会・集団・家族心理学		2		質的データ解析法		2	
リスク心理学		2		心理的アセスメント（概論）		2	
コミュニケーション論		2		心理的アセスメント（実習）		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		社会実践実習Ⅰ		1	
精神疾患とその治療		2		社会実践実習Ⅱ		1	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
福祉心理学		2					
産業・組織心理学		2					
関係行政論		2					
マーケティング論		2					
感性心理学		2					
臨床社会心理学		2					
心理演習		2					
心理実習		1					
心理実習指導		1					
コミュニティ心理学		2					
経済心理学		2					
環境心理学		2					
多文化社会概論		2					
社会貢献とボランティア		2					
ＮＧＯ・ＮＰＯ概論		2					
ソーシャルビジネス概論		2					
フェアトレード概論		2					
虐待とソーシャルワーク		2					
共生の社会心理		2					
ジェンダーと開発		2					
スクールソーシャルワーク		2					
スーパービジョン論		2					
多文化社会のコミュニケーション		2					
専門演習ＩＡ	1						
専門演習ＩＢ	1						
専門演習ⅡＡ	1						
専門演習ⅡＢ	1						
卒業研究	6						
プレプロフェッショナル教育		2					

心理・社会福祉学部　社会福祉学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				福祉サービスの組織と経営		2	
人間と社会（HEARTプログラムコア）	2			更生保護制度		2	
初期演習Ⅰ	1			社会保障論A		2	
初期演習Ⅱ（社会福祉）	1			社会保障論B		2	
心理学概論	2			保健医療サービス		2	
ソーシャルワーク概論A	2			ソーシャルワーク論ⅠA		2	
ソーシャルワーク概論B	2			ソーシャルワーク論ⅠB		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		ソーシャルワーク論ⅡA		2	
社会学		2		ソーシャルワーク論ⅡB		2	
多文化社会概論	2			ソーシャルワーク演習ⅠA		2	
社会貢献とボランティア		2		ソーシャルワーク演習ⅠB		2	
英語Ⅰ	2			ソーシャルワーク演習ⅡA		2	
英語Ⅱ	2			ソーシャルワーク演習ⅡB		2	
Oral Communication Ⅰ		1		ソーシャルワーク演習Ⅲ		2	
Oral Communication Ⅱ		1		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		ソーシャルワーク実習Ⅰ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		ソーシャルワーク実習Ⅱ		5	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		医療ソーシャルワーク		2	
専門教育科目				虐待とソーシャルワーク		2	
権利擁護と成年後見制度		2		スーパービジョン論		2	
児童・家庭福祉論		2		スクールソーシャルワーク		2	
障害者福祉論		2		社会福祉事業史		2	
高齢者福祉論		2		社会福祉特講		2	
地域福祉論A		2		専門演習ⅠA	1		
地域福祉論B		2		専門演習ⅠB	1		
社会調査法		2		専門演習ⅡA	1		
現代社会と福祉A		2		専門演習ⅡB	1		
現代社会と福祉B		2		卒業論文	6		
公的扶助論		2		精神保健A		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
精神保健B		2		フィールド調査の基礎	2		
精神保健福祉の原理A		2		フィールドワーク演習Ⅰ	1		
精神保健福祉の原理B		2		フィールドワーク演習Ⅱ	1		
精神障害リハビリテーション論		2		フィールドワーク実習指導Ⅰ		1	
精神保健福祉制度論		2		フィールドワーク実習指導Ⅱ		1	
精神疾患とその治療A		2		フィールドワーク実習指導Ⅲ		1	
精神疾患とその治療B		2		フィールドワーク実習		1	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）A		2		知覚・認知心理学		2	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）B		2		学習・言語心理学		2	
ソーシャルワーク演習（専門）A		2		感情・人格心理学		2	
ソーシャルワーク演習（専門）B		2		神経・生理心理学		2	
ソーシャルワーク演習（専門）C		2		社会・集団・家族心理学		2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		1		発達心理学Ⅰ		2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		1		障害者・障害児心理学		2	
ソーシャルワーク実習Ⅲ		3		心理学的支援法Ⅰ		2	
ソーシャルワーク実習Ⅳ		2		リスク心理学		2	
多文化社会実践論		2		コミュニケーション論		2	
多文化社会のコミュニケーション		2		グループダイナミクス		2	
多文化社会のソーシャルワークⅠ		2		消費者心理学		2	
多文化社会のソーシャルワークⅡ		2		マーケティング論		2	
ＮＧＯ・ＮＰＯ概論	2			プレプロフェッショナル教育		2	
NGO・NPOマネジメント演習		1					
ソーシャルビジネス概論	2						
ソーシャルビジネス・マネジメント		2					
ソーシャルビジネス計画演習		1					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
コミュニティメディア論		2					
コミュニティ防災論		2					
ジェンダーと開発		2					

健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				公衆衛生学		2	
初期演習Ⅰ	1			発育発達・老化論		2	
初期演習Ⅱ（健康・スポーツ）	1			スポーツ指導論		2	
健康・スポーツ科学論	2			スポーツ社会学		2	
スポーツの文化・歴史	2			スポーツ行政・法規		2	
情報リテラシー	2			スポーツ経営管理学		2	
基礎英語Ⅰ	1			体力の測定評価演習		2	
基礎英語Ⅱ	1			スポーツ心理学実験		1	
Oral Communication Ⅰ	1			運動生理学実験		1	
Oral Communication Ⅱ	1			バイオメカニクス実験		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		専門英語Ａ		1	必修1
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		専門英語Ｂ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		コーチング論		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		健康・スポーツカウンセリング		2	
健康科学Ⅰ		2		生活習慣病論		2	
専門教育科目				運動処方		2	
スポーツ心理学		2		フィットネス指導法		2	
スポーツ栄養学		2		介護法・介護予防演習		2	
運動生理学		2		運動療法演習		2	
スポーツ医学		2		健康行動科学・演習		2	
スポーツ運動学		2		健康・スポーツ実践実習		1	
体育原理		2		レクリエーション論		2	
運動器の解剖と機能Ⅰ		2		レクリエーション指導法演習		1	
運動器の解剖と機能Ⅱ		2		レクリエーション指導法実習		1	
スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅰ		2		障がい者スポーツ論Ⅰ		2	
スポーツトレーニングの科学Ⅰ		2		障がい者スポーツ論Ⅱ		2	
アスレティックトレーニング論		2		障がい者スポーツ指導法		2	
救急処置演習	1			スイミング		1	必修1
バイオメカニクス		2		トラックアンドフィールド		1	
学校保健		2					

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
体操		1	必修1
器械運動		1	
バレーボール		1	必修1
バスケットボール		1	
ハンドボール		1	
柔道		1	必修1
剣道		1	
ダンスⅠ	1		
ダンスⅡ		1	
ダンスⅢ		1	
卓球		1	
バドミントン		1	
保健体育科指導法Ⅰ		2	
保健体育科指導法Ⅱ		2	
保健体育科指導法Ⅲ		2	
保健体育科指導法Ⅳ		2	
保健体育科指導法（陸上競技・水泳）		1	
保健体育科指導法（球技）		1	
保健体育科指導法（武道・ダンス）		1	
保健体育科指導法（体つくり運動・器械運動）		1	
エアロビックダンス		1	
アクアエクササイズ		1	
海外の健康・スポーツの研究		2	
マリンスポーツ実習		1	必修1
キャンプ実習		1	
スノースポーツ実習		1	
健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
2年次演習	1		
卒業研究Ⅰ	2		
卒業研究Ⅱ	4		

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教職入門		2	
教育原理		2	
教育史		2	
教育心理学		2	
発達心理学		2	
教育行政学		2	
教育課程総論		2	
教育方法の理論と実践		1	
ICT活用の理論と実践		1	
道徳教育指導論		2	
生徒指導・進路指導		2	
教育相談の理論と方法		2	
教育実習事前事後指導（中高）		1	
教育実習Ⅰ（中高）		2	
教育実習Ⅱ（中高）		2	
教職実践演習（中高）		2	
特別支援教育論		2	
総合的な学習の時間と特別活動		2	
教育実習事前指導（中高）		1	
スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ		2	
コンディショニング指導論		2	
コンディショニング指導演習Ⅰ		2	
コンディショニング指導演習Ⅱ		2	
検査・測定評価実習Ⅰ		1	
パフォーマンス向上論		2	※必修3
パフォーマンス向上演習		1	
ジュニアスポーツ指導論		2	
ジュニアスポーツ指導演習		1	
健康管理とスポーツ医学		2	
ＡＴ実践実習		2	
スポーツトレーニングの科学Ⅱ		2	

※「パフォーマンス向上論」・「パフォーマンス向上演習」又は「ジュニアスポーツ指導論」・「ジュニアスポーツ指導演習」のいずれか・3単位を必修

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
検査・測定評価実習Ⅱ		1					
アスレティックトレーニングⅠ		2					
アスレティックトレーニングⅡ		2					
アスレティックトレーニングⅢ		2					
スポーツの心理と栄養		2					
健康科学Ⅱ		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

健康・スポーツ科学部　スポーツマネジメント学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				アカウンティングⅠ		2	
初期演習Ⅰ	1			アカウンティングⅡ		2	
初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	1			実務技能対策論		2	
健康・スポーツ科学論	2			経営組織論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ファイナンシャルマネジメント		2	
情報リテラシー	2			消費者行動論		2	
基礎英語Ⅰ	1			販売管理論		2	
基礎英語Ⅱ	1			マーチャンダイジング		2	
Oral Communication Ⅰ	1			ヒューマンリソースマネジメント		2	
Oral Communication Ⅱ	1			スポーツマネジメント学内演習	2		
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		スポーツマネジメント学外実習		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		専門英語Ａ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		専門英語Ｂ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		海外のスポーツビジネス研究		2	
専門教育科目				スポーツ心理学		2	
スポーツビジネス最前線	2			スポーツ栄養学		2	
スポーツ産業と政策		2		運動生理学		2	
スポーツビジネス論	2			スポーツ医学		2	
スポーツマネジメント論	2			スポーツ運動学		2	
スポーツマーケティング論	2			体育原理		2	
スポーツガバナンス論		2		運動器の解剖と機能		2	
スポーツ情報・メディア論		2		スポーツトレーニングの科学		2	
スポーツイノベーション論		2		救急処置演習	1		
ホスピタリティマネジメント論		2		バイオメカニクス		2	
地域スポーツマネジメント論		2		学校保健		2	
スポーツイベントの企画・運営		2		公衆衛生学		2	
スポーツ施設マネジメント論		2		発育発達・老化論		2	
トップスポーツ経営論		2		スポーツ指導論		2	
スポーツ・ヘルスツーリズム論		2		スポーツ社会学		2	
ヘルスケアマネジメント論		2		スポーツ行政・法規		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
スポーツ経営管理学		2		バドミントン		1	
体力の測定評価演習		2		保健体育科指導法Ⅰ		2	
コーチング論		2		保健体育科指導法Ⅱ		2	
健康・スポーツカウンセリング		2		保健体育科指導法Ⅲ		2	
生活習慣病論		2		保健体育科指導法Ⅳ		2	
運動処方		2		保健体育科指導法(体つくり運動・器械運動)		1	
フィットネス指導法		2		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)		1	
介護法・介護予防演習		2		保健体育科指導法(球技)		1	
運動療法演習		2		保健体育科指導法(武道・ダンス)		1	
健康行動科学・演習		2		エアロビックダンス		1	
健康・スポーツ実践実習		1		アクアエクササイズ		1	
レクリエーション論		2		マリンスポーツ実習		1	必修1
レクリエーション指導法演習		1		キャンプ実習		1	
レクリエーション指導法実習		1		スノースポーツ実習		1	
障がい者スポーツ論Ⅰ		2		健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
障がい者スポーツ論Ⅱ		2		卒業研究Ⅰ	2		
障がい者スポーツ指導法		2		卒業研究Ⅱ	4		
スイミング		1	必修1	プレプロフェッショナル教育		2	
トラックアンドフィールド		1					
体操		1	必修1				
器械運動		1					
バレーボール		1	必修1				
バスケットボール		1					
ハンドボール		1					
柔道		1	必修1				
剣道		1					
ダンスⅠ	1						
ダンスⅡ		1					
ダンスⅢ		1					
卓球		1					

生活環境学部　生活環境学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				統計学Ⅱ		2	
初期演習Ⅰ	1			阪神間文化論		2	
初期演習Ⅱ（生活環境）	1			生活美学		2	
情報リテラシー		2		生活文化演習Ⅰ		2	
Oral Communication		2		生活文化演習Ⅱ		2	
生活環境英語		2		生活文化演習Ⅲ		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		界面科学		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		界面科学実験		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		繊維学		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		繊維科学実験		2	
専門教育科目				繊維製品材料学		2	
生活環境論		2		繊維製品材料学実験		2	
基礎造形実習		2		工芸染色実習		2	
生活科学		2		被服学総合演習Ⅰ		2	
ファッションビジネス論		2		被服学総合演習Ⅱ		2	
アパレル構成学		2		衣環境学		2	
住居学		2		衣環境実験		2	
建築概論		2		染色加工学		2	
基礎・設計製図演習		2		染色加工学実験		2	
生活科学演習		2		衣料分析法		2	
服飾デザイン論		2		衣料分析実験		2	
アパレル構成学実習Ⅰ		2		消費科学		2	
インテリアデザイン論		2		消費生活論		2	
グラフィックデザイン基礎実習		2		アパレル設計生産論		2	
環境共生概論		2		アパレル生産実習Ａ		2	
環境デザイン演習		2		アパレル生産実習Ｂ		2	
建築設計基礎実習		2		アパレル構成学実習Ⅱ		1	
まちづくり基礎演習		2		アパレル企画論		2	
色彩学		2		スタイル画実習		1	
統計学Ⅰ		2		テキスタイルデザイン実習Ⅰ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
テキスタイルデザイン実習Ⅱ		2		建築材料学実験		2	
ドラフティングＣＡＤ実習Ⅰ		1		建築施工		2	
ドラフティングＣＡＤ実習Ⅱ		1		建築計画学Ⅰ		2	
ドレーピング実習		2		建築計画学Ⅱ		2	
ファッションコンピュータ実習		2		住宅設計		2	
ＶＭＤ演習		2		建築ＣＡＤ実習		2	
服飾史		2		建築・インテリア設計Ⅰ		4	
現代ファッション論		2		建築・インテリア設計Ⅱ		3	
ファッションデザイン演習		2		建築・インテリア設計Ⅲ		3	
生活デザイン論		2		世界建築史		2	
生活デザイン実習Ⅰ		2		日本建築史		2	
生活デザイン実習Ⅱ		2		近代建築論		2	
生活デザイン実習Ⅲ		2		現代建築論		2	
生活デザイン実習Ⅳ		2		建築一般構造Ⅰ		2	
デザイン技法Ⅰ		2		建築一般構造Ⅱ		2	
デザイン技法Ⅱ		2		構造力学Ⅰ		2	
デザインリサーチ実習		2		構造力学Ⅰ演習		1	
視覚文化論		2		構造力学Ⅱ		2	
インテリアテキスタイル概論		2		構造力学Ⅱ演習		1	
人間工学		2		建築法規		2	
人間工学実験		2		測量実習		2	
環境計画Ⅰ		2		景観論		2	
環境計画実習Ⅰ		2		まちづくり論Ⅰ		2	
環境計画Ⅱ		2		まちづくり論Ⅱ		2	
環境計画実習Ⅱ		2		フィールドデザイン演習Ⅰ		2	
環境計画Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅱ		2	
環境リスク学		2		フィールドデザイン演習Ⅲ		3	
福祉生活環境概論		2		フィールドデザイン特別演習		2	
福祉住環境実習		2		フィールド・サーヴェイ実習		1	
建築設備		2		プレゼンテーション演習		2	
建築材料学		2		造園学・同演習		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
家庭生活論		2					
保育学		2					
調理学実習		2					
食物学		2					
テキスタイルアドバイザー実習		1					
海外語学研修		3					
海外の生活環境研修Ⅰ		1					
海外の生活環境研修Ⅱ		2					
卒業基礎演習	2						
卒業研究	6						

社会情報学部　社会情報学科

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				経営情報演習		2	
初期演習Ⅰ	1			地域産業論		2	
初期演習Ⅱ（社会情報入門）	1			IT活用とビジネス		2	
データ・情報リテラシー	2			コミュニティビジネス論		2	
Oral Communication Ⅰ		1		コンテンツプランニング演習		2	
Oral Communication Ⅱ		1		衣生活情報論		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		企業経営論		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		消費者経済学		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		マーケットデザイン演習		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		情報科学入門	2		
専門教育科目				コンピュータネットワーク入門		2	
情報とコミュニケーション		2		コンピュータネットワーク演習		2	
メディア論		2		コンピュータネットワーク論		2	
コンセプトデザイン論		2		プログラミング入門		2	
ネットワーク社会論		2		プログラミング演習Ⅰ		2	
SNSリテラシー演習		2		プログラミング演習Ⅱ		2	
科学技術と社会		2		ウェブ入門		2	
メディアと生活文化		2		ウェブプログラミング		2	
メディアカルチャー論		2		ウェブアプリケーション設計		2	
メディア産業論		2		ウェブアプリケーション開発演習		2	
文化社会学		2		ウェブエンジニアリング		2	
文化社会学演習		2		ウェブコンピューティング論		2	
映像文化史		2		データベース入門		2	
組織コミュニケーション論		2		アルゴリズム論		2	
マーケティング論		2		システムセキュリティ入門		2	
マーケティング戦略論		2		情報セキュリティ論		2	
広告メディア論		2		情報基礎数学		2	
広告メディア演習		2		情報数学		2	
グローバルビジネス論		2		ソフトウェアエンジニアリング		2	
経営情報論		2		ソフトウェア工学演習		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
システム設計		2		情報英語Ⅱ		2	
システム設計演習		2		社会情報学概論	2		
プラットフォーム概論		2		プロジェクト演習入門		2	
ユーザインタフェース論		2		プロジェクト演習Ⅰ		2	
AI入門		2		プロジェクト演習Ⅱ		2	
AI概論		2		プロジェクト演習Ⅲ		2	
AI演習		2		ハッカソン		2	
統計学Ⅰ	2			卒業基礎研究	4		
統計学Ⅱ		2		卒業基礎演習Ⅰ	2		
社会調査入門		2		卒業基礎演習Ⅱ	2		
社会調査Ⅰ		2		卒業研究	4		
社会調査Ⅱ		2		キャリアプランニング		1	
社会調査演習		2		生涯学習論		2	
データサイエンス基礎演習		2					
データサイエンス演習A		2					
データサイエンス演習B		2					
データサイエンス演習C		2					
データサイエンス演習D		2					
データサイエンス論A		2					
データサイエンス論B		2					
ICT社会のビジネス	2						
ITパスポート認定情報技術		2					
オフィスツールの活用		2					
デジタル表現入門		2					
デジタル表現		2					
色彩情報論		2					
色彩情報演習		2					
情報倫理		2					
ウェブデザイン演習		2					
情報英語Ⅰ		2					

食物栄養科学部　食物栄養学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				生化学Ⅱ		2	
初期演習Ⅰ	1			生化学実験	1		
初期演習Ⅱ(食物栄養学入門)	1			臨床病原微生物学		2	
食物栄養科学概論	1			臨床医学Ⅰ	2		
管理栄養士論	1			臨床医学Ⅱ		2	
基礎化学	2			臨床学実習		1	
基礎化学実験	1			食品学	2		
栄養学の基礎	2			食品学実験	1		
食品素材学	2			食品加工学実験		1	
微生物学	2			食品機能学		2	
食文化論	2			食品機能学実験		1	
TOEIC Preparation Ⅰ		1		食品衛生学	2		
TOEIC Preparation Ⅱ		1		食品衛生学実験	1		
栄養学英語Ⅰ	2			調理学	2		
栄養学英語Ⅱ	2			調理学実習Ⅰ		1	
予防医学概論	1			調理学実習Ⅱ		1	
栄養統計学	2			基礎栄養学	2		
疫学	1			基礎栄養学実験	1		
食事調査法演習	1			応用栄養学Ⅰ	2		
食事摂取基準論	1			応用栄養学Ⅱ		2	
健康科学Ⅰ		2		応用栄養学Ⅲ		2	
専門教育科目				応用栄養学実習	1		
公衆衛生学	2			栄養教育論Ⅰ	2		
公衆衛生学実習		1		栄養教育論Ⅱ	2		
環境科学		2		栄養教育論Ⅲ		2	
社会福祉概論	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
解剖生理学Ⅰ	2			栄養教育論実習Ⅱ	1		
解剖生理学Ⅱ	2			臨床栄養学Ⅰ	2		
解剖生理学実習	1			臨床栄養学Ⅱ	2		
生化学Ⅰ	2			臨床栄養学Ⅲ		2	

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
臨床栄養学Ⅳ		2					
臨床栄養学実習Ⅰ	1						
臨床栄養学実習Ⅱ	1						
公衆栄養学Ⅰ	2						
公衆栄養学Ⅱ		2					
公衆栄養学実習	1						
給食経営管理論Ⅰ	2						
給食経営管理論Ⅱ	2						
給食経営管理学実習	1						
管理栄養総合演習Ⅰ		1					
管理栄養総合演習Ⅱ		1					
臨地実習Ⅰ	1						
臨地実習Ⅱ		2					
臨地実習Ⅲ	1						
分子栄養学		2					
在宅栄養ケア支援論		2					
リハビリテーション栄養学		1					
健康スポーツ栄養学		2					
国際栄養学演習		4					
食糧経済学		2					
卒業英語演習Ⅰ	1						
卒業英語演習Ⅱ	1						
卒業研究方法論	1						
卒業論文		6	必修6				
卒業演習		6					
学校栄養教育・指導論Ⅰ		2					
学校栄養教育・指導論Ⅱ		2					
健康科学Ⅱ		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

食物栄養科学部　食創造科学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				臨床栄養学概論	2		
初期演習Ⅰ	1			臨床栄養学実習	1		
初期演習Ⅱ（食創造の可能性）	1			栄養教育論Ⅰ	2		
基礎化学	2			栄養教育論Ⅱ	2		
食品化学	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
食品化学実験	1			栄養教育論実習Ⅱ	1		
食物栄養科学概論	1			公衆栄養学	2		
統計学	2			調理学	2		
実践ＴＯＥＩＣ演習Ⅰ	1			調理学実習Ⅰ	1		
実践ＴＯＥＩＣ演習Ⅱ	1			調理学実習Ⅱ	1		
専門教育科目				給食管理論	2		
社会福祉概論	2			給食管理学実習	2		
公衆衛生学	2			校外実習	1		
解剖生理学	2			食品産業論実習Ⅰ	1		
解剖生理学実習	1			食品産業論実習Ⅱ	1		
臨床医学	2			食品製造学Ⅰ	2		
生化学Ⅰ	2			食品製造学Ⅱ	2		
生化学Ⅱ	2			食品産業論	2		
生化学実験	1			異文化コミュニケーション論	2		
食品学	2			フードサイエンス英語Ⅰ	2		
食品学実験	1			フードサイエンス英語Ⅱ	2		
食品加工学	2			食品開発論	2		
食品加工学実習	1			栄養資源開発論		2	
食品衛生学	2			調理科学	2		
食品衛生学実験	1			調理科学実験	1		
基礎栄養学	2			バイオテクノロジー概論		2	
基礎栄養学実験	1			食品機能学	2		
応用栄養学Ⅰ	2			官能評価・鑑別論		2	
応用栄養学Ⅱ	2			食品安全学Ⅰ	2		
応用栄養学実習	1			食品安全学Ⅱ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
食品安全学実験	1			実践英会話Ⅰ		2	※選必
グローバルレギュラトリーサイエンス		2		実践英会話Ⅱ		2	
ＨＡＣＣＰ管理実践論		2		実践英会話Ⅲ		2	
マーケットリサーチ法	1			実践英会話Ⅳ		2	
フードビジネス論Ⅰ	2			実践英会話Ⅴ		2	
フードビジネス論Ⅱ	2			卒業演習（国際インターンシップ含む）		6	※※選必
補完代替医学		2					
比較食文化論		2					
卒業英語演習Ⅰ		1	※選必				
卒業英語演習Ⅱ		1	※選必				
卒業論文		6	※※選必				
卒業演習		6	※※選必				
食経営学		2					
フードデザイン演習		1	※「卒業英語演習Ⅰ」、「卒業英語演習Ⅱ」、「実践英会話Ⅰ」のうち2単位必修				
メニュー企画・開発論		2					
メニュー企画・開発実習		1					
食マーケティング演習Ⅰ		1					
食マーケティング演習Ⅱ		1					
インターンシップ（フードマネジメント）		2					
食品機器分析学		2	※※「卒業論文」、「卒業演習」、「卒業演習（国際インターンシップ含む）」のうち6単位必修				
食品機器分析学実験Ⅰ		1					
食品機器分析学実験Ⅱ		1					
実験計画法演習		1					
インターンシップ（フードイノベーション）		2					
グローバルフード研修事前演習		1					
食の国際理解		2					
グローバルフード学		2					
国際食流通論		2					
国際食科学		2					
国際食科学演習		1					

建築学部　建築学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				建築環境工学Ⅰ	2		
初期演習Ⅰ	1			建築環境工学Ⅱ	2		
初期演習Ⅱ（建築入門）	1			建築環境工学実験	2		
建築英語Ⅰ	2			建築環境工学Ⅲ		2	※選必
建築英語Ⅱ	2			建築設備Ⅰ	2		
建築英語Ⅲ	2			建築設備Ⅱ		2	※選必
建築英語Ⅳ	2			建築構造力学Ⅰ	2		
建築数学	2			建築構造力学Ⅱ	2		
建築物理	2			地盤・振動論		2	※選必
専門教育科目				建築一般構造Ⅰ	2		
空間表現演習Ⅰ	5			建築一般構造Ⅱ	2		
空間表現演習Ⅱ	5			建築各種構造		2	※選必
建築設計演習Ⅰ	5			建築材料	2		
建築設計演習Ⅱ	5			建築構造材料実験	2		
建築設計演習Ⅲ	6			建築生産	2		
建築設計演習Ⅳ	6			建築施工	2		
建築設計演習Ⅴ	6			建築法規Ⅰ	2		
図学・情報基礎演習Ⅰ	2			建築法規Ⅱ	2		
図学・情報基礎演習Ⅱ	2			都市計画・デザイン論	2		
ＣＡＤ・ＣＧ応用演習Ⅰ	2			造園学		2	※選必
ＣＡＤ・ＣＧ応用演習Ⅱ	2			測量実習	2		
卒業研究	6			建築フィールドワークⅠA		1	
現代建築論	2			建築フィールドワークⅠB		1	
建築設計計画Ⅰ	2			建築フィールドワークⅡA		1	
建築設計計画Ⅱ	2			建築フィールドワークⅡB		1	※選必から８単位を必修
建築設計計画Ⅲ	2			建築フィールドワークⅢA		1	
建築設計計画Ⅳ	2			建築フィールドワークⅢB		1	
日本建築史	2			建築フィールドワークⅣ		1	
世界建築史	2			海外研修		2	
近代建築史	2						

建築学部　景観建築学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				構造力学Ⅰ	2		
初期演習Ⅰ	1			構造力学Ⅱ	2		
初期演習Ⅱ(景観建築入門)	1			建築一般構造Ⅰ	2		
景観建築英語Ⅰ	2			建築一般構造Ⅱ	2		
景観建築英語Ⅱ	2			建設材料	2		
景観建築英語Ⅲ	2			建築生産	2		
景観建築英語Ⅳ	2			建築施工		2	※選必
景観建築数学	2			建築法規Ⅰ	2		
景観建築物理	2			建築法規Ⅱ		2	※選必
生態学	2			測量学	2		
専門教育科目				都市計画	2		
表現基礎演習	4			環境職業倫理	2		
設計基礎演習	4			土質力学		2	※選必
景観建築設計演習Ⅰ	4			水理学		2	※選必
景観建築設計演習Ⅱ	4			自然環境保全学	2		
景観建築設計演習Ⅲ	6			文化遺産保全学		2	※選必
景観建築設計演習Ⅳ	6			流域保全学		2	※選必
景観建築設計演習Ⅴ	6			日本庭園史	2		
景観映像情報基礎	2			世界庭園史	2		
測量学実習	2			景観建築原論	2		
景観映像情報演習Ⅰ	2			景観緑地計画論	2		
景観映像情報演習Ⅱ	2			景観設計施工技術		2	※選必
卒業研究	6			景観建築植物学	2		
日本建築史	2			景観建築植物実習Ⅰ		1	※選必
世界建築史	2			景観建築植物実習Ⅱ		1	※選必
近代建築史	2			建築都市緑化実習Ⅰ		1	※選必
建築計画	2			建築都市緑化実習Ⅱ		1	※選必
建築環境工学Ⅰ	2			建築都市緑化実習Ⅲ		1	※選必
建築環境工学Ⅱ		2	※選必	建築都市緑化実習Ⅳ		1	※選必
建築設備	2			景観建築特別実習Ⅰ		1	※選必

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
景観建築特別実習Ⅱ		1	※選必				
景観建築フィールドワークⅠA		1					
景観建築フィールドワークⅠB		1	※選必から14単位を必修				
景観建築フィールドワークⅡA		1					
景観建築フィールドワークⅡB		1					
景観建築フィールドワークⅢA		1					
景観建築フィールドワークⅢB		1					
景観建築フィールドワークⅣ		1					

音楽学部　演奏学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				副専声楽実技ⅢA		1	
初期演習Ⅰ	1			副専声楽実技ⅢB		1	
初期演習Ⅱ（音楽探究への誘い）	1			副専ピアノ実技ⅢA		1	
2年次演習	1			副専ピアノ実技ⅢB		1	
英語A	1			副専ピアノ実技ⅣA		1	
英語B	1			副専ピアノ実技ⅣB		1	
Oral Communication		2		ソルフェージュⅠA	2		
情報リテラシーⅠ	2			ソルフェージュⅠB	2		
情報リテラシーⅡ		2		ソルフェージュⅡ		4	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅰ		2		和声法A	2		
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅱ		2		和声法B	2		
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅲ		2		指揮法Ⅰ		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語Ⅳ		2		指揮法Ⅱ		1	
専門教育科目				作家作品研究Ⅰ		2	
主専実技ⅠA	2			作家作品研究Ⅱ		2	
主専実技ⅠB	2			即興演奏A		2	
主専実技ⅡA	2			即興演奏B		2	
主専実技ⅡB	2			作・編曲法A	2		
主専実技ⅢA	2			作・編曲法B	2		
主専実技ⅢB	2			旋律と和声A		2	
主専実技Ⅳ	2			旋律と和声B		2	
卒業演奏	3			教育伴奏法		2	
副専声楽実技ⅠA		1		楽曲研究A		2	
副専声楽実技ⅠB		1		楽曲研究B		2	
副専ピアノ実技ⅠA		1		電子楽器		2	
副専ピアノ実技ⅠB		1		音楽史Ⅰ	4		
副専声楽実技ⅡA		1		音楽史Ⅱ	4		
副専声楽実技ⅡB		1		合唱Ⅰ	2		
副専ピアノ実技ⅡA		1		合唱Ⅱ	2		
副専ピアノ実技ⅡB		1		合唱Ⅲ		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
学内演奏Ⅰ	1						
学内演奏Ⅱ	1						
学内演奏Ⅲ	1						
器楽合奏		1					
邦楽		2					
副科器楽A		1					
副科器楽B		1					
イタリア語表現演習		2					
声楽演奏研究ⅠA		1					
声楽演奏研究ⅠB		1					
声楽演奏研究ⅡA		1					
声楽演奏研究ⅡB		1					
声楽演奏研究ⅢA		1					
声楽演奏研究ⅢB		1					
演技演習		2					
オペラ		2					
合唱指導法		2					
協奏曲Ⅰ		2					
協奏曲Ⅱ		2					
伴奏法		2					
ピアノアンサンブル		2					
ピアノ指導法		2					
チェンバロ		2					
重奏演習		2					
合奏指導法		2					
合奏Ⅰ		2					
合奏Ⅱ		2					
合奏Ⅲ		2					
合奏Ⅳ		2					

音楽学部　応用音楽学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				ソルフェージュⅠA	2		
初期演習Ⅰ	1			ソルフェージュⅠB	2		
初期演習Ⅱ（音楽探究への誘い）	1			ソルフェージュⅡ		4	
2年次演習	1			和声法A	2		
英語A	1			和声法B	2		
英語B	1			指揮法Ⅰ		1	
応用英語ⅠA		1		指揮法Ⅱ		1	
応用英語ⅠB		1		即興演奏A		2	
応用英語ⅡA		1		即興演奏B		2	
応用英語ⅡB		1		作・編曲法A		2	
Oral Communication		2		作・編曲法B		2	
情報リテラシーⅠ	2			旋律と和声A		2	
情報リテラシーⅡ	2			旋律と和声B		2	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		教育伴奏法		2	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		実用楽器入門		2	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		音楽史Ⅰ	4		
TOEIC認定英語Ⅳ		2		音楽史Ⅱ	4		
専門教育科目				合唱Ⅰ	2		
ピアノ実技ⅠA	2			合唱Ⅱ	2		
ピアノ実技ⅠB	2			合唱Ⅲ		2	
ピアノ実技ⅡA	2			学内演奏Ⅰ	1		
ピアノ実技ⅡB	2			学内演奏Ⅱ		1	
ピアノ実技ⅢA		2		学内演奏Ⅲ		1	
ピアノ実技ⅢB		2		イタリア語表現演習		2	
ピアノ実技ⅣA		2		楽器・合奏指導法		2	
ピアノ実技ⅣB		2		歌唱・合唱指導法		2	
声楽実技ⅠA	2			器楽合奏		1	
声楽実技ⅠB	2			邦楽		2	
声楽実技ⅡA		2		演習	2		
声楽実技ⅡB		2		卒業論文	4		

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
音楽療法論Ⅰ	2			表現技術演習		4	
音楽療法論Ⅱ		2		音楽文化創造学		4	
発達心理学		2		音楽文化事業企画演習		2	
音楽心理学		2		音楽活用実習		2	
臨床心理学Ⅰ		4		プレプロフェッショナル教育		2	
臨床心理学Ⅱ		2					
社会福祉論		2					
障害児教育		2					
介護論		2					
レパートリーラーニング		2					
ダンスと動き		2					
医学概論		2					
音楽療法各論Ⅰ		2					
音楽療法各論Ⅱ		2					
音楽療法各論Ⅲ		2					
臨床医学各論Ⅰ		2					
臨床医学各論Ⅱ		2					
音楽療法演習		4					
音楽療法実習Ⅰ	1						
音楽療法実習Ⅱ		2					
音楽療法実習Ⅲ		2					
音楽療法実習Ⅳ		2					
音楽療法研究法		4					
音楽療法総論		1					
音楽社会学概論	4						
音楽教育学研究		4					
環境と音楽		4					
生涯学習関係論Ⅰ		2					
生涯学習関係論Ⅱ		2					
音楽とマルチメディア		2					

薬学部　薬学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				地域社会と薬剤師	2		
初期演習Ⅰ	1			生涯キャリアデザイン		0.5	
初期演習Ⅱ（薬の世界へ）	1			物理化学Ⅰ	2		
Oral Communication Ⅰ		1		物理化学Ⅱ	2		
Oral Communication Ⅱ		1		物理化学Ⅲ	2		
基礎英語	1			分析化学Ⅰ	2		
英語Ⅰ	1			分析化学Ⅱ	2		
英語Ⅱ	1			分析化学Ⅲ	2		
英語Ⅲ	1			薬学放射化学	2		
発展英語Ⅰ	1			有機化学Ⅰ	2		
基礎化学	2			有機化学Ⅱ	2		
基礎生物	2			有機化学Ⅲ	2		
基礎数学・物理	2			スペクトル構造解析演習	0.5		
情報リテラシー	2			医薬品化学	2		
薬学ゲートウェイ	1			発展有機化学		1	
ＴＯＥＩＣ認定英語		2		薬用植物・生薬学	2		
専門教育科目				天然物化学	2		
薬学への招待	2			分子遺伝学	2		
早期臨床体験	1			細胞生化学	2		
医療倫理学	2			生理・生化学	2		
生命倫理学	2			機能形態学	2		
医療薬学概論	2			代謝生化学	2		
多職種連携概論	2			微生物学	2		
臨床体験学習		1		免疫学	2		
医療現場でのリスクマネジメント	2			生体恒常性のメカニズム		1	
医療コミュニケーション		1		薬学基礎演習Ａ		1	
薬物治療の実際と実践		1		薬学基礎演習Ｂ		1	
医薬品開発論	2			薬学基礎演習Ｃ		1	
薬事関連法規	2			薬学基礎演習Ｄ		1	
薬局管理学	2			薬学基礎演習Ｅ		1	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
薬学基礎演習F		1		薬学臨床実習概論	2		
薬学基礎演習G		1		統合型症例・処方解析Ⅰ	1		
公衆衛生学Ⅰ	2			統合型症例・処方解析Ⅱ	1		
公衆衛生学Ⅱ	2			薬剤師の臨床判断Ⅰ		1	
栄養・食品衛生学	2			薬剤師の臨床判断Ⅱ		1	
環境衛生学	2			セルフメディケーション	2		
実践衛生化学Ⅰ		1		臨床薬学基本実習Ⅰ	1		
実践衛生化学Ⅱ		1		臨床薬学基本実習Ⅱ	1		
基礎薬理学Ⅰ	2			臨床薬学基本実習Ⅲ	1		
基礎薬理学Ⅱ		1		臨床実習入門講義	1		
臨床薬理学A	2			薬学臨床実習	20		
臨床薬理学B	2			臨床実習後演習	1		
臨床薬理学C	2			薬学基礎実習A	1		
臨床薬理学D	2			薬学基礎実習B	0.5		
疾患からみた薬理学		1		薬学基礎実習C	1		
薬物動態学Ⅰ	2			薬学基礎実習D	1		
薬物動態学Ⅱ	2			薬学基礎実習E	1		
臨床統計学Ⅰ	2			薬学基礎実習F	1		
臨床統計学Ⅱ		1		発展英語Ⅱ	1		
物理薬剤学	2			薬学英語演習		4	
製剤学	2			卒業研究ⅠA	1		
薬物代謝論		1		卒業研究ⅠB	1		
薬物送達システム学		1		卒業研究Ⅱ	2		
病態・薬物治療A	2			卒業研究Ⅲ	1		
病態・薬物治療B	2			総合演習ⅠA	1		
病態・薬物治療C	2			総合演習ⅠB	1		
病態・薬物治療D	2			総合演習Ⅱ	2		
医薬品情報学	2			プレプロフェッショナル教育		2	
漢方治療学		1					
化粧品学概論		1					

薬学部　健康生命薬科学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				薬用植物学		2	
初期演習Ⅰ	1			天然物化学		2	
初期演習Ⅱ（薬科学への第一歩）	1			物理化学Ⅰ	2		
健康生命薬科学概論	2			物理化学Ⅱ		2	
実験基礎	1			基礎分析化学	2		
生命倫理学	2			応用分析化学		2	
Oral Communication Ⅰ		1		機器分析学		2	
Oral Communication Ⅱ		1		バイオメディカル分析化学		2	
General Academic English Ⅰ	1			基礎生化学	2		
General Academic English Ⅱ	1			分子生物学	2		
基礎数学	2			細胞生物学		2	
基礎生物学	2			代謝生化学		2	
情報リテラシーⅠ	2			微生物学		2	
情報リテラシーⅡ		2		免疫学		2	
健康科学Ⅰ		2		細胞の情報伝達と疾患		2	
ＴＯＥＩＣ認定英語		2		基礎解剖生理学	2		
専門教育科目				機能生理学		2	
English for Scientists Ⅰ	1			基礎薬理学		2	
English for Scientists Ⅱ	1			応用薬理学		2	
English for Scientists Ⅲ	1			病態疾病学		2	
Science Communication	1			腫瘍生物学		2	
English Writing	1			脳神経科学		2	
Scientific Presentations	1			基礎統計学	2		
物理学		2		薬物動態学		2	
地学		2		製剤フロンティア科学		2	
基礎化学	2			薬物送達システム開発論		2	
有機化学Ⅰ	2			未来創薬デザイン論		2	
有機化学Ⅱ		2		先進ウィメンズヘルス学		2	
有機化学Ⅲ		2		食品衛生学		2	
薬品合成化学		2		環境衛生学		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
統合医療概論		2		化粧品学実験		1	
保健食品機能学		2		卒業研究Ⅰ	2		
医薬品情報学		2		卒業研究Ⅱ	8		
医薬品開発論		2		健康科学Ⅱ		2	
セルフメディケーションの実践		2		プレプロフェッショナル教育		2	
ヘルスケアマネジメントサポート		2					
臨床検査総論		2					
保健食品開発論		2					
薬事関係法規		2					
化粧品学総論		2					
皮膚科学		2					
化粧品製剤学		2					
実践化粧品学		2					
化粧品開発論		2					
臨床化粧品学		2					
化粧と香りの心理学		2					
洗浄と清潔の界面科学		2					
東洋美容学基礎		2					
物理学実験		1					
地学実験		1					
創薬入門	1						
創薬体験学習Ⅰ	1						
創薬体験学習Ⅱ	1						
基礎有機化学実験	1						
分析化学実験	1						
生物学・生化学実験	1						
解剖生理学実験	1						
薬理学実験	1						
薬剤学実験	1						
衛生薬学実験	1						

環境共生学部　環境共生学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
専門教育科目				ラボローテーション実習Ⅰb		1.5	
初期演習Ⅰ	1			ラボローテーション実習Ⅱa		1.5	
基礎化学	2			ラボローテーション実習Ⅱb		1.5	
基礎生物学	2			物理学実験		1	
基礎環境工学	2			地学実験		1	
情報リテラシー	2			環境技術実験	1.5		
初期演習Ⅱ（環境共生学）	1			環境経済学		2	
生態学		2		環境教育論		2	
地球科学		2		環境政策論		2	
細胞生物学		2		環境教育実践		1	
環境英語Ⅰ	1			世界遺産学		1	
分析化学		2		ＮＰＯ・ＮＧＯ論		2	
環境微生物学		2		エコツーリズム論		1	
高分子化学		2		環境イメージング技術		2	
環境英語Ⅱ	1			環境放射線工学		2	
植物生理学		2		防災技術Ⅰ		2	
生命と地球環境		1		環境アセスメント論		2	
環境英語Ⅲ	1			環境情報工学		2	
環境英語Ⅳ	1			防災技術Ⅱ		2	
環境英語演習（留学プログラム）		2		野生生物管理工学		2	
環境研究英語Ⅰ	1			水質管理工学		2	
環境研究英語Ⅱ	1			環境モニタリング		2	
環境共生学入門（学習設計）	1			毒性学		2	
ＳＤＧｓ論	2			合成化学		2	
環境問題概論	2			環境生物有機化学		2	
フィールド・環境施設実習	2			環境エネルギー概論		2	
エコツーリズム実習		1		バイオマスエネルギー学		2	
基礎実験	1.5			物理学と環境工学		2	
データ分析・統計学	2			資源管理学		2	
ラボローテーション実習Ⅰa		1.5		機器分析学		2	

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
環境エネルギー技術		2					
グリーンケミストリー		2					
資源循環工学		2					
高機能材料工学		2					
生命情報科学		2					
バイオテクノロジーⅠ(分子生物学)		2					
環境レメディエーション工学		2					
環境・バイオ産業論		2					
バイオテクノロジーⅡ(遺伝子工学)		2					
バイオテクノロジーⅢ(細胞工学)		2					
生態工学		2					
バイオマス利活用工学		2					
社会連携プロジェクトⅠ	3						
社会連携プロジェクトⅡ	3						
プロジェクトコミュニケーションⅠ	3						
プロジェクトコミュニケーションⅡ	3						
卒業研究・活動	6						

看護学部　看護学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				地域看護学	2		
初期演習Ⅰ	1			地域・在宅看護学実習	2		
初期演習Ⅱ（生活と看護）	1			成人看護学概論	1		
医学英語	2			成人看護学ⅠA	2		
看護英語基礎	1			成人看護学ⅠB	2		
情報活用の基礎	2			成人看護学Ⅱ（慢性期）	1		
看護応用統計学	2			成人看護学Ⅱ（急性期）	1		
解剖生理学Ⅰ	2			サポーティブケア	1		
解剖生理学Ⅱ	2			成人看護学実習（慢性期）	3		
栄養代謝学	2			成人看護学実習（急性期）	3		
臨床病態栄養学	2			老年看護学概論	1		
微生物学と感染防御	2			老年看護学Ⅰ	2		
看護薬理学	2			老年看護学Ⅱ	1		
疾病治療概論	2			アクティブエイジング	1		
リハビリテーション学	2			老年看護学実習	3		
保健医療福祉制度	2			小児看護学概論	1		
チーム医療論	2			小児看護学Ⅰ	2		
疫学	2			小児看護学Ⅱ	1		
専門教育科目				チャイルドディベロップメンタルアプローチ	1		
看護学概論	2			小児看護学実習	2		
看護援助論	2			母性看護学概論	1		
基礎看護技術演習Ⅰ	2			母性看護学Ⅰ	2		
基礎看護技術演習Ⅱ	2			母性看護学Ⅱ	1		
基礎看護技術演習Ⅲ	2			ウィメンズヘルスケア	1		
看護アセスメント演習	1			母性看護学実習	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1			精神看護学概論	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2			精神看護学Ⅰ	2		
在宅看護学概論	1			精神看護学Ⅱ	1		
在宅看護学Ⅰ	2			グループアプローチ	1		
在宅看護学Ⅱ	1			精神看護学実習	2		

授業科目	単位数		備考	授業科目	単位数		備考
	必修	選択			必修	選択	
統合看護学実習	3						
看護マネジメント	1						
家族看護学	1						
看護研究方法	2						
卒業演習	2						
災害・国際看護論	1						

経営学部　経営学科

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教育科目				法律入門		2	
初期演習Ⅰ	1			民法入門Ⅰ		2	
初期演習Ⅱ（経営）	1			民法入門Ⅱ		2	
経営課題演習Ⅰ	2			地域振興論		2	
経営課題演習Ⅱ	2			中小企業イノベーション論		2	
Oral Communication	2			企業の社会連携論		2	
Business English	2			公共総合基礎演習Ⅰ		2	
情報リテラシーⅠ	2			公共総合基礎演習Ⅱ		2	
情報リテラシーⅡ	2			CSR		2	
経営学入門	2			ビジネスシンキング	2		
経営組織論		2		論理と数理入門		2	
ビジネスプラン構築論		2		消費者行動論		2	
経営戦略論入門		2		デザイン思考		2	
経営環境論		2		ロジカルシンキング		2	
組織行動論		2		社会心理学		2	
会計入門	2			キャリア基礎論	2		
商業簿記Ⅰ		2		キャリアデザインⅠ		2	
商業簿記Ⅱ		2		キャリアデザインⅡ		2	
原価計算Ⅰ		2		キャリアデザイン特講Ⅰ	2		
原価計算Ⅱ		2		キャリアデザイン特講Ⅱ		2	
企業財務論		2		実践へのいざない	2		
マーケティング入門	2			インターンシップⅠ		1	※選必
マーケティングリサーチ		2		インターンシップⅡ		1	※選必
消費者思考の製品開発		2		インターンシップⅢ		1	※選必
ネットビジネス入門		2		サービスラーニングⅠ		1	※選必
クラウド入門		2		サービスラーニングⅡ		1	※選必
企業情報システム		2		サービスラーニングⅢ		1	※選必
経済学入門		2		フィールドワークⅠ		1	※選必
ヴィジュアルマーチャンダイジング		2		フィールドワークⅡ		1	※選必
パブリックマネジメント入門	2			フィールドワークⅢ		1	※選必

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
専門教育科目				グローバル製品開発論		2	※※※選必
経営管理論		2	※※選必	ブランド戦略論		2	※※※選必
流通小売論		2	※※選必	企業の投資意思決定		2	※※※選必
財務会計論Ⅰ		2	※※選必	M&Aと企業価値評価		2	※※※選必
管理会計論Ⅰ		2	※※選必	新興国企業論		2	※※※選必
経営戦略論Ⅰ		2	※※選必	パブリックマネジメント		2	※※※※選必
マーケティング戦略論		2	※※選必	産学教育連携論		2	※※※※選必
商品企画論		2	※※選必	環境マーケティング		2	※※※※選必
ビジネスモデル論		2	※※選必	公共政策論		2	※※※※選必
中小企業論		2	※※選必	地域産業論		2	※※※※選必
財務会計論Ⅱ		2	※※選必	地方財政論		2	※※※※選必
人的資源管理論		2	※※選必	市民協働参画論		2	※※※※選必
労使コミュニケーション論		2	※※選必	地域政策論		2	※※※※選必
ベンチャービジネス論		2	※※選必	情報政策論		2	※※※※選必
管理会計論Ⅱ		2	※※選必	地域ブランド論		2	※※※※選必
経営戦略論Ⅱ		2	※※選必	美容業界論		2	※※※※※選必
広告・PR論		2	※※選必	健康ヘルスケア産業論		2	※※※※※選必
サプライチェーンマネジメント		2	※※選必	ファッション・アパレル業態論		2	※※※※※選必
上級財務会計論		2	※※選必	ホテル・ホスピタリティ産業論		2	※※※※※選必
イノベーションプロセス論		2	※※選必	レジャー・エンターテインメント産業論		2	※※※※※選必
Writing		3	※※※選必	専門演習Ⅰ	2		
Reading		3	※※※選必	専門演習Ⅱ	2		
Conversation		3	※※※選必	専門演習Ⅲ	2		
Microeconomics		2	※※※選必	専門演習Ⅳ	2		
Financial Accounting		2	※※※選必	卒業研究	4		
Corporate Finance		2	※※※選必				
ビジネスライティング		2	※※※選必				
スピーチプレゼンテーション		2	※※※選必				
グローバル経営論		2	※※※選必				

※選必から2単位を必修　※※選必から12単位を必修　※※※選必から6単位を必修
※※※※選必から6単位を必修　※※※※※選必から4単位を必修

履　修　方　法　（別表第１、第２の備考）

１．卒業までに修得すべき最低単位数

学生は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から124単位（建築学科・景観建築学科は128単位、薬学科は190単位及び看護学科は127単位）以上を修得しなければならない。ただし、下記の学部、学科においては、それぞれに規定する単位を含めて修得しなければならない。なお、編入学生の履修方法については、別に定める。

文学部　日本語日本文学科

1　共通教育科目の中から16単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計４単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計２単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上

4　学科指定外国語科目の中から８単位以上

文学部　歴史文化学科

1　共通教育科目の中から16単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計４単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計２単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上

4　学科指定外国語科目の中から８単位以上

文学部　英語グローバル学科

1　共通教育科目の中から14単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計４単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計４単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から30単位以上

4　専門教育科目の中から60単位以上

教育学部　教育学科

1　共通教育科目の中から12単位以上
（ただし、次の２の共通教育科目で修得した外国語の単位を含めることができる）

2　共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から、外国語科目８単位以上（英語Ⅰ・英語Ⅱの４単位を含む）

3　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」から２単位以上を含み、『基礎教養科目群』から合計８単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

4　基礎教育科目及び専門教育科目から81単位以上

心理・社会福祉学部　心理学科

1　共通教育科目の中から６単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から８単位以上

4　専門教育科目の中から54単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

心理・社会福祉学部　社会福祉学科

1　共通教育科目の中から10単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から16単位以上

4　専門教育科目の中から46単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科

1　共通教育科目の中から８単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、「学び発見ゼミ」から合計６単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から12単位以上

4　専門教育科目の中から62単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

健康・スポーツ科学部　スポーツマネジメント学科

1　共通教育科目の中から８単位以上

2　共通教育科目「基礎教養科目群」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計６単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から12単位以上

4　専門教育科目の中から62単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

生活環境学部　生活環境学科

1　共通教育科目の中から14単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計４単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から４単位以上

4　専門教育科目の中から80単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

社会情報学部　社会情報学科

1　共通教育科目の中から16単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計４単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」、『キャリアデザイン科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から４単位以上

4　専門教育科目の中から80単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

食物栄養科学部　食物栄養学科

1　共通教育科目の中から６単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から25単位以上

4　専門教育科目の中から90単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

食物栄養科学部　食創造科学科

1　共通教育科目の中から６単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目12単位

4　専門教育科目の中から90単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

建築学部　建築学科

1　共通教育科目６単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目14単位

4　専門教育科目の中から108単位以上

建築学部　景観建築学科

1　共通教育科目６単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目16単位

4　専門教育科目の中から106単位以上

音楽学部　演奏学科

1　共通教育科目の中から14単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」（ドイツ語又はフランス語）から合計４単位以上及び「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から７単位以上

4　専門教育科目の中から80単位以上

5　上記２のドイツ語又はフランス語の４単位以上を含む学科指定外国語科目の中から８単位以上

音楽学部　応用音楽学科

1　共通教育科目の中から８単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から９単位以上

4　専門教育科目の中から80単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

薬学部　薬学科

1　共通教育科目の中から14単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）

3　基礎教育科目及び専門教育科目の中から174単位以上

4　学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部　健康生命薬科学科

1　共通教育科目の中から8単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）

3　基礎教育科目及び専門教育科目の中から116単位以上

4　学科指定外国語科目の中から8単位以上

環境共生学部　環境共生学科

1　共通教育科目の中から6単位以上

2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）

3　専門教育科目の中から108単位以上

4　学科指定外国語科目の中から8単位以上

看護学部　看護学科

1　共通教育科目の中から21単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」、『ジェンダー科目群』、『キャリアデザイン科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計5単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎（2単位・必修）」、『健康・スポーツ科目群』から合計1単位以上

3　基礎教育科目31単位

4　専門教育科目の中から75単位以上

5　学科指定外国語科目の中から8単位以上

経営学部　経営学科

1　共通教育科目の中から16単位以上

2　共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『ジェンダー科目群』、『キャリアデザイン科目群』から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー

科目」、『健康・スポーツ科目群』、『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計２単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（２単位・必修）

3　基礎教育科目の中から40単位以上

4　専門教育科目の中から50単位以上

5　学科指定外国語科目の中から８単位以上

2　教育職員免許状取得に必要な単位数

教育職員免許状を取得するためには、第27条の２に定められた要件を充足する必要がある。また、各学科において定められた履修要項に従って、必要単位を修得しなければならない。

別表第３

特別教育科目

１　ボランティア活動

ボランティア活動	（注）	選択

（注）ボランティア活動30時間に対して１単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

２　インターンシップ活動

インターンシップ活動	（注）	選択

（注）インターンシップ活動30時間に対して１単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

３　就業体験活動

就業体験活動	（注）	選択

（注）就業体験活動30時間に対して１単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

別表第４

教育職員免許状

（中学校・高等学校教諭、栄養教諭　教育職員免許法施行規則第66条の6「日本国憲法」）

免許法施行規則に定める科目	法定最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数	中一種免必修単位	高一種免必修単位	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	2	

【履修方法】

(1) その他の教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（本学では「教職基礎科目」と称する。）については、別表第1・別表第2より履修すること。

（中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」）

免許法施行規則に定める科目		左の科目に含めることが必要な事項	法定最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数	中一種免必修単位	高一種免必修単位	備考
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中8・高4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること
				国語科指導法Ⅱ	2	2	2	
				国語科指導法Ⅲ	2	2	2	
				国語科指導法Ⅳ	2	2	2	
				書道科指導法Ⅰ	2	—	2	
				書道科指導法Ⅱ	2		2	
				社会・地歴科指導法Ⅰ	2	2	—	
				社会・地歴科指導法Ⅱ	2	2	2	
				社会・地歴科指導法Ⅲ	2	2	2	
				社会・地歴科指導法Ⅳ	2	2	2	
				英語科指導法Ⅰ	2	2	2	
				英語科指導法Ⅱ	2	2	2	
				英語科指導法Ⅲ	2	2	2	
				英語科指導法Ⅳ	2	2	2	
				家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	
				家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	
				家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	
				家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	
				情報科指導法Ⅰ	2	—	2	
				情報科指導法Ⅱ	2		2	
				音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	
				音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	
				音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	
				音楽科指導法Ⅳ	2	2	2	
				理科指導法Ⅰ	2	2	2	
				理科指導法Ⅱ	2	2	2	
				理科指導法Ⅲ	2	2	2	
				理科指導法Ⅳ	2	2	2	

【履修方法】

(1)「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

（中学校・高等学校教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目		左の科目に含めることが必要な事項	法定最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数	中一種免必修単位	高一種免必修単位	備考
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	2	2	
				教育史	2			
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	2	2	
				発達心理学	2			
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程総論	2	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10・高8	道徳教育指導論	2	2	—	
		・総合的な学習の時間の指導法［中］ ・総合的な探究の時間の指導法［高］		総合的な学習の時間と特別活動	2	2	2	
		・特別活動の指導法						
		・教育の方法及び技術		教育方法の理論と実践	1	1	1	
		・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT 活用の理論と実践	1	1	1	
		・生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2	2	2	
		・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・教育実習	中5・高3	教育実習事前指導（中高）	1	1	1	
				教育実習事前事後指導(中高)	1	1	1	事前事後指導
				教育実習Ⅰ（中高）	2	2		
				教育実習Ⅱ（中高）	2	2	2	
		・教職実践演習	2	教職実践演習（中高）	2	2	2	
合計			中27・高23	計	34	30	26	

【履修方法】

(1)「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

(2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで中学校教諭30単位以上、高等学校教諭26単位以上。

(3)「教育実習事前事後指導（中高）」「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」「教職実践演習（中高）」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。

(4)「道徳教育指導論」は、高等学校教諭においては「大学が独自に設定する科目」として開設する。

(5)「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位数のうち中学校教諭27単位、高等学校教諭23単位を超えて修得した単位数を「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含めることができる。

（中学校・高等学校教諭「大学が独自に設定する科目」）

免許法施行規則に定める科目	法定最低修得単位	算入可能な科目　及び本学の開設授業科目		単位数	中一種免		高一種免		備考
					必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中4 ・ 高12	①	中学校教論：28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						いずれかの単位で、中学校教論4単位以上、高等学校教論12単位以上修得すること
			高等学校教論：24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						
		②	道徳教育指導論	2	—			2	

【履修方法】

(1)「大学が独自に設定する科目」②の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

(2) 上表の①②いずれかの単位で、中学校教論4単位以上、高等学校教論12単位以上。

(3)「道徳教育指導論」は、中学校教論においては「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設する。

（栄養教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」）

	免許法施行規則に定める科目		法定最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数	栄教一種免必修単位	備考
		左の科目に含めることが必要な事項					
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理*	2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門*	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学*	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学*	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論*	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程総論*	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	6	道徳教育指導論*	2	2	
				総合的な学習の時間と特別活動*	2	2	
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法の理論と実践*	1	1	
				ICT 活用の理論と実践*	1	1	
		・生徒指導の理論及び方法		生徒指導の理論と方法	2	2	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。） の理論及び方法		教育相談の理論と方法*	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・栄養教育実習	2	栄養教育実習事前事後指導	1	1	事前事後指導
				栄養教育実習（学校現場）	1	1	
		・教職実践演習	2	教職実践演習（栄教）	2	2	
合計			18	計	26	26	

【履修方法】

(1)「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

(2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。

(3)「栄養教育実習（学校現場）」「教職実践演習（栄教）」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。

(4) ＊の科目は、中学校・高等学校教職課程と共通開設。

別表第５

図書館司書専門教育科目

図書館法施行規則に規定する科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	必修単位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
図書館概論	2	図書館概論	2	2
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2
情報サービス論	2	情報サービス論	2	2
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2
情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	1	1
		情報サービス演習Ⅱ	1	1
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	1	1
		情報資源組織演習Ⅱ	1	1
図書館基礎特論	2	図書館基礎特論	2	4
図書館サービス特論		図書館サービス特論	2	
図書館情報資源特論		図書館情報資源特論	2	
図書・図書館史		図書・図書館史	2	
図書館実習		図書館実習	1	
図書館施設論		―		
図書館総合演習		―		
	24	計	31	26

【履修方法】

⑴　図書館司書専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

⑵　上表の「図書館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。

別表第６

学校図書館司書教諭専門教育科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	司書教諭必修
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	10	計	10	10

【履修方法】

⑴　学校図書館司書教諭専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。

⑵　上表の「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで10単位以上。

別表第７

博物館学芸員専門教育科目

博物館法施行規則に規定する科目	必　要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	必　修単　位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
博物館概論	2	博物館概論	2	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	3	博物館実習Ａ	2	2
		博物館実習Ｂ	1	1
	19	計	19	19

【履修方法】

⑴　博物館学芸員専門教育科目を履修するために必要な手続きは別に定める。

⑵　上表の「博物館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を19単位取得。

別表第８（第39条関係）

令和７年度の入学生

学部・学科＼費目			※1 入学検定料	入学金	学費（年額） 授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	935,000	229,000	―――	―――
	歴史文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	935,000	229,000	―――	―――
	英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	975,000	229,000	―――	―――
教育学部	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	269,000	―――	―――
心理・社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	259,000	―――	―――
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	259,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	299,000	※3 26,000	―――
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	299,000	※2 26,000	―――
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	310,000	―――	―――
社会情報学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,060,000	279,000	―――	―――
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	55,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	430,000	55,000	―――
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	53,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,035,000	430,000	53,000	―――
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,160,000	429,000	80,000	―――
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	―――
		2～4年次	―――	―――	1,160,000	429,000	80,000	―――
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,440,000	410,000	―――	―――
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	―――	20,000
		2～4年次	―――	―――	1,440,000	410,000	―――	―――
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	―――
		2～6年次	―――	―――	1,532,000	※3 423,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	―――
		2～4年次	―――	―――	1,170,000	399,000	160,000	―――
環境共生学部	環境共生学科	1年次	35,000	200,000	1,100,000	300,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,160,000	400,000	40,000	―――
看護学部	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,367,000	357,000	―――	―――
経営学部	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	―――	―――	1,000,000	220,000	―――	―――

※１　出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。
※２　野外実習費
※３　野外実習費　２年次のみ

令和６年度の入学生

学部・学科 ＼ 費目			※1 入学検定料	入学金	学費（年額）			
					授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	———	———
		2～4年次	———	———	935,000	229,000	———	———
	歴史文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	———	———
		2～4年次	———	———	935,000	229,000	———	———
	英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	———	———
		2～4年次	———	———	975,000	229,000	———	———
教育学部	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	269,000	———	———
心理・社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	259,000	———	———
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	259,000	———	———
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	299,000	※3 26,000	———
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	299,000	※3 26,000	———
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	310,000	———	———
社会情報学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,060,000	279,000	———	———
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	55,000	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	430,000	55,000	———
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	53,000	———
		2～4年次	———	———	1,035,000	430,000	53,000	———
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	———
		2～4年次	———	———	1,160,000	429,000	80,000	———
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	———
		2～4年次	———	———	1,160,000	429,000	80,000	———
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,440,000	410,000	———	———
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	———	20,000
		2～4年次	———	———	1,440,000	410,000	———	———
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	———
		2～6年次	———	———	1,532,000	423,000	96,000	———
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	———
		2～4年次	———	———	1,170,000	399,000	160,000	———
看護学部	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,367,000	357,000	———	———
経営学部	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	———	———
		2～4年次	———	———	1,000,000	220,000	———	———

※１　出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。
※２　野外実習費
※３　野外実習費　２年次のみ

令和５年度の入学生

学部・学科 ＼ 費目			学費（年額）			
			授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	935,000	209,000	―――	―――
	英語グローバル学科	1年次	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	975,000	209,000	―――	―――
教育学部	教育学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	249,000	―――	―――
心理・社会福祉学部	心理学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	239,000	―――	―――
	社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	239,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 26,000	―――
		2～4年次	1,035,000	279,000	※2 26,000	―――
	スポーツマネジメント学科	1年次	995,000	230,000	※1 26,000	―――
		2～4年次	1,035,000	279,000	※2 26,000	―――
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	290,000	―――	―――
社会情報学部	社会情報学科	1年次	990,000	180,000	―――	―――
		2～4年次	1,060,000	259,000	―――	―――
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	51,000	―――
		2～4年次	1,035,000	410,000	51,000	―――
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	51,000	―――
		2～4年次	1,035,000	410,000	51,000	―――
建築学部	建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	―――
		2～4年次	1,160,000	409,000	80,000	―――
	景観建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	―――
		2～4年次	1,160,000	409,000	80,000	―――
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	―――
		2～4年次	1,440,000	390,000	―――	―――
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	20,000
		2～4年次	1,440,000	390,000	―――	―――
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	―――
		2～6年次	1,532,000	403,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	―――
		2～4年次	1,170,000	379,000	160,000	―――
看護学部	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	―――	―――
		2～4年次	1,367,000	337,000	―――	―――
経営学部	経営学科	1年次	800,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	1,000,000	200,000	―――	―――

※１　野外実習費
※２　野外実習費　２年次のみ

令和４年度の入学生

学部・学科 ＼ 費目			学費（年額）			
			授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000円	200,000円	――― 円	――― 円
		2～4年次	935,000	200,000	―――	―――
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	975,000	200,000	―――	―――
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	230,000	―――	―――
教育学部	教育学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	240,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 26,000	―――
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 26,000	―――
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	―――
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	―――
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	―――
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	―――
建築学部	建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	
		2～4年次	1,160,000	400,000	80,000	―――
	景観建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	
		2～4年次	1,160,000	400,000	80,000	―――
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	―――
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	―――
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	―――
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	―――
看護学部	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	―――	―――
		2～4年次	1,367,000	328,000	―――	―――
経営学部	経営学科	1年次	800,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	1,000,000	200,000	―――	―――

※１　野外実習費
※２　野外実習費　２年次のみ

令和２～３年度の入学生

学部・学科 ＼ 費目			学費（年額）			
			授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000円	200,000円	――― 円	――― 円
		2～4年次	935,000	200,000	―――	―――
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	975,000	200,000	―――	―――
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	230,000	―――	―――
教育学部	教育学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	240,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	―――
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	―――
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	―――
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	―――
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	―――
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	―――
建築学部	建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	―――
	景観建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	―――
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	―――
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	―――
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	―――
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	―――
看護学部	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	―――	―――
		2～4年次	1,367,000	328,000	―――	―――
経営学部	経営学科	1年次	800,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	1,000,000	200,000	―――	―――

※１　野外実習費
※２　野外実習費　２年次のみ

令和元年度の入学生

学部・学科＼費目			学費（年額）			
			授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000円	200,000円	―――円	―――円
		2～4年次	935,000	200,000	―――	―――
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	―――	―――
		2～4年次	975,000	200,000	―――	―――
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	230,000	―――	―――
教育学部	教育学科	1年次	995,000	230,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	240,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	―――
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	―――
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	―――
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	―――
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	―――	―――
		2～4年次	1,035,000	250,000	―――	―――
	建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	―――
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	―――
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	―――	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	―――	―――
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	―――
		2～6年次	1,532,000	362,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	―――
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	―――
看護学部	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	―――	―――
		2～4年次	1,367,000	328,000	―――	―――

※1　野外実習費
※2　野外実習費　2年次のみ

平成30年度の入学生

学部・学科＼費目			学費（年額） 授業料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科		895,000円	200,000円	――― 円	――― 円	――― 円
	英語文化学科		895,000	200,000	―――	―――	―――
	教育学科		995,000	230,000	―――	―――	―――
	心理・社会福祉学科		995,000	230,000	―――	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科		995,000	230,000	―――	※1 20,000	―――
生活環境学部	生活環境学科		995,000	250,000	―――	―――	―――
	食物栄養学科		995,000	250,000	―――	46,000	―――
	情報メディア学科		995,000	250,000	―――	―――	―――
	建築学科		1,100,000	300,000	―――	60,000	―――
音楽学部	演奏学科		1,370,000	330,000	―――	―――	―――
	応用音楽学科		1,370,000	330,000	―――	―――	※2 20,000
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	―――	0	―――
		2~6年次	1,502,000	362,000	―――	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	―――	0	―――
		2~4年次	1,130,000	370,000	―――	160,000	―――
看護学部	看護学科		1,347,000	300,000	3,000	―――	―――

※1　野外実習費。1年次、2年次のみ
※2　1年次のみ

平成26～29年度の入学生

学部・学科＼費目			学費（年額）				
			授業料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科		895,000円	175,000円	3,000円	――― 円	――― 円
	英語文化学科		895,000	175,000	3,000	―――	―――
	教育学科		995,000	205,000	3,000	―――	―――
	心理・社会福祉学科		995,000	205,000	3,000	―――	―――
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科		995,000	205,000	3,000	※1 20,000	―――
生活環境学部	生活環境学科		995,000	225,000	3,000	―――	―――
	食物栄養学科		995,000	225,000	3,000	46,000	―――
	情報メディア学科		995,000	225,000	3,000	―――	―――
	建築学科		1,100,000	275,000	3,000	60,000	―――
音楽学部	演奏学科		1,370,000	305,000	3,000	―――	―――
	応用音楽学科		1,370,000	305,000	3,000	―――	※2 20,000
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	337,000	3,000	0	―――
		2～6年次	1,502,000	337,000	3,000	96,000	―――
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	345,000	3,000	0	―――
		2～4年次	1,130,000	345,000	3,000	160,000	―――
看護学部	看護学科		1,347,000	300,000	3,000	―――	―――

※1　野外実習費。1年次、2年次のみ
※2　1年次のみ

・看護学部看護学科は平成27年度開設

別表第９（第56条関係）

区分		金額	備考
科目等履修生	選考料	10,000円	本学卒業生は免除
	登録料	15,000円	本学卒業生は半額
	履修料	１単位　30,000円 ただし、薬学部基礎・専門教育科目のうち講義科目 １単位　60,000円 「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修料は １単位　60,000円 「薬学臨床実習」の履修料は750,000円 ［健康生命薬科学科卒業生の薬剤師国家試験受験資格取得に関する経過措置対応のため］	単位不要の場合は半額

別表第10（第57条関係）

区分		金額		備考
研究生	研究料	日本語日本文、歴史文化、英語グローバル	月額　25,000円	
		教育学部、健康・スポーツ科学部、心理・社会福祉	月額　29,000円	
		生活環境学部、食物栄養科学部	月額　29,000円	
		社会情報学部	月額　28,000円	
		建築学部	月額　32,000円	
		音楽学部	月額　39,000円	
		薬学	月額　43,000円	
		健康生命薬科	月額　32,000円	
		経営学部	月額　23,000円	

変更事項を記載した書類

１．変更の事由

令和７年４月、環境共生学部環境共生学科の設置に伴い、学則の一部を変更する。

２．変更点

（１）第５条（学部・学科及び収容定員）に環境共生学部環境共生学科の記載を加え、また、生活環境学部生活環境学科、教育学部教育学科及び健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科の定員を変更する。

（２）第５条の２（目的）、第 27 条の２（教育職員免許状）に環境共生学部環境共生学科の記載を加える。

（３）第８章の記載を令和４年１０月施行大学設置基準に対応するよう変更。

（４）附則において施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を追加する。

（５）別表第１（共通教育科目の授業科目及びその単位数）を令和７年度開設科目に変更する。

（６）別表第２（基礎教育科目及び専門教育科目）、履修方法において、環境共生学部環境共生学科の記載を加える。

（７）別表第８（入学検定料・入学金及び学費）において、環境共生学部環境共生学科の記載を加える。

３．変更の時期

令和７年４月１日

武庫川女子大学学則　変更部分の新旧対照表

新（改正後（案））

第5条　本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650
	歴史文化学科	80	—	320
	英語グローバル学科	200	3年次25	850
教育学部	教育学科	240	3年次~~25~~	~~1,010~~
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600
	社会福祉学科	70	—	280
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	~~—~~	~~720~~
	スポーツ・マネジメント学科	100	—	400
生活環境学部	生活環境学科	~~195~~	3年次20	~~820~~
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820
	食創造科学科	80	3年次5	330
建築学部	建築学科	45	—	180
	景観建築学科	40	—	160
音楽学部	演奏学科	30	—	120
	応用音楽学科	20	—	80
薬学部	薬学科	105	—	630
	健康生命薬科学科	60	—	240
環境共生学部	環境共生学科	~~120~~	—	~~480~~
看護学部	看護学科	80	—	320
経営学部	経営学科	200	—	800

（目的）

第5条の2　各学部・学科の目的は次のとおりとする。

2～11（略）

12　環境共生学部環境共生学科は、幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用して、地球環境・自然環境問題に関わる諸課題を解決する計画を立案し実践できる人材の養成を目的とする。

13　看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

14　経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

第27条の2　教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法（別表第1、第2の備考）、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3（略）

4　本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
文学部	（略）		
教育学部			
健康・スポーツ科学部			
生活環境学部			
社会情報学部			
食物栄養科学部			
音楽学部			
薬学部			
環境共生学部	環境共生学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科

旧（現行）

第5条　本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650
	歴史文化学科	80	—	320
	英語グローバル学科	200	3年次25	850
教育学部	教育学科	240	3年次40	1,040
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600
	社会福祉学科	70	—	280
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	3年次20	760
	スポーツマネジメント学科	100	—	400
生活環境学部	生活環境学科	165	3年次20	700
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820
	食創造科学科	80	3年次5	330
建築学部	建築学科	45	—	180
	景観建築学科	40	—	160
音楽学部	演奏学科	30	—	120
	応用音楽学科	20	—	80
薬学部	薬学科	105	—	630
	健康生命薬科学科	60	—	240
（新設）				
看護学部	看護学科	80	—	320
経営学部	経営学科	200	—	800

（目的）

第5条の2　各学部・学科の目的は次のとおりとする。

2～11（略）

（新設）

12　看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

13　経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

第27条の2　教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法（別表第1、第2の備考）、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3（略）

4　本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
文学部	（略）		
教育学部			
健康・スポーツ科学部			
生活環境学部			
社会情報学部			
食物栄養科学部			
音楽学部			
薬学部			
（新設）			

新（改正後（案））	旧（現行）
第8章　教育研究実施組織 （教育研究実施組織） （略） 附　則 1　この学則は、令和7年4月1日から施行する。 2　第5条に規定する教育学部教育学科の収容定員は、令和7年度は次のとおりとする。	（略） 第8章　教職員組織 （教職員組織） （略） （新設）

年度 / 学部・学科	令和7年度 収容定員
教育学部　教育学科	1,025

3　第5条に規定する健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科の収容定員は、令和7年度は次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和7年度 収容定員
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	740

4　第5条に規定する生活環境学部生活環境学科の収容定員は令和7年度から令和9年度までの間、次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和7年度 収容定員	令和8年度 収容定員	令和9年度 収容定員
生活環境学部　生活環境学科	730	760	790

5　第5条に規定する環境共生学部環境共生学科の収容定員は令和7年度から令和9年度までの間、次のとおりとする。

年度 / 学部・学科	令和7年度 収容定員	令和8年度 収容定員	令和9年度 収容定員
環境共生学部　環境共生学科	120	240	360

6　第26条第4項の規定にかかわらず、令和6年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のとおりとする。

7　第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和6年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8　第35条の規定にかかわらず、令和6年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のと おりとする。

別表第1
共通教育科目

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教養科目群 人文科学科目			
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
（削除）			
（削除）			
（削除）			
（削除）			
（削除）			
（削除）			
（削除）			
日常生活からの哲学入門		2	
現代フランスの音楽事情		2	
ミュージカル歌唱法		1	
音楽の科学		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
（削除）			
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
歌舞伎鑑賞入門		2	
日本の文化Ⅰ		2	
日本の文化Ⅱ		2	
（削除）			

別表第1
共通教育科目

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
基礎教養科目群 人文科学科目			
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
芭蕉をめぐる人々		2	
雨月物語に込められた情念		2	
芭蕉と旅		2	
「心中天網島」の女房「おさん」		2	
英語圏の文学・文化		2	
日本史の中の女性たち		2	
日本の画像文化論		2	
日常生活からの哲学入門		2	
現代フランスの音楽事情		2	
ミュージカル歌唱法		1	
音楽の科学		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
合唱表現		1	
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
歌舞伎鑑賞入門		2	
（新設）			
（新設）			
建築と歴史		2	

新（改正後（案））					旧（現行）				
遊びの人類学		2			遊びの人類学		2		
SNSから日本語を見る		2			SNSから日本語を見る		2		
英語圏の文学・文化		2			（新設）				
日本語の世界		2			日本語の世界		2		
（削除）					日本語の歴史		2		
（削除）					歴史文化トピックスⅠ		2		
（削除）					歴史文化トピックスⅡ		2		
基礎教養科目群 社会科学科目					**基礎教養科目群 社会科学科目**				
メディア技術と文字デザイン		2			メディア技術と文字デザイン		2		
（削除）					アウシュビッツ　戦争と女性		2		
現代の教育・保育事情		2			現代の教育・保育事情		2		
カウンセリングの実際		2			カウンセリングの実際		2		
実践カウンセリング		2			実践カウンセリング		2		
生涯福祉論		2			生涯福祉論		2		
社会福祉とボランティア		2			社会福祉とボランティア		2		
福祉レクリエーションの実際		2			福祉レクリエーションの実際		2		
（削除）					聴覚障害者の理解と手話言語		2		
子育てと家族関係		2			子育てと家族関係		2		
子育てと母性の気づき		2			子育てと母性の気づき		2		
現代社会と憲法		2			現代社会と憲法		2		
教養としての法律		2			（新設）				
暮らしと法律		2			（新設）				
女性と子どものヘルスケア		2			女性と子どものヘルスケア		2		
（削除）					まちづくりと地方自治の役割		2		
建築と社会		2			建築と社会		2		
消費者生活論		2			消費者生活論		2		
英語で学ぶやさしい経済学		2			英語で学ぶやさしい経済学		2		
英語で学ぶお金の知識		2			英語で学ぶお金の知識		2		
基礎教養科目群 自然科学科目					**基礎教養科目群 自然科学科目**				
（削除）					数的能力の発達過程		2		
（削除）					数や図形の科学		2		
生命科学入門		2			生命科学入門		2		
（削除）					環境問題の歴史		2		
（削除）					科学技術の歩み		2		
（削除）					生命科学の基礎		2		
生活の中の物理学		2			生活の中の物理学		2		
最先端物理学が描く宇宙		2			最先端物理学が描く宇宙		2		
（削除）					エコロジーと私たちのくらし		2		
色彩情報		2			色彩情報		2		
科学から考える衣服と生活		2			科学から考える衣服と生活		2		
（削除）					健康を支える仕組み		2		
（削除）					生活習慣と脳と心と身体の科学		2		
薬とからだ		2			薬とからだ		2		
健康生活とライフステージ		2			健康生活とライフステージ		2		
薬の歴史と未来		2			薬の歴史と未来		2		
（削除）					身近にある科学		2		
（削除）					発達障害の理解とリエゾン支援		2		
基礎教養科目群 国際理解科目					**基礎教養科目群 国際理解科目**				
音楽から見る人と世界		2			音楽から見る人と世界		2		
韓国文化の理解		2			韓国文化の理解		2		
中国文化論		2			中国文化論		2		
（削除）					韓流ブームから考える韓国文化		2		
International Perspectives Ⅰ		2			International Perspectives Ⅰ		2		
International Perspectives Ⅱ		2			International Perspectives Ⅱ		2		
（削除）					国際社会学入門		2		
（削除）					言語習得と異文化理解		2		
世界の中の日本人		2			（新設）				
基礎教養科目群 現代トピック科目					**基礎教養科目群 現代トピック科目**				
Current Affairs in Japan Ⅰ		2			（新設）				
Current Affairs in Japan Ⅱ		2			（新設）				
心理学トピックス		2			心理学トピックス		2		
現代社会と保健医療		2			現代社会と保健医療		2		

新（改正後（案））					旧（現行）				
社会福祉の学び		2			社会福祉の学び		2		
女性のためのマーケティング		2			女性のためのマーケティング		2		
スポーツツーリズムと地域創生		2			スポーツツーリズムと地域創生		2		
ジェンダー科目群					**ジェンダー科目群**				
セクシュアリティ入門Ⅰ		2			セクシュアリティ入門Ⅰ		2		
セクシュアリティ入門Ⅱ		2			セクシュアリティ入門Ⅱ		2		
女性と教育		2			女性と教育		2		
ジェンダーとアイデンティティー		2			ジェンダーとアイデンティティー		2		
ジェンダーと社会		2			（新設）				
女性の身体とセクシュアリティ		2			（新設）				
メディアに見るジェンダー		2			（新設）				
キャリアデザイン科目群					**キャリアデザイン科目群**				
（削除）					教員から見た社会人基礎力		2		
女性のためのライフプランニング		2			女性のためのライフプランニング		2		
自己アピールトレーニング		2			（新設）				
（削除）					キャリアと学び		2		
（削除）					仕事力を考える		2		
（削除）					企業の見方		2		
（削除）					卒業生が語る仕事と人生		2		
（削除）					文章表現の基礎		2		
（削除）					プレゼンテーションの基礎		2		
キャリアビジョンと人物評価		2			キャリアビジョンと人物評価		2		
（削除）					公務員の魅力		2		
（削除）					ベンチャービジネス概論		2		
ビジネスプラン構築概論		2			ビジネスプラン構築概論		2		
（削除）					就活に学ぶ		2		
（削除）					企業に学ぶSDGs		2		
（削除）					サステナビリティと地域		2		
（削除）					SOAR 人生100年をきり拓く力		2		
（削除）					キャリア基礎概論		2		
（削除）					キャリアソリューション		2		
（削除）					大学生のための文章表現入門		2		
（削除）					伝わるプレゼンテーション		2		
言語・情報科目群　言語リテラシー科目					**言語・情報科目群　言語リテラシー科目**				
English for Studying Abroad		1			English for Studying Abroad		1		
Reading & Critical Thinking		1			Reading & Critical Thinking		1		
English for Careers		1			English for Careers		1		
Reading & Discussion		1			Reading & Discussion		1		
Trends in Society		1			Trends in Society		1		
Career Workshop		1			Career Workshop		1		
Speaking & Listening Ⅰ		1			Speaking & Listening Ⅰ		1		
Speaking & Listening Ⅱ		1			Speaking & Listening Ⅱ		1		
Basics for Presentation Ⅰ		1			Basics for Presentation Ⅰ		1		
Basics for Presentation Ⅱ		1			Basics for Presentation Ⅱ		1		
Speaking & Listening Ⅲ		1			Speaking & Listening Ⅲ		1		
Successful English Discussion		1			Successful English Discussion		1		
英語コミュニケーションⅠ		2			英語コミュニケーションⅠ		2		
英語コミュニケーションⅡ		2			英語コミュニケーションⅡ		2		
英語リーディングⅠ		1			英語リーディングⅠ		1		
英語リーディングⅡ		1			英語リーディングⅡ		1		
（削除）					英語リーディングⅢ		1		
英語ライティングⅠ		1			英語ライティングⅠ		1		
英語ライティングⅡ		1			英語ライティングⅡ		1		
TOEIC演習Ⅰ		1			TOEIC演習Ⅰ		1		
TOEIC演習Ⅱ		1			TOEIC演習Ⅱ		1		
TOEIC演習Ⅲ		1			TOEIC演習Ⅲ		1		
Writing Ⅰ		1			Writing Ⅰ		1		
Writing Ⅱ		1			Writing Ⅱ		1		
Presentation		1			Presentation		1		
（削除）					Reading & Structure Ⅰ		1		
（削除）					Reading & Structure Ⅱ		1		
Current Events		1			Current Events		1		

新（改正後（案））					旧（現行）				
Leadership Development		1			Leadership Development		1		
Global Issues Ⅰ		1			Global Issues Ⅰ		1		
Global Issues Ⅱ		1			Global Issues Ⅱ		1		
留学準備演習		1			留学準備演習		1		
ドイツ語Ⅰ		2			ドイツ語Ⅰ		2		
ドイツ語Ⅱ		2			ドイツ語Ⅱ		2		
フランス語Ⅰ		2			フランス語Ⅰ		2		
フランス語Ⅱ		2			フランス語Ⅱ		2		
フランス語ⅠA		1			フランス語ⅠA		1		
フランス語ⅠB		1			フランス語ⅠB		1		
中国語Ⅰ		2			中国語Ⅰ		2		
中国語Ⅱ		2			中国語Ⅱ		2		
イタリア語ⅠA		1			イタリア語ⅠA		1		
イタリア語ⅠB		1			イタリア語ⅠB		1		
スペイン語Ⅰ		2			スペイン語Ⅰ		2		
スペイン語Ⅱ		2			スペイン語Ⅱ		2		
ハングルⅠ		2			ハングルⅠ		2		
ハングル検定演習		1			ハングル検定演習		1		
ハングルⅡ		2			ハングルⅡ		2		
特別英語演習Ⅰ		4			特別英語演習Ⅰ		4		
特別英語演習Ⅱ		4			特別英語演習Ⅱ		4		
（削除）					特別英語演習Ⅷ		2		
特別中国語演習Ⅰ		2			特別中国語演習Ⅰ		2		
特別中国語演習Ⅱ		2			特別中国語演習Ⅱ		2		
特別ハングル演習Ⅰ		4			特別ハングル演習Ⅰ		4		
特別ハングル演習Ⅱ		4			特別ハングル演習Ⅱ		4		
（削除）					海外演習Ⅰ（タイ）		1		
（削除）					海外演習Ⅱ（タイ）		2		
（削除）					海外演習Ⅰ（豪州）		1		
（削除）					海外演習Ⅱ（豪州）		2		
（削除）					海外演習Ⅰ（台湾）		1		
（削除）					海外演習Ⅱ（台湾）		2		
（削除）					海外演習Ⅰ（韓国）		1		
（削除）					海外演習Ⅱ（韓国）		2		
海外演習Ⅰ		1			（新設）				
海外演習Ⅱ		2			（新設）				
（削除）					日本語・上級Ⅰ		2		
（削除）					日本語・上級Ⅱ		2		
（削除）					日本語・上級Ⅲ		2		
（削除）					日本語・上級Ⅳ		2		
（削除）					日本語中級A		3		
（削除）					日本語中級B		3		
（削除）					日本語中級C		3		
（削除）					日本語中級D		3		
言語・情報科目群　情報リテラシー科目					**言語・情報科目群　情報リテラシー科目**				
（削除）					Accessデータベース基礎		2		
（削除）					情報社会を生きる技術		2		
Webデザイン基礎		2			Webデザイン基礎		2		
Webデザイン応用		2			Webデザイン応用		2		
（削除）					Scratchによるプログラミング		2		
グラフィックデザイン基礎		2			グラフィックデザイン基礎		2		
フォトレタッチ基礎		2			フォトレタッチ基礎		2		
データサイエンスの基礎とExcel		2			データサイエンスの基礎とExcel		2		
データサイエンスの応用とExcel		2			データサイエンスの応用とExcel		2		
データリテラシー・AIの基礎	2				データリテラシー・AIの基礎	2			
データサイエンスのためのPython		2			データサイエンスのためのPython		2		
実用的ITリテラシー		2			実用的ITリテラシー		2		
（削除）					現代社会と情報		2		
健康・スポーツ科目群　健康・スポーツ科学科目					**健康・スポーツ科目群　健康・スポーツ科学科目**				
生涯スポーツ論		2			生涯スポーツ論		2		
スポーツと現代社会		2			スポーツと現代社会		2		
知っておきたい応急処置		2			知っておきたい応急処置		2		

新(改正後(案))				旧(現行)			
(削除)				障がい者とパラスポーツ		2	
(削除)				運動と健康の科学		2	
健康・スポーツ科目群　スポーツ実技科目				**健康・スポーツ科目群　スポーツ実技科目**			
スポーツ実技(テニス)		1		(新設)			
スポーツ実技(ゴルフ)		1		スポーツ実技(ゴルフ)		1	
スポーツ実技(バレーボール)		1		スポーツ実技(バレーボール)		1	
スポーツ実技(バドミントン)		1		スポーツ実技(バドミントン)		1	
スポーツ実技(ジャズダンス)		1		スポーツ実技(ジャズダンス)		1	
スポーツ実技(水泳)		1		スポーツ実技(水泳)		1	
スポーツ実技(エアロビクス)		1		スポーツ実技(エアロビクス)		1	
スポーツ実技(軽スポーツ)		1		スポーツ実技(軽スポーツ)		1	
スポーツ実技(ヨガ)		1		スポーツ実技(ヨガ)		1	
マッサージ実習		1		マッサージ実習		1	
からだと気づきと姿勢法		1		からだと気づきと姿勢法		1	
スポーツ実技(スリムエアロ)		1		スポーツ実技(スリムエアロ)		1	
スポーツ実技(バンジーエクササイズ)		1		スポーツ実技(バンジーエクササイズ)		1	
スポーツ実技(エアリアルワーク)		1		スポーツ実技(エアリアルワーク)		1	
スポーツ実技(スタイルジャズ)		1		(新設)			
スポーツ実技(フットサル)		1		スポーツ実技(フットサル)		1	
(削除)				スポーツ実技(パラスポーツ)		1	
(削除)				**大学・初年次ゼミ 学び発見ゼミ**			
(削除)				大学 学び発見ゼミ		2	
(削除)				**単位互換協定科目**			
(削除)				現代社会と健康		2	
(削除)				西宮フィールドトリップ		2	

別表第2
基礎教育科目及び専門教育科目
(略)
環境共生学部　環境共生学科

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
専門教育科目			
初期演習Ⅰ	1		
基礎化学	2		
基礎生物学	2		
基礎環境工学	2		
情報リテラシー	2		
初期演習Ⅱ(環境共生学)	1		
生態学		2	
地球科学		2	
細胞生物学		2	
環境英語I	1		
分析化学		2	
環境微生物学		2	
高分子化学		2	
環境英語Ⅱ	1		
植物生理学		2	
生命と地球環境		1	
環境英語Ⅲ	1		
環境英語Ⅳ	1		
環境英語演習(留学プログラム)		2	
環境研究英語Ⅰ	1		
環境研究英語Ⅱ	1		
環境共生学入門(学習設計)	1		
SDGs論	2		
環境問題概論	2		
フィールド・環境施設実習	2		
エコツーリズム実習		1	
基礎実験	1.5		
データ分析・統計学	2		
ラボローテーション実習Ⅰa		1.5	

別表第2
基礎教育科目及び専門教育科目
(略)
(新設)

新（改正後（案））					旧（現行）
ラボローテーション実習Ⅰb		1.5			
ラボローテーション実習Ⅱa		1.5			
ラボローテーション実習Ⅱb		1.5			
物理学実験		1			
地学実験		1			
環境技術実験	1.5				
環境経済学		2			
環境教育論		2			
環境政策論		2			
環境教育実践		1			
世界遺産学		1			
NPO・NGO論		2			
エコツーリズム論		1			
環境イメージング技術		2			
環境放射線工学		2			
防災技術Ⅰ		2			
環境アセスメント論		2			
環境情報工学		2			
防災技術Ⅱ		2			
野生生物管理工学		2			
水質管理工学		2			
環境モニタリング		2			
毒性学		2			
合成化学		2			
環境生物有機化学		2			
環境エネルギー概論		2			
バイオマスエネルギー学		2			
物理学と環境工学		2			
資源管理学		2			
機器分析学		2			
環境エネルギー技術		2			
グリーンケミストリー		2			
資源循環工学		2			
高機能材料工学		2			
生命情報科学		2			
バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）		2			
環境レメディエーション工学		2			
環境・バイオ産業論		2			
バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）		2			
バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）		2			
生態工学		2			
バイオマス利活用工学		2			
社会連携プロジェクトⅠ	3				
社会連携プロジェクトⅡ	3				
プロジェクトコミュニケーションⅠ	3				
プロジェクトコミュニケーションⅡ	3				
卒業研究・活動	6				
履修方法（別表第1、第2の備考）					履修方法（別表第1、第2の備考）
（略）					（略）
環境共生学部　環境共生学科					（新設）
1　共通教育科目の中から6単位以上					
2　共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AI の基礎」（2単位・必修）					
3　専門教育科目の中から108単位以上					
4　学科指定外国語科目の中から8単位以上					

新（改正後（案））	旧（現行）
別表第8（第39条関係） 令和7年度の入学生	別表第8（第39条関係） （新設）

学部・学科 ＼ 費目			※1 入学検定料	入学金	学費（年額） 授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	――	――
		2～4年次	――	――	935,000	229,000	――	――
	歴史文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	――	――
		2～4年次	――	――	935,000	229,000	――	――
	英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	――	――
		2～4年次	――	――	975,000	229,000	――	――
学部	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	269,000	――	――
社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	259,000	――	――
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	259,000	――	――
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	299,000	※2 26,000	――
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	299,000	※2 26,000	――
境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	310,000	――	――
報学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,060,000	279,000	――	――
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	55,000	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	430,000	55,000	――
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	53,000	――
		2～4年次	――	――	1,035,000	430,000	53,000	――
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	――
		2～4年次	――	――	1,160,000	429,000	80,000	――
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	――
		2～4年次	――	――	1,160,000	429,000	80,000	――
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,440,000	410,000	――	――
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	――	20,000
		2～4年次	――	――	1,440,000	410,000	――	0
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	――
		2～6年次	――	――	1,532,000	※3 423,000	96,000	――
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	――
		2～4年次	――	――	1,170,000	399,000	160,000	――
生学部	環境共生学科	1年次	35,000	200,000	1,100,000	300,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,160,000	400,000	40,000	――
学部	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,367,000	357,000	――	――
学部	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	――	――
		2～4年次	――	――	1,000,000	220,000	――	――

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。
※2 野外実習費（1年次・2年次のみ）
※3 薬剤師国家試験対策費を含む

○武庫川女子大学学部教授会規程

平成２年３月26日
規程第２号
改正　平成３年４月１日
平成４年４月１日
平成５年４月１日
平成７年４月１日
平成10年４月１日
平成18年４月１日
平成19年４月１日
平成27年４月１日
令和３年４月１日

（目的）

第１条　この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

（構成）

第２条　教授会は、当該学部の教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、准教授、講師及び助教を加えることができる。

（審議事項）

第３条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（招集）

第４条　教授会は、学部長が招集し、その議長となる。学部長に事故あるとき、又は学部長が欠けたときは、学部長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を

行う。

（定足数及び議決）

第５条　教授会の定足数は、委任状の提出者を含め構成員の３分の２以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

２　休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

３　議長は、教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

（非構成員の出席）

第６条　議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

（守秘義務）

第７条　人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。

（議事録）

第８条　議事録は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室職員が作成し、学長の確認を得なければならない。ただし、前条に定める事項の議事録は公開しない。

（庶務）

第９条　教授会の庶務は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室が担当する。

（改廃）

第10条　この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

（その他）

第11条　学部長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附　則

１　この規程は、平成２年４月１日から施行する。

２　武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部教授会規程（昭和45年４月１日）は、これを廃止する。

附　則

この規程は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

武庫川女子大学　環境共生学部

設置の趣旨等を記載した書類

目　次

１．設置の趣旨及び必要性 ……P.２
２．学部・学科等の特色 ……P.６
３．学部・学科等の名称及び学位の名称 ……P.７
４．教育課程の編成の考え方及び特色 ……P.８
５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件 ……P.１３
６．多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で
　履修させる場合の具体的計画 ……P.１５
７．実習の具体的計画 ……P.１６
８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の
　学外実習を実施する場合の具体的計画 ……P.１９
９．取得可能な資格 ……P.２０
１０．入学者選抜の概要 ……P.２０
１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 ……P.２２
１２．研究の実施についての考え方，体制，取組 ……P.２７
１３．施設，設備等の整備計画 ……P.２８
１４．管理運営 ……P.３１
１５．自己点検・評価 ……P.３３
１６．情報の公表 ……P.３４
１７．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 ……P.３６
１８．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 ……P.３９

設置の趣旨等を記載した書類

１．設置の趣旨及び必要性

(1)設置の理由及び必要性について

この度、**令和７年４月に兵庫県西宮市の武庫川女子大学浜甲子園キャンパスに「環境共生学部環境共生学科」（入学定員 120 人）を設置する。**

人類が加速度的に発展を続ける中で、これまでの人類社会活動が原因とみられる地球規模での気候変動等が年々脅威を増しており、地球温暖化や海面上昇、生物種の消失、自然災害の激甚化、気候難民の発生など、地球環境とそこに暮らす生命に明確な影響を及ぼしつつある。このような環境問題は大きく複雑な要素からなり、解決には長期的かつ多肢にわたる取り組みが必要となる人類の課題である。平成 27 年の国連サミットで、持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、令和 6 年現在広く共有されている例にみられるように、環境問題の提起や課題解決に向けての活動は、近年まで国際機関、政府機関、非営利機関が中心となって行われてきた。一方で、平成 27 年のパリ協定採択、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）発足を下敷きにして令和 3 年に発足した自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)に象徴されるように、営利団体である企業等の経営においても、長期的な持続可能性あるいはサステナビリティの観点から事業を行う取り組みが本格化し、国際ルールの急激な変化が起こりつつある。このようにビジネス分野においても環境問題は 1 人 1 人が自分ごととして理解し行動するべき事項であると共に、自然科学的な見地と社会科学的な見地の両面から高次の判断が必要とされる場面が増加している状況であり、それに応えることができる高度人材の育成には大きな需要が発生している。

本国においては、女性活躍の場を求める中での理工系女子の不足が課題となっている。コミュニケーション能力、問題発見、問題解決力を持った人材が求められていることを踏まえ、デジタル分野やグリーン分野の理工系女子の確保に貢献すべく調査を行ったところ、武庫川女子大学（以下、本学という）の特徴を活かした環境分野での新たな学部展開の可能性を見出した。

本学は平成 20 年 5 月、「武庫川女子大学環境宣言」を発表し、省エネルギーや防災、地球環境について考えるシンポジウムの開催、全学をあげた地球環境保全活動に積極的に取り組んできた。本学が位置する西宮市は大阪、神戸の大都市の近郊に位置し関西圏の流通の要衝でありながら、自然環境にもアクセスしやすいため、環境問題を身近なものとして捉えることができるという優位性がある。環境保全、自然共生システムの構築、環境資源応用を軸とし、環境・グリーン分野で専門性を備え、社会に貢献できる人材の育成を目指し、「環境共生学部環境共生学科」（以下、本学部という）の設置を計画した。

(2)養成する人材像

本学部では、複雑な要素からなる地球環境・自然環境に関わる諸課題に対して、独自に問題点や課題を見つけ出し、システム改善や技術開発の契機とする。幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用し、それら諸課題を解決する計画立案力・実践力を備えた人材を養成する。

体験や問題意識を出発点とし、生物学や化学などを基礎として、工学的方法論を集結する。総合的・能動的に自然環境や身近な環境における諸課題を工学的に解決する方法を探究する学習を通じて、グリーンイノベーションに貢献できる能力を習得させる。その学びの過程で、自然環境との共生を目指し他者と共業する態度・志向性も身につけさせる。

製造業・建設業をはじめ幅広い業種において、環境科学を中心とする工学系素養及び協働・共業に対する深い洞察力に裏付けられた課題解決力を活用する。環境関連の課題はもとより、より一般的に組織やシステムの持続性の課題を発見し、業務効率改善や組織最適化の促進、持続的改善ができる技術系人材としての活躍が考えられる。特に専門性を活用できる例として次の進路、職種が挙げられる。環境系技術者・調査員・研究者、環境・サステナビリティコンサルタント、応用化学系・バイオ系研究・技術者、環境ビジネス従事者・企業での SDGs 推進担当、エコツアープランナー、自然史博物館学芸員、公務員（国家・地方)、中学校・高等学校教諭（理科）などである。

(3)環境共生学部の３つのポリシー

本学の立学の精神には「高い知性、善美な情操、高雅な徳性」を兼ね具えた有為な女性の育成が謳われている。また、学修者本位の教育へとパラダイムシフトをはかるため、人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」を策定した。MUKOGAWA COMPASS は、個人を形成する要素を知識、姿勢、行動に 3 分類し、それぞれに紐づく 8 つの資質・能力を定め、本学が目指す人材像と本学の教育で身に付く力を明示している。

[MUKOGAWA COMPASS]

・多様化・複雑化する社会を理解する力（知識）
・“生きること”につながる専門性（知識）
・自他を尊重する姿勢（姿勢）
・失敗を恐れず挑戦する姿勢（姿勢）
・逆境や困難に対応するしなやかな姿勢（姿勢）
・論理的に考え伝える力（行動）
・新たな価値を創造する力（行動）
・多様な人々と協働する力（行動）

本学部では、これらに基づき、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを以下のとおり定める。

・卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目及び専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（環境共生学）の学位を授与します。

1【知識】

1-1　生物機能の分子レベルでの理解に基づいて、物質生産・環境修復などのデザイン・設計に応用するための知識を有している。

1-2　化学物質の特性やエネルギー変換等の理解に基づいて、エネルギー・資源・化学物質の利用に応用するための知識を有している。

1-3　自然環境や人工物を構成する基盤的な要素（地球科学、生物多様性、建造物など）の理解に基づいて、環境の管理や生態系のデザインに応用するための知識を有している。

1-4　サステナブルな環境共生社会の実現に向けた、世の中の動きや仕組み、生態系を含む地域環境と社会活動の関係性を理解し、ソーシャルデザインを行うための知識を有している。

2【姿勢】

2-1　社会が抱える様々な環境問題から解決すべき課題を抽出し、失敗を恐れず様々な工学的アプローチからの論理的な解決策を思考・提案する姿勢を備えている。

2-2　社会の課題に取り組む基盤として、豊かな人間性を身につけ、多様な志向性や価値観を持つ他者を理解・尊重する姿勢を備えている。

2-3　環境問題の複雑性や利害関係等の困難に対しても、多様な観点から課題を設定し、柔軟かつ継続的に課題解決に取り組む姿勢を備えている。

3【行動】

3-1　生物機能、化学的・物理的性質などの観測・計測を適切な手法で行い、その結果を分析評価することができる。

3-2　環境の現状や変化の推移を適切な手法を用いて測定し、その結果を定性的・定量的に評価することができる。

3-3　様々な事象を定量的・論理的に解析し、その結果を科学的根拠に基づいてわかりやすく表現するコミュニケーション能力・プレゼンテーション技術を有している。

3-4　サステナブルな環境共生社会の実現に必要な地球環境の多様性を認識し、他者へ主体的に働きかけを行うことで、その保全や課題解決に向けての新たな価値を創造する力を備えている。

3-5　サステナビリティへの志向性・価値観の異なる他者への働きかけも含むチームワーク・科学に基づく知識・技能・思考判断力、工学的課題解決法、及び積み重なる経験を相互に結びつけ、洗練・一般化し、より高いレベルで社会の諸課題の解決に向かって多様な人々と協働することができる。

・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

体験や問題意識を出発点とした課題発見・課題解決能力の養成のために、環境管理技術、生物工学、エネルギー・資源・化学物質の利用、ソーシャルデザインなどの、実用・応用を見据えた科目群を、自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める能力を習得させる。定期的なフィードバックにより、卒業後の進路の志を固めながら、目標を持った科目履修を行えるよう指導する。また、一連の課題解決型学習として、１年次のフィールド・環境施設実習、1年次後期から3年次前期にかけて継続的に行う社会連携プロジェクト（演習）、4年次の卒業研究・活動等を通じて、経験知を出発点とした課題発見・課題解決思考能力の養成を、1年次の基礎実験、2年次のラボローテーション実習、3年次の環境技術実験、4年次の卒業研究・活動などにより、課題解決実行力の養成を行う。

・入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科は、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシーを理解したうえで、本学部のカリキュラム・ポリシーに則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受け入れます。

【知識】社会を理解し、環境共生学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。具体的には自然科学に基づく生物学や化学などの理解力、様々な事象を定量的・確率的に表す数学的能力、国語や英語のようなコミュニケーションや論理的思考の基本となる能力を有している。

【姿勢】自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦する姿勢を有している。異なる学問分野の考え方を組み合わせるなどの柔軟な思考力や、自身の興味がある分野の高い専門性と技術を身につけて、自然環境の利用や保全に関する計画・デザインを行うことで、持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲を有している。

【行動】自ら考えて表現すること、多様な人々と共働することへの意欲を有している。社会が抱える環境問題などの課題に目を向け、課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲を有している。

これらの３つのポリシーに基づく体系的な教育を実施することで、「問題点や課題発見力と課題解決力」「幅広い視野・教養・科学的知見」「分析思考力」「経験知」「他者との共感力」を持った人材像を養成する。3 つのポリシーの各項目との相関及び整合性については、資料 1 に記載のとおりである。

【資料１：人材像と３つのポリシーとの相関図】

(4)研究対象とする中心的な学問分野

本学部で研究対象とする中心的な学問分野は総合科学の要素が強い「環境科学」及び課題解決の手段につながる「環境工学」「生物工学」「応用化学」等から構成されている。またそれらの周辺関連領域として「生態学」「細胞生物学」「微生物学」「生理学」「有機化学」「分析化学」「生物物理学」「地理学」「環境経済学」等がある。

２．学部・学科等の特色

環境問題を代表とする社会の複雑な問題の解決に貢献できる人材を育成するため、本学部の教育課程は以下のような点を特色とする。

１．文理の学問分野にとらわれない学びの領域

環境問題に代表されるような現実の課題を発見し、その解決策を考えるためには、自然科学の法則等に基づく知識・理解や技術を適切に利活用するだけでなく、多様な利害関係者の立場を理解し、合意を得ながら活動を進めるといった能力も重要である。そこで、ソーシャルデザインに関する科目、環境管理技術に関する科目、バイオテクノロジー・資源利用に関する科目などの科目群を、課題発見・課題解決能力と結びつくように自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める能力を習得させる。これを達成するために、定期的なフィードバックにより、卒業後の進路の志を固めながら、目標を持った科目履修を行う。環境科学とその周辺の学問は膨大であるため、やみくもに全ての科目の内容を習得するのではなく、各自の志向に基づいて必要な基礎・応用科目を修め、各学問や項目間のつながりを十分に考えて活用できるよう、演習等で考える機会を多く作り各自で確固とした思考回路を形成する学習を行う。また必要に応じて助力を求め、強いチーム形成に貢献できる態度と行動も身につける。

２．体験を起点とした学習の展開

自然環境を体験するフィールドとして、本学の名塩野外活動センターをはじめ、甲子園浜、武庫川河川等を様々な場面を活用する。実習等での経験を、自らの課題を認識する機会として学習し、得られた成果を外部に発信するといった「冒険」→「発見」→「学び」→「発信」の一連の流れを形成しやすいようにカリキュラムを工夫する。具体的には、1 年次のフィー

ルド・環境施設実習、1 年次後期から 3 年次前期にかけて継続的に行う社会連携プロジェクト（演習)、4 年次の卒業研究・活動等を通じて、経験知を出発点とした課題発見・課題解決思考能力を養成する。また、1 年次の基礎実験、2 年次のラボローテーション実習、3 年次の環境技術実験、4 年次の卒業研究・活動では、課題解決実行力を養成する。課題解決の思考プロセスにおいては、自然科学や環境工学、ソーシャルデザインの専門知識を活用し、不足する部分を補うトレーニングを行う。このような一連の流れを実感できる学習サイクルを習慣化することによって、専門性を備えた課題解決力で社会に貢献できる人材、またそれを持続的に発展していくことができる人材を養成する。

３．自らが社会の一部であることの継続的意識

環境施設実習や社会連携プロジェクト科目においては、学外の企業・組織の訪問や、プロジェクト内容に関する相談等を行うことで、学外の組織や企業とのコミュニケーションを継続する。また、日々の演習や講義においては、自らが社会の利害関係者であると想定し、その立場になり考える機会を多く設定する。これらを通して、自らが社会の一員であり、社会での活動へ向けた意識を継続的に形成する。

学院の「立学の精神」及び人材育成方針に則り、本学部では多様な学問を習得する。環境問題を中心とする各基礎科目・専門科目の修得、実習での課題発見や解決策の試行錯誤等を通して、複雑化する社会を理解し、多様な他者と共働する力、しなやかな姿勢を身につけ、新たな価値観を創造する力をもって社会に貢献できる有為な人材を養成する。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

(1)学部・学科の名称

【学部名称】環境共生学部　School of Environment and Sustainability
【学科名称】環境共生学科　Department of Environment and Sustainability

総合科学である環境科学を中心に課題解決につながる各学問を修め、持続可能な開発や発展を目指して様々な立場にある人々と協働し活動を進める能力を備えた人材育成を目的として「環境共生学部環境共生学科」とする。

学部学科の英語名称について、「環境」については一般的な単語“Environment”を採用する。また「共生」については生物学の専門用語“Symbiosis”があるが、教育課程をより的確に表すために、環境・社会・経済の 3 つの観点から世の中を持続可能にしていく概念である“Sustainability”を「共生」の訳として採用し“School of Environment and Sustainability”及び“Department of Environment and Sustainability”とする。日本国内では、神戸大学国際人間科学部環境共生学科が学科の英語名称として Department of Environment and Sustainability

を用いている他、米国ニューヨーク州にある University at Buffalo では Department of Environment and Sustainability、同じくミシガン州の University of Michigan には School for Environment and Sustainability が存在し、国際的にも通用性があるといえる。

(2)学位に付記する専攻分野の名称

【学位名称】学士（環境共生学） Bachelor of Environment and Sustainability

学位の名称は、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるために、本学では学科の名称と連動させている。従って学位の名称は「学士（環境共生学)」、英語名称は“Bachelor of Environment and Sustainability”とする。日本国内では、神戸大学国際人間科学部環境共生学科で学位名称として Environment and Sustainability (Bachelor)を用いている他、米国ニューヨーク州にある University at Buffalo には The Bachelor of Arts Degree (BA) in Environmental Sustainability、オーストラリアにある Australian National University には Bachelor of Environment and Sustainability、カナダの The University of British Columbia には BA Environment & Sustainability、University of Southern Queensland には Bachelor of Science (Environment & Sustainability) の学位が存在し、国際的にも通用性があるといえる。

4．教育課程の編成の考え方及び特色

(1)教育課程編成の基本方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では、本学が掲げる立学の精神、人材育成方針に則り、環境共生学部の養成する人材像、ディプロマ・ポリシーによって定めた資質・能力を有する人材育成が、卒業時に達成できるよう、教育課程を編成する。そのためのカリキュラム・ポリシーを次のとおり策定する。

[カリキュラム・ポリシー]

体験や問題意識を出発点とした課題発見・課題解決能力の養成のために、環境管理技術、生物工学、エネルギー・資源・化学物質の利用、ソーシャルデザインなどの、実用・応用を見据えた科目群を、自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める能力を習得させる。定期的なフィードバックにより、卒業後の進路の志を固めながら、目標を持った科目履修を行う。また、一連の課題解決型学習として、1 年次のフィールド・環境施設実習、1 年次後期から 3 年次前期にかけて継続的に行う社会連携プロジェクト（演習)、4 年次の卒業研究・活動等を通じて、経験知を出発点とした課題発見・課題解決思考能力の養成を、1 年次の基礎実験、2 年次のラボローテーション実習、3 年次の環境技術実験、4 年次の卒業研究・活動などにより、課題解決実行力の養成を行う。

(2)科目区分の設定及びその理由、各科目区分の科目構成とその理由

本学部のカリキュラム・ポリシーは上記のとおりだが、開講科目を大きく分けて「共通教育科目」、「専門教育科目」に分け、「専門教育科目」は環境共生学に関する専門的学修の基礎を固める科目群、専門的知識・技能を順次的に高めていく科目群として位置づける。

①共通教育科目

「共通教育科目」は、全ての学部・学科の学生が自由に選択できる。歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の習得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立をめざしている。以下に示された5つの教育目標(MW 教養コア）の理念のもと、「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」などの科目群で構成される。

共通教育理念「MW 教養コア」

1. 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
2. 心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
3. ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
4. 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
5. 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の修得

さらに「基礎教養科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」は下表のとおり細分化されている。

①基礎教養科目群	人文科学科目
	社会科学科目
	自然科学科目
	国際理解科目
	現代トピック科目
②ジェンダー科目群	
③キャリアデザイン科目群	
④言語・情報科目群	言語リテラシー科目
	情報リテラシー科目
⑤健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目
	スポーツ実技科目

なお、共通教育科目については、「データリテラシー・AI の基礎」を除き、すべて選択科目であり、本学部では共通教育科目を6単位以上修得することを卒業要件としている。

②専門教育科目

本学部では「冒険」→「発見」→「学び」→「発信」のサイクルを通して学生が自らの課

題や目標を設定し、環境問題をはじめとする社会課題の解決力養成に繋げる意識を持って、専門性を高めながら学習を進めていく。これに沿うように「専門教育科目」では、「各自の興味関心を育み、またそれらに基づく意欲を持って学習する」「各科目や学問分野のつながりを考え体系的に理解する」「知識やアイデアの交換・共有などにおいて他者と協働する」などの観点から継続的にアクティブな学習ができるように各科目を配置する。この目標のため、学部低学年から環境・社会・自然科学に親しむ実習・演習科目を開始し、グループワークなどの協働を伴う演習科目も継続的に配置する。また実習・演習科目と平行して、講義科目としては 1 年次には環境工学・生物学・化学の基礎を SGDs や環境問題と関連付けながら学び、社会の課題と理工系の基礎素養及びそれらの関係の枠組みを理解するための一連の科目を配置する。これらに加えて、様々な事象の定量的理解の基盤として 1 年次にデータリテラシー、確率・統計関連科目を、国際的コミュニケーションの基盤として 2 年次、3 年次、4 年次に英語科目を配置する（1 年次には共通教育科目の言語リテラシー科目の履修を推奨する）。2 年次、3 年次も自然科学系の基礎科目を配置する。また課題解決力に直結する工学的専門性の高い科目群（後述のサブ区分「ソーシャルデザイン」「環境管理技術」「エネルギー・資源・化学物質の利用」「生物工学」に関して、1・2 年次には、専門性への入門となるより基幹的な科目を配当し、3 年次・4 年次にはより社会での実践との関連が強い応用的・発展的科目を配当している。ただし環境科学関連の学問は広範であることや、演習科目を進める中で学習設計を見直すなどの変更の可能性も考え、1 年次後期以降の学習順序は必ずしも配当学年順に限らずとも良く、高学年時に低学年開講科目を履修するなどのパターンも想定している。

「専門教育科目」の科目群を科目の性質によって下の A~H の 7 つのサブ区分に分類する。

A「基礎科目」

課題解決の実践に直結するような科目群を学ぶための前提知識や基礎理解として、自然科学系の科目を設定する。また、学科における学習活動や、学習過程での情報調査や情報処理を円滑に行うための基盤となる科目として初期演習、語学科目、情報リテラシー科目を設定する。配当年次について 1 年次は「基礎生物学」「基礎環境工学」「基礎化学」「情報リテラシー」「初期演習Ⅰ」「細胞生物学」「生態学」「地球科学」「初期演習Ⅱ（環境共生学）」の 9 科目（16 単位）、2 年次は「環境微生物学」「高分子化学」「分析化学」「植物生理学」「生命と地球環境」「環境英語Ⅰ」「環境英語Ⅱ」の 7 科目（11 単位）、3 年次は「環境英語Ⅲ」「環境英語Ⅳ」「環境英語演習」の 3 科目（4 単位）、4 年次は「環境研究英語Ⅰ」「環境研究英語Ⅱ」の 2 科目（2 単位）の計 21 科目（33 単位）である。このうち必修科目は「基礎生物学」「基礎環境工学」「基礎化学」「情報リテラシー」「初期演習Ⅰ」「初期演習Ⅱ（環境共生学）」「環境英語Ⅰ」「環境英語Ⅱ」「環境英語Ⅲ」「環境英語Ⅳ」「環境研究英語Ⅰ」「環境研究英語Ⅱ」の 12 科目（16 単位）である。また、TOEIC のスコアに応じて 2〜8 単位を認定する。

B「問題・課題の認識」

環境問題をはじめとする社会の問題や課題に関して、学生各自が時には強い印象を伴って体験し、課題や解決策を深く考え関連する学問を学び始める礎とすることを目的として、現代社会の問題・課題や目標の理解、自然環境や環境施設訪問の体験、及び学習設計を行う科目群を設定する。1 年次に「環境共生学入門（学習設計）」「SDGs 論」「環境問題概論」「フィールド・環境施設実習」の 4 科目（7 単位）を設定する。すべてを必修科目とする。

C「体験・技術習得」

大学近郊の地域社会を体験し社会連携に活かすためのエコツーリズム関連科目を設定する。また、専門知識を実践的なものとするために欠かせない、データ等の分析・解析法、自然科学、環境化学関連の実験法、研究室での基本的研究活動サイクルなどに関する演習・実習科目を設定する。配当年次について 1 年次は「基礎実験」「データ分析・統計学」「エコツーリズム実習」の 3 科目（4.5 単位）、2 年次は「ラボローテーション実習Ⅰa」「ラボローテーション実習Ⅰb」「ラボローテーション実習Ⅱa」「ラボローテーション実習Ⅱb」「物理学実験」「地学実験」の 6 科目（8 単位）、3 年次は「環境技術実験」の 1 科目（1.5 単位）の計 10 科目（14 単位）である。このうち必修科目は「基礎実験」「データ分析・統計学」「環境技術実験」の 3 科目（5 単位）、選択必修科目は「ラボローテーション実習Ⅰa」「ラボローテーション実習Ⅰb」から 1 科目（1.5 単位）「ラボローテーション実習Ⅱa」「ラボローテーション実習Ⅱb」から 1 科目（1.5 単位）である。

D「ソーシャルデザイン」

環境問題のような、地球上すべての人間が関係者であり、かつ複雑な利害関係が存在する問題を正確に認識し、その解決法を考えていくためには、ソーシャルデザインに関する能力が重要である。そこで、社会における政策、経済活動、教育等の社会活動の計画に繋がる基礎となるような、環境政策、環境経済学、環境教育に関する各科目を設定する。配当年次について 1 年次は「環境経済学」の 1 科目（2 単位）、2 年次は「環境教育論」「環境政策論」の 2 科目（4 単位）、3 年次は「環境教育実践」「世界遺産学」「NPO・NGO 論」「エコツーリズム論」の 4 科目（5 単位）の計 7 科目（11 単位）である。すべてを選択科目とする。

E「環境管理技術」

水質、大気、土壌、生態系などの自然環境や生物の現状や変化を計測・評価し、適切に管理する、あるいは防災に繋げるための専門知識を修め、実践の基礎となるような各専門科目を設定する。配当年次について 2 年次は「環境イメージング技術」「環境放射線工学」「防災技術Ⅰ」「環境アセスメント論」「環境情報工学」の 5 科目（10 単位）、3 年次は「防災技術Ⅱ」「野生生物管理工学」「水質管理工学」「環境モニタリング」「毒性学」の 5 科目（10 単位）の計 10 科目（20 単位）である。すべてを選択科目とする。

F「エネルギー・資源・化学物質の利用」

現在の人類の繁栄の基盤となっているテクノロジーであると同時に、環境問題の主要な原因ともなっていると考えられる、エネルギーや資源、化学物質の利用に関して、科学に基

づく的確な理解を行うための各専門科目を設定する。配当年次について 1 年次は「合成化学」の 1 科目（2 単位)、2 年次は「環境生物有機化学」「環境エネルギー概論」「バイオマスエネルギー学」「物理学と環境工学」「資源管理学」「機器分析学」の 6 科目（12 単位)、3 年次は「環境エネルギー技術」「グリーンケミストリー」「資源循環工学」「高機能材料工学」の 4 科目（8 単位）の計 11 科目（22 単位）である。すべてを選択科目とする。

G「生物工学」

燃料や食料などの生産、環境汚染物質の分解・環境の保全や修復などに有用であり、近年発展が著しく実用化が進みつつある領域を多数含むテクノロジーである、生物工学に関する一連の専門科目を設定する。配当年次について 1 年次は「生命情報科学」の 1 科目（2 単位)、2 年次は「バイオテクノロジーⅠ（分子生物学)」「環境レメディエーション工学」「環境・バイオ産業論」「バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学)」「バイオテクノロジーⅢ（細胞工学)」の 5 科目（10 単位)、3 年次は「生態工学」「バイオマス利活用工学」の 2 科目（4 単位）の計 8 科目（16 単位）である。すべてを選択科目とする。

H「研究・プロジェクト」

「冒険」→「発見」→「学び」→「発信」の一連の学習サイクルを通して課題解決力を身につける目的で、社会連携プロジェクトや研究室での研究活動を行う研究・プロジェクト科目を設定する。配当年次について 1 年次は「社会連携プロジェクトⅠ」の 1 科目（3 単位)、2 年次は「社会連携プロジェクトⅡ」「プロジェクトコミュニケーションⅠ」の 2 科目（6 単位)、3 年次は「プロジェクトコミュニケーションⅡ」の 1 科目（3 単位)、4 年次は「卒業研究・活動」の 1 科目（6 単位）の計 5 科目（18 単位）である。すべてを必修科目とする。

(3)主要授業科目について

本学部の教育で重視する、経験知・分析的思考・システム思考・他者との協働などをリンクし総合的な課題解決力を習得する（ディプロマ・ポリシー2-1、2-2、3-4、3-5 に対応）ための中心的な科目群に位置付けられる専門教育科目のサブ区分のうち、「問題・課題の認識」及び「研究・プロジェクト」の全科目を主要授業科目とする。また、「体験・技術習得」のうち生物機能、化学的・物理的性質、環境計測やデータ解析の技能や表現の習得（ディプロマ・ポリシー3-1, 3-2, 3-3 に対応）と特に関連する、基礎実験、環境技術実験、データ分析・統計学、ラボローテーション実習（Ⅰa, Ⅰb, Ⅱa, Ⅱb）を主要授業科目とする。環境科学は総合科学であり多様な学問から形成され、本学部で設定する講義科目群も多彩な学問領域を含んでいる。そこで、サブ区分の各科目の中から特に生物機能、エネルギーや化学物質の利用、ソーシャルデザインの知識・理解の習得（ディプロマ・ポリシー1 に対応）との関連性が大きく、重要性も高いと考えられる各科目、及び情報収集や情報処理、コミュニケーション能力習得の基盤となる外国語科目と情報リテラシー科目を主要授業科目とする。具体的には「基礎科目」のうち基礎化学、基礎生物学、基礎環境工学、情報リテラシー、初期演習Ⅰ、初期演習Ⅱ（環境共生学)、環境英語Ⅰ、環境英語Ⅱ、環境英語Ⅲ、環境英語Ⅳ、環境

研究英語Ⅰ、環境研究英語Ⅱを、「ソーシャルデザイン」のうち環境教育論、環境政策論を、「環境管理技術」のうち環境イメージング技術、防災技術Ⅰ、防災技術Ⅱ、環境情報工学、水質管理工学、環境モニタリングを、「エネルギー・資源・化学物質の利用」のうち環境生物有機化学、環境エネルギー概論、バイオマスエネルギー学、資源循環工学、高機能材料工学を、「生物工学」のうち生命情報科学、バイオテクノロジーⅠ（分子生物学)、バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学)、バイオテクノロジーⅢ（細胞工学)、環境レメディエーション工学、生態工学、バイオマス利活用工学を主要授業科目とする。

(4)単位時間数、一年間の授業期間、各授業科目の授業期間について

各講義科目については、授業による教育効果と時間外学修を考慮して、15時間を一単位とする。演習科目については、授業時間での活動及び授業時間外での調査や準備を考慮して、30時間を一単位とする。実験・実習科目については、主に授業時間での活動や記録を行うことを考慮して、45時間を一単位とする。

授業期間は前期（4月から7月）及び後期（9月から2月）とし、大部分の科目をこの期間内に実施する。なお、選択科目のうち一部の科目（7科目）を集中講義とし、前期・後期の授業期間内、あるいは授業期間外に設定するが、他科目と重複しない日時や定期試験後の期間に配当学年や時期を分散させて設定している。

【資料２：カリキュラムツリー】

【資料３：カリキュラムマップ】

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

(1)授業内容に応じた授業の方法、学生数、配当年次の設定について

① クラス担任制

本学では全学的に、クラス担任制を採っており、本学部では、入学定員 120 人に対して、3 クラス（1 クラス 40 人）で編成し、それぞれに基幹教員 1 人（計 3 人）を担任として配当する。担任は、履修指導や生活指導等のサポートに加え、「初期演習Ⅰ」(1 年前期、必修 1 単位）と「初期演習Ⅱ（環境共生学)」(1 年後期、必修 1 単位）の授業科目を担当する。

② 授業の方法、受講人数、配当年次

本学部の授業は、講義、演習、実験・実習の方法によって行う。「共通教育科目」については、学部・学科・学年を超えて履修できるシステムで科目ごとに履修定員を設定しているため、本学部を含む全学部・学科の履修希望者と一緒に受講する。「専門教育科目」の授業については、原則として、講義科目は学年単位、演習・実験・実習科目はクラス単位の時間割（標準時間割制）を編成し実施する予定である。

授業科目の配当年次は、学習内容の順次性に配慮し、概説・入門の性質を帯びる科目を学

部低学年に、専門性や抽象度の高い科目を学部高学年に配当する。先修条件を付すことはしないが、原則として配当された学年の授業科目を履修することとしている。

③ 履修指導

本学の履修指導は、入学時にオリエンテーションを実施し、また初期演習を通じて、履修指導、学習設計指導を行う。さらに 2 年次以降においても、前期及び後期の授業開始日までに、ガイダンスを実施している。教員のオフィスアワーは、全学生に周知されており、この時間を活用して必要な学生への個別指導や助言を行っている。学生への個別指導などの中心的な役割は担任が担っている。また、学生への履修指導等においては、事務局関連部局とも密接な連携を図って、学生が無理なく卒業できるように配慮した履修計画を実現している。

加えて学生が履修登録した科目のうち、卒業非算入科目を除く科目の成績の平均を数値で表した GPA（Grade Point Average）を算出し、学生自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習への取り組みに役立つようにしている。

なお本学では、効果的な学修を達成するための方策として、履修規程で授業出席ならびに定期試験の成績評価対象資格について、次のとおり規定し、日々の勉学の重要性を徹底させている。

・授業出席

「講義・演習においては、毎回出席、欠席、遅刻、早退の調査を受けなければならない」と規定し、学生の授業への出席を義務づけ、全ての授業において厳格な出席確認を実施している。

・定期試験の成績評価対象資格

前期・後期の定期試験を受けるための成績評価対象資格について、「週 1 回の各期 15 回の開講科目では、その欠席回数が 4 回以下の者のみ成績評価対象資格を与える」と規定しており、受講（履修）科目で 4 回を超える欠席があった者は、当該科目の定期試験は受験できない。

(2)卒業要件

卒業の要件は、4 年以上在学し、共通教育科目、専門教育科目から、卒業要件単位を修得し、その合計が 124 単位以上でなければならない。

共通教育科目	6 単位以上（必修科目 1 単位、選択科目 5 単位以上）
専門教育科目	108 単位以上（必修科目 46 単位、選択必修科目 3 単位以上、選択科目 59 単位以上）
卒業必要単位数	124 単位以上

また、外国語科目から合計 8 単位以上を含めて修得することとし、TOEIC のスコアに応じて単位（2～8 単位）を専門教育科目として認定する。なお専門教育科目のうち、ラボロ

ーテーション実習Ⅰａとラボローテーション実習Ⅰｂから１科目、ラボローテーション実習Ⅱａとラボローテーション実習Ⅱｂから１科目をそれぞれ選択必修とする。学生各自の興味関心や卒業後の進路希望に対応した科目を選択し、履修モデルに沿って 4 年間の学びを自ら設計する。例えば、水質管理工学や環境モニタリング等の環境管理技術とそれらの基礎となる化学、生物学、情報分析、地球科学関連科目を学び環境分析技術者を目指す学生、データ分析、ソーシャルデザイン、エネルギー関連技術、生物工学等を学び環境コンサルタントを目指す学生、教職課程を履修して中学・高等学校教員を目指す学生、大学院進学を視野に入れながら高度な研究技法を習得しようとする学生、環境科学をはじめ幅広い教養と協働、協業力を身につけて製造業を代表とする一般企業への就職を目指す学生、エネルギー、化学物質、生物工学など自然科学系の学問とソーシャルデザインを習得し環境ジャーナリストを目指す学生などである。「環境共生学入門」で全学生が学習設計を行うとともに、それ以降も必要に応じて計画の更新や変更を継続する。
【資料４：履修モデル】

⑶履修科目の年間登録上限

本学部の各学年の履修の登録単位数の上限は、年間 50 単位未満（前期 25 単位以下、後期 25 単位以下）とする。例えば、前期で 25 単位を履修した場合は後期登録単位の上限は 24 単位となる。ただし、2 年次以上で履修登録時までの累計 GPA が 3.00 以上の学生は、当該学期については 30 単位まで履修することができる。

⑷指導補助者

本学部で授業の一部を担当させる指導補助者を置く予定はないが、各種実習授業において、野外活動での安全指導や効果的な授業運営のために、本学と連携しているアウトドア関連企業（株式会社モンベル）がサポートに入る予定である。なお、将来的に本学部を基礎とする大学院研究科の設置を構想しており、研究科開設後は大学院の学生が TA（ティーチング・アシスタント）として授業に参画し、学生へのより手厚い指導体制を確保する予定である。

６．多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学部での授業は対面授業を基本とするが、遠隔地の映像等の視聴によって具体例を知り学習効果が上がるなど、より高い学習効果が期待できる授業回には、学生が自宅等から受講する、あるいは教員が遠隔地からまたはオンデマンドで講義する遠隔授業を一部取り入れることを可能とする。また「社会連携プロジェクト」「プロジェクトコミュニケーション」

をはじめ、演習授業において外部組織の社会人等とのコミュニケーションを行う場面においては、オンラインでの打ち合わせ、議論、インタビューなどを有効活用し学習効果を上げることとする。この場合、学生がオンラインでの学習に経験があり、活動レポート等から成績評価ができ、関係者の同意が得られる等の条件のもとで、教室以外の場所でも授業を履修可能とする。

(1)学則における規定

学則第 28 条の 2 では「文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定されており、対面授業とメディアを利用した遠隔授業を併用して教育効果を高めている。専門教育科目における指導は、本学設備を使用する研究や教育目的に基づく直接的な指導を重視する立場から、対面を原則としている。その上で、共通教育科目ではウィズコロナの時代に対応した授業運営方法として、一部科目では多様なメディアを高度に利用した授業を実施する。

(2)実施方法

共通教育科目の「データリテラシー・AI の基礎」（2 単位）は e-Learning による授業を実施する。オリエンテーションとして、科目目標や目的を動画で説明し、データサイエンスや AI について学ぶ意義の理解を促している。授業内で Excel の演習を取り入れることにより、データ分析がどのように役立つかを実感できるようにする。毎回の授業終了後に行う、授業内容の理解度を図る確認テストや、教材や課題の適切性についてのアンケート調査、学習管理アプリの Google Classroom を用いたコメントでの質疑応答、対面での質問会等により、面接授業に相当する教育効果を有し、文部科学省告示を満たしていると言える。なお本科目は、文部科学省の令和 4 年度「数理・データ・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されている。

学生は入学時から一人一台のノートパソコンまたはタブレットを保有するよう推奨しているため、自宅あるいは大学構内で遠隔型授業に取り組むことができる。大学の施設内には Wi-Fi を設置しており（LAVY SPOT）、たとえば図書館等でも学習が可能である。通信障害や PC 操作の不具合などに備えて学内に「ICT ヘルプデスク」を置き、学生及び教職員が当面したトラブルに対応している。現在は、履修学生数の多い共通教育科目（講義科目）や、履修学生が複数の学部学科にまたがる司書課程・博物館学芸員課程科目においてこのシステムを利用し、一定の成果を収めている。

7．実習の具体的計画

教員免許状の取得から採用試験や就職をサポートする「学校教育センター」において、中

学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科）を取得するための教育実習を以下のように計画している。

ア　実習の目的

実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤－知識・技術・意欲・態度を修得することにある。

イ　実習先の確保の状況

本学部の教育実習では、地元の西宮市教育委員会及び近隣自治体（芦屋市教育委員会、兵庫県教育委員会）の公立学校、本学の附属中学校及び高等学校の協力を得て実習を行う。

実習先の配当については、学校園の規模や学生の通勤時間等を配慮し、「学校教育センター」が実習先・人数等を決定する。

ウ　実習先との契約内容

教育委員会や学校長会（場合によっては、直接実習学校）を通じ、実習生の受入人数、実習期間を明記した依頼状及び必要な検査等に関する調査票を送付する。実習学校が承諾書を返送した時点で実習受入の契約が成立する。なお実習依頼時に実習学校からの要望に応じて、個人情報の保護、服務規程の遵守等契約の遵守等に関する取り決め（学生と実習施設）を規定した契約書を取り交わす。

エ　実習水準の確保の方策

教育実習科目の履修条件として、①実習の前年度末までに「教育実習事前指導(中高)」1単位と「理科指導法Ⅰ・Ⅱ」4単位、「理科指導法ⅢまたはⅣ」の1単位を含んで、指導法と教育の基礎的理解に関する科目等を20単位以上修得済みであること、②①を含めて実習の前年度末までに、修得総単位が75単位以上修得済みであること、③事前ガイダンスに出席していることの3点が大前提になるほか、履修要件を満たした者に対して、「学校教育センター」で組織する常任委員会及び同委員会が科目履修の可否の判定を行い、その結果を通知する。

なお教育実習の実習期間・総時間数は、中学校又は高等学校で3～4週間・120時間である。

オ　実習先との連携体制

本学部の基幹教員や学校教育センター常任委員会が中心となって都道府県・市町村教育委員会等との連絡調整機能を果たし、教育実習のあり方や実習施設の状況について共有できるようにしている。

カ　実習前の準備の状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学校保健安全法施行規則に規定する学校伝染病の予防対策に努めている。

本学では、入学時に麻疹・風疹の罹患歴及び予防接種状況について調査しており、罹患歴又は予防接種を受けていない学生に対しては、ワクチン接種を受けておくよう指導し、実習先の求めに応じて、大学から特定の感染症の抗体検査及びワクチン接種等も指示している。

さらに、各学年の初めに本学にて実施する「定期健康診断」において、胸部エックス線撮影、内科検診、身体測定、視力検査、尿検査を行う。異常がある場合は、再検査等を勧めている。教育実習前には、各学校園の指示に従って検便（検査項目は赤痢菌、サルモネラ、O-157 等）を行う。

また、本学学生（実習生）は、大学として団体で賠償責任保険（対人対物）に加入している。学生本人が事故により、負傷した場合は、本学の「学生障害見舞金制度」による見舞金が支払われる場合がある。

キ　事前・事後における指導計画

事前指導は 3 年次の後期に 45 時間、事前事後指導は 4 年次の前・後期に 45 時間実施する。

実習の事前指導の内容は、教育実習の目的と意義を理解し、実習を行う上で必要となる基礎的・予備的な知識や技能の習得をめざすとともに、発表やグループディスカッション、模擬授業、ロールプレイなど具体的な活動を通して実践的指導力の基礎を養う。事後については、実習の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとする指導を行う。

ク　教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

科目担当教員が指導にあたることとし、実習学校ごとに巡回指導教員を配置し、必要に応じて実習期間中に実習施設に派遣する。その際、授業参観と学生への面談を通しての指導、実習指導者との情報共有を図る。また実習期間中、学生からの質問や相談に対しても随時受付け、科目担当教員や学校教育センターにおいて、指導助言する。

ケ　実習施設における指導者の配置計画

実習学校での教育実習指導者については、指導力に長けた教員の配置を教育委員会や学校長に依頼する。

コ　成績評価体制及び単位認定方法

成績は、実習先の学校長と指導教員から提出される評価 50 点（10 項目 5 段階）と実習記録をもとに科目担当教員が評価する 50 点の合計 100 満点で構成され、これらを科目担当教員が総合的に評価する。単位は、100 点満点の 60 点以上をもって認定する。

【資料 5：教育実習受入承諾書】

【資料 6：教育実習ハンドブック（中学校・高等学校実習用)】
【資料 7：教育実習成績通知票】

8．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

ア 実習先の確保の状況

「フィールド・環境施設実習」では、授業の一部において、1 名あたり 3 箇所を目安に以下の施設を訪問する。

・国立環境研究所　琵琶湖分室（20 名×3 回）
・兵庫環境研究センター（30 名×3 回）
・リヴァックス及び関連企業（40 名×3 回）
・JT 生命誌研究館（20 名×3 回）
・兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター（40 名×3 回）
・阪神園芸株式会社（20 名×3 回）

イ 実習先との連携体制

実習先との連携体制について、実習受入れ先には、学部で養成したい人物像及び以下の実習内容を伝えて趣旨の理解を得た上で、実習時の説明内容や見学場所等に関しては、受入れ先に一任する。

（実習内容）将来の就職先になり得る環境評価機関、物質処理施設、メーカー等を事前調査し、各自で考えた質問等も含むインタビューの準備をした上で訪問し、訪問先での見学や説明を聞く。またそこで働く社会人とコミュニケーションを取ることで、卒業後の進路のイメージを明確化する手助けとする。訪問先での学習・調査内容をまとめてグループごとに発表し、他のグループとも情報共有、互いに質疑応答して理解を深める。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価に関して、施設訪問時には引率教員が出席及び参加状況をチェックするが、内容については当日評価せず、受入れ先の担当者においても成績評価は行わないこととする（個別の学生や全体に関して気づいた点等はアンケートなどで情報収集し、授業改善につなげる)。訪問前の準備状況をレポート等で、訪問後のまとめと発表状況を作成物、発表内容、質問、振り返りのレポート等で評価し、担当教員が成績評価する。この科目は、特定の技能や技術を学ぶことが主目的ではなく、早期から進路を考える手助けとする、またグループワークや外部とコミュニケーションをとり考えをまとめるトレーニングを行うことが主目的であるため、施設訪問を単位認定のための参加必須回とはみなさず、他の授業回と同様の出

欠扱いとし、全体として目的に達しているか否かで成績評価する。

エ その他特記事項

受入れ先と日程の都合が合わない場合などやむを得ず受入れ不可となった場合は、一般団体受け入れ可能な環境関連施設を訪問することとする。

【資料８：学外実習施設一覧】

【資料９：学外実習受入承諾書】

９．取得可能な資格

本学部の教育課程に設置する養成課程及びその履修によって取得可能な資格は次のとおりである。これらはいずれも卒業の要件とはせず、課程の履修は学生の自由意志に任される。

資格名	種別	資格取得・受験資格の別	卒業要件とのかかわり	追加科目履修の必要性
中学校教諭一種免許状（理科）	国家資格	資格取得	なし	あり
高等学校教諭一種免許状（理科）	国家資格	資格取得	なし	あり
学芸員	国家資格	資格取得	なし	あり

10. 入学者選抜の概要

(1)学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学部のアドミッション・ポリシーに沿って、これに適合する多様な背景や特色を持った学生を確保するため、以下の入試制度を設けている。総合型選抜入試（意欲や活動歴を重視）、一般選抜入試（学力を重視）、指定校推薦入試・附属高校推薦入試（学力・意欲を重視）、大学入試共通テスト利用型入試（学力を重視）といった、様々な視点から入学者を選抜する。具体的には下表のとおりである。

総合型選抜（MUKOJO未来教育総合型選抜）	公募制推薦前期	公募制推薦後期	指定校推薦	附属高校推薦	一般選抜前期	一般選抜後期	大学入学共通テスト利用前期	大学入学共通テスト利用後期
12名	39名	16名	3名	2名	31名	10名	5名	2名

＜各区分の選抜方法＞

① 総合型選抜（MUKOJO 未来教育総合型選抜）：第一次選考（書類審査）及び第二次選考（口頭試問）により選抜する。

② 公募制推薦前期：調査書及び 2 科目の学力検査により選抜する。
選択必須科目（化学、生物、理科基礎、数学（数学(１)または数学(２)）から 1 科目を選択する。2 科目選択も可とする。ただし、理科基礎と化学あるいは生物の選択は不可とする。残りは選択科目（国語（１)、英語、日本史、世界史）から選択する。

③ 公募制推薦後期：調査書及び 2 科目の学力検査により選抜する。
選択科目（国語（１)、英語、数学（数学(１)または数学(２))、化学、生物、理科基礎、日本史、世界史）から 2 科目を選択する。ただし、理科基礎と化学あるいは生物の選択は不可とする。

④ 指定校推薦：第一次選考（書類審査）及び第二次選考（口頭試問）により選抜する。基礎理科科目を 2 科目以上履修していることを条件とする。

⑤ 附属高校推薦：調査書・実力考査等の平常成績及び武庫川女子大学総合型選抜と同一問題の学力検査の成績により選抜する。基礎理科科目を 2 科目以上履修していることを条件とする。

⑥ 一般選抜前期：3 科目または 2 科目の試験により選抜する。
選択必須科目（理科（化学または生物または物理または理科基礎)、数学（2))から 1 科目を選択する。理科から 1 科目と数学（２）の 2 科目選択も可とする。残りは選択科目（国語（国語（１）または国語（２))、英語、地理歴史・数学（数学（１）または数学（３）または世界史または日本史))から選択する。英語については外部検定利用型方式も実施する。

⑦ 一般選抜後期：2 科目の試験により選抜する。
選択必須科目（理科（化学、生物、物理、理科基礎)、数学（数学（１）または数学（2))から 1 科目を選択する。2 科目選択も可とする。ただし、理科基礎と化学あるいは生物の選択は不可とする。残りは選択科目（国語（国語（１）または国語（２))、英語、地理歴史（世界史または日本史))から選択する。

⑧ 大学入学共通テスト利用型前期：共通テストの 3 科目の結果に基づいて選抜する。
選択必須科目（理科（１）（物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎から 2 つを選択して 1 科目とする)、理科（２）（物理/化学/生物/地学から 1 つまたは 2 科目を選択))から

高得点の 1 科目または 2 科目を対象とする。また選択科目（国語（近代以降の文章)、英語（リスニング含む)、数学（数学①（数学 I または（数学 I、数学 A))、数学②（数学 II、数学 B、数学 C))、地理歴史（(歴史総合、世界史探究)、(歴史総合、日本史探究)、(地理総合、地理探究))、公民（(公共、倫理)、(公共、政治・経済))、地理歴史・公民（地理総合/歴史総合/公共から 2 つを選択）から高得点の 1 科目または 2 科目を対象とする。ただし数学からは高得点の 1 科目まで、地理歴史公民関連科目からは高得点の 1 科目までを対象とする。

⑨ 大学入学共通テスト利用型後期：共通テストの 2 科目の結果に基づいて選抜する。
選択必須科目（理科（１）(物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎から 2 つを選択して 1 科目とする)、理科（２）(物理/化学/生物/地学から 1 つまたは 2 科目を選択)）から高得点の 1 科目または 2 科目を対象とする。また選択科目（国語（近代以降の文章)、英語（リスニング含む)、数学（数学①（数学 I または（数学 I、数学 A))、数学②（数学 II、数学 B、数学 C))、地理歴史（(歴史総合、世界史探究)、(歴史総合、日本史探究)、(地理総合、地理探究))、公民（(公共、倫理)、(公共、政治・経済))、地理歴史・公民（地理総合/歴史総合/公共から 2 つを選択）から高得点の 1 科目までを対象とする。

11. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

(1)教員配置の考え方

本学部の基幹教員は 16 人（教授 10 人、准教授 4 人、講師 2 人）で構成される。大学設置基準に定める必要基幹教員数は 15 人であるが、それを 1 名上回る教員を配置している。中心となる研究教育分野を①生物工学、②応用化学（※1)、③環境管理技術、④ソーシャルデザインの 4 つの領域に区分する。この 4 つの領域における教員構成は①4 人、②4 人、③5 人、④3 人となっている。それぞれの分野における主要授業科目の担当者はすべて基幹教員である。ただし主要授業科目である「環境英語Ⅰ」「環境英語Ⅱ」「環境英語Ⅲ」「環境英語Ⅳ」については、国際的なコミュニケーション力の養成を重視し、英語を母国語とする教員を含む非常勤教員を科目担当者とする。なお、16 人の基幹教員のうち 8 人が官公庁、民間企業、研究所などでの勤務経験を有する。また、基幹教員の中に学年進行中の他大学の学部等から採用した教員はいない。

本学部の基幹教員 1 人当りの収容定員に対する学生数（ST 比）は 30 人（480÷16）となる。4 年次の卒業研究においても、1 研究室あたり 7.5 人程度の学生となり、きめ細やかな指導が可能となるように配置している。

基幹教員の男女の内訳については、男性 11 人、女性 5 人で、女性教員の比率 31%、職位の構成は、教授 10 人、准教授 4 人、講師 2 人で、教授・准教授職に重きを置いた望ましい

構成と考えている。

基幹教員の学位の保有状況は下表のとおりである。修士学位保有教員 1 人については令和 6 年度現在博士課程在学中であり、全員の博士号の保有を目指している。

（※1）教育課程表の「エネルギー・資源・化学物質の利用」と関連

○基幹教員が保有する学位

	博士の学位	修士の学位	学士の学位	計
教　授	10	0	0	10
准教授	4	0	0	4
講　師	1	1	0	2
合　　計	15	1	0	16

(2)中心となる研究分野、研究体制

(1) において述べた 4 つの研究教育区分に、16 人の所属教員を配置し、以下の研究体制で臨んでいく。

①　生物工学関連分野

植物生理学関連分野を青野光子教授（担当科目：「植物生理学」など）、環境レメディエーション（環境修復）工学関連分野を久能樹教授（担当科目：「環境レメディエーション工学」「バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）」など）、遺伝子工学関連分野を村田成範教授（担当科目：「バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）」「生命情報科学」など）、分子生物学関連分野を三浦健准教授（担当科目：「バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）」「基礎生物学」など）が担当する。

② 応用化学関連分野

バイオマスエネルギー関連分野を吉田昌樹教授（担当科目：「バイオマス利活用工学」「バイオマスエネルギー学」など）、有機化学関連分野を來海徹太郎教授（担当科目：「環境生物有機化学」「基礎化学」など）、材料工学関連分野を田島右副教授（担当科目：「高機能材料工学」「高分子化学」など）、グリーンケミストリー関連分野を澤田隼佑講師（担当科目：「グリーンケミストリー」など）が担当する。

③ 環境管理技術関連分野

環境情報工学関連分野を藍川昌秀教授（担当科目：「環境情報工学」「環境問題概論」など）、物理化学関連分野を矢野義明教授（担当科目：「環境エネルギー概論」「環境イメージング技術」など）、生態工学関連分野を大谷壮介教授（担当科目：「生態工学」「水質管理工学」など）、防災技術関連分野を平岡（水垣）真合乃准教授（担当科目：「防災技術Ⅰ」「防災技術Ⅱ」など）、野生生物管理工学関連分野を石庭寛子准教授（担当科目：「野生生物管理工学」「環境放射線工学」など）が担当する。

④ ソーシャルデザイン関連分野

環境政策関連分野を高橋一彰教授（担当科目：「環境政策論」「資源循環工学」など）、環境教育関連分野を穂坂紀子准教授（担当科目：「環境教育論」「環境教育実践」など）、防災技術関連分野を平岡（水垣）真合乃准教授（担当科目：「防災技術Ⅰ」「防災技術Ⅱ」など）、気候変動関連分野を天沼絵理講師（担当講義：「環境経済学」「データ分析・統計学」など）が担当する。

上記のように4分野16人の基幹教員がそれぞれの専門分野の研究を行う。組織編制としては1教員ごとに1研究室制とし、複数の教員からなる講座制はとらない。

専門分野のバランスに関して、地球環境問題と関連する研究分野は各種産業、社会活動、基礎科学など人類の諸活動にまたがり幅広く、研究のアプローチも多様であるが、本学部では理工学的知見に基づく技術的アプローチに重点を置き、自然科学系（生物工学、応用化学、環境管理技術関連）の教員を13名配置する。また、社会科学系（ソーシャルデザイン関連）の教員を3名配置する。研究体制については、教員の専門分野の専門性と多様性を活かし、教員間の情報共有や共同研究を通して分野横断的研究を行える体制をとる。例えば、自然科学系教員の持つ技術を社会科学系教員と連携して社会実装につなげていく。実験に基づく研究分野では研究推進のための実験活動も欠かせないが、関連科目として卒業研究だけでなく、社会連携プロジェクト、ラボローテーション実習も各教員の専門分野を活かした授業とし、教育と研究を一体化して研究活動を進める機会を多く設けることで、研究の活発化につなげる。

(3)年齢構成

基幹教員の年齢構成は下表のとおりである。40代・50代が中心であり、将来的にも教育研究水準の維持向上及び研究の活性化には問題がない構成である。

○基幹教員の年齢構成（完成年度終了時点：令和11年3月末）

職　位	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～66歳	67歳以上	計
教　授	－	1	4	4	1	10
准教授	－	3	－	1	－	4
講　師	1	1	－	－	－	2
合　計	1	5	4	5	1	16
	6.25%	31.25%	25%	31.25%	6.25%	100%

教員の定年については武庫川学院職員就業規則第17条第1項第1号において満66歳に達した年度末をもって定年退職となることが定められており、完成年度には本学部の基幹教員16人中1人が定年年齢を超える。ただし、同条第4項において必要があると認めたときは定年を延長することが可能とされており、該当する 1 人については、この規定を適用して完成年度末まで雇用を継続することが令和6年2月26日の理事会において承認されて

いることから、教育研究活動の継続に問題はない。

完成年度以降の教員組織については、後述する大学の基本的な将来計画に則り、教育研究領域の分野での退職者補充、年齢構成のバランス維持に取り組む。開設以降は、基幹教員全員に対して教育方法の工夫や改善、教材の開発など教育上の能力向上に力を注いでいく。また、若手教員の育成のため、研究活動への支援、特に学術論文の執筆、学術雑誌への投稿、著書の出版、学会発表等に重点をおいて研究予算を配分し、上位職位への昇格基準に達する実績が得られるよう、積極的な研究支援を行い、次代を担う教授へとつながる後継者育成にも力を注いでいく。

【資料 10：定年に関する規定】

(4)教員及び事務職員の連携体制

学部・研究科・その他部局の業務を支援する事務組織が置かれている。事務組織は、法人と大学に分化せず一元化することによって、事務部門における業務の重複をなくすとともに、社会や時代の多様なニーズに応じ、教育研究活動の支援、学生支援をはじめ、地域貢献、社会連携や国際化の推進のために効率的かつ柔軟な事務組織を目指している。「武庫川学院の事務組織に関する規則」に基づき編成され、「事務分掌に関する規程」により事務分掌を定めている。令和５年度には学長補佐体制として「学長企画室」を新たに設置し、学長がリーダーシップを発揮し、教育改革を推進できるよう体制を強化した。

各学部・研究科の教学運営に対して責任を持つ学部長・学科長・研究科長の下で定期的に開催される各種会議に、教育職員のみならず事務職員が出席し、意見交換を行いながら各種検討を実質的な教職協働で行っている。例を挙げると、入学試験や学生募集活動を担う事務組織「アドミッションセンター」において、入学者選抜実施体制の充実・強化のため、専門的な教育職員（アドミッションセンター長）と事務職員（事務部長、入試課長、高大連携課長）を配置し、入学試験や学生募集に係る全学的な企画立案及び全学的な入学者選抜の評価を行っている。その他の解決すべき課題についても、適宜、教職協働型のプロジェクトを設置し、運営している。

また、教学上の各種ニーズに対応する組織として「教学局」を設けている。教学局には教学局長を置き、教務部、アドミッションセンター、学生部、学生相談センター、キャリアセンター、学校教育センター、国際センター、社会連携推進センター、リカレント教育センター、大学事務室統括部で組織される。各部署には、専任教員の中から学長によって任命される部長職、次長職及び常任委員と事務職の管理職で構成される常任委員会を設置している。常任委員会では、議案の事前協議、自部署の運営方針の企画立案及び業務計画に関すること等を審議し、常任委員会で検討された事項が、それぞれの委員会に提案されるシステムとなっている。これらの委員会には、各学部・学科から推薦された専任教員が委員として参加し、それぞれ当該部署の課題について、各学部・学科の意見を参考にしながら、全学的な視点で審議している。審議結果は、委員がそれぞれの所属学科に持ち帰り、学科会議に提案・報告

され教員に周知し、全学的な調整を図っている。

またこれらの部署では、毎年「教学局各部局 運営方針・重点目標」を定め、「教学局研修会」や「武庫川女子大学合同教授会」、「事務局部課長会」等で公表し、教職員間で共有している。

本学における学生支援に関する基本方針を「すべての学生が充実した修学・学生生活を送ると同時に自身の成長を実感し、本学が掲げる理念・目的を実現して卒業・修了できるよう、きめ細かな支援体制や環境を整備する。」と定め、教員及び事務職員等相互の連携体制を確保している。また、修学支援、生活支援、進路支援の各方針を以下のとおり定め、すべてホームページに公開している。

○修学支援

1．修学に関する相談体制、教学システムを整備し、教学組織と各部局が連携することで、学生が必要とする修学支援を教員と職員が組織的に実施する。

2．奨学金制度や多様な学生に対する支援を充実させることで、すべての学生が安心して学業を継続できる制度の充実に努める。

3．成績不振の学生や、卒業延期者、休学者及び退学者に関する情報を継続的に把握・分析し、学生の特性に応じた具体的な対応を講じる。

○生活支援

1．学生の豊かな人格形成に資する正課外の活動における成長と自立を促すため、クラブ活動、ボランティア活動、課外活動等自主的な活動を積極的に行えるよう支援する。

2．学生の健全な心身を維持促進するため、関係部局の機能・連携を強化するとともに、ハラスメントの防止を徹底する。

○進路支援

1．学生一人ひとりの適性、能力、希望に沿ったキャリア形成を支援するため、正課内外にキャリア教育プログラムを提供し、体系的・継続的なキャリア教育を実施する。

2．キャリアセンターを中心として、各学部・研究科等との協力体制の強化を図り、キャリアガイダンスや就職相談等を通じて学生一人ひとりのキャリアプランと希望進路を尊重した進路指導を実施する。

3．教育職員や公務員など各種免許・資格取得に関する充実した支援を実施する。

本学部における事務的な業務は、浜甲子園キャンパスの事務室が担当し、学生の厚生補導は、教学局の各部署が担当する。修学支援は教務部が中心となりサポートし、心身のサポートや経済的な問題まで学生生活全般に係る生活支援は学生部、キャリア形成の支援については本学部を置く「浜甲子園キャンパス」に就職支援の専門スタッフを配置し、支援していく計画である。

このように、本学では教育職員と事務職員が協働して大学運営を行っており、本学部設置後も教育職員及び事務職員の組織的な連携体制を確保していると言える。

12. 研究の実施についての考え方，体制，取組

本学では、法人の中期計画である「MUKOJO Principles　2019→2039」の柱の一つとして、「研究の高度化と多様性の追求」を掲げ、以下の 6 点を具体的な方針として研究活動を推進している。

・女性研究者やプロフェッショナル（女性専門職）育成の強化
・多様化する社会の課題解決やイノベーション創出に向けた研究の高度化
・総合大学の特長を生かした領域架橋や共同による独創的な研究の推進
・新たな価値創造を目指した女性テーマ研究の開拓
・研究ブランドの確立
・社会をリードする高度な人材育成に向けた大学院教育・研究の推進

個人研究の支援と促進のため、本学は各年度 1 人あたり 40 万円（教育研究費、研究旅費）程度を配賦している。また、教員の研究に関する支援業務を担う部署として「研究推進センター」を設置し、科学研究費補助金等競争的研究費や委託研究費等外部資金の獲得を積極的に推進して、研究の活性化を促している。

講師以上の教員にはすべて個人研究室（個室）を割り当て、教育研究に必要な備品類を標準配備している。担当授業時間数については「専任教員の授業担当時間に関する内規」を定めて、過重な負担を課さないよう配慮し、出勤を要する日は週 4 日以上として、2 日間は研究のための時間に充当できるものとしている。また、本学には附置研究所として「教育総合研究所」「健康科学総合研究所」「女性活躍総合研究所」の 3 つの研究組織を有しており、研究所と独立した研究機能を有する「附属総合ミュージアム」を設置している。本学部の教員がそれら研究所の研究員を兼務し、個人研究または共同研究に従事する可能性が考えられる。研究支援の主な取組みは以下のとおりである。

・研究支援員制度

出産、育児、介護、看護に関わる本学の専任・嘱託の女性研究者及び大学・大学研究機関等において研究に従事している配偶者（専任・嘱託研究者）を有する本学の専任・嘱託の男性研究者を対象に、研究時間を確保し、研究活動を維持・促進することを目的として、研究支援員を派遣する制度である。本制度では、次世代研究者育成の観点から、研究者をめざす人材を研究支援員として配置することを推奨している。研究支援員として身近なロールモデルに接することで、支援する側のキャリア形成も促進され、次世代研究者の育成をはかることを目的としている。

・学内研究助成金制度（論文投稿助成金）

研究誌等への論文投稿料や審査料など、研究業績を強化するための支援で、20 万円を上限に助成している。申請資格者は本学に所属する助手以上の専任・嘱託教育職員で、学会誌等の査読付き論文の投稿・掲載にかかる経費が対象である。他にも、研究成果を積極的に活用し、社会の発展に寄与することを目的に、企業・公共団体等との連携による受託研究・共

同研究、奨学寄附金など産学官連携の促進を図っている。

また、本学部の開設にあたり、環境関連の測定、分析機器（各種分光機器、顕微鏡、クロマトグラフィー等）及び培養設備（インキュベーター等）を整備し、各種実験が実行可能な環境を整える。学外の共同利用可能な設備も積極的に利用する。また、各教員の専門分野の境界領域や技術の組み合わせが必要な研究テーマが出てきた場合には、積極的に共同研究を行う。なお、URA は現在のところ配置の予定はない。

13. 施設，設備等の整備計画

本学では開学以来、教育研究環境の整備・充実には不断の努力を傾けており、学内には全学部学科の学生が使用する中央図書館や講堂、体育館、マルチメディア館などの大型施設があり、様々な分野の学びに対応した環境が整っている。近年においては、アクティブ・ラーニングに対応した図書館や各教室のリニューアル、スマートキャンパスを目指した学内 Wi-Fi 環境整備、学生の安全安心のための各建物の耐震工事、学生満足度向上のためのキャリアセンター移転・機能拡充、食堂改装など大規模な施設・設備改修を行っている。

本学の教育研究環境の整備に関する方針を以下のとおり定め、ホームページで公表し、周知している

１.施設・設備の整備

学生及び教職員等、すべての大学施設利用者が快適かつ安全で安心して教育研究等に取り組める環境の構築に配慮した施設・設備の整備を図る。

２．教員の教育・研究等環境の整備

教員が教育・研究を行うのに適した研究室の整備や、研究時間及び研究費の確保に努めるとともに、各種競争的研究資金獲得支援、研究助成・奨励金制度の拡充に努める。

３．情報環境の整備

ネットワーク環境や情報通信技術(ICT)機器を十分に整備・管理し、その活用の促進を図る。教育・研究のために、信頼性の高い安全で快適な学内ネットワークの整備を推進する。

４．図書館、学術情報サービスの整備

教育・研究に必要な専門書、学術雑誌等の図書資料を広範囲に取りそろえるとともに、十分な座席数と開館時間を確保する。

(1)校地、運動場の整備計画

本学部を置く「浜甲子園キャンパス」（兵庫県西宮市甲子園九番町）は、校地約 41,238.77 ㎡、校舎約 36,053.05 ㎡、メインキャンパスである「中央キャンパス」（兵庫県西宮市池開町）は、校地約 116,252.25 ㎡、校舎約 129,777.56 ㎡と、約 1 万人の学生が学ぶ大学のキャンパスに相応しい規模である。中央キャンパスには、大学設置基準第 34 条に定められる「学

生が休息その他に利用するのに適当な空地」として、噴水、35 周年記念庭園、もみの木広場が整備されている。また、その周辺には各種のオブジェ、植樹、休憩用ベンチ等も配置され、学生の憩いの場となっている。大学設置基準第 35 条に定められる運動場についても、中央キャンパス隣接のグラウンド、テニスコート、浜甲子園キャンパス隣接の浜甲子園グラウンド、中央キャンパスからスクールバスで南に約 10 分の場所にある総合スタジアムがあり、運動場の面積は合計 9 万㎡を超える十分な面積を有している。

また、令和元年 10 月には中央キャンパス最寄りの阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅の高架下空間に「武庫女ステーションキャンパス」を開設、さらに令和 4 年 4 月には西宮市内に「西宮北口キャンパス」を開設するなど、大学の定員規模拡大にあわせて校地拡充にも力を入れている。

(2)校舎等施設の整備計画

令和 7 年度に予定している学部設置・収容定員変更により、設置基準上必要となる校地・校舎面積は、校地 112,400 ㎡、校舎 80,136 ㎡に増加することになるが、本申請に係る学部等の開設時の面積は校地 237,032.44 ㎡、校舎 191,606.51 ㎡と、いずれも設置基準の 2 倍を上回る十分な面積を有している。

本学部（収容定員 480 人）の設置にあわせ、「浜甲子園キャンパス」に新たな「プロジェクト棟」を整備し、本学部専用の施設とする。環境と共生する木造モデュラーデザインをコンセプトとし、カーボンニュートラルへの配慮から木造とする。施設全体の延べ床面積は 1,259.16 ㎡を予定しており、1 階の中心部には多くの学生が集まれるプレゼンホールを配し、その南北にプロジェクトルームを配置する。こういった構造により、学生の自主的な学修や研究活動を促し、積極的な情報発信を行うなど実践力と研究力を育む活動拠点になることを目指している。

令和 6 年度に「浜甲子園キャンパス」に併設する既存の薬学部薬学科（6 年制）が入学定員 210 人（収容定員 1,260 人）から入学定員 105 人（収容定員 630 人）、健康生命薬科学科（4 年制）が入学定員 40 人（収容定員 160 人）から入学定員 60 人（収容定員 240 人）へ変更しており、利用する学生が減少することから、既存の校舎及び設備を本学部の学生も共用し、時間割上も問題がないと言える。

【資料 11：時間割表】

(3)図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の概要及び整備計画

本学附属図書館は、中央キャンパスの「中央図書館」、上甲子園キャンパスの「甲子園会館分室」、浜甲子園キャンパスの「薬学分館」から構成されており、中央図書館が管理・運営の中心となって連携し、図書館システムを活用して図書資料の相互貸借業務を行っており、各キャンパスの図書資料を利用できる。中央キャンパスの中央図書館は平成 25 年に大

幅にリニューアルし、地下 1 階から地上 5 階建て、閲覧席は 1,171 席となっている。授業開講期は毎日 8 時 30 分から 20 時 00 分まで開館しており、館内にはアクティブ・ラーニングや実習・演習に役立つラーニング・コモンズの設置、インターネット Wi-Fi 環境、マルチスクリーン、音響設備、貸出用ノートパソコン、TV 会議システム等、多彩なメディアが利用できる環境を整備し、学生の学習活動のサポート及び教員の教育・研究活動の支援を行っている。本学部のある浜甲子園キャンパスの薬学分館は、キャンパスの 1 階と 2 階に位置し、床面積は 1,517 ㎡で、司書資格を有する委託職員を配置している。月曜日から金曜日の毎日 9 時 00 分から 20 時 00 分まで利用が可能である。本学部と関連する専門書、関連書籍について、本学での現在の蔵書冊数は以下のようになっている（キーワード検索の結果）：自然環境（207 冊）、環境科学（346 冊）、リサイクル（176 冊）、エネルギー（594 冊）、サステナビリティ/サステイナビリティ（30 冊）、防災（300 冊）、バイオ（711 冊）、生物（3,543 冊）、化学（8,326 冊）、地学/地球科学（253 冊）、環境工学（161 冊）、SDGs（318 冊）。今後さらに、各専門分野の専門書（専任教員あたり平均年間 3 ～ 5 冊程度を目安に持続的に整備する）及び、学生が取得する可能性のある資格（理科教員、自然再生士、危険物取扱者、公害防止管理者、上級バイオ技術者、環境計量士、ビオトープ計画管理士、エネルギー管理士、気象予報士、世界遺産検定など）に関連する書籍を充実させる。直近で整備予定の専門図書については、「新・生細胞蛍光イメージング」などの生物工学関係の図書が 25 冊、「熱力学（JSME テキストシリーズ）」などの応用化学関係の図書が 42 冊、③「一般気象学」などの環境管理技術関係の図書が 95 冊、④「社会基盤と生態系保全の基礎と手法」などのソーシャルデザイン関係の図書が 97 冊であり、教育研究に支障のない体制と考える。また、研究者単位での個人購読でさらなる整備を進めることとし、文献や記事情報取得の充実をはかる。

本学部の学びに関連する専門分野に関する国内雑誌、国外雑誌については、以下のものを購読中でする。

・国内雑誌

化学と生物 / 日本農芸化学会編、生物資源学術誌 / 県立広島大学生物資源科学部 [編]、日本建築学会環境系論文集 / 日本建築学会 [編]、人間と環境 / 人間環境大学 [編]、日経 ESG：成長し続けるための経営誌、化学と工業 / 日本化学会 = Chemistry and chemical industry / the Chemical Society of Japan、生化學 / 日本生化學會 [編]、バイオサイエンスとインダストリー / バイオインダストリー協会

・国外雑誌

American journal of epidemiology, Bioscience, biotechnology, and biochemistry, The journal of biochemistry, Journal of bioscience and bioengineering

② データベース、電子ジャーナル等の整備

データベースは、国立情報学研究所等が作成する文献検索データベースのほか、「JDream Ⅲ」「医中誌 Web」「化学書資料館」「Academic Search Premier」「Web of Science」といった専門データベースを完備している。新聞についても「聞蔵 II ビジュアル」「日経テレコン」「毎索」「ヨミダス歴史館」「Global Newsstream」等、国内外の各紙電子版を購入し、文献検索ツールのリンクリゾルバ「SFX」も導入している。これらの各種有料データベース・電子ジャーナルは VPN 接続での環境を構築し、学外からでも利用できるようにしている。

③ 閲覧室等について

大学全体で図書館の閲覧座席数は 1,716 席ある。本学で所蔵していない資料については、24 時間いつでもウェブ上で文献複写と貸借の申込みができる。ほかにも「E-CatsLibrary」の「マイライブラリ」機能では、直接利用者が貸出・予約状況の確認と延長処理ができ、自身の研究・学習分野に関係のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成や、研究分野に応じた電子ジャーナルリンク集の作成、SDI（Selective Dissemination Information）サービスの登録・確認、複数のデータベースを利用した横断検索ができるようになっている。仮に開館時間内に来館することが難しい状況であっても、ウェブ・ベースの利点を活かして通常と変わらぬ学習環境を提供している。

④ 他大学の図書館等との協力について

国公私立の大学図書館協会、兵庫県下の大学図書館協議会はもとより、国立国会図書館、各公共図書館等あらゆる関係諸機関との連携強化を図り、相互利用サービスを推進している。これらは国立情報学研究所の ILL システムに参加することによって料金の支払いが簡便になり、図書の貸借、文献複写の相互協力業務の効率化を図っている。

14. 管理運営

(1)教授会

本学では、学部ごとに「学部教授会」（以下、教授会という）を置いている。一部の基幹教員から構成される教務委員会において教育課程の編成等について検討し、本学部における学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項、その他の教育研究に関する重要な事項は、毎月 1 回程度、教授会において審議し、決定者である学長に意見を述べるものとしている。

学則及び武庫川女子大学学部教授会規程に定める審議事項、構成員、役割は以下のとおりである。なお、学部教授会の議事概要については大学ホームページに掲載し、情報公表にも配慮している。

（役割）
平成 27 年 4 月 1 日改正の学校教育法第 93 条で、教授会の役割について明確されたことを受け、本学においても学則、学部教授会規程を改正し、「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べる」「学長及び学部長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長及び学部長等の求めに応じ、意見を述べることができる」機関であることを明確にしており、適切に運用している。
（教授会の構成）
教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。
2　教授会は、学部長が招集し、その議長となる。
（教授会の審議事項）
(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(2)関連する委員会等

○大学評議会

教授会や共通教育部教授会の上位機関として、大学全体の重要事項を審議する「大学評議会」を設置している。学則及び武庫川女子大学評議会規程を根拠とし、学院長、学長、副学長、各学部長、共通教育部長、各研究科長、附属図書館長、教学局長、事務局長によって構成され、毎月 1 回学長が議長となって、以下の事項を審議している。本学部設置後は、学部長が大学評議会評議員として出席する。

評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1)　学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
(2)　学務に関する全般的事項
(3)　学生の入学及び卒業の基準に関する事項
(4)　教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
(5)　教育、研究に関する全般的事項
(6)　その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

○大学協議会

各学部長によって構成される大学評議会に諮る議案を協議する場として、各学科長によ

って構成される大学協議会を設置している。毎月 1 回開催し、構成員は副学長、各学科長、共通教育科長、各専攻長、各研究所長、教学局長、教学局各部署の部長職である。また、大学協議会については、事務職員も出席可能となっており、教育職員と事務職員が協働して大学運営を行っている。本学部設置後は、学科長が大学協議会構成員として出席する。

○大学執行部会議

全学レベルの教育に関わる自己点検結果の改善点を検討する場として設置している。後述の「自己評価委員会」にて、学部レベルの自己点検・評価報告を全学レベルに取りまとめ、大学執行部会議に報告される。協議の結果から各部局に改善指示を出し、報告を求めている。また、学長が意思決定するために副学長等と協議する場でもある。毎週 1 回開催し、構成員は学長、副学長、教学局長、事務局長、経営企画部長、学長企画室長である。

15. 自己点検・評価

(1)実施方法

本学では、学則第 4 条において、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努めると規定している。実施の方法としては、公益財団法人大学基準協会が示す 10 の大学基準の項目①理念・目的、②内部質保証、③教育研究組織、④教育課程・学習成果、⑤学生の受け入れ、⑥教員・教員組織、⑦学生支援、⑧教育研究等環境、⑨社会連携・社会貢献、⑩大学運営・財務に沿って、自己評価委員会が主導して各部局で点検・評価活動を実施し、前述の大学執行部会議に報告している。その一環として全卒業生を対象とした卒業時アンケートを全学で実施しており、「立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度」「教育内容、卒業後の進路の満足度」「在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況」「ディプロマ・ポリシーの修得度」を調査している。アンケート結果は、教育の改善や質向上の推進、及び、学修成果の測定のための参考資料として活用しており、経年比較により本学の長所やさらなる向上が必要だと考えられる項目を明らかにしている。

(2)実施体制

学長を委員長とする自己評価委員会を置き、自己点検・評価の基本方針、実施組織及び体制、自己点検・評価報告書の作成、自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項、自己点検・評価結果の公表に関する事項などについて審議している。また、各学部に自己点検・評価を実施するために「学部自己評価委員会」を置き、各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等をとりまとめて自己評価委員会に報告することとしている。本学部設置後は、学部長を委員長とする「環境共生学部自己評価委員会」において組織的な自己点検・評価を行っていく。

(3)結果の活用・公表及び評価項目等

各学部自己評価委員会での点検・評価結果や卒業時アンケート結果及び認証評価において指摘のあった事項については、自己評価委員会において検討がなされ、各部局に改善・改革の取り組みに役立てられる。なお、これまでの点検・評価報告書、認証評価機関からの評価結果、評価における助言等に対する改善・改革の取り組み、改善報告書をはじめ、本学独自で実施した「卒業時アンケート」や「授業アンケート」についての調査結果や改善方策については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。

【資料 12：武庫川女子大学自己評価委員会規則】

【資料 13：武庫川女子大学学部自己評価委員会規程】

16. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、主としてインターネットホームページを通して広く社会に教育研究活動等の情報を公表している。本学ホームページ内の「大学情報の公表」を中心に、学校教育法施行規則に定められる９項目をはじめ各種情報を積極的に公表している。

「大学情報の公表」　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html
（武庫川女子大学 ホームページトップ＞総合案内＞大学情報の公表）

ア 大学の教育研究上の目的及び３つのポリシーに関すること

教育理念　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/rinen.html

教育目的　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html

３つのポリシー　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/threepolicy.html

アセスメントポリシー　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/assessmentpolicy.html

イ 教育研究上の基本組織に関すること

教学組織図　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyogakusoshiki.pdf

事務組織図　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/jimusoshiki.pdf

学部学科一覧　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/list-dai.pdf

研究科専攻一覧　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/list-in.pdf

研究所一覧　https://www.mukogawa-u.ac.jp/kenkyuu/kenlist.html

ウ 教育研究実施組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員一覧【教員業績】　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/gyoseki/gyoseki.html

教員数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/number/faculty_m.pdf

資格別・男女別教員数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_04.pdf

実数及び設置基準数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_02.pdf

年齢構成　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_01.pdf

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

アドミッション・ポリシー　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html

入学者数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/pdf/nyugakusya.pdf

収容定員　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/teiin.html

学生数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/number.html

卒業者数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/zyuyo.pdf

修了者数　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/in_01.pdf

卒業後の進路　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~syusyoku/achievement/industry.html

オ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

シラバス　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2024/syl_2024.htm

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

ディプロマ・ポリシー https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html

履修便覧　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/binran-frame.htm

成績評価　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/seiseki01.pdf

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の面積　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/files/pdf/site_building/site_building.pdf

校舎耐震化率　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/sisetu/taishinkaritu.pdf

キャンパスマップ　https://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/index.html

交通アクセス　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/campus/access.html

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

学費(大学・短大)　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/testguide/tuition.html

学費（大学院）https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/g_school/pdf/g_school_nyugaku.pdf#page=2

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生支援部署　https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/student_support.html

進路支援　https://www.mukogawa-u.ac.jp/career/carrier.html

健康支援　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~hoken_c/index.html

コ その他

学則　https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/gakusoku.html

設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/application.html

自己点検・評価結果　https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html

自己点検・評価報告書及び認証評価結果 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html

そのほか、法人情報として寄附行為、中期計画「MUKOJO Principles 2019→2039」、ガバナンスコード、役員名簿、役員報酬規程、計算書類、監査報告書、事業報告書なども学校

法人武庫川学院のホームページに掲載している。なお、大学院設置基準第 14 条の 2 第 2 項に規定する学位論文に係る評価に当たっての基準についての情報は、履修便覧に記載している。

17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

大学におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）の全学的な活動を推進する組織として「武庫川女子大学 FD 推進委員会」（以下、FD 推進委員会という）を設置している。FD 推進委員会は、すべての学部・学科から選出された委員、教務部長及び学長が委嘱する委員による教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上を目的とした組織であり、原則として毎月 1 回開催している。委員会の審議事項は、①授業改善のための基本方針の策定に関する事項、②教員の研修会及び講習会の開催に関する事項、③教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項、④FD 活動に関する情報の収集と提供に関する事項、⑤各学科の教員への FD 活動の啓発に関する事項、⑥教員の教授活動の支援に関する事項、⑦その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項と「FD 推進委員会規程」に明記されており、各教員の日常的な実践や大学全体の教育改善に繋がるよう、委員会としての取り組みや情報提供を行っている。学長企画室が FD を担当する部署として FD 推進委員会の庶務や、学外で開催される FD 関係研修会、高等教育に関連する研究会などについて、学内システムを利用して教員に案内し、教員の資質向上に取組んでいる。本学の FD の具体的な取り組みは以下のとおり。

① 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部合同教授会

武庫川女子大学及び武庫川女子大学短期大学部の構成員に対し、学長が本学の運営や FD 活動において必要と認める事項に関して連絡調整を行って意思の疎通を図り、本学の運営を円滑にするためのものとする。学長、各部局からの連絡事項の伝達に加え、全教員を対象に FD に関する講演会を行い、全学的な情報共有及び意思疎通を行うことで、大学全体として更なる教育の質向上を図ることを目的とした、教育改革講演会を年 1 回開催している。令和 5 年度は本学の研究開発支援室との共催で、「責任ある研究活動のために―予防倫理と志向倫理―」をテーマに開催した。

② 授業改善奨励制度

大学としての教育の質向上を図る観点から、「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励制度を設けている。この制度は、日々の教育活動の中で授業改善につながる、より良い授業方法の工夫と実践を行っている教員の見えない教育活動の部分に関する可視化を図り、その貢献度を把握、奨励することを目的とし、年度末に表彰している。

③ FD ニュースの編集・発行

平成 21 年度より、教職員に向けて直接 FD 委員会の活動状況を報告するため、当該年度における取り組み事例を紹介し、年度末に発行している。

④ 新任教員研修プログラム

平成 29 年度より、専門性や経歴、年齢などが異なる新任教員が本学の教育理念を就任 1 年目に理解することで、大学の目指す教育の方向性を共通認識するとともに、大学教育の最新動向の理解、カリキュラム、授業の設計・方法・評価等について系統的に学び、互いの知恵を共有して大学全体の教育の質向上を図ることを目的とした研修を実施している。４～７月の毎週水曜日の 2 時限目を「新任教員研修プログラム」の時間とし、本学に関する知識の定着、授業設計、教育方法、教育評価、授業運営、提案資料作成等のテーマについて、合計 15 回の集合研修を実施している。

⑤ 授業アンケート

学生を対象に授業アンケートを実施し、結果を授業改善に役立てている。学生に対しても改善点等を含んだフィードバックを行っている。一方、個々の授業に対するアンケートについては、平成 3 年度後期から学期ごとに実施してきた。学修成果について 5 段階で評価できる設問が 7 項目、自由記述が 2 項目ある。前期は 6 月を、後期は 11 月を授業アンケート月間と定めて、期間中にアンケートに回答するよう学生に求めている。授業アンケート月間終了後、教員には、自由記述に書かれた意見に対し Web 上でコメントするよう求めている。さらにアンケート結果全般を踏まえ、教員から学生に対して授業中に直接フィードバックを行っている。また Web 上や授業でフィードバックした内容について、所属学科長に報告することになっている。アンケート結果については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。授業アンケートの内容については、FD 推進委員会で検討・改善を繰り返している

⑥ 共通教育懇談会

共通教育科目担当教員（非常勤講師を含む）を対象に、教員間での意見交換の場として、年 2 回開催している。本学の共通教育部が主催となり、FD を担当する学長企画室　教育企画・IR 推進課が共催している。本学が総合大学であることを活かし、学部・学科を越えた教員同士で、授業の考え方や課題・工夫点等についての情報・意見交換を通じて、日々の授業改善のヒントに繋げること、また学部・学科を越えて、気軽に情報・意見交換ができる教員同士のネットワークを構築することを目的としている。

⑦ 各種研修

国内外の大学・研究所、その他これに準ずる教育又は学術研究機関で専攻する学問分野に関する研究や視察・調査等への従事、国際学会等への出席に対して、「武庫川学院在外研修規程」を定めたうえで在外研修制度を設け、教員の資質向上に向けた支援を行っている。毎年 6 月に学内公募を行い、応募者に関して、学部・学科で偏ることのないよう申請書類は学部長・共通教育部長・研究所長がとりまとめ提出することとしている。その後、在外研修員を選考することを目的として設置している「在外研修選考委員会」にて全学的観点から在外

研修員を選考している。「在外研修選考委員会」は、学院長、学長、副学長、学部長、教学局長及び事務局長をもって組織している。

教員が就業規則に定める通常の勤務に就きながら、大学院において研修、修士又は博士の学位を取得することができるよう「在職研修制度」を平成 15 年度から設けている。各学科から推薦された候補者は、「在職研修選考委員会」において選考し、学院長が決定する。

その他、各学科や部局等で行われている企画等について、全学の FD 活動推進にも繋げていけるよう、FD 推進委員会の共催・後援企画として連携を取りながら実施している。

また本学部では、研究倫理に関する教員 FD を必須とし、学生に対しても指導を行える体制とする。また、遺伝子組み換えや動物実験などに関しても、本学の規定に従い、事前の講習や計画書による審査を経るなど必要な事項に関する研修を行う。これらに加え、各種ハラスメントに関する研修を行う。

【資料 14：武庫川女子大学 FD 推進委員会規程】

【資料 15：新任教員研修プログラム】

(2)大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

SD の対象となる「職員」には事務職員のほか、教員等も含まれることから、教育職員・事務職員がともに必要な知識・技能の習得及び向上の取り組み、「教職協働」を実現している。具体的には、全教職員に共通する今日的テーマ（ハラスメント、大学の授業運営における著作権の考え方）や本学のブランディング化推進への取り組みに関する調査結果等についての研修を行っている。

事務職員に対しては教職協働を実現させる職員育成のため、体系的な研修体系を構築しており、具体的には、キャリアに応じて新任職員、中堅職員、監督職、管理職を対象に「階層別研修」を実施し、その内容はビジネスマナーやパソコン知識、データリテラシー、ロジカルシンキングといった汎用的なものから大学職員として必要な知識である教育関係の法令や諸規則といった専門的スキルの習得まで多岐に及ぶ。なお、通信教育、在職研修等の修了者、学位取得者に対しては受講料の一部を補助する等のインセンティブを制度として設け受講を喚起している。

令和元年度からは、新任職員向けの 3 年間の体系的な研修プログラム「新任職員育成制度　Rising3」を実施しており、大学職員としての基礎知識習得はもちろんのこと、教職協働での授業運営への参画や、幅広い視野・専門性を高めたりする機会を設けている。

具体的には 1 年目の職員に対して事務組織の各部署代表者が講師を担当し、事務組織がどのように教育研究活動と繋がっているかを講義している。また、学生への教育を考え、教員の日々の教育活動を理解するという目的から、 2 年目の職員を対象として新任教員研修への参加や、半年間の授業進行を補助する機会を設けている。さらに 3 年目の職員を対象としては、事務職員としての幅広い視野と専門性を高めることを目的として、本学の現状を踏まえて自ら課題設定し、方向性や解決策を検討、発表させることを計画している。

その他、教育職員、事務職員が日本私立大学協会など外部団体主催の就職支援や厚生補導等の分野別の研修会へ参加するなどして、大学運営に必要な基礎力、応用力及びマネジメント力の向上を目指している。
【資料 16：武庫川学院研修体系図】

(3)指導補助者に対する上記の事項

本学部において指導補助者を配置する予定はないが、今後配置する場合は、指導補助者に対しても各種ハラスメント研修を行う。研究活動を行う場合は研究倫理に関する FD を必須とし、学生に対しても指導を行える体制とする。また、遺伝子組み換えや動物実験に関しても、本学の規定に従い、事前の講習や計画書による審査を経るなど、必要に応じて研修を行う。

18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

(1)「専門教育科目」

・1 年次

「初期演習」では、大学での生活の基本スキルやルールを学ぶとともに、グループディスカッションを通じて、自己分析をもとに自分の適性や進路について考え、学習計画と進路設定を行うための導入とする。

「環境共生学入門」では、学科のカリキュラムの詳細を理解するとともに、卒業後の進路を見据え、身につけるべき能力を考え、選択科目等の履修計画を含めた学習設計を行う。この計画は保存し、継続的に更新・利用する。「社会連携プロジェクト」で実施したいプロジェクトについても考える。

「フィールド・環境施設実習」での環境施設訪問では、将来の就職先になり得る環境評価機関、物質処理施設、メーカー等を事前調査し、各自で考えた質問等も含むインタビューの準備をした上で訪問する。実際に現場で学ぶことで、卒業後の進路のイメージを明確化する手助けとする。

・3 年次

「社会連携プロジェクト」及び「プロジェクトコミュニケーション」での演習において、利害関係者の立場になりきって考え議論するトレーニングを行う。また、プロジェクトの企画が進んだ段階で、メーカー、研究機関、活動団体、地域の人々などに意見を聞く等のコミュニケーションを取ることにより、学生であっても社会の一員であることを自覚し、卒業後の就職、社会的責任の意識や実行につながる力を育成する。

・その他

その他の授業科目について、専門科目の授業であっても、例えばある問題をどのように解

決するかを考えるなど、専門家の思考で考察する習慣を身につける。

(2)「共通教育科目」

「４. 教育課程の編成の考え方及び特色」で述べたとおり、本学における「共通教育科目」は、MW教養コアと呼ぶ５つの教育目標を掲げ、その中に自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力育成のためのキャリアデザイン科目群を設けている。開講科目は、「女性のためのライフプランニング」「自己アピールトレーニング」「キャリアビジョンと人物評価」「ビジネスプラン構築概論」の４科目（全て選択科目で各２単位、配当年次は１～４年、前・後期開講）である。また言語・情報科目群の言語リテラシー科目（52 科目）や情報リテラシー科目（9 科目）によって、外国語運用能力や情報処理能力向上を期している。

イ 教育課程外の取組について

本学部でのキャリア教育について、1 年次には教員や職員自身のキャリアパスやその考え方を聞くことを通して、各学生が自分のキャリアを考える教職員キャリア座談会を開催する。2 年次以降には、環境関連企業の社会人と交流を行う「企業と学生の交流会」を企画し、完成年度以降は、卒業生を招いた「就職座談会」を行う予定である。

その他、全学部共通の取り組みとして、キャリアセンターが以下のキャリア支援・就職支援を行っている。

・１、２年次

キャリア支援プログラムとして、自己発見診断テスト、キャリアセミナー、個別キャリア相談、企業見学ツアー等、入学直後から学生一人ひとりに寄り添ったサポートを行い、早期から社会人や OG と接点を持つ場を提供している。

・３年次

就職支援プログラムとして、就職ガイダンスやインターンシップ、就活特訓講座、個別就職相談、模擬面接、公務員就職相談、学内企業説明会、SPI 模試＆攻略講座等を行う。また、地方自治体と就職支援協定を結び、UIJ ターン就職の支援も行っている。

・４年次

本学独自の教育支援情報システム（MUSES）で、最新の企業・求人・セミナー情報の参照、各種相談の予約、適性検査結果の参照、履歴書の自動作成支援機能、卒業生の自己紹介書の参照機能などの情報が収集でき、キャリア形成を支援している。

ウ 適切な体制の整備について

キャリア支援の部署として、専門のキャリアカウンセラーを配置した「キャリアセンター」を置き、入学直後から継続的に進路･就職全般の支援を行っている。全学部・学科には１人ずつ「キャリア対策委員」の教員を１人ずつ置き、学生のキャリア支援を行う体制が整備さ

れている。キャリア対策委員による「キャリア対策委員会」を組織し、全学横断的に学生のキャリア支援を行っている。浜甲子園キャンパスをメインキャンパスとする学生に対しても専門スタッフが指導に当たり、求人情報の掲出、キャリアカウンセラーの派遣を行うなど、教職員が連携してサポートする体制を整備している。

その他、JR 東京駅前に「武庫川女子大学東京センター」を開設して専門スタッフを常駐させ、企業の本社機能が集中する首都圏における学生の就職先企業の開拓や、就職活動のために上京した学生のサポートを行う体制を整備している。

設置の趣旨等を記載した書類

― 資料目次 ―

資料１：人材像と３つのポリシーとの相関図 ……P.２
資料２:カリキュラムツリー ……P.３
資料３:カリキュラムマップ ……P.４
資料４:履修モデル ……P.５
資料５:教育実習受入承諾書 ……P.１６
資料６：教育実習ハンドブック（中学校・高等学校実習用） ……P.１８
資料７:教育実習成績通知票 ……P.４２
資料８:学外実習施設一覧 ……P.４３
資料９：定年に関する規定 ……P.４４
資料 10:時間割表 ……P.４５
資料 11:武庫川女子大学自己評価委員会規則 ……P.５４
資料 12:武庫川女子大学学部自己評価委員会規程 ……P.５７
資料 13:武庫川女子大学 FD 推進委員会規程 ……P.５９
資料 14:新任教員研修プログラム ……P.６２
資料 15:武庫川学院研修体系図 ……P.６３

環境共生学部環境共生学科で養成する人材像と３つのポリシーの相関図

【資料1】

【養成する人材像】複雑な要素からなる地球環境・自然環境問題に関わる諸課題に対して、独自に問題点や課題を見つけ出し、システム改善や技術開発の契機とする。幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用し、それら諸課題を解決する計画立案力・実践力を備えた人材を養成する。

養成人材像の要素

- 問題点や課題発見力と課題解決力
- 幅広い視野・教養・科学的知見
- 分析思考力
- 経験知
- 他者との共感力

ディプロマ・ポリシーの要素

【知識】
- □ 生物機能の理解と応用
- □ 自然環境や人工物を構成する基盤的な要素の理解と利用・応用
- □ 世の中の動きや仕組み、地域環境と社会活動の関係性の理解とソーシャルデザインの知識

【姿勢】
- □ 解決すべき課題抽出と工学的解決アプローチ提案
- □ 他者への理解・尊重と協働

【行動】
- □ 生物機能、化学的・物理的性質などの観測・計測・評価
- □ 環境の測定・評価
- □ 事象の定量的・論理的に解析と表現
- □ 地球環境の多様性認識と課題解決に向けての他者への働きかけ
- □ 知識・技能・思考判断の結びつけ、洗練・一般化

カリキュラム・ポリシーの要素

【実用・応用を見据えた科目群】
- □ 環境管理技術 □ 生物工学
- □ エネルギー・資源・化学物質の利用
- □ ソーシャルデザイン □ 基礎科目

【目標を持った科目履修】
- □ 自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める。
- □ 定期的なフィードバックにより、志を固める。

【経験知を出発点とした課題発見・課題解決思考能力の養成】
- □ フィールド・環境施設実習
- □ 社会連携プロジェクト
- □ 卒業研究・活動

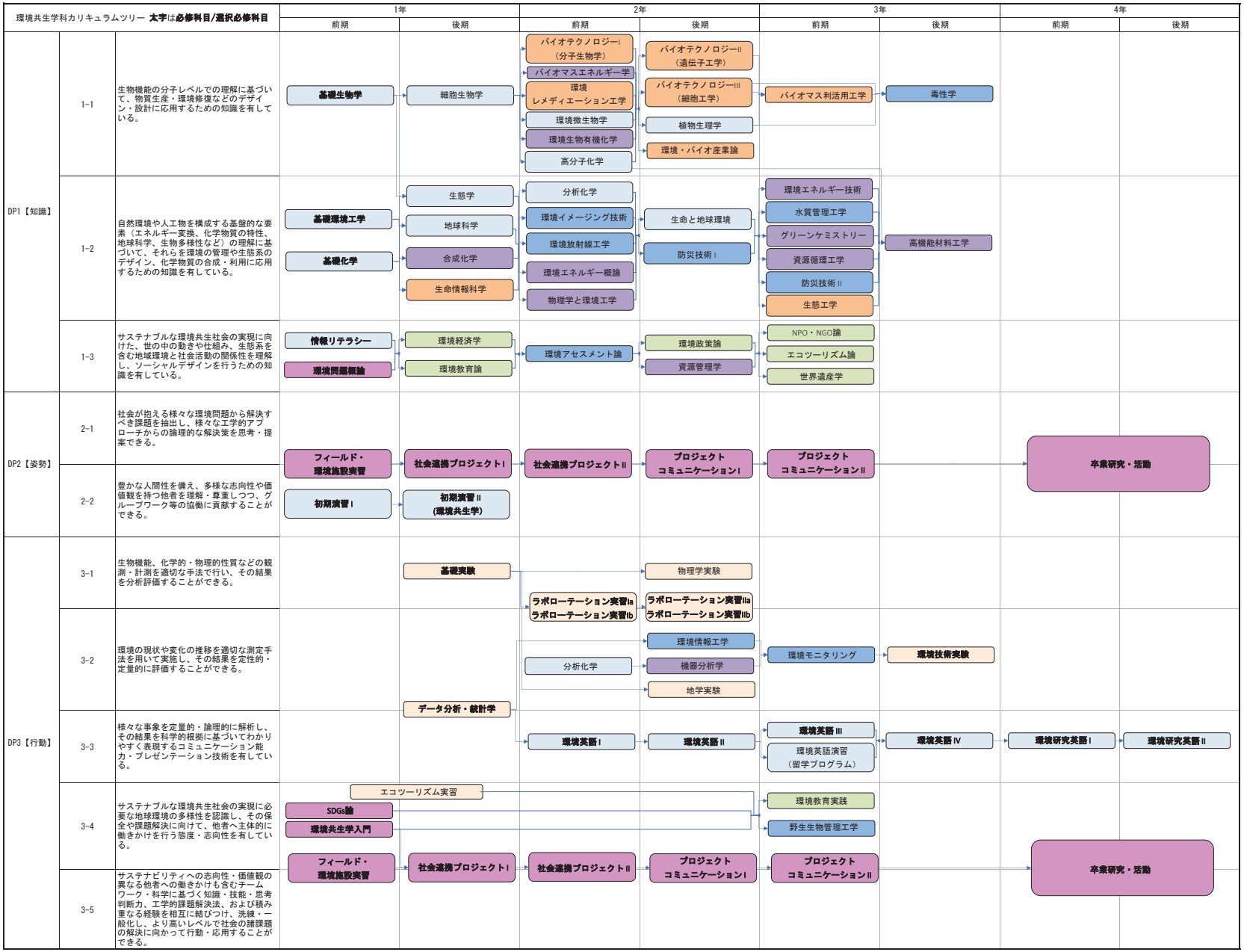
【課題解決実行力の養成】
- □ 基礎実験 □ラボローテーション実習□ 環境技術実験□ 卒業研究・活動

アドミッション・ポリシーの要素

【知識】
基礎学力
- □ 生物学や化学 □ 数学的能力
- □ 国語や英語能力

【姿勢】
- □ 自他の尊重、失敗を恐れない
- □ 柔軟な思考力
- □ 持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲

【行動】
- □ 自ら考えて表現すること、多様な人々との共働
- □ 課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲


環境共生学科カリキュラムツリー 太字は必修科目/選択必修科目
1年
2年
3年
4年
前期
後期
DP1【知識】
DP2【姿勢】
DP3【行動】
1-1
1-2
1-3
2-1
2-2
3-1
3-2
3-3
3-4
3-5
生物機能の分子レベルでの理解に基づいて、物質生産・環境修復などのデザイン・設計に応用するための知識を有している。
自然環境や人工物を構成する基盤的な要素（エネルギー変換、化学物質の特性、地球科学、生物多様性など）の理解に基づいて、それらを環境の管理や生態系のデザイン、化学物質の合成・利用に応用するための知識を有している。
サステナブルな環境共生社会の実現に向けた、世の中の動きや仕組み、生態系を含む地域環境と社会活動の関係性を理解し、ソーシャルデザインを行うための知識を有している。
社会が抱える様々な環境問題から解決すべき課題を抽出し、様々な工学的アプローチからの論理的な解決策を思考・提案できる。
豊かな人間性を備え、多様な志向性や価値観を持つ他者を理解・尊重しつつ、グループワーク等の協働に貢献することができる。
生物機能、化学的・物理的性質などの観測・計測を適切な手法で行い、その結果を分析評価することができる。
環境の現状や変化の推移を適切な測定手法を用いて実施し、その結果を定性的・定量的に評価することができる。
様々な事象を定量的・論理的に解析し、その結果を科学的根拠に基づいてわかりやすく表現するコミュニケーション能力・プレゼンテーション技術を有している。
サステナブルな環境共生社会の実現に必要な地球環境の多様性を認識し、その保全や課題解決に向けて、他者へ主体的に働きかけを行う態度・志向性を有している。
サステナビリティへの志向性・価値観の異なる他者への働きかけも含むチームワーク・科学に基づく知識・技能・思考判断力、工学的課題解決法、および積み重なる経験を相互に結びつけ、洗練・一般化し、より高いレベルで社会の諸課題の解決に向かって行動・応用することができる。
基礎生物学
細胞生物学
バイオテクノロジーI（分子生物学）
バイオマスエネルギー学
環境レメディエーション工学
環境微生物学
環境生物有機化学
高分子化学
バイオテクノロジーII（遺伝子工学）
バイオテクノロジーIII（細胞工学）
植物生理学
環境・バイオ産業論
バイオマス利活用工学
毒性学
基礎環境工学
基礎化学
生態学
地球科学
合成化学
生命情報科学
分析化学
環境イメージング技術
環境放射線工学
環境エネルギー概論
物理学と環境工学
生命と地球環境
防災技術I
環境エネルギー技術
水質管理工学
グリーンケミストリー
資源循環工学
防災技術II
生態工学
高機能材料工学
情報リテラシー
環境問題概論
環境経済学
環境教育論
環境アセスメント論
環境政策論
資源管理学
NPO・NGO論
エコツーリズム論
世界遺産学
フィールド・環境施設実習
社会連携プロジェクトI
社会連携プロジェクトII
プロジェクトコミュニケーションI
プロジェクトコミュニケーションII
卒業研究・活動
初期演習I
初期演習II（環境共生学）
基礎実験
物理学実験
ラボローテーション実習Ia
ラボローテーション実習Ib
ラボローテーション実習IIa
ラボローテーション実習IIb
環境情報工学
分析化学
機器分析学
地学実験
環境モニタリング
環境技術実験
データ分析・統計学
環境英語I
環境英語II
環境英語III
環境英語演習（留学プログラム）
環境英語IV
環境研究英語I
環境研究英語II
エコツーリズム実習
SDGs論
環境共生学入門
環境教育実践
野生生物管理工学
基礎
問題・課題の認識
体験・技術習得
ソーシャルデザイン
環境管理技術
エネルギー・資源・化学物質の利用
生物工学
研究・プロジェクト

カリキュラムマップ

区分	科目名	時期	必修/選択	単位数	DP 1-1	DP 1-2	DP 1-3	DP 1-4	DP 2-1	DP 2-2	DP 2-3	DP 3-1	DP 3-2	DP 3-3
基礎科目	初期演習I	1年前期	必修	1						○				○
	初期演習II（環境共生学）	1年後期	必修	1				○	○	○	○			○
	情報リテラシー	1年前期	必修	2								○	○	○
	環境英語I	2年前期	必修	1				○						◎
	環境英語II	2年後期	必修	1				○						◎
	環境英語III	3年前期	必修	1				○		○	○			◎
	環境英語IV	3年後期	必修	1				○		○	○			◎
	環境英語演習（留学プログラム）□	3年前期（集中）	選択	2				○		○	○			◎
	（TOEIC認定英語）（「要件」に記載）	3年後期	選択	2										
	環境研究英語I	4年前期	必修	1	○	○	○	○						
	環境研究英語II	4年後期	必修	1	○	○	○	○						
	基礎化学	1年前期	必修	2	○	◎						○		
	基礎生物学	1年前期	必修	2	◎		◎					○		
	基礎環境工学	1年前期	必修	2	○	○	◎		○				○	
	生態学	1年後期	選択	2			◎							
	地球科学	1年後期	選択	2			◎						○	
	細胞生物学	1年後期	選択	2	◎							○		
	分析化学	2年前期	選択	2		◎							◎	
	高分子化学	2年前期	選択	2	◎	◎						○		
	環境微生物学	2年前期	選択	2	◎		○					○		
	植物生理学	2年後期	選択	2	◎		○					○		
	生命と 地球環境□	2年後期（集中）	選択	1			◎	○	○	○	○			
問題・課題の認識	環境共生学入門（学習設計）	1年前期	必修	1	○	○	○	○	○	◎	○			
	SDGs論	1年前期	必修	2				◎	○					
	環境問題概論	1年前期	必修	2				◎	○					
	フィールド・ 環境施設実習	1年前期	必修	2					◎	◎	○		○	
体験・技術習得	エコツーリズム実習	1年通年	選択	1				○						
	基礎実験	1年後期	必修	1.5						○		◎	◎	○
	データ分析・ 統計学	1年後期	必修	2	○	○	○	○				○	○	◎
	ラボローテーション実習Ia	2年前期	選択必修	1.5					○	○	○	◎	◎	○
	ラボローテーション実習Ib	2年前期	選択必修	1.5					○	○	○	◎	◎	○
	ラボローテーション実習IIa	2年後期	選択必修	1.5					○	○	○	◎	◎	○
	ラボローテーション実習IIb	2年後期	選択必修	1.5					○	○	○	◎	◎	○
	物理学実験	2年後期（集中）	選択	1								◎	○	○
	地学実験	2年後期（集中）	選択	1								○	◎	○
	環境技術実験	3年後期	必修	1.5					○			◎	◎	○
ソーシャルデザイン	環境経済学	1年後期	選択	2				◎	○					○
	環境教育論	2年後期	選択	2				◎	○					○
	環境教育実践	3年前期	選択	1				○						◎
	環境政策論	2年後期	選択	2				◎	○					
	NPO・NGO論	3年前期	選択	2				◎	○					
	エコツーリズム論	3年前期（集中）	選択	1				◎						
	世界遺産学	3年前期（集中）	選択	1				◎						
環境管理技術	環境イメージング技術	2年前期	選択	2	○	○	◎					○		
	環境放射線工学	2年前期	選択	2	○	○	◎						◎	
	防災技術I	2年後期	選択	2			◎	◎	○					
	防災技術II	3年前期	選択	2			◎	◎	○					
	環境アセスメント論	2年前期（集中）	選択	2			○	◎	○					
	環境情報工学	2年後期	選択	2			○					○	◎	
	野生生物管理工学	3年前期	選択	2			○							
	水質管理工学	3年前期	選択	2	○	○	◎	○	○				○	
	環境モニタリング	3年後期	選択	2		◎	○						◎	
	毒性学	3年後期	選択	2	○	◎	○						○	
エネルギー・資源・化学物質の利用	合成化学	1年後期	選択	2		◎						○	○	
	環境生物有機化学	2年前期	選択	2	○	◎	○						○	
	環境エネルギー概論	2年前期	選択	2		◎		○	○			○		
	バイオマスエネルギー学	2年前期	選択	2	○	◎		○	○			○		
	環境エネルギー技術	3年前期	選択	2	○	◎	○	○	○			○		
	物理学と環境工学	2年前期	選択	2		○	◎	○	○	○			○	
	資源管理学	2年後期	選択	2		○		◎	○			○	◎	
	機器分析学	2年後期	選択	2		◎						○	◎	
	グリーンケミストリー	3年前期	選択	2		◎		○	○	○			○	
	資源循環工学	3年前期	選択	2		○	○	◎	○				○	
	高機能材料工学	3年後期	選択	2		◎		○				○		
生物工学	生命情報科学	1年後期	選択	2	○		◎							
	バイオテクノロジーI （分子生物学）	2年前期	選択	2	◎							○		
	バイオテクノロジーII（遺伝子工学）	2年後期	選択	2	◎							○		
	バイオテクノロジーIII（細胞工学）	2年後期	選択	2	◎							○		
	環境レメディエーション工学	2年前期	選択	2	◎	○	○	○						
	バイオマス利活用工学	3年前期	選択	2	◎	○	○	○	○			◎		
	環境・バイオ産業論	2年後期	選択	2	◎	○	○			○		○		
	生態工学	3年前期	選択	2	○		◎	○	○	○				
研究・プロジェクト	社会連携プロジェクトI	1年後期	必修	3					◎	◎	◎	○	○	○
	社会連携プロジェクトII	2年前期	必修	3					◎	◎	◎	○	○	○
	プロジェクトコミュニケーションI	2年後期	必修	3					◎	◎	◎	○	○	○
	プロジェクトコミュニケーションII	3年前期	必修	3					◎	◎	◎	○	○	○
	卒業研究・活動	4年通年	必修	6					◎	◎	◎	○	○	○

環境共生学部　環境共生学科　（環境系技術者・調査員・研究者）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	機器分析学	2	水質管理工学	2	環境モニタリング	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	高分子化学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	防災技術Ⅱ	2	毒性学	2							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	環境生物有機化学	2	環境情報工学	2	資源循環工学	2	高機能材料工学	2							
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	資源管理学	2	生態工学	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境レメディエーション工学	2	環境政策論	2	グリーンケミストリー	2									
	SDGs論	2	生命情報科学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	生命と地球環境（集中）	2	野生生物管理工学	2									
	環境問題概論	2			物理学と環境工学	2			環境放射線工学（2前配当）	2									
					環境イメージング技術	2			バイオマスエネルギー学（2前配当）	2									
					環境アセスメント論（集中）	2													
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	18	小計	24	小計	18	小計	20	小計	8.5	小計	4	小計	4	**合計**		**112**

環境共生学部　環境共生学科　（環境・サステナビリティコンサルタント）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	環境政策論	2	バイオマス利活用工学	2	高機能材料工学	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	環境エネルギー概論	2	環境教育論	2	野生生物管理工学	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	環境教育実践	1									
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	環境情報工学	2	NPO・NGO論	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境レメディエーション工学	2	資源管理学	2	資源循環工学	2									
	SDGs論	2	生命情報科学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	環境・バイオ産業論	2	環境エネルギー技術	2									
	環境問題概論	2	環境経済学	2	環境アセスメント論（集中）	2	植物生理学	2	環境英語演習（集中）	2									
							生命と地球環境（集中）	2											
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
			基礎実験	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	16	小計	20	小計	20	小計	22	小計	17	小計	8.5	小計	4	小計	4	**合計**	**110**	

環境共生学部　環境共生学科　（応用化学系研究者・技術者）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	機器分析学	2	グリーンケミストリー	2	高機能材料工学	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	高分子化学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	環境エネルギー技術	2	毒性学	2							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	環境生物有機化学	2	環境情報工学	2	バイオマス利活用工学	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境イメージング技術	2	バイオテクノロジーⅢ(細胞工学)	2	水質管理工学	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境放射線工学	2	環境・バイオ産業論	2	環境英語演習（集中）	2									
	SDGs論	2	環境経済学	2	環境エネルギー概論	2	環境政策論	2											
	環境問題概論	2	生命情報科学	2	バイオマスエネルギー学	2	生命と地球環境（集中）	2											
					環境レメディエーション工学	2													
					バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2													
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
			基礎実験	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	16	小計	20	小計	24	小計	20	小計	14	小計	11	小計	4	小計	4	**合計**	**111**	

環境共生学部　環境共生学科　（バイオ系研究者・技術者）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広く バランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し 科目選択して ください。特に「 社会科学科目」にも目を向けて ください。また、外国語科目に関する 卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意して ください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	バイオマス利活用工学	2	高機能材料工学	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	2	生態工学	2	毒性学	2							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	環境・バイオ産業論	2	環境エネルギー技術	2	環境モニタリング	2							
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	植物生理学	2	環境英語演習（集中）	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境エネルギー概論	2	環境情報工学	2											
	SDGs論	2	生命情報科学	2	環境生物有機化学	2	機器分析学	2											
	環境問題概論	2			環境イメージング技術	2	環境政策論	2											
					環境レメディエーション工学	2	生命と地球環境（集中）	2											
					環境アセスメント論（集中）	2													
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
			基礎実験	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	16	小計	18	小計	24	小計	22	小計	12	小計	13	小計	4	小計	4	**合計**	**111**	

環境共生学部　環境共生学科　（エネルギー系研究者・技術者）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広く バランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し 科目選択して ください。特に「 社会科学科目」にも目を向けて ください。また、外国語科目に関する 卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意して ください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	環境政策論	2	バイオマス利活用工学	2	高機能材料工学	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	環境エネルギー概論	2	環境教育論	2	環境エネルギー技術	2									
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	機器分析学	2	NPO・NGO論	2									
	基礎環境工学	2	生態学	2	物理学と環境工学	2	防災技術Ⅰ	2	防災技術Ⅱ	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境イメージング技術	2	環境情報工学	2	資源循環工学	2									
	SDGs論	2	環境経済学	2	高分子化学	2	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	2	環境放射線工学（2前配当）	2									
	環境問題概論	2			環境生物有機化学	2	資源管理学	2	環境英語演習（集中）	2									
					バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	生命と地球環境（集中）	2											
					環境アセスメント論（集中）	2													
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	18	小計	24	小計	22	小計	18	小計	4.5	小計	4	小計	4	**合計**	**110**	

環境共生学部　環境共生学科　（企業でのSDGs推進担当）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	環境政策論	2	バイオマス利活用工学	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎化学	2	合成化学	2	環境エネルギー概論	2	環境教育論	2	環境英語演習（集中）	2									
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	植物生理学	2	環境エネルギー技術	2									
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	防災技術Ⅰ	2	NPO・NGO論	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境放射線工学	2	環境情報工学	2	防災技術Ⅱ	2									
	SDGs論	2	環境経済学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	環境・バイオ産業論	2	資源循環工学	2									
	環境問題概論	2	生命情報科学	2	環境レメディエーション工学	2	資源管理学	2	環境教育実践	1									
					環境アセスメント論（集中）	2	生命と地球環境（集中）	2	世界遺産学	1									
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	20	小計	22	小計	22	小計	18	小計	6.5	小計	4	小計	4	**合計**	**112**	

環境共生学部　環境共生学科　（エコツアープランナー/学芸員*）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	環境イメージング技術	2	環境政策論	2	バイオマス利活用工学	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎化学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	環境教育論	2	環境英語演習（集中）	2	毒性学	2							
	基礎生物学	2	生態学	2	環境微生物学	2	植物生理学	2	野生生物管理工学	2	環境モニタリング	2							
	基礎環境工学	2	地球科学	2	環境放射線工学	2	防災技術Ⅰ	2	NPO・NGO論	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	環境経済学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	環境情報工学	2	防災技術Ⅱ	2									
	SDGs論	2			環境レメディエーション工学	2	生命と地球環境（集中）	2	資源循環工学	2									
	環境問題概論	2							環境教育実践	1									
									世界遺産学（集中）	1									
									水質管理工学	2									
									エコツーリズム論（集中）	1									
									生態工学	2									
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	16	小計	18	小計	18	小計	23	小計	11	小計	4	小計	4	**合計**	**109**	

*資格「学芸員」　を取得するには、博物館学芸員課程科目（16単位）の修得が必要

環境共生学部　環境共生学科　（公務員（まちづくり関連））																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	環境政策論	2	バイオマス利活用工学	2	毒性学	2							
	基礎化学	2	細胞生物学	2	環境エネルギー概論	2	環境教育論	2	環境英語演習（集中）	2									
	基礎生物学	2	生態学	2	バイオマスエネルギー学	2	生命と地球環境（集中）	2	水質管理工学	2									
	基礎環境工学	2	地球科学	2	環境微生物学	2	環境情報工学	2	防災技術Ⅱ	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	生命情報科学	2	環境放射線工学	2	防災技術Ⅰ	2	野生生物管理工学	2									
	SDGs論	2	合成化学	2	物理学と環境工学	2	資源管理学	2	環境エネルギー技術	2									
	環境問題概論	2			環境レメディエーション工学	2			生態工学	2									
					環境イメージング技術	2			エコツーリズム論	1									
					環境アセスメント論（集中）	2			資源循環工学	2									
									NPO ・NGO論	2									
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	18	小計	24	小計	18	小計	23	小計	4.5	小計	4	小計	4	**合計**	**111**	

環境共生学部　環境共生学科　（中学校・高校教員（理科**））																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広くバランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し科目選択してください。特に「 社会科学科目」にも目を向けてください。また、外国語科目に関する卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意してください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	機器分析学	2	バイオマス利活用工学	2	高機能材料工学	2							
	基礎化学	2	合成化学	2	高分子化学	2	環境教育論	2	環境英語演習（集中）	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	植物生理学	2	資源循環工学	2	環境政策論（２後配当）	2							
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	環境教育実践	1									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	2	世界遺産学	1									
	SDGs論	2	生命情報科学	2	物理学と環境工学	2	生命と地球環境（集中）	2	NPO・NGO論	2									
	環境問題概論	2			環境生物有機化学	2	地学実験（集中）	1	エコツーリズム論	1									
							物理学実験（集中）	1	環境イメージング技術（２前配当）	2									
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	18	小計	20	小計	20	小計	17	小計	11	小計	4	小計	4	**合計**	**109**	

**資格「中一種免・高一種免（理科）」　を取得するには、教科および教科の指導法に関する科目の修得が必要

環境共生学部　環境共生学科　（環境ジャーナリスト）																			
共通教育科目	6単位以上　（ 共通教育のカリキュラムポリシーに従い、広く バランスのとれた科目履修を基本としますが、専門教育との関連も各自の発想に基づいて意識し 科目選択して ください。特に「 社会科学科目」にも目を向けて ください。また、外国語科目に関する 卒業要件（ 8単位以上）を満たすには、専門教育科目の必修科目（ 環境英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ、環境研究英語Ⅰ, Ⅱ）に加え、2単位以上の外国語科目の修得が必要であることに注意し て ください。）																		
	1年				2年				3年				4年						
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門教育科目	**初期演習Ⅰ**	1	**初期演習Ⅱ（環境共生学）**	1	**環境英語Ⅰ**	1	**環境英語Ⅱ**	1	**環境英語Ⅲ**	1	**環境英語Ⅳ**	1	**環境研究英語Ⅰ**	1	**環境研究英語Ⅱ**	1			
	情報リテラシー	2	**データ分析・統計学**	2	分析化学	2	環境政策論	2	NPO・NGO論	2	TOEIC認定英語（単位認定科目）	4							
	基礎化学	2	合成化学	2	環境エネルギー概論	2	環境教育論	2	資源循環工学	2	毒性学	2							
	基礎生物学	2	細胞生物学	2	バイオマスエネルギー学	2	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	2	環境英語演習（集中）	2									
	基礎環境工学	2	生態学	2	環境微生物学	2	環境情報工学	2	環境エネルギー技術	2									
	環境共生学入門（学習設計）	1	地球科学	2	環境レメディエーション工学	2	資源管理学	2	バイオマス利活用工学	2									
	SDGs論	2	生命情報科学	2	バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	2	環境・バイオ産業論	2											
	環境問題概論	2	環境経済学	2	環境放射線工学	2	植物生理学	2											
					物理学と環境工学	2	生命と地球環境（集中）	2											
					環境アセスメント論（集中）	2													
	フィールド・環境施設実習	2	**社会連携プロジェクトⅠ**	3	**社会連携プロジェクトⅡ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅠ**	3	**プロジェクトコミュニケーションⅡ**	3	**環境技術実験**	1.5	**卒業研究・活動**	3	**卒業研究・活動**	3			
	エコツーリズム実習（通年）	1	**基礎実験**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅰ**	1.5	**ラボローテーション実習Ⅱ**	1.5											
	小計	17	小計	20	小計	24	小計	22	小計	14	小計	8.5	小計	4	小計	4	**合計**		**112**

共通教育科目

共通教育は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において、的確に判断できる知性及び知識、技能の修得、真摯な学びと実践を通じ、
思いやりの心と豊かな感性を持つ自律的な個人の確立を目指しています。さらに、専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することを目的としています。
この目的のために、以下に示された5つの「MW教養コア」について、バランスのとれた学修と研鑽に努力してください。

共通教育理念「MW教養コア」

1. 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
2. 心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
3. ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
4. 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
5. 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の修得

今後の予定

・高校までの学習で補えていない理科や語学について履修科目のアドバイス
・教員のセレクトを学生に紹介「私ならこれを選ぶ」

共通教育科目	科目数
人文科学科目	18
社会科学科目	17
自然科学科目	8
国際理解科目	6
現代トピック科目	7
ジェンダー科目群	7
キャリアデザイン科目群	4
言語リテラシー科目	52
情報リテラシー科目	9
健康・スポーツ科学科目	3
スポーツ実技科目	16

◎　特に関連がある科目
○　関連がある科目

社会科学科目	環境系技術者・調査員・研究者	環境・サステナビリティコンサルタント	応用化学系研究者・技術者	バイオ系研究者・技術者	エネルギー系研究者・技術者	企業でのSGDs推進担当	自然ツーリスト・学芸員	公務員（まちづくり関連）	中学校・高校教員（理科）	環境ジャーナリスト
生涯福祉論		○		○		◎	○	◎		
社会福祉とボランティア		○				○			○	○
福祉レクリエーションの実際								○		○
子育てと家族関係						○		○	○	○
子育てと母性の気づき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代社会と憲法								課程科目あり		○
教養としての法律		○				○		○		
暮らしと法律										
女性と子供のヘルスケア			○	○						
消費者生活論		○				○				○
英語で学ぶやさしい経済学		○				○				○
英語で学ぶお金の知識	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア技術と文字デザイン						○	○	○		◎
現代の教育・保育事情						○	○		課程科目あり	
カウンセリングの実際		○				○			○	
実践カウンセリング		○				○			○	
建築と社会	○				○			◎		○

実習受入承諾書

令和６年１月２６日

武 庫 川 女 子 大 学

学長　瀬口　和義　様

武庫川女子大学附属中学校・高等学校

校長　　世良田　重人

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、本校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

実習受入承諾書

令和６年１月 15 日

武 庫 川 女 子 大 学

学長　瀬口　和義　様

西 宮 市 教 育 委 員 会

教 育 長　　重松　司郎

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、当市の中学校および高等学校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

教　育　実　習

ハ　ン　ド　ブ　ッ　ク

（中学校
高等学校　実　習　用）

武　庫　川　女　子　大　学

武庫川女子大学短期大学部

目　　次

〔は じ め に〕……1

Ⅰ　教育実習の意義と目的……2

1　教職の理念……2

2　教育実習の意義……2

3　教育実習の目的……3

4　教育実習の内容……3

Ⅱ　教育実習生の心得……5

1　実習生の心構えと態度……5

2　実習上の留意点……5

3　実習生の勤務……7

Ⅲ　教育実習の方法……8

1　実習のはじまり……8

2　学習指導の実際……8

3　生徒指導の実際……12

4　実習のおわりに……15

Ⅳ　教育実習の記録……15

1　実習記録作成上の留意点……15

2　教育実習記録の書き方……16

3　実習記録の提出と成績評価……19

4　「教職課程履修カルテ」の入力について……20

〔お わ り に〕……21

〔は　じ　め　に〕

本学における教員養成の理念（学校教育センターHP「教員養成の状況について」より抜粋）

⑴　学院立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「教員（保育士・保育教諭・栄養教諭を含む）」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。

⑵　学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員としての実践力である。

⑶　上記⑴⑵に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

1　このハンドブックは、教育実習のための手引きであり、教育実習の全般にわたって、最小限度、実習生が心得ていなければならないと思われる事項について解説するものである。

2　教育実習は、教員免許状を取得するための必修の教職科目であり、大学の教職課程の一環として位置づけられるものである。教育実習を受けてくださる実習校教員のご指導のもと、実習校の生徒らの協力によって、はじめて実施可能となる。実習生は、この貴重な機会に最大限の努力を傾注しなければならない。

3　教育実習は各実習校（教育委員会）に対して大学が依頼し、その承諾によって成り立つ。実習生は、必ず指定された実習校・実習期日で実習を行い、実習においては各実習校の指導方針に従わなければならない。実習に不熱心であったり、実習生としてふさわしくない行為があったときには、実習期間中であっても実習当該校長からその実習許可の取り消しを命ぜられることがある。

4　実習生は各自、本学所定の「教育実習の記録」（別冊）を使用し、実習校で実習した内容等の全般にわたって記録を作成し、実習校に提出して点検・評価を受けた後、定められた日に学校教育センターに提出して本学教員の点検を受けなければならない。

5　教育実習では、終始、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の学生であるという自覚をもって、責任ある言動をとらなければならない。一人一人の行動や言動が、すべて本学教育の反映として評価されることを忘れてはならない。

実習中は、謙虚さをもって誠心誠意努力することが重要である。そのような学びの姿勢が、実習校の校長先生、教頭先生、諸先生方はもちろん、生徒からも多くのことを学ぶことにつながる。

教育実習を通して生涯のすばらしい糧を得ることを心から期待している。

Ⅰ　教育実習の意義と目的

短い期間の実習であっても**実習生が行う指導の適・不適は、直接、生徒の人格形成に甚大な影響を及ぼす**ことになる。したがって、実習生は教育実習に当たって、まずその意義と目的をしっかりと心に銘記しておかなければならない。

1　教職の理念

教育とは本来、知識や経験の伝達を媒介として、被教育者の内から発展するものを助け育てつつ、それを生活と学習の両面において、より望ましい方向に教え導く作用を意味している。学校教育において、この重要な役割を担っているのは教員である。教員の仕事は、多様な個性をもつ生徒に直接働きかけて、全人格的発達を図るとともに、激変する社会に適応し新しい生き方を創っていく実践的能力を育成するという、きわめて責任の重い仕事である。教員の良し悪しが教育の成果を左右することを思えば、その仕事の遂行に必須の資質を豊かに備えていることが求められる。教員に要請される必須の資質として、次の３点を概略するので実習生と読み替えて参考にしてほしい。

まず第１に、教員は教育者としての使命感、深い教育愛と人間愛に支えられていなければならない。教員が豊かな人間味と人間に対する純粋な愛をもって教育に当たることによって、はじめて生徒を正しく指導できる。生徒を愛し、信頼して、生徒に打ち込む情熱と、意欲と、広やかな人間性の持ち主であってこそすぐれた教員と言い得るのではなかろうか。

第２は、教育者としてしっかりした教育観をもち、教える内容に関する専門的な学識と指導技術をもつことである。教員に求められるのは、これらの専門的学識や技術を、生徒のそれぞれの発達段階の学習にいかに適合させ、人格的統合をはかっていくか、ということである。そのために、生徒の成長発達や思考・行動の特質、興味や能力の違い、現実の生活経験や地域社会の要求等について、深い理解をもつことが必要である。教員の指導技術の力量は、教員が生徒をどのようにとらえ、教育をどのように考えているかという教育観に支えられているものである。生徒を見つめ、その一人一人について理解しようとする熱意と、生徒に向かって開かれた寛大な心がなければならない。教員には、深い洞察力、的確な判断力および豊かな創意工夫の能力を磨くことが求められる。ILO・ユネスコの「教員の地位に関する勧告」は、「厳しい継続的な研究を経て獲得され、維持される専門的知識と及び特別な技術」*を要求し、教育公務員特例法も、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」（第21条）と規定している。

第３に、教員は公共性の高い職務に携わる公務員であり、全体の奉仕者であるという自覚をもっていなければならない。子どもは教育を受けることによって、はじめて人間らしく生き発展するための諸権利を得ていくことができる。したがって、子どもの教育を受ける権利を中心におき、これを保護者、教員、国、社会が守り育てていくことが教育の根幹であるといえよう。教員はその中心的存在であり、国民全体に対し直接責任を負って、その職責の遂行に努めなければならない。

＊文部科学省HP「教育に関する主な国際条約・宣言・勧告等」ユネスコ「教員の地位に関する勧告（1965）（抄）」

2　教育実習の意義

教育実習は、将来、教員になろうとするものが、一定の期間、実習校において、教員として必要な多くの事柄を、実地に学びとろうとするものである。すなわち、高度の学識技能を修得するに留まらず、生徒を指導しその資質能力を開発するための技術の修習が必要である。また、生徒を愛し、生徒のために奉仕しようとする教育愛をもつことも欠くことはできない。資質能力が異なり、生活経験や環境を異にする生徒を指導することは、学問研究の上に生徒に直接触れる経験を積み重ねなければで

きることではない。ここに、教員養成における教育実習の重要性がある。

教育実習を履修するに当たり、実習生はあらかじめ次の諸点について十分に認識しておくことが必要である。

⑴　実習生は少くとも次の５つの要件を備えて実習に臨むようにしなければならない。

ア　将来教職に就くという強い意志を持っていること。

イ　原則として、教員採用選考試験を受験すること。

ウ　常に人格を磨き、誠意と情熱をもち、実習に取り組むこと。

エ　大学は「教育実習Ⅰ（中高）・Ⅱ（中高）」、短大は「教育実習Ⅰ（中）・Ⅱ（中）」の履修要件を満たすこと。

オ　「教育実習事前ガイダンス」に出席すること。

⑵　実習生は、本ハンドブックで述べられている事項を基礎として実習校の方針に従い、綿密な計画と十分な準備の下に実習を行わなければならない。教材研究の不足や、実習意欲の不十分さのために、指導内容を誤ったり、不適切な言動をとることなどがないように十分注意しなければならない。

⑶　実習指導教員は、多忙な中、実習生の教材研究や学習指導案の点検・指導をはじめ、指導授業、指導講話、実習授業後の研究会等きわめてご苦労が多い。また、実習授業等における過誤や不手際を補足修正することも必要となる。実習生はそのことを十分認識し、感謝の念をもち、格段の努力を払うことが必要である。

3　教育実習の目的

教育実習の目的は、「実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤－知識・技術・意欲・態度を修得する」ことにある。

次に教育実習の具体的目標をあげる。

⑴　教育と教員の教育活動の本質や重要さを正しく理解すること。

⑵　教員の仕事の領域全体にわたって実際の体験を通して学びとること。

⑶　生徒の要求、興味、関心、生活、人権等に対する鋭敏な感受性を養い、豊かな人間尊重の精神を培うこと。

⑷　専門領域の学識、教育学的素養を広め、深めること。

⑸　学校教育活動の仕組み、および教育の社会における役割について理解を深めること。

⑹　生徒に学ぶ心を育てること。

4　教育実習の内容

教育実習において学ばなければならない事項は、学習指導の技術だけではない。教員としてのあり方を学ぶのであって、その内容は以下にあげるように学校教育活動の幅広い分野にわたっている。実習生はこれらの分野にわたって、できるだけ多くのことを観察したり参加したりして、実地に知ることが大切である。

領　　域	実　習　内　容
1　学　校　経　営	学校教育目標と経営方針、校務分掌、施設、設備、学校行事の運営、地域社会との関連、学校事務等
2　教員としての資質向上	教員としての心構え、態度、理想的な教員などの研究と研修等
3　教　材　研　究	各教科の内容と教育課程についての研究

4　学　習　指　導	学習指導の原理および指導の計画､学習指導案､学習指導の過程・方法・技術、評価のあり方等
5　道徳教育および特別活動	道徳教育、特別活動の意義、目標と内容、指導原理と方針、学級指導、生徒会活動、学級会活動、部活動、学校行事等
6　生　徒　指　導	生徒指導の意義と目標、指導計画と方針、ホームルームの活動・学級経営、事例・場面指導等
7　学校保健と学校安全	健康管理に伴う事務、学校保健の意義・目標・内容、学校保健の計画、保健教育、学校安全の目的と安全管理、安全教育の指導の実際等
8　学校図書と視聴覚教育	学校図書教育の目標と内容、学校図書館の利用指導（各教科および総合的な学習の時間等での活用方法を含む）、視聴覚教育の意義と目標、教育機器の種類とその活用、パソコンの活用等
9　人　権　教　育	教育の原点としての人権教育のあり方を学び、将来これに取り組む心構えを養う。その際の主な課題は、以下のとおりである。 ⑴　人権感覚を身につけ人権問題を解決する実践的行動力を養うということが、学校経営や全教科・全領域における指導方針の中にどのように位置づけられているか。 ⑵　支えあう学級集団の基礎学力保障と進路保障にどのように取り組まれているか。 ⑶　集団生活を大切にし、人権感覚の育成がどのように行われているか。 ⑷　生徒を現象面だけでとらえないで、その内面をとらえなおしてみる態度がつらぬかれているか。 ⑸　人権についての正しい理解と認識を得るための系統的・科学的学習の指導がどのように行われているか。
10　特別支援教育	学校がノーマライゼーション、インクルージョン、バリアフリーなどの教育理念を踏まえて、障がい者と健常者がともに生きる教育の場であるとの認識のもとに、以下の事項について学ぶ。 ⑴　生徒一人一人の生命の尊厳と身体的・精神的能力や個性に応じた教育を大切にする態度を養う。 ⑵　障がいのある生徒が障害に伴う困難を克服し、人間として成長していくために、これを支援する教員の心構えを養う。 ⑶　学習指導や生徒指導など教育活動の個々の領域においてなされている障がいのある生徒に対する教育の内容・方法上の配慮について理解を深める。 ⑷　障がいの種類と個々の実態および指導の実際について、基礎的知識を習得し理解を深める。 ⑸　障がいのある個々の生徒についての実態を十分に理解し、障がいの事実に即して適切な支援の工夫をする。 ⑹　特別支援学級の指導に参加できる場合にはこれを通して、教育の原点として特別支援教育の重要性とあり方を学ぶ。
11　ICT の　活　用	GIGAスクール構想（文部科学省）を踏まえ、学校教育活動のあらゆる場面でICTが導入されようとしている現在において、教員にはさらなるICT活用指導力が求められていることを踏まえ、以下の事項について学ぶ。 ⑴　教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する ⑵　授業にICTを活用して指導する ⑶　生徒のICT活用を指導する ⑷　情報活用の基礎となる知識や態度について指導する

Ⅱ　教育実習生の心得

1　実習生の心構えと態度

⑴　教員になろうとする意欲をもつこと

教育実習の単位を修得することは、教員免許状取得のためのひとつの条件である。しかし、免許状を取得するためだけであるといった安易な気持ちでは、本人の実習が不成功に終わるだけでなく、実習校の指導教員の期待も裏切り、生徒にも迷惑を及ぼすことになる。**教員になろうとする強い意欲をもって、教育実習に専念すること。**

実習生が自分のもっている能力を精一杯発揮して、誠意をもって努力すれば生徒たちも必ずこれに反応してくれる。新鮮な張りつめた実習生の心を、純真な生徒たちはすばやく感じとってくれるものである。

⑵　服装・容儀を整えること

実習生は、実習期間中には下記事項に留意して、実習生としてふさわしい清潔な服装・容儀を整えること。

- 制服、白ブラウスを着用し、学章と名札をつける。実習校において、別に指示された服装がある場合には、それを優先する。
- 髪型は流行を追った極端な異型・異色のものは慎む。長い髪は束ねて、活動に支障のないようにする。爪も清潔に短く整えておく。
- 所持品などについても学生としての品位を保つものであること。勤務中（休み時間も勤務中）は、携帯電話の電源は切り、しまっておくこと。
- 実習校では、それぞれの場に応じた運動靴や上靴、下靴にはきかえる。

⑶　教員としての品位を保つこと

実習生は社会的には「学生」であるが、生徒にとっては「先生」である。教員は生徒の模範になるようにとの社会的な要請がある。礼儀作法、言葉づかい、服装・容儀においては、ふさわしい品位を保たなければならない。

なお、出勤の途中で実習校の教職員・生徒に会えば、会釈とあいさつを行うこと。

実習前に、実習生としてふさわしくないSNS上のデータは削除しておくこと。実習中の出来事はSNS上にはアップしないこと（実習中はもちろん実習終了後も）。

⑷　体調管理をすること

麻疹やインフルエンザ等の感染症を予防するため、日ごろから体調管理に注意すること。実習期間中はもとより、実習前後も「体調管理記録」表を利用し、毎日検温して体調を管理する。

とりわけ、実習前はむやみに人ごみの中には行かず、やむを得ない外出の際は必ずマスクを着用し、帰宅後の手洗い・うがいを励行すること。実習中は、慣れない環境への対応や緊張から、疲れが出やすいので、体調を維持するため、睡眠不足や偏食を避けること。体調に異変を感じたら、直ちに病院で診察してもらうこと。随時、大学の担当教員と連絡をとれるようにしておき、何かあればすぐに大学の担当教員に連絡すること。

2　実習上の留意点

⑴　素直に指導教員の指導を受ける

指導教員との密接な連絡なしには実習は不可能である。実習生のひとりよがりだけでは実習はできない。実習の全期間を通じて教材研究のこと、指導案のことなどあらゆることにわたって指導教員の教えを受けなければならない。実習生として学生として、常に尊敬の気持ちを忘れず、

礼節をわきまえ、言葉づかいなどにも注意して指導教員に接するようにすること。

⑵　丁寧に細かくメモをとる

実習期間中には多くの新しいことを見たり聞いたりする。実習期間中にはいつも丁寧に細かくメモをとるよう心がけること。校長先生からお話を伺うとき、実習指導教員から批評を聞くとき、実地指導について討議するときなどには、メモを忘れないようにする。メモの整理段階で、新しい発想も浮びあがってくる。メモは記録の材料を提供するとともに、創造の芽にもなる。

⑶　積極的に生徒に接する

充実した学習指導が行われるためには、実習生と生徒との間で信頼関係が保たれていなければならない。実習期間中に積極的に生徒に接すること。生徒たちに話かけ、話し合うことで生徒たちの気持ちを理解していくことも教育実習の大切な課題である。

とくに担当の学級の生徒の顔と名前をなるべく早く覚えることが大切である。しかし、「えこひいき」の感を生徒に与えてはならない。すべての生徒に公平な態度で接しなければならない。

⑷　安全管理に細心の注意を払う

生徒の生命と安全を確保することは、あらゆる教育活動の前提条件である。安全管理についての配慮がなされると同時に、生徒に対する事故防止のための指導が行われなければならない。

安全管理の領域には、①学校環境の安全管理、②学校生活の安全管理、③学校における事故防止などがあるが、とくに不審者対策は今日的課題でもある。実習生は、まず、実習校での安全教育の目標と指導計画、安全管理の実際などについて十分認識を深めておかなければならない。

理科の実験・薬品の取り扱い、家庭科の授業、保健体育科の授業、廊下や階段の通行、運動場での遊び、遠足や登下校時など生徒の身近なところで、危険はいつでもどこでも起こり得る。実習生は常に、生徒に事故が起こらないよう安全のために細心の注意を払う責任がある。もし、実習期間中に実習生にかかわる事故が発生した場合は、直ちに適切な処置をとり、すみやかに指導教員を通じて校長に報告し、同時に大学の担当教員・学校教育センターにも報告することを忘れてはならない。

⑸　実習生としての重責を自覚する

教育者には、生徒をそれぞれの保護者からあずかって教育するという、きわめて重い責任がかかっている。実習生も一方では教育者として、この重責を負担しなければならないことを自覚する。

ア　校外指導の禁止

実習生の中には、生徒と親しくなって、実習期間中にあるいは期間後において校外に連れていきたくなることがあるかもしれないが、このような行動は厳に慎しまねばならない。また、自宅において実習校の生徒をとくに個人的に指導することも避けなければならない。

イ　個人的な助言は控え目に

生徒から個人的な相談をもちかけられることもあるかもしれない。しかし、実習生としては、できるだけ聞くことに努め、指示や助言はできるだけ控え目にしなければならない。自他ともに過信が思いがけない重大な結果を引き起こすことになる。なお、このような場合には、指導教員に連絡・相談をすることが必要である。

ウ　さらに実習生は、次の事項について自分勝手に行動することは許されない

◦生徒の家庭へ、連絡や依頼などを出すこと。
◦生徒を随伴、残留、撮影すること。
◦生徒の賞罰を行うこと。
◦生徒に感想文、記念品などを求めること。
◦生徒や保護者とメールやSNSで交流すること（連絡先の交換、SNSやメールのIDやアド

レスの交換もしてはいけない)。

⑹ 守秘義務

「職務上知り得た秘密を漏らしてはならない」(地方公務員法第34条)に基づき、個人情報の適正な取り扱いに留意し、実習中に知り得た個人情報について第三者に漏らしたり、不当な目的に利用したりするようなことがあってはならない。

3 実習生の勤務

⑴ 実習校の規則を守ること

実習校には、「生徒心得」(校則)がある。例えば、通学路が示されているような場合には、教職員と同じように実習生も生徒の模範となるように、率先してこれを守らねばならない。

⑵ 通勤

通勤は、公共交通機関を利用すること。自動車・バイクは禁止とする。実習校の許可があれば、自転車は利用してもよい。

⑶ 勤務時間

実習校での勤務時間の詳細については、事前打ち合わせ時に指示されるが、通常は実習校の教職員と同じである。始業時間に遅れないように、常に早い目に出勤しておくことが必要である。

毎日の勤務終了時刻は、指導教員の指示によること。翌日の学習指導等の準備のため、遅くなるような場合には必ず指導教員の許可を受ける。また、単独で遅くまで残留しないように注意すること。指導教員も残留してくださる場合は、職員室で指導を受けるようにする。

⑷ 出勤簿

登校すれば、直ちに所定の場所に置かれている実習生の出勤簿に押印し、出勤を明らかにしておかなければならない。

⑸ 欠勤・遅刻・早退

欠勤・遅刻・早退はしないことが原則である。明確な理由がないのに、欠勤・遅刻・早退をすることは許されない。やむを得ず欠勤・遅刻・早退をする場合は、すみやかに実習校に連絡するとともに、大学の担当教員にも連絡しなければならない。無断で欠勤・遅刻・早退したり、理由にならないような理由で欠勤・遅刻・早退したりすることは絶対にあってはならない(教育実習においては、肉親の不幸の場合以外は公欠は認められない)。

なお、実質の実習日が15日間に満たない場合には、大学の担当教員・学校教育センターに連絡すること。欠勤・休校等によって、実習の期間に変更が生じた際は、「実習期間変更届」に必要事項を記入して実習校の証明印をいただき、実習終了後1週間以内に学校教育センターに提出すること。

⑹ 昼食

昼食については、実習校の指示に従うこと。実習中は、学校給食の場合もある(給食費は実習生が負担)が、校外において昼食をとらなくてよいように弁当を持参する。

⑺ 控室の管理

実習校では、実習生用の控室が設けられることがある。複数の実習生がいる場合は、当番を決めて毎日その控室を清掃整理しておかなければならない。なお、不要な貴重品を持参しないこと。控室での紛失は、実習校にも他の実習生にも迷惑をかけることになる。

⑻ 突発的な休校

警報発令等の理由で実習校が臨時休校になった場合は、実習校の指示に従うこと。教職員の方々の休校への対応を学ばせていただくことも、教育実習の一環である。

Ⅲ　教育実習の方法

すでに「教育実習の意義と目的」でも述べたように、教育実習はきわめて広い領域にわたって教員としてのすべてを学びとろうとする機会であり、本来、観察・参加・授業実習・評価反省の全過程を通じて行われるべきものである。

したがって、教育実習では、授業の実習だけではなく各種の観察や参加などあらゆる機会を通じて、一人一人の生徒がおかれている生活実態をみつめ、それに学びながら教育を考えることが重要である。そのような学びの姿勢こそが教員への道の出発点であることを、よく認識すること。

1　実習のはじまり

教育実習を円滑に、かつ効果的に実施するためには、十分に準備を整える必要がある。その概要を述べる。

⑴　大学における事前ガイダンス

ア　実習生は教育実習事前事後指導の科目受講はもとより、実習の前に大学の引率指導・連絡担当教員のところにお伺いし、実習に関する指導を受ける（この際、実習中の連絡のための連絡先を確認すること）。

イ　実習前の「教育実習事前ガイダンス」には、必ず出席しなければならない。このときに実習に行くための注意事項などをあらためて確認し、実習への準備をしっかり整える。もし「欠席許可理由」で欠席する場合には、学校教育センターまで事前に必ず所定の届をすることが必要である。

⑵　実習校における事前指導

実習校のご都合を伺い、必ず指定された日時に訪問する。校長、教頭または実習担当教員にお目にかかってあいさつし、日程、配属学年や組、指導教員、教科書の準備、登下校の時刻や通学路など、実習全般についての指示を受ける。また、実習生は『実習の記録』の中から「教育実習生プロフィール」「出勤簿」「教育実習成績通知票」に必要事項を記入して、実習校に提出しなければならない。

⑶　実習第一日

ア　指示された出勤時刻よりも20分以上は早く登校し、指示のあった場所に集合する。

イ　職員朝礼や生徒朝礼で、実習生の紹介をしていただく際の実習生あいさつは簡単に、しかし実習をさせてくださることに対する謝意を込めたものでなければならない。

ウ　朝礼のあとは、予定された計画に従って校長以下各教員の指導講話やオリエンテーションが行われ実習が始まる。

2　学習指導の実際

⑴　周到な準備と学習指導案の作成

教科については、中学校・高校では高度で広範囲な内容を含むため深い教材研究を必要とする。大学教職課程で学んでいる各専門分野の深い知識（中高「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科に関する専門的事項」および中高各「教科指導法」を中心として）が役立つことになる。教材を考える場合、どのような角度からこれらを取り扱ったらよいか、既習教材との関連性をも考慮し、教材の中でどの部分が生徒に重要であるかについても検討する。生徒に質問を受けたときの答を想定できる程度にまで、教材を深く研究しておく必要がある。

実習生にはそれぞれに指導教員が決められ、担当する学習指導の授業担当時間割などが作成さ

れる。『中学校学習指導要領』または『高等学校学習指導要領』に指導上の一般的方針や指導計画の作成と内容の取り扱いが述べられているので、作成のとき参考にするとよいが、指導教員から十分な指導内容の教示を受け、それによって学習指導案を作成しなければならない。学習指導案は指導の先生の校閲を受けたのち、学習指導（授業実習）に当たる。

また教科のみならず、指導教員の受け持たれる学級の指導（中学校実習では道徳も）についても指導助言をいただくことになる。

指導案の形式は各校ごとに担当する教科によって決められる場合があるので、指導の先生方のご教示を受けて作成しなければならない。次に参考までに、ひとつの形式を例示して指導案作成の要領、また、必要な項目について簡単に解説しておく。

ア　単元（主題・題目・題材）設定の理由

なぜこの単元が取り扱われるかの理由を述べるのであるが、教材観、指導観（方法観）、生徒観に分けて述べる場合もある。

教材観ではその教材が取り扱われている意味づけ（設定された理由）、その教材の重要性の軽重を述べるものであり、他の教材、学年との関連性についても述べることがある。学習指導要領、指導書等が参考となる。

生徒観では、生徒の発達段階、学級の現状、指導者の認識、既習事項等を述べるのであるが、個々の生徒の能力については指導教員に助言を受けるのもよい。

指導観（方法観）では、上の実態に即してどのような指導法を考えればどんな効果が期待されるか、どんな困難があるかを考えてみる。

イ　指導目標

指導者が何を目標として授業を進めていくかを述べるのであって、学習指導要領に示されている目標と関連させて明確にする。さらに本時の目標では、主題の中心的な目標を記入する。

ウ　学習指導計画

主題をどのように区分し、どういう順序で、どれだけの時間をかけて指導するのかの大要を記す。本時についての位置も書き添える。学習指導要領の「学習指導計画の作成と内容の取り扱い」を参照することも必要である。

エ　学習指導の過程

導入：生徒全員の学習への興味を起こさせ、生徒一人一人が、何を学習するかをしっかりと把握するように導く段階である。学習に対する興味の喚起→学習目的の確認→問題意識の自覚→問題の共通化・焦点化へと進めていく。

展開：本時の指導目標を区分された指導内容に沿って、計画的にすすめていく段階である。教科によって、いろいろな教材、教具、指導方法や形態を工夫し、生徒の活発な学習活動を育てながら、全員を問題解決と理解に導いていく。

まとめ（整理）：本時の学習の成果をまとめ、生徒一人一人に理解を確かめ自分のものにさせる重要な段階である。学習事項の整理、報告、発表、話し合い、質疑、ドリルなど多様な方法が考えられる。また、次時の予告なども行う。

生徒の学習活動は、学習内容の指導を進めていく過程で、生徒の主体的意識がどのような活動をすることによって高まり、深まり、認識にまで形成されていくかという観点に立って、生徒の反応をも予想して展開を考えておくのが望ましい。そして具体的に学習活動の欄には、主題に基づいて分節されたいくつかの指導項目に対応する生徒の学習活動として、読む・聞く・書く・考える・調べる・話し合う・発表するなどを予定して記入する。

指導内容・留意点の欄には、この生徒の学習活動ごとに、教員が実際に指導するための手だて、すなわち、説明する・発問する・指名する・板書する・実験する・機器を使用する・考え

させる・調べさせる・助言する・実物や資料を提示する、などについて、できるだけ具体化して記入する。またそれぞれの活動に予定される所要時間（分）も配当しておく。

準備物等の欄には、本時の指導に当たって使用する必要な資料など準備すべきものを記入する。教科書、参考書、視聴覚教材、教育機器、見学すべき場所や事物、観察や実験・実習に必要な準備すべき備品、教具等を周到に予定しておく。

いうまでもなく、学習指導過程は教科によって同一ではない。同じ教科でも扱う教材によって変わる。教材の特性が学習指導過程を決定する一つの要因となっているので留意しなければならない。

オ　実習授業の評価と反省および助言

実地指導後に反省会がもたれるので、指導の実際の状況について記録し、また実際の指導が果たして効果的であったか、改善すべき問題点はなかったかなどを反省し、具体的に感想を書きとめておく。学習指導案と実際の授業との適合度を検討し、次の授業をさらに効果的にできるようフィードバックしていく。指導教員から受けた総評と指導助言の欄は、指導者の立場からみて、目標は達成されたか、時間配分は適切であったか、教具や資料の準備は適切であったか、能力差の配慮は適切であったか等について、また生徒の立場からみて、学習意欲・興味・関心はどうであったか、知識・技能・態度は身についたか等について指導教員から受けた批評・助言などを記入する。

カ　研究授業について

研究授業は実習生が行う公開の授業である。実習校の教員方、他の実習生の参観のもとに実施され、授業の後、研究会（反省・批評会）が催される。研究会では授業批評が主であり、非難的人間批評や感情的印象批評にならないよう心がける。

これによって、自分の教育方法を高める資料のひとつとなるので、実習生はメモをとり、自分の指導と比較対照して考えることが大切である。

⑵　実地指導

指導案がいくらよくできていても実際に授業をするのには、特別な指導技法が必要である。

機会があれば積極的に、指導教員以外の教員の授業も参観させていただき、具体的な指導を受けることによって、はじめて指導技術の一端が得られるものである、ここでは、実地指導の一般的な要点を指摘しておく。

ア　姿勢

「森をみて木をみる。木をみて森をみる」ということばがある。教卓上の書物や黒板の方ばかりに視線がとまっていると、生徒の集中力がだんだんと拡散してしまう。生徒の中に入りこんでいこうとする気持ちが必要である。とくに、一人一人を最大限に生かし、落ちこぼしの生徒をつくらないという基本態度をつらぬくこと。

イ　発声

教室のすみずみまで声が達することが必要である。このためには、意識して普通よりも少し大きい声を出す方がよい。原則として方言を使わず共通語でわかりやすくゆっくり、ときには繰り返して話すこと。声の調子はやわらかく話しかけるようにする。早口や語尾が消えてしまうのはいけない。「…しなさい」「…してください」ではなく、「…しましょう」の表現法が好ましい。こうした声の出し方、話し方ひとつでも、生徒の学習意欲をかきたてたり、そこねたりするのであるから、各自十分に研究してもらいたい。

ウ　発問

学習指導というものは、生徒に教え、生徒自身に考えさせていくのであるから、いつ何を教え、どういう状態で何を考えさせるかという見通しをまずつける。そして、発問のタイミング

を考え、どのような内容の発問をどのような形で、また、どのような順序で誰にするかという計画を立てておく。生徒がどのような答えをするかも予想して、あらかじめ発問の仕方などを工夫しておくことも必要である。

㋐　すぐれた発問の条件：(a)質問の意味が明瞭で、理解が容易なものであること。(b)精選された発問、つまり指導目標を達成するために不可欠で、しかも有効な発問をすること。(c)思考のステップを踏んだ発問であること。(d)発問と指名との間（ま）を適切にとること。

㋑　発問の種類：(a)すでに学習した内容について、記憶していることを確かめるための発問、(b)学習意欲を高めるための発問、(c)新しい教材に対する生徒たちの興味や関心、あるいは理解の程度をきくための発問、(d)新しい問題に取り組む意欲を起こさせるための発問、(e)問題点を分析する手がかりを与えるための発問、(f)各人の違った考えをまとめるための発問、などが考えられる。

なお、問題解決のための発問のときは、生徒たちの考えぬく過程を重視し、指導者は性急に答を言わせたり、正解を与えたりしない方がよい。また、ひとつの発問だけでは、ただちに解決できないことも多いので、あらかじめ、助言的な二段三段の発問を用意しておくことも必要である。

㋒　発問時の配慮：指導者は、生徒の答えのうちでもとくに「**つまずき**」の答えを重視し、**正しさへの思考の発展に生かす**ことが大切である。生徒の発言を大事にして、それに依拠する授業の発展を考えることが、一人一人を生かす指導の要点である。「まちがった答」を言ってみんなに笑われるような教室の中では、学習の原動力である「やる気」は育たない。

とくに全員参加の学習を実現し、どの生徒にも学ぶことによろこびをもたせ「生きがい」を感じさせるためには、一人一人の生徒をみつめて、「この生徒には」また「あの生徒には」どう質問するかという、きめ細かな配慮と用意が重要である。生徒のつぶやきやささやきの中にすばらしい発見をすることがある。

エ　板書

学習指導のために黒板に字を書くこと（板書）は、重要な問題点を順次浮かびあがらせ、それらの間に関係を与えていく。生徒の注意をひきつけるとともに、平板な授業にアクセントをつけ、さらに、主題についての分析的な思考をうながすのに役立つものである。板書は発問と連係して行われることが多い。発問の場合と同じように、いつ、どこに、何を書くかということを、あらかじめ計画（板書メモの作成）しておくことが必要である（**板書メモを作っておくのがよい**）。

※　板書についての注意事項：

a　適当な量で急所をおさえた板書の工夫が大切である。

b　文字は、少し大きすぎると感じる程度の大きさで書くよう十分に気を配る。

c　文字は正確に記すること。濃い目に書くよう心がける。実習期間中には小さな辞書などを携帯しておくことが望ましい。筆順にも注意すること。

d　板書の完成時を予想して、書き始める位置に注意する。

e　色チョークを適当に使って、内容の区分を明確にするなどの工夫をする。

f　必要な表や図、フラッシュカードなどを作成し、黒板や展示板に掲げるなど工夫を凝らす。

g　大事な事項を最後まで残し、確認を強める。

オ　教具

教具を自分で工夫して作ることも大切である。教具として、地図、模型のようなものから、いろいろの器具や器械に至るまで使用することがある。これらの教具を使うときには、あらか

じめ指導教員の指示を受けて、許可を得ておかなければならない。

教具を使うときには、それぞれの内容をよく知っておいて、指導計画の中に、どのように組み入れるかを検討しておく。それとともに、取り扱い方をよく調べて、熟練しておくことが必要である。あらかじめ借用しておいて、教室で前もって練習しておくのがよい。借用した教具は、使用後は必ず整備して、すみやかに所定の場所に返却しておかなければならない。

カ　ICTの活用

GIGAスクール構想を踏まえて、今ではほぼすべての小・中学校にタブレットやパソコンなどが１人１台端末環境として実現している。これからの授業は、このようなICT環境で、Society5.0時代を生きる子どもたちにふさわしい、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが求められている。

実習校ではそれを活用した授業を教科ごとにどのように展開しているかについて学ぶとともに、ICTを活用した授業を実践することが望ましい。その際、StuDX Style（スタディーエックススタイル）などの活用も考えられる。

キ　授業参観

授業の実地指導をするには、指導教員の授業や他の実習生の授業を努めて参観しておかなければならない。発問の仕方、指名の仕方、板書の仕方など、ときには指導者の立場に立ち、ときには生徒の立場に立ち、自分であればどうするかと自問してみよう。また、指導者と生徒の間でどのように相互の反応が進行していくか、そして、それによって教室内の空気がどのように活気をおびてくるか、様々な状況の変化に対応して指導者はどのように調和していくかなどを注視し観察の眼を休ませてはならない。

さらに、生徒同士が支え、助け、教え、励まし合う学級こそ学級活動の基盤であり、人間尊重の生き方を育てる場であることを観察していこう。

ク　授業の反省と相互討議

実地指導および授業参観を行ったのちには、必ず、指導教員の批評や指導助言を受けねばならない。そして、それらを詳細に記録しておき、教育実習記録の中に記入し、今後の教育実践に生かすことを忘れてはならない。

また、教員の指導のもとに、実習事項に関して実習生相互の間で討議することも大切である。討議を通じて創造的な意見が形成されてくるように、積極的に考えを出しあっていこう。

会心の授業は多年の経験を積んだ教員でもなかなかできないものであり、教育は限りなき道である。したがって、できないことに悩むのでなく、誠実に生徒に接し、授業に生きることに教育の真実があることを学んでほしい。

ケ　他の教育活動への参加

教員の教育活動は、各教科の指導だけではない。道徳教育や特別活動などいろいろな教育活動がある。これらは、それぞれ独自の意義と価値をもつものであり、生徒の全面的な発達と深く結びついている。実習生もこれらに参加することによって、教育活動の全領域を経験するとともに、教員のきわめて幅広い職務を学んでおかなければならない。

3　生徒指導の実際

生徒指導は、学校全体として取り組む重要な教育活動のひとつであり、明確な指導目標を定めて計画的・組織的に進めていくことが必要となっている。生徒指導はそれぞれの学校とこれを取りまく社会および生活環境の実態に即し、さらに、生徒一人一人の個性や特性ならびに発達的要求に即して行うべき極めて具体的で実際的な指導と援助の過程である。

教育実習においては実習生はそれぞれの実習校での生徒指導の目標や具体的な取り組みの実際につ

いて、校長や生徒指導担当教員から指導講話を受けるなどによって、基本的に理解し認識を深めよう。また、学級担任あるいはホームルーム担任からも直接に生徒指導の具体的なお話を伺い、指導上の留意点、工夫、方法・技術、関連事務などについて積極的に教えを受けよう。

以下では、生徒指導の意義、目的、内容、方法等について基本的な要点のみを述べておく。

⑴ 生徒指導の意義と目的

生徒指導の本質は、「人間の尊厳という考え方に基づき、それぞれの内在的価値をもった個人の自己実現を助ける過程であり、人間性の最上の発達を目的とする」。

生徒指導が、学習指導と並んで学校本来の教育目標を達成するための重要な機能であることはいうまでもない。教員が個々の生徒の人間としての主体的な生き方に直接働きかけ、彼らの個性ある人格の形成を援助するのが生徒指導である。

現代社会の急激な発展・変動が進む過程で、様々に深刻な反社会的問題状況や教育病理現象が生まれ、青年期にある生徒の中に不安や悩み、あるいは不適応をもつ者も多い。それゆえ今日の学校は、このような状況に積極的に対応し、生徒の個人的・社会的生活適応を指導し、人間性豊かな心身ともに健全な発達を助成するための継続的な指導計画を進めていくことがますます重要となっている。

したがって、学校における生徒指導の意義は、不適応や暴力行為・いじめなど問題行動をとる生徒に対する対策といった消極的な面にあるのでなく、生徒の理解に基づき積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、生徒一人一人にとって学校生活が全般にわたって有意義で充実したものとなるように、生徒が主体的に日常生活の場で最も適切な行動がとれ自ら判断して行動できるような自己理解、自己指導の能力や態度を育てることである。

⑵ 生徒指導の内容

生徒指導は、教育課程の特定領域を指すものでなく、全教職員が学校教育のすべての分野において計画的・組織的に展開する教育機能である。したがって、以下のように生徒の登校から下校に至る学校生活の全般に関連する諸活動に及んでいる。

- ◦学習指導
- ◦学級集団指導
- ◦道徳性・社会性指導
- ◦人権教育
- ◦個人的適応と問題行動の指導
- ◦進路指導（キャリア教育）
- ◦保健指導
- ◦安全指導
- ◦食に関する指導
- ◦レクリエーション指導
- ◦校外生活の指導

これらの指導に関しては、それぞれの指導の場で適切に行うべきものであることはいうまでもない。

ア　教科と生徒指導

教科指導は、各教科の知識や技術の内容を目標に沿って計画的・組織的に提供し、生徒の知的能力や、技術の習熟態度の育成を図るものである。この領域での生徒指導は、学習上の不適応に対する指導と、意欲的な楽しい学習指導をすすめる条件をつくり出すことを目的とする。

⑺ 各教科の学習を直接に援助する指導：基本的な学習態度や学習習慣を形成する。学習の難易度を考慮し、生徒の個性や能力に応じた個別指導を工夫する。学習意欲や興味を高める。

⑴ 学習集団をつくり、学級の生活条件を改善する指導：学習集団内の人間関係の改善をして楽しい学級の雰囲気をつくり、グループ編成によって助け合い学習ができるようにしたり、あるいは座席配置の工夫をすることによって学習意欲を促進する。

⑼ 学習活動の条件を整えることに関する指導：生徒の学習のための計画の立て方、図書館、資料室、器具や用具の利用法、学習教材の選び方と使い方などの指導。

イ　道徳と生徒指導

学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。また、それぞれ能力・適性、興味・関心、性格等の特性等は異なっていることにも意を用い、生徒の発達の段階を踏まえて行われなければならない。

生徒指導にあたっては、例えば、自他の個性や立場を尊重しようとする態度、義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、自己のよさや可能性を大切にして集団活動を行おうとする態度などの指導が展開されることが望ましい。

ウ　特別活動と生徒の指導

『学習指導要領』によると、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す」ことを目標としている。このような目的は、生徒指導の理念や意義と基本的に通じるものであり、特別活動が生徒の集団活動を土台にしていることからもとくに集団指導の場として、重要な役割をもつものである。

特別活動は、中学校では、学級活動、生徒会活動、学校行事から成り、高等学校ではホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成る。

したがって、部活動も含め、指導教員の指導のもとに積極的に活動に参加することが望まれる。

⑶　生徒指導の方法

生徒指導の具体的な方法としては、一般に個別指導と集団指導とがある。集団指導の場と方法は、特別活動や学級経営とも深く関連している。ここでは、主として学級経営との関係で、生徒指導の方法について述べておく。

ア　生徒の理解

生徒指導は個人が自己の成長発達の過程で主体的に問題を選択し、取り組み、解決するのを援助する過程である。したがってまず、生徒の個人的特性や生活環境条件の実態を正しく理解することが指導の基本的要件である。その場合、一人一人の生徒を、かけがえのない人間として尊重し、その個性的存在をあるがままに理解していく構えがなくてはならない。

また、できるだけ客観的で豊富な資料を整備しておく必要がある。それによって指導に際し、適切な情報を提供できるし、問題を早期に発見して予防処置もとることができる。一般的に必要な資料としては、次のものがある。

⑺　学力、出席状況、学習態度、学校生活への適応状況
⑴　性格、適性、行動、趣味、特技、将来の希望や進路
⑼　健康状態
⑵　家族構成、教育的関心、地域環境
⑶　友人関係
⑷　生育歴

これらの資料を得る方法としては、⒜観察による方法、⒝検査や調査による方法、⒞作品物などによる方法、⒟面接による方法などがあるが、実習生としては日常的な生徒の観察が大切である。

観察による方法は生徒の言動を、偏見を加えずありのままに見極め考察する実証的方法であって、あらゆる生徒理解の基本となる方法である。観察して得た事柄を、学習指導、生徒指導、学

級経営の資料として活用する。観察は、生徒の心や行動の変化を継続的にとらえられるよう、計画的に進めていくことが大切であり、実習生は時間の許す限り、生徒の中に入ってコミュニケーションをとることに心がけるべきである。

イ　教育相談

教育相談は、生徒のもつ悩みや困難を共有し、考え、生活に適応させることなどを通じて、人格形成の援助を図ることを目的とする。教育相談の実際についての知識や方法を身につけることが生徒指導上大切であるが、実習生としては、まず、生徒の声、心を「聴く」という姿勢が大切である。

◎　いずれにしても、実習上で知り得た生徒に関する事柄は指導教員などに伝える以外は、「**守秘義務**」があることを自覚しておこう。

4　実習のおわりに

実習最終日には、最初と同様、実習生は全員職員室における職員朝礼に加わる。そこで校長はじめ全教職員に対し無事教育実習が終了したことに深く感謝し、十分誠意を尽くしてお礼のあいさつをする。次に全校朝礼に出席して、生徒たちにお礼とお別れのあいさつをする。これらのあいさつも、やはり、その場になってまごつかないようあらかじめ用意しておく必要がある。事務室、管理員室の方々にもお礼のごあいさつを忘れないようにしよう。

教育実習終了後１週間以内に、大学の担当教員に実習終了の報告とお礼のごあいさつをする。そのときに「教育実習終了報告書」を提出し、事後のご指導・検印をいただく。この報告書は、担当教員の検印を受けた後、「実習記録」に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。

Ⅳ　教育実習の記録

教育実習生は教育実習記録を作成し、実習校に提出しなければならない。それぞれのねらいを、どの程度達成できたかを常に反省し評価できるように、具体的にできるだけ詳しく記録する必要がある。

本学所定の「**教育実習の記録**」（別冊）を実習生に配布する。教育実習記録のとり方、まとめ方を、記録用紙の種類に応じて説明する。

1　実習記録作成上の留意点

実習記録の内容を今後にも有用な具体的なものにするためには、まずノートなどを使用し、あとで整理しやすいよう日付や時間ごとに観察参加や実習した内容を詳細にメモにとっておき、このメモを活用するようにする。

次に、内容に応じてそれぞれ実習記録用紙に要領よくまとめる。その場合、記録の主題となるものを明確に設定し、具体的内容の要点をおさえてまとめ、そこからどんなことを理解し習得したかについても記録する。記録はすべてペンまたはボールペンを使用することを原則とするが、鉛筆の使用なども含め実際には実習校の指示に従うこと。

これらの記録は、学習や行動の記録であるとともに研究の記録である。努めて具体的に書くようにし、また、教育研究的な態度のうかがえる客観的・論理的な所感を書くよう心がける。実習記録の最後には、この実習をふり返り実習全般についてまとめとなる所感を書く。

なお、実習校から配布される印刷物などで記録と関係の深い資料や、他の実習生の指導案などもこの記録に貼付しておくことが望ましい。

実習記録は提出後に指導教員に読んでいただくことになる。実習生の実習に対する意欲や研究成果などを読みとっていただくものである。したがって、そのつもりで実習記録を作成するよう心がけたい。

2　教育実習記録の書き方

別冊の「教育実習の記録」に含まれている記録用紙に基づき、書き方について説明する。

⑴　**「表紙」**：実習校名、所在地、実習期間、実習生氏名を所定の欄に正確に記入する。実習校名は、例えば、○○市立○○中学校のように書く。学校所在地については、郵便番号、電話番号を忘れないこと。

⑵　**「教育実習生プロフィール」**：所定の欄に実習生各自の該当事項をもれなく正確に記入する。なお、所定の顔写真（制服を原則とする）を貼付する。

⑶　**「実習生出勤簿」**：実習校名・期間・所属・氏名等を記入する。

⑷　**「教育実習成績通知票」**：実習校名、実習生欄（学籍番号・所属・氏名・教科、わかっていれば配当学年学級）を記入する。

※⑵⑶⑷は、事前打合わせ時または実習初日に実習校に提出すること。

⑸　**「体調管理記録」**：自身の体調管理を徹底するため、実習開始の１～２週間前から実習終了まで、毎日検温し、体調を記録すること。実習先からの指示に従い、この記録をもとに報告すること。

⑹　**「実習期間変更届」**：実習開始後、実習期間が変更になった場合にのみ、必要事項を記入して実習校の証明印を受け、実習後１週間以内に学校教育センターに提出すること。

⑺　**「中・高教育実習事前報告書」**：必要事項を記入し、実習に行くまでに大学の担当教員にあいさつに伺う際に提出すること。

⑻　**「中・高教育実習終了報告書」**：必要事項を記入し、**実習終了後１週間以内に大学の担当教員に提出し、押印いただいた後**、実習記録に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。

⑼　**「実習校の現況」**：実習の第１日には、校長・教頭・実習担当教員から学校経営の概要について講話を受けることが多い。『学校要覧』『教育指導の計画』などの印刷物の配布を受け、それに基づいて説明をされることもある。

実習生は、これらの講話や実習校のHPなどで、各教員のお名前や学校の規模、教育環境、教育目標と努力（指導）目標、経営方針、勤務時間等一日の流れその他について、まとめておくことが大切である。記入に当たって、自分の印象や感想を加えておくことが望ましい。

⑽　**「教育実習の予定・実施内容」**：実習校で配布された実習実施日程表や行事予定表を参考にして実習期間中の実習校における行事予定と教育実習指導計画の日程などを記入し、実習生が各自の具体的な学習計画を自主的にすすめていくようにする。

「実習・行事予定」は、観察、参加、授業実習の予定を記入し、行事は学校行事および学級や学年の行事を記入する。（次ページ〈例〉⑽を参照）

⑾　**「実習配属学級の現況」**：学年・学級名、生徒数、学級担任氏名を記入するほか、その学級の目標や、経営方針、学級の特色や生徒の様子、特徴などを記入する。これらについては、学級担任から指導講話を受けるとともに、自分の眼でよく学級ならびに生徒を観察し、理解した内容をまとめて記録する。とくに自分の感じ取った印象や、感想、気づいたことなどを加えておくことが望ましい。なお、クラスの生徒名や一人一人の特徴、座席表、教室経営の

〈例〉

⑽

教育実習の予定・実施内容

（観察・参加、授業実習）

月/日	曜	時限	実習予定・学校や学級の行事予定	実施の大要（実習や行事の要約）
6/1	金	1	校長講話	○○についての講話
		2	授業参観	○年生「　」の授業参観
		3	教育課程講話	テーマ「○○○○」
		4	授業参観	「　」の授業
		5-6	生徒総会	児童 ○○○○
6/4	月	1-2	トライやる引き伝い	
		3	生徒指導講話	○○○○について
		4	特別支援講話	○○○○
		5-6	授業参観	「　」の授業
6/5	火	1~6	授業参観	○年生 ～ ○年生の授業
6/6	水	1-2	授業参観	〃
		3	不登校講話	テーマ「○○○○」
		4	自主学習	
6/7	木	1	人権講話	テーマ「○○○○」
		2~4	授業参観	「　」の授業、「　」の授業
		5	自主学習	
6/8	金	1-2	授業参観	○年生「　」の授業
		3	自己の申請処理	
		4	道徳講話	「○○○○」「○○○○」
		5	カウンセリング講話	「○○○○」「○○○○」

⑾

実習配属学級の現況

○学年 ○組	男子 ○名	計 ○名	学級担任 ○○ ○○
	女子 ○名		教諭

学級経営（学級の目標、きまりなど）

学級の目標：　ONE FOR ALL　ALL FOR ONE

毎日、「今日のめあて」を皆で決め、先生が掲示。

生徒達の自主的な判断や行動を大切にされているようで、

先生はあまり細かく指示・指導されていないように感じた。

学級及び生徒の状況

授業中はまじめに授業を受ける生徒が多く、比較的静かである。休憩時間や

給食時は友達同士話をしたり、一緒に遊んだりと仲の良い雰囲気である。

また、それぞれが係や委員会の役割を果たし、学級のテーマに沿って

環境問題の一環として、アルミ缶・牛乳パックのリサイクルをするなど、

皆で協力する態度が見られた。

〔第 ○学年 □組〕

	月	火	水	木	金	土
1	理	英	体	国	道	
2	数	数	社	技/社	総合	
3	国	家/技	英	理	社	
4	美		理	音	体	
5	学	体	数	選択	国	
6		社	選択		英	
	清掃・ST					

〔第　学年　組〕

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6						

様子など詳しい内容は、「⒀『指導講話、授業・行事等の参加記録』」に記入する。

⑿　**「実習日誌」**：実習期間中の毎日の記録をとる。実習生各自が始業前から放課後に至るまでの出来事や行事の具体的記録と、その日の反省、問題点、研究すべき事柄、学校からの指示や指導教員から指摘されたことなどを記録しておく。

「実習日誌」は、毎日指導教員に提出し点検を受けるのが原則であるが、指導教員の指示に従うのがよい。

⑿

実習日誌

平成 ○年 ○月 ○日 ○曜日 ・ 実習第 ○日　天候 晴れ

時限	教科等	場所	内容
朝会等	朝学活	3年教室	読書　提出物の確認　連絡事項
1	教材研究	視聴覚室	授業の準備、教材研究
2	国語	2年教室	授業者3「方言と共通語」、方言の分布
3	英語	3年教室	(授業参観)　リスニング　Let it be　アクセント
4	国語	1年教室	(授業参観)「脳のはたらきを目で見てみよう」、ワークシート
昼食時	給食	図書室	全校生徒、職員で給食（準備　片づけ含む）
5	道徳	2年教室	(授業参観)　教師1（領域担当）
6	教材研究	視聴覚室	授業の準備、教材研究
休憩時・放課後	清掃　黒板・モップ、ゴミ箱かけ（生徒と一緒に） 終活　小テスト（社会）、係からの連絡、デイリーライフ記入　（参観） 放課後～20:00　研究授業のための教材研究		

（学校や指導教員からの指示・連絡事項）

明日、以前から言われていた授業を2年と3年でするように指導があった。

一日をふり返って（感想・反省）

今日は、2年生のフランス語の授業をしました。「方言と共通語」の単元の続きだったので、生徒も大体何をやるのかを把握しているようでした。導入では、展開例の方言をだし、発音を覚えてもらいましたが、ガンガン生徒が歌い、音外スムーズに進めました。最初はなかなかですが、途中から少しずつ声が出てきてしまい、チャイムが鳴り終えた後にメインの発音ができていたので、時間配分も考えられていました。今日は、初めて単独の授業を見てもらいました。2年教室と多目的（調べ物）をしていたので、二通りしました。私が中学のときは、ALT等がいたことがなかったですが、選択（英語）の生徒にも積極的にコミュニケーションを取っていたのですごいと思いました。調べ物もきれいにまとめていたので、生徒よりも楽しみだなと思いました。

（指導助言）※ご指摘のことがあればお書きください。

一方言の地方を探すのに時間をかけすぎてしまった。場合によっては、そこでまとめとして、次の時間に生かしていくなど、策敵に対応することも考えてください。

指導教諭印

⑬ **「指導講話、授業・行事等の参加記録」**

ア　実習生として、校長はじめ各教員の指導講話や学校経営・学級経営・研究資料なども大切な記録である。

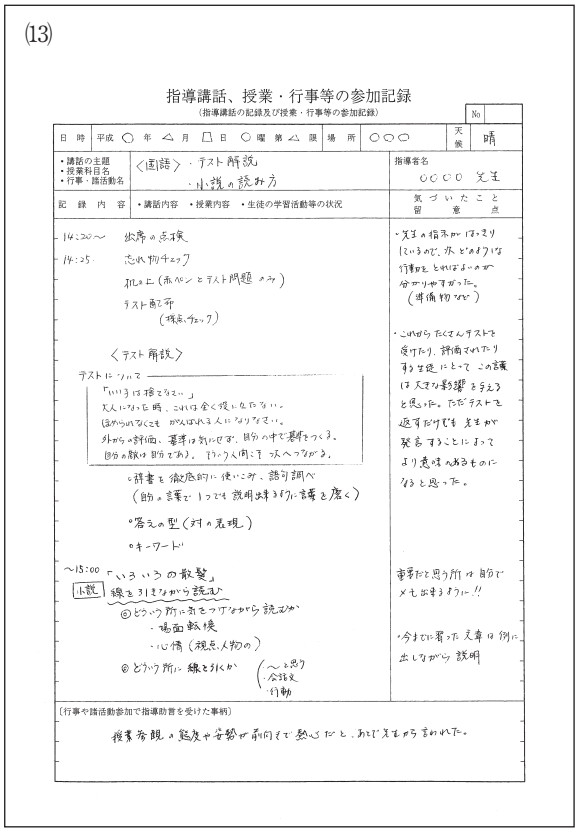
　講話については、主題・要旨・要点、自分の感想・意見も添えて記録を整理すること。

イ　指導教員の模範（指導）授業、学校の研修計画による研究授業に参加する場合は、観点をもって注意深く観察し、その記録をとること。

　時間の流れにそって、①生徒の学習活動　②教員の指導活動がどのように展開されているか　③指導上の留意点は何か　④どのような教材・教具・資料が準備され、工夫されているか　⑤発問・板書・指名の方法や工夫などの記録を整理すること。

　また、自分が気づいた点をメモしておくことも大切である。これをもとに、授業の反省・批評会で自分の意見を積極的に述べるように努めること。

〈例〉



⑬

指導講話、授業・行事等の参加記録
（指導講話の記録及び授業・行事等の参加記録）

No

日時	平成 ○ 年 △ 月 □ 日 ○ 曜 第 △ 限	場所	○○○	天候	晴
・講話の主題 ・授業科目名 ・行事・諸活動名	〈国語〉・テスト解説 ・小説の読み方			指導者名	○○○○ 先生
記録内容	・講話内容　・授業内容　・生徒の学習活動等の状況			気づいたこと 留意点	

14:20～　出席の点検
14:25　忘れ物チェック
　机の上（赤ペンとテスト問題のみ）
　テスト配布
　（得点チェック）

〈テスト解説〉
テストについて
「いい方は様々だ。」
大人になる時、これは全く役にたたない。
（ほからかうくらも　かくばれる人にならない。
外からの評価、基準は気にせず、自分の中で基準をつくる。
自分の頭は自分で使う。そういう人間こそ一流へつながる。

・辞書を徹底的に使いこみ、語句調べ
（助詞の言葉でもいっても説明出来るように言葉を磨く）
・答えの型（対の表現）
・キーワード

～15:00「いろいろの散髪」
小説　線を引きながら読む
①どういう所に着目しながら読むか
・場面転換
・心情（視点人物の）
②どういう所に線を引くか　（～と思う
・会話文
・行動

・笑顔の指示がはっきりしているので、次どのような行動をとればよいのか分かりやすかった。
（準備物など）
・これからたくさんテストを受けたり、評価されたりする生徒にとって、この言葉は大きな影響を与えると思った。ただテストを返すだけでも先生から発言することによってより意味のあるものになると思った。
事実だと思う所は自分でメモ出来るように!!
・今までに習った文章は例に出しながら説明

（行事や諸活動参加で指導助言を受けた事柄）
授業参観の態度や姿勢が前向きで熱心だと、あと先生から言われた。

ウ　教育実習においては授業だけでなく、すべての学校教育の場にも積極的に参加し体験を通して観察することが重要である。

　授業以外の教育諸活動および生徒の記録の場面として、具体的には次のようなものがある。

(ア)　登下校時・朝の会や終わりの会・休憩時・給食時・清掃時・放課後など。
(イ)　遠足・社会見学・集団宿泊、野外活動など、学校を離れて行われる教育活動。
(ウ)　担任および各教員の指導による教材研究・指導案作成・生徒（生活）指導に関する助言など。
(エ)　授業準備や教材製作・生徒成績物の点検評価など。
(オ)　保健的行事・教材や教育機器の取り扱いなど。
(カ)　運動会（体育会）・音楽会や作品展・文化祭・写生会・参観日など。
(キ)　教室廊下等の掲示物やその活用状態、施設（教育環境）配置状況など。
(ク)　生徒の行動事例にかかわる教員の場面指導。

　各々の場面における生徒や教員の表情・動き・言葉づかいなどを注意深く観察し、記憶し、メモをとっておくことが実習の一つであり、今後の参考となる。

　なお、この記録は教育上（教員は職務上）知り得た秘密に属することも含まれる場合が考えられるので、取り扱いには万全の配慮をする必要がある。生徒のみならず教員や保護者や学校経営上のことで知り得た秘密に属すると考えられることは、他に洩らさない（**守秘義務**）。

⑭　**「学習指導案」**：実習記録に収録している指導案の様式はひとつのひな形（サンプルなので、このままコピーして使わない）であり、これにこだわることはない。学校では各々の様式があるので指導教員に確認して、とくに指示のない場合は独自の形式によればよい。修正作成のことも考えて、パソコン等で作成するのが有効である。なお、指導案は終了後に「授業の記録」に

貼付しておくこと。

⑮ **「授業の記録」**：実習生が実地授業や研究授業を行うに当たって、事前に十分検討し、まとめた教材研究と学習指導の展開計画を学習指導案として作成する。実習生は学習指導案を作成後、指導教員の校閲を受けて必要な修正を行う。

実地授業をした後は必ず反省、評価し、次の指導を改善できるように、自己の反省、生徒の感想、意見、指導教諭からの批評などを記録しておく。記録内容は、自分が行った実地授業について、これを「教材研究と学習指導案」および「指導の実際」の２点に分け、それぞれについて、指導教員や参観し出席された各教員からいただいたご講評やご指導ご助言ならびに自分自身の反省を整理し、具体的項目をあげて記入するようにする。余白のページは授業の形態・教材教具の位置など図解する場合に活用したり、資料等の貼付に活用する。

⑯ **「教育実習のまとめ」**：この記録は、教育実習のしめくくりとして、実習校での勤務、学習指導、生徒指導、生徒とのふれあい、その他、実習全般を通して習得したこと、反省や感想、その他について、項目をあげて記入する。とくに、これから教員を目指す者として教職の重要性や責任の重さについて、どのようなことを学び取ったか、どのような自覚が得られたか、今後この実習で得たものをどのように生かしていくか、課題は何かなどについても所見を述べておくことが望ましい。

最後に、実習でいろいろご指導いただいた校長をはじめ担当していただいた各教員に対する感謝のことばを忘れてはならない。

⑰ **「実習生への指導助言」**：実習の終わりに、ご指導くださった先生にメッセージをいただく。署名・捺印（個人印）は校長・指導教員ともお願いする。

3　実習記録の提出と成績評価

⑴　実習記録の提出

①　実習校への提出

実習記録はよく点検整理してまとめ、実習後の指定された期日までに各実習校の指導教員に提出しなければならない。実習終了後に実習記録を書き始めたのでは間に合わない。毎日、きわめて多忙であるにせよ、その日の記録はその日のうちに書き上げて指導教員に提出して検印をいただいておき、実習最終日には、最終日分と「教育実習のまとめ」を記入してすぐ提出できるのが理想。

②　学校教育センターへの提出

実習校へ提出した後、指定のあった日に受け取りに伺うこと。実習校が遠方などの理由で、受け取りに伺えない場合は、事情をお話ししてレターパックライト（郵便局で370円）にあて名（実習生の住所・氏名）を記入し、実習最終日に実習校の担当の先生に渡しておくこと。学校教育センターへの提出は、大学が指定した期日に遅れないよう注意すること。

⑵　教育実習の成績評価

実習記録は、実習校において校閲・指導を受けることになる。実習校では、実習記録の内容だけでなく、校長はじめ実習を指導された教員全員によって、出勤状況、勤務態度、実習態度、指導能力、人物その他について、実習生一人一人の総合的評価が行われる（50点）。

しかし、教育実習の単位の評価は、最終的には、大学が責任をもって履修単位を認定することになる。本学では、実習校から送付された「教育実習生成績通知票」を十分に尊重し、教育実習記録と併せて、総合的、客観的に評価を行う（50点）。なお、実習記録は、学校教育センターにおいて受理し、それぞれの学科の担当教員の点検を受けた後に、実習生に返却する。

なお、実習記録を実習校に提出すること、および受け取りに行くことに関して、公欠とはなら

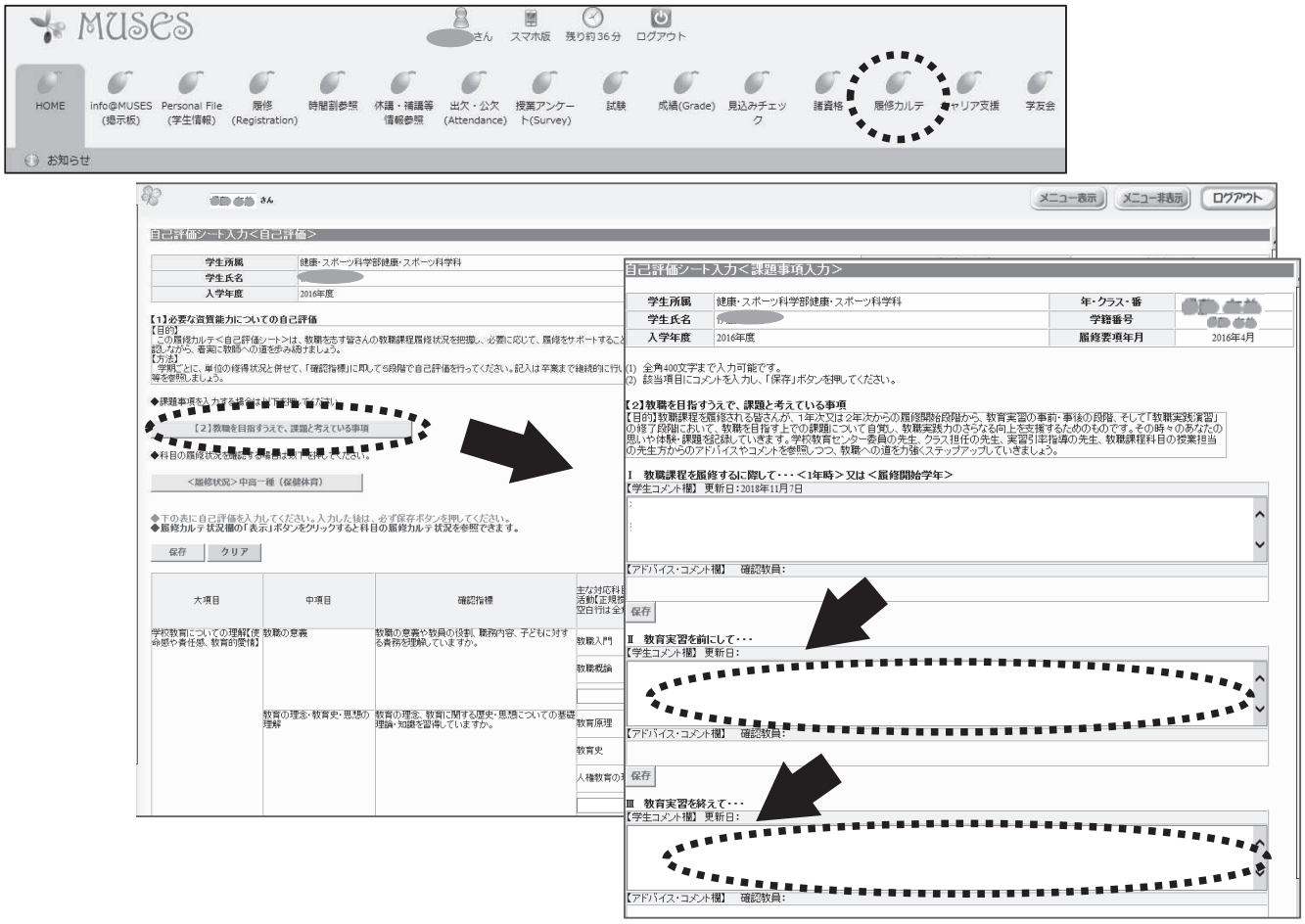
ないので、留意すること。

4「教職課程履修カルテ」の入力について

教職課程を履修する場合、卒業学年次に「教職実践演習」（２単位）が必修とされている。併せて、その履修履歴を確認し、教員としての資質・能力の修得状況を検証するため、「教職課程履修カルテ」を作成し活用することが、義務付けられている。

⑴　「教職課程履修カルテ」のうち、学生本人が入力する「課題事項Ⅱ・Ⅲ」については、Ⅱは実習前に「教育実習に臨む決意や課題等」を、Ⅲは実習後に「教育実習の反省点や今後の抱負や課題等」を400字以内で速やかに入力すること。

⑵　「教職課程履修カルテ」については、卒業学年次後期開講の「教職実習演習」初回授業日に、授業担当者に提出しなければならないので、カルテ作成に努めること。提出されたカルテについては、教職実践演習の成績評価に10点分配点されている。



【注】「教職課程履修カルテ」の詳細な作成方法については、すでに配布している『教職課程履修カルテ説明資料』を参照のこと。

お　わ　り　に

実習生の皆さんは、短い実習期間の間にも「先生」と呼ばれ、不安と期待と喜びが入り交じり、一日一日を夢中で実習校へ通ったことでしょう。はじめて体験することによって学ぶことの意義をしみじみと感じたことと思います。教育実習を通して教員の責任の重大さ、教えることの難しさや楽しさを学び取ったことでしょう。

板書を間違えたり、途中で言うことを忘れたりして生徒たちの前で立ち往生し、二度とない一日を、失敗の連続で終わるようなこともあったかもしれません。また一方では、教員の仕事のやりがいや喜びも味わったことでしょう。生徒たちへの愛情も一段と深まり、生徒一人一人の顔が浮かんでくることでしょう。

しかし、短い実習期間を通して、教育について、果たしてどれだけの理解が得られたでしょうか。それに引き替え、この期間中、ご指導していただいた先生方は、教育の現場に身をおいて長い年月を苦労されてきた方々ばかりです。豊かな識見、積み重ねて来られた多くの経験に対して、心からの敬意を忘れないでください。そしていつもと変わらない多忙な仕事の上に、さらに、実習指導という特別なご苦労をおかけした先生方に対して、いつまでも感謝の気持ちを忘れてはなりません。先生方は実習生の皆さんが、立派な教員となり、いつの日にか同じ道を歩むようになることを強く願って、期待して指導されているのです。実習生はこの期待に応えるべく、先生方に続く一人の中学校・高等学校教員としての自覚と抱負をもって一層努力し、この教育実習で得た成果を実りのあるものにしてください。

実習が終わったらすぐに、懇切丁寧な指導をしてくださった担当の先生はもとより、校長先生、教頭先生、他の先生や職員の方々、励まし協力してくれた学級の生徒たちに礼状を書きましょう。

教員採用選考試験に挑戦し、その結果については、必ず教育学習でお世話になった先生方にお知らせしましょう。そして卒業後に、どの都道府県のどの地区であろうと実際に教壇に立ったとき、まず実習校の校長先生はじめ先生方に、その喜びをお伝えすることを忘れないでください。

令和４年４月１日　改訂

武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部
学校教育センター
〒663-8558　西宮市池開町６-46
Tel 0798－31－0243

教育実習　前後にやるべきこと　チェック表

実習前

	やるべきこと	✔
1	実習校と事前打合わせ【日時：　　】　連絡がない場合は自分から電話	
	事前打ち合わせで確認する事項	
	実習期間、就業時間の確認（自転車通勤の許可が出るか、その場合駐輪場の場所なども）	
	実習中の服装・持ち物、教科書等の準備、配当学年クラス、担当の単元などの確認	
2	事前打合せ日に授業がある場合→科目担当教員に授業欠席連絡	
3	「教育実習生プロフィール」「実習生出勤簿」「教育実習成績通知票」準備 （必要事項は記入して実習校へ提出）	
4	実習校HPなどで、校則・決まり事、担当クラスの現状・生徒の状況等調べておく（事前打合せでも確認）	
5	通学定期（１か月以上前）の準備（学生部へ）	
6	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」（他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」）、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」が履修登録されているか確認	
7	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅱ「教育実習を前にして」入力	
8	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習　事前報告書」を記入の上、持参）	

実習後

	やるべきこと	✔
1	実習校からの借用物（名札・教科書・ロッカーの鍵など）があれば返却	
2	実習校に実習記録提出（「中・高教育実習　終了報告書」は抜いておく）【日時：　　】	
3	実習開始後に実習期間に変更があった場合→「実習期間変更届」の準備→学校教育センターへ	
4	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習　終了報告書」を記入の上、持参して検印を受ける）	
5	実習校へ実習記録受け取り【日時：　　】	
7	実習校（校長・指導教員・生徒など）にお礼状送付	
8	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅲ「教育実習を終えて」入力	
9	大学へ実習記録提出（「中・高教育実習　終了報告書」を綴じ込む）【日時：　　】	
10	実習記録採点者より実習記録受け取り（他学科聴講・学部聴講・科目等履修は学校教育センターより）	
11	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」（他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」）、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」の成績確認	



秘

教育実習成績通知票　中学・高校用

（武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部）

実習校名	学校長氏名	㊞	指導教員氏名	㊞

実習生 学籍番号	実習生 所属	実習生 氏名	実習教科	学年学級
	学科 年 組 番			

右欄に総合評価点（50点満点）をご記入ください。評価目安は下記のとおりです
50～45点：よく努力し、実習の実をあげることができた　44～35点：努力し、実習の成果はあった
34～30点：いま少しの努力と実習の成果が望まれる　29点～：努力に欠け、実習の成果は認められなかった

総合評価　／50点

	評価項目	評価の着眼点	観点別評価
学習指導	教材研究	○教科書や教材を十分に検討して、指導内容を正確に把握しているか。 ○教材と指導目標との関連、及び生徒の生活現実や発達段階との関連がよく研究されているか。	5 4 3 2 1（最もよく優れている／努力を要する）
	学習指導の計画と準備	○学習指導案は綿密で、よく整理して立案されているか。 ○指導のねらいは明確で、しっかり把握されているか。 ○必要な教材・教具・資料を準備し、活用しようとしているか。	5 4 3 2 1
	学習指導の展開	○導入や展開のすすめ方は、活気があり、効果的であるか。 ○指導の方法や形態、板書に工夫がみられるか。 ○言語・音声・指導態度は好ましく、適切であるか。	5 4 3 2 1
	生徒の理解と配慮	○生徒を個人的にも、集団的にもしっかりとらえ、よく理解して指導しようとしているか。 ○また、生徒の心理状態や反応に即して、学習をすすめようとしているか。	5 4 3 2 1
学級経営	教科外活動の指導	○学級（ホームルーム）の諸行事・諸活動に積極的に参加しているか。 ○生徒をよく理解・把握し、適切に指導しているか。	5 4 3 2 1
	教室の環境整備	○教室内の整理や美化によく気を配っているか。 ○衛生面や安全面によく配慮しているか。 ○帳簿や記録物の保管・事務処理の能力があるか。	5 4 3 2 1
実習態度	勤務態度	○教育に対する熱意と課題意識をもち、常に工夫、改善しようとする研究的な姿勢がみられるか。	5 4 3 2 1
	実習意欲	○学校の規則や指導教員の指示をよく守っているか。 ○自らすすんで、指導教員の指導を求め、礼儀正しく協調的であるか。 ○教職に対する自覚を深め、積極的意欲的に責任感をもって、誠実に実行しているか。	5 4 3 2 1
	教育への意欲	○ものごとを謙虚に受けとめ、勤務態度は誠実、実直であるか。	5 4 3 2 1
	実習の記録と反省	○几帳面に実習記録をとり、よくまとめているか。 ○課題意識をもち、研究的姿勢がみられるか。 ○指導の評価・反省は適正で、常に謙虚に見つめているか。	5 4 3 2 1

出席状況	出席すべき日数	欠席日数		遅刻	人物所見（性格・態度についての特記事項）
	日	病欠	日	回	
	出席した日数	その他	日	早退	
	日	計	日	回	

実習終了後３週間以内に、同封の返信用封筒でご返送くださいますようお願いいたします。

学外実習施設一覧

	科目名	実習先（機関名）	受入れ可能人数	郵便番号	住所
1	フィールド・環境施設実習 （１年次前期必修科目）	国立環境研究所　琵琶湖分室	20	520-0022	滋賀県大津市柳が崎5-34
2	同上	（公財）ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	30	654-0037	兵庫県神戸市須磨区行平町3-1-18
3	同上	グッドホールディングス株式会社	40	663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
—	—	株式会社　リヴァックス	—	663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
—	—	株式会社　リリーフ	—	663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
—	—	株式会社　大栄衛生	—	663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
—	—	株式会社　大協	—	664-0837	兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号
4	同上	JT生命誌研究館	20	569-1125	大阪府高槻市紫町1-1
5	同上	兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター	40	660-0096	兵庫県尼崎市扇町33-4
6	同上	阪神園芸株式会社	20	663-8166	兵庫県西宮市甲子園高潮町1-13

※届出書類にて添付の「実習受入承諾書」は省略

定　年　に　関　す　る　規　定

○ 武庫川学院職員就業規則（抜粋）

（定義）
第２条　この規則における職員とは、第２章に定める手続により学院に採用された専任の教育職員、事務職員及び技能労務職員をいう。
２　前項職員の資格は別表１に定めるとおりとし、任用、判定基準その他については別に定める。

（任命権者）
第４条　職員の任命その他人事に関する権限は、任命権者がこれを行う。
2　前項の任命権者は、理事長とする。

（定年）
第17条　職員は、次の年齢に達した年度の３月末日をもって定年退職となる。
(1)　教育職員（本条第２号の職員を除く）、事務職員及び技能労務職員　満66歳
(2)　附属幼稚園の教育職員　満60歳
２　附属幼稚園の教育職員については定年到達者が引き続き勤務を希望した場合、臨時職員、嘱託職員等の身分にて、原則として65歳に達した年度の３月末日まで継続雇用する。なお、当該雇用期間の身分については、職員個別に定める。
３　前項の定めにかかわらず、次のいずれかに該当した場合は継続雇用しない。
(1)　心身の故障のため業務に堪えられないと認められた場合
(2)　勤務状況が著しく不良で、引き続き職責を果たし得ないと認められた場合
(3)　その他、就業規則に定める解雇事由又は退職事由（年齢に係るものを除く）に該当する場合
４　業務の都合により、特に任命権者が必要があると認めた者については、第１項の規定にかかわらず定年を延長することがある。

教室コード	教室名	通常の収容人数	試験収容人数	机数	机移動	椅子数	特記
P5-131	【専用】P5-131（多目的教室 1）	22	0	5	可	22	
P5-132	【専用】P5-132（多目的教室 2）	22	0	5	可	22	
P5-133	【専用】P5-133（多目的教室 3）	22	0	5	可	22	
P5-134	【専用】P5-134（多目的教室 4）	22	0	5	可	22	
P5-141	【共用】P5-141（実験講義室）	151	0	151	不可	151	
P5-143	【共用】P5-143（CBT コンピュータ室 1）	60	50	30	不可	60	
P5-144	【共用】P5-144（CBT コンピュータ室 2）	60	50	30	不可	60	
P5-212	【専用】P5-212（先端研究実習室 1）	24	0	4	不可	24	
P5-222	【専用】P5-222（先端研究実習室 2）	24	0	6	不可	24	
P5-231	【専用】P5-231	63	36	63	可	63	1/2 年
P5-232	【専用】P5-232	63	36	63	可	63	1/2 年
P5-233	【専用】P5-233	63	36	63	可	63	1/2 年
P5-241	【専用】P5-241	140	80	140	可	140	1 年ベース
P5-242	【専用】P5-242	140	80	140	可	140	2 年ベース
P5-331	【専用】P5-331	63	36	63	可	63	3 年
P5-332	【専用】P5-332	63	36	63	可	63	3 年
P5-333	【専用】P5-333	63	36	63	可	63	3 年
P5-341	【専用】P5-341	151	86	151	可	151	3 年ベース
P5-342	【専用】P5-342	257	149	257	可	257	議論・発表
	【専用】プロジェクト棟	257	—	—	可	257	

1 年　前期

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目	**初期演習 I** ×3 P5-331/332/333(各 63)	**基礎生物学** P5-241(140)	**SDGs 論** P5-241(140)	**環境共生学入門** （後半 8 コマ） P5-342(257)	エコツーリズム実習（不定期） P5-241(140)
2 限	共通教育科目 【教】日本国憲法	**基礎化学** P5-241(140)	**基礎環境工学** P5-241(140)	**環境問題概論** P5-241(140)		エコツーリズム実習（不定期） P5-241(140)
3 限	共通教育科目 【教】教職入門	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)	共通教育科目	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)		エコツーリズム実習（不定期） P5-241(140)
4 限	共通教育科目	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)	**情報リテラシー** MM 館　3F (60 名×2 教室)	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)		エコツーリズム実習（不定期） P5-241(140)
5 限	共通教育科目	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)	共通教育科目	**フィールド・環境施設実習** P5-342(257)		エコツーリズム実習（不定期） P5-241(140)

通年不定期開講：エコツーリズム実習（土曜日または夏休み）P5-241(140)ほか

1 年　後期

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目	**初期演習Ⅱ×3** P5-331/332/333(各 63)	環境経済学 P5-241(140)	合成化学 P5-241(140)	**データ分析・統計学** P5-241(140)	エコツーリズム実習 （不定期） P5-241(140)
2 限	共通教育科目	細胞生物学 P5-241(140)	生態学 P5-241(140)	地球科学 P5-241(140)	生命情報科学 P5-241(140)	エコツーリズム実習 （不定期） P5-241(140)
3 限	共通教育科目 （学芸員科目）	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	共通教育科目	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	**社会連携プロジェクトⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト作業室	エコツーリズム実習 （不定期） P5-241(140) 【教】教育心理学
4 限	共通教育科目 【教】教職入門	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	共通教育科目	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	**社会連携プロジェクトⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト作業室	エコツーリズム実習 （不定期） P5-241(140) 【教】教育原理
5 限	共通教育科目 （学芸員科目）	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	共通教育科目	**基礎実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 2/ P5-241(140)	**社会連携プロジェクトⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト作業室	エコツーリズム実習 （不定期） P5-241(140)

＊空いている午後等にプロジェクトルームで学生が主体的にプロジェクトを進めていくことを想定している。

通年不定期開講：エコツーリズム実習（土曜日または夏休み）P5-241(140)ほか

2年 前期

	月	火	水	木	金	土
1限	共通教育科目	**環境英語Ⅰ×3** P5-231/232/233（各63）	バイオテクノロジーⅠ(分子生物学)P5-242(140)	環境放射線工学 P5-242(140)	バイオマスエネルギー学 P5-242(140)	【教】理科指導法Ⅰ
2限	共通教育科目	分析化学 P5-242(140)	環境レメディエーション工学 P5-242(140)	環境微生物学 P5-242(140)	高分子化学 P5-242(140)	
3限	共通教育科目 環境生物有機化学 P5-242(140)	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	環境エネルギー概論 P5-242(140)	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	**社会連携プロジェクトⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	【教】発達心理学
4限	物理学と環境工学 P5-242(140) 【教】教育方法の理論と実践（学芸員科目）	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	共通教育科目 （学芸員科目）	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	**社会連携プロジェクトⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	
5限	環境イメージング技術 P5-242(140) 【教】教育課程総論	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	共通教育科目	**ラボローテーション実習Ⅰ** 各研究室/プロジェクトルーム	**社会連携プロジェクトⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	

＊空いている午後等にプロジェクトルームで学生が主体的にプロジェクトを進めていくことを想定している。

集中授業：環境アセスメント論 P5-242(140)

2 年　後期

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目	**環境英語Ⅱ×3** P5-231/232/233（各 63）	環境教育論 P5-342(257)	バイオテクノロジーⅢ(細胞工学) P5-242(140)/P5-342(257)	資源管理学 P5-242(140)	【教】理科指導法Ⅱ
2 限	共通教育科目（学芸員科目）	環境情報工学 P5-242(140)	環境政策論 P5-342(257)	防災技術Ⅰ　P5-342(257)	植物生理学 P5-242(140)	
3 限	機器分析学 P5-242(140) 【教】ITC 活用の理論と実践	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	共通教育科目	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	**プロジェクトコミュニケーションⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	
4 限	環境・バイオ産業論 P5-242(140) 【教】道徳教育指導論（学芸員科目）	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	（学芸員科目）	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	**プロジェクトコミュニケーションⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	
5 限	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学） P5-242(140)	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	共通教育科目	**ラボローテーション実習Ⅱ** 各研究室/プロジェクトルーム	**プロジェクトコミュニケーションⅠ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	【教】生徒指導・進路指導

＊空いている午後等にプロジェクトルームで学生が主体的にプロジェクトを進めていくことを想定している。

集中授業：生命と地球環境 P5-242(140)、物理学実験 P5-2F 先端研究実習室 1、地学実験 P5-2F 先端研究実習室 2

3 年　前期

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目	資源循環工学 P5-341(151)	防災技術Ⅱ P5-341(151)	バイオマス利活用工学 P5-341(151)	環境エネルギー技術 P5-341(151)	
2 限	グリーンケミストリー P5-341(151)	**環境英語Ⅲ×3** P5-331/332/333(各63)	野生生物管理工学 P5-341(151)	水質管理工学 P5-341(151)	生態工学 P5-341(151)	【教】理科指導法Ⅲ
3 限	共通教育科目		環境教育実践 P5-342(257)		**プロジェクトコミュニケーションⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	【教】教育相談の理論と方法
4 限	【教】特別支援教育論（学芸員実習）		NPO・NGO 論 P5-341(151)		**プロジェクトコミュニケーションⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	
5 限	共通教育科目		共通教育科目		**プロジェクトコミュニケーションⅡ** プロジェクトルーム/プロジェクト試料保管・作業室/P5-342(257)	

集中授業：環境英語演習（留学プログラム）、エコツーリズム論 P5-341(151)、世界遺産学 P5-341(151)

＊空いている午後等にプロジェクトルームで学生が主体的にプロジェクトを進めていくことを想定している。

3 年　後期

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目	毒性学 P5-341(151)	高機能材料工学 P5-341(151)			
2 限	共通教育科目	**環境英語Ⅳ×3** P5-331/332/333(各63)	環境モニタリング P5-341(151)			【教】理科指導法Ⅳ
3 限	【教】総合的な学習の時間と特別活動	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)	共通教育科目	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)		
4 限	共通教育科目（学芸員実習）	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)	共通教育科目	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)		【教】教育実習事前指導（中高）
5 限	共通教育科目	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)	共通教育科目	**環境技術実験**　40 名 P5-2F 先端研究実習室 1/P5-341(63)		

4 年　前期　　教室 D(D1/D2)　：　120 人収容可能規模、パーテーションで６０人×２教室として使用可能仕様

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目		**環境研究英語** 各研究室	**卒業研究・活動** 各研究室/プロジェクトルーム/適宜 P5-231/232/233/331/332/333(各63)		
2 限	共通教育科目					
3 限	共通教育科目		共通教育科目			【教】教育史
4 限	共通教育科目		共通教育科目			
5 限	【教】人権教育の理論と方法		共通教育科目			

4 年　後期　　教室 D(D1/D2)　：　120 人収容可能規模、パーテーションで６０人×２教室として使用可能仕様

	月	火	水	木	金	土
1 限	共通教育科目		**環境研究英語** 各研究室	**卒業研究・活動** 各研究室/プロジェクトルーム/適宜 P5-231/232/233/331/332/333(各63)		
2 限	共通教育科目					
3 限	共通教育科目		共通教育科目			
4 限	共通教育科目		共通教育科目			
5 限	【教】5 限教職実践演習（中高）6 限教育実習事前事後指導（中高）		共通教育科目			

○武庫川女子大学自己評価委員会規則

平成３年11月１日
規則第１号
改正　平成６年10月１日
平成７年４月１日
平成19年４月１日
平成26年４月１日
平成29年４月１日
令和２年５月１日
令和３年４月１日
令和５年４月１日

（設置）

第１条　武庫川女子大学学則第４条の規定に基づき、武庫川女子大学に自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、教育研究水準の向上に資するため、武庫川女子大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、全学的な自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することを目的とする。

（委員会の組織）

第３条　委員会は、次にかかげる委員をもって組織し、委員は学長が委嘱する。

(1)　学長
(2)　副学長
(3)　各学部長
(4)　共通教育部長
(5)　理事のうちから選任されたもの
(6)　事務局長
(7)　教学局長
(8)　教務部長
(9)　入試センター長
(10)　学生部長
(11)　キャリアセンター長

(12)　教育研究所長

(13)　学長企画室長

(14)　大学事務室統括部長

(15)　その他学長が必要と認めたもの

（会議）

第４条　委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

２　委員会は、委員長が招集し、議長は副学長のうちから学長が指名する。

３　委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

４　委員長が委員会に出席できない事情があるときは､委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

（審議事項）

第５条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　自己点検・評価の基本方針の策定に関する事項

(2)　自己点検・評価の実施、組織及び体制に関する事項

(3)　自己点検・評価報告書の作成に関する事項

(4)　自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項

(5)　自己点検・評価結果の公表に関する事項

(6)　認証評価及びその他の第三者評価に関する事項

(7)　その他委員長が必要と認めた事項

（学部自己評価委員会）

第６条　各学部に自己点検･評価を実施するために学部自己評価委員会を委員会の下に置く。

２　学部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（共通教育部自己評価委員会）

第７条　共通教育部に自己点検･評価を実施するために共通教育部自己評価委員会を委員会の下に置く。

２　共通教育部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（自己点検・評価の実施方法）

第８条　第６条及び第７条に規定する各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等をとりまとめて委員会に報告するものとする。

（委員の任期）

第９条　各委員会の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員が生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

（規則の改廃）

第10条　この規則の改廃は、委員会の議を経て、学長がこれを行う。

（その他）

第11条　この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成３年11月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成６年10月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成29年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和２年５月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和５年４月１日から施行する。

○武庫川女子大学学部自己評価委員会規程

平成29年４月１日
規程第３号
改正　令和５年４月１日

（目的）

第１条　この規程は、武庫川女子大学自己評価委員会規則第６条の規定に基づき、各学部の自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を実施する学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

（構成）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

(1)　学部長

(2)　学科長

(3)　幹事教授

(4)　その他委員長が必要と認めたもの

（会議）

第３条　委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

２　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

３　委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

４　委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

（自己点検・評価項目）

第４条　委員会は、次に掲げる項目について自己点検・評価を実施する。

(1)　理念・目的に関する事項

(2)　教育課程・学習成果に関する事項

(3)　学生の受け入れに関する事項

(4)　教員・教員組織に関する事項

(5)　その他自己点検・評価に必要な事項

（学科自己評価委員会）

第５条

複数の学科を有する学部の委員会に、学科単位の自己評価委員会を置くことができる。

２

学科自己評価委員会は、学部長の委嘱する委員若干名をもって組織し、会議は学科長が

招集して、その議長となる。

（任期）

第６条　委員会の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

（報告）

第７条　委員会は、毎年度末に、活動状況等をとりまとめて武庫川女子大学自己評価委員会に報告する。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は、委員長が委員の中から任命した者が担当し、学長企画室教育企画・IR推進課が資料等を保管する。

（規程の改廃）

第９条　この規程の改廃は、武庫川女子大学自己評価委員会の議を経て、学長が行う。

（その他）

第10条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

○武庫川女子大学FD推進委員会規程

平成20年１月１日
規程第１号
改正　平成23年４月１日
平成24年４月１日
平成26年４月１日
平成27年４月１日
平成29年４月１日
平成31年４月１日
令和２年４月１日
令和５年４月１日

（目的）

第１条　武庫川女子大学･武庫川女子大学短期大学部の教育理念及び教育目標の実現を目指し、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善に資することを主たる目的とし､大学全体で組織的に教育水準の質的向上を推進するため、学長の下に、武庫川女子大学FD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（構成）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1)　各学科から選出された委員

(2)　共通教育部から選出された委員

(3)　教務部長

(4)　学長が委嘱する委員

２　大学と短期大学部を併設する学科の前項第１号委員は､大学の学科により選出された委員をもって充てる。

３　委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は、学長が指名する。

４　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第３条　委員会は、第１条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

(1)　授業改善のための基本方針の策定に関する事項

(2)　教員の研修会及び講習会の開催に関する事項

(3)　教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項

(4)　FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項

(5)　各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項

(6)　教員の教授活動の支援に関する事項

(7)　その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

（会議）

第４条　委員会は、原則として毎月１回会議を開く。

２　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

４　委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

（庶務）

第５条　委員会の庶務は、学長企画室教育企画・IR推進課が担当する。

（改廃）

第６条　この規程の改廃は、委員会の意見を聴いて、学長が決定する。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附　則

１　この規程は、平成20年１月１日から施行する。

２　第２条第３項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成20年１月１日から平成21年３月31日までとする。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成31年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

この規程の施行に伴い、「武庫川女子大学短期大学部FD推進委員会規程」（平成22年４月１日規程第２号）は廃止する。

2024年度　新任教職員研修プログラム

研修目的	武庫川女子大学は「立学の精神」を教育の原点とし、「自ら考え、動く」人の育成を社会的責務として掲げる。その責務を全うするため、本学で育成する学生の姿を、知識・姿勢・行動という視点から８つの資質・能力に定めます。この８つの資質・能力は、各学部（研究科）、学科（専攻）の専門教育や共通教育などの「正課教育」はいうまでもなく、スポーツ・文化・芸術活動などの部活動や、ボランティア活動、地域貢献活動などの「正課外教育」、さらには友人や教職員との交流も含めた、大学生活におけるすべての学びの方向を指し示すもので、大学運営体制すべてを貫く人材育成方針です。 本研修では、新規採用された教職員に対して、本学の教育理念及び大学の教育・研究・社会貢献を展開するための様々な知識・技能を共有すると共に、お互いの経験や大学教育に対する想いなどを繋ぎ合わせることによって、自身の考えにより教育をより良いものにすることを目的としています。さらに、未来の武庫川女子大学の姿を皆で考え、それぞれの専門領域や職務を超えた新しい教育の創発を目指しています。
到達目標	1　本学において取り組まれてきた教育改革・改善等を理解し、自身の教育活動や職務等に活用することができる。
	2　授業の創意工夫を行うための基礎となる考え方や評価方法、集団におけるコミュニケーション能力を修得し、学生の能力を引き出すことができる。
	3　教育の質向上のために教職員同士が切磋琢磨できる関係を築きあげ、大学全体の教育力の向上に繋げることができる。
	4　研修で学んだ本学の取り組みに関する知識や授業運営に関する知識を活用して、自身の授業運営や業務の改善に役立てることができる。
参加対象者	2024年度採用の教員（嘱託助教以上　※看護は講師以上、※臨床助教は除く）、武庫川学院 新任職員育成制度 Rising 3（2年目）

15回のプログラムで構成されています。対象者を１班6～7名程度のグループに編成し、研修を展開します。【GW：グループワーク　○*の回はグループ構成を変更して実施 】

チーフコーディネータ：学長企画室長　北口　勝也

教室：文学部２号館５階 L2-52教室
（人事課にて確保予定）

実施日（水曜２時限）10:55～12:15		授業方法	ユニット	テーマ	内容	目標1	目標2	目標3	目標4	GW	研修担当者（仮）	備考
ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	4月10日	対面	本学に関する知識の定着	本学で共に働くにあたって新たな時代の大学に求められるものと本学の実情を知る	学長・事務局長メッセージと本学の状況 本研修の目的とゴール、アイスブレーク	○		◎		○	学長　瀬口　和義 事務局長　大野　勝利 学長企画室長　北口　勝也	新任職員研修Rising3（2年目）受講生全15回分参加を予定
２回目	4月17日	対面			教学マネジメントにおける「MUKOGAWA COMPASS」の役割	◎	○			○	学長企画室長　北口　勝也	
３回目	4月24日	オンデマンド			多様な学生とのコミュニケーション	◎	○				学生サポート室専門員（教育学科）　教授 宇野　里砂	
４回目	5月1日	オンデマンド	授業設計 教育方法 教育評価	３つのポリシーと教育課程	体系的教育の理解（３つのポリシー・カリキュラムツリー・ナンバリング等）	○	◎				近畿大学ＩＲ・教育支援センター　准教授 竹中　喜一	
５回目	5月15日	対面			所属する組織の教育目標の理解とグループ内での問題意識の共有　ＧＷ	○		◎	◎	○	学長企画室長　北口　勝也	
６回目	5月22日	対面			本学の教学の各種取り組み、リカレント教育 （タイトル例：エンロールメントマネジメントにおける本学の取組み）	◎		○		○	教学局長　橋本　光能 リカレント教育センター長　高橋　千枝子	
７回目	5月29日	対面			MUKOGAWA COMPASSと正課外活動について （例：MCを伸ばすために学科プログラムに必要だと考える項目と正課外に必要な項目は？）	○	○	◎	○	○	学長企画室長　北口　勝也	
８回目	6月5日	オンデマンド		授業デザイン	授業デザインとシラバス作成方法	○	◎				近畿大学ＩＲ・教育支援センター　准教授 竹中　喜一	
９回目	6月12日	対面			シラバスのブラッシュアップ　ＧＷ　＜前半：ポリシー授業デザイン＞ （カリキュラムツリーとの整合性、目標の書き方、 授業の展開過程）	○		◎	◎	○	学長企画室長　北口　勝也	
１０回目	6月19日	オンデマンド		さまざまな授業方法	アクティブラーニングの技法① （アクティブラーニングの考え方と方法）	○	◎				京都橘大学経営学部経営学科　准教授 西野　毅朗	
１１回目	6月26日	対面			アクティブラーニングの技法② （アクティブラーニングの考え方と方法）	◎	○			○*	学内候補：中植先生、尾関先生	
１２回目	7月3日	オンデマンド		授業における評価	さまざまな評価方法① （形成的評価・量的評価・質的評価・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ）	○	◎				近畿大学ＩＲ・教育支援センター　准教授 竹中　喜一	
１３回目	7月10日	Zoom		授業設計、教育方法、教育評価のまとめ	さまざまな評価方法② （形成的評価・量的評価・質的評価・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ）	○	◎	○		○*	近畿大学ＩＲ・教育支援センター　准教授 竹中　喜一	
１４回目	7月17日	対面	まとめ	これからの本学の教育について ー研修での学びをもとにー	シラバスのブラッシュアップ　ＧＷ　＜後半：ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ、評価方法＞ （目標と評価のつながり、授業の展開過程、その他事項の確認と修正）	○	○	◎	◎	○	学長企画室長　北口　勝也	
１５回目	7月24日	対面	研修のまとめ	研修内容の振り返り	意見交換、修了証授与	○	◎	◎		○	学　長　　瀬口　和義 副学長　　未定 事務局長　大野　勝利 学長企画室長　北口　勝也	

武庫川学院　研修体系図

～教職協働を実現できる職員育成のために～

記号の意味	☆ ： 必須研修対象 （階層別研修として実施）
	○ ： 必須研修の発展又は拡大型研修の受講推奨（人事課主催研修のほか、各課で参加する研修等）

区分		研修内容	一般職員			監督職		管理職		
			書記 / 嘱託	主事補	主事	副主査 2級	副主査 1級	主査	副参事	参事
階層別研修			新卒採用職員	キャリア採用職員	中堅職員（入職8年目までに）	中堅職員 Adv.（昇格3年目までに）	監督職（昇格3年目までに）		管理職（昇格3年目までに）	
Ⅰ 基礎力養成	1年目(新卒)	①ビジネスマナー・自己管理	☆							
		②ビジネスライティング	★	○						
		③ビジネスコミュニケーション	★	○						
	1・2年目	④自校知識	★	★						
		⑤教務・学生支援・財務・人事・情報等の各職務に関する基礎知識	★	★						
Ⅱ 応用力養成	3年目	①ロジカルシンキング	★	★						
		②問題解決力	★	★						
		③プレゼンテーション	★	★						
		④タイムマネジメント	★	★						
		⑤ストレスマネジメント	☆	☆						
	4年目～中堅職員	⑥データリテラシー			☆	○				
		⑦クリティカルシンキング			☆	○				
		⑧ファシリテーション				☆	○			
		⑨ネゴシエーション				☆	○			
Ⅲ マネジメント力養成	監督職	①ティーチング育成・実践				☆ Lv.1	☆ Lv.2			
		②リーダーシップ			☆ Lv.1		☆ Lv.2	☆ Lv.3	○	
		③業務改善・目標管理			☆ Lv.1		☆ Lv.2	☆ Lv.3	○	
	管理職	④コーチング育成・実践						☆	○	
		⑤業務・人材マネジメント（人事評価者スキル含む）						☆	○	
		⑥経営・組織戦略						☆	○	
		⑦諸法令・規則・規程等の運用者知識						☆	○	
専門性向上		役割遂行に必要な専門的知識・スキル技能（英語力の向上・強化等含む）	←							→
ガバナンス・コンプライアンス強化		ハラスメント、メンタルヘルスケア、ダイバーシティ等の知識	←							→
自己啓発		職務能力向上に資する自己学習	←							→

★・・・新任職員育成制度（Rising3）で実施。

【研修体系図　別表】研修内容及び到達目標

区分	研修内容		到達目標
Ⅰ 基礎力養成	①ビジネスマナー・自己管理	ビジネスに必要なマナーや、時間管理、健康管理、協働者との関わりにおける基本的な留意事項について学ぶ。	ビジネスパーソンとして必要な基礎的なスキルについて学び、修得した内容を自身の業務に活かす。
	②ビジネスライティング	ライジング3 1・2年目 レポート提出を通じて、ビジネス文書について学ぶとともに、文章力向上を図る。	
	③ビジネスコミュニケーション	ライジング3 1・2年目 グループワーク等を通じて、プライベートでのコミュニケーションとは異なる「ビジネスコミュニケーション」の在り方と、そのスキルを学ぶ。	
	④自校知識	ライジング3 1・2年目 本学に関する基礎知識について学ぶ。	大学職員として知識を学び、本学職員としての教職協働について学ぶ。
	⑤教務・学生支援・財務・人事・情報等の各職務に関する知識	ライジング3 1・2年目 大学事務に関する知識等について学ぶ。	
Ⅱ 応用力養成	①ロジカルシンキング	ライジング3 3年目 グループ単位での課題発見、課題解決に向けた発表を通じて、ビジネス現場における様々な事象を、論理的に整理する思考力を養うためのスキルを学ぶ。	個々人の生産性をあげるうえで必要なスキル及び提案できる能力を修得する。
	②問題解決力	ライジング3 3年目 問題設定の手法から解決までのプロセス整理の仕方、問題解決にあたる際の留意事項等について学ぶ。	
	③プレゼンテーション	ライジング3 3年目 プレゼンテーションの流れの作り方、内容のまとめ方に加え、立ち振る舞い等も含め、効果的に相手に伝えるポイントについて学ぶ。	
	④タイムマネジメント	ライジング3 3年目 業務を効率よく、かつ、効果的におこなうために必要な時間管理や優先順位のつけ方について学ぶ。	
	⑤ストレスマネジメント	仕事の効率化だけでなく自身の健康増進のために効果的な、ストレス自己管理法について学ぶ。	
	⑥データリテラシー	業務に関連する数値データ、非数値データ双方についての整理法、活用法について学ぶ。	
	⑦クリティカルシンキング	主にロジカルシンキングをベースに、客観的・批判的に業務を見つめ、より本質的な対応ができる思考力を養うためのスキルを学ぶ。	
	⑧ファシリテーション	諸会議、ミーティングを効率的かつ効果的に推進するための基本的なスキルについて学ぶ。	
	⑨ネゴシエーション	複雑に絡み合う利害関係を棚卸し、お互い「Win-Win」の関係を築くための対人交渉スキルについて学ぶ。	
Ⅲ マネジメント力養成	①ティーチング育成・実践	後輩、新規配属職員へ業務指導を行う際のスキルと留意点について学ぶ。	後輩育成や問題解決業務改善に必要なスキルを身に付け、その能力を発揮する。
	②リーダーシップ	管理者の三大役割（業務向上・部下育成・組織力強化）の基礎とそれに付随するマネジメント・コミュニケーションスキルについて学ぶ。	
	③業務改善・目標管理	業務改善を着手、実行する際の留意事項と、業務マネジメントの手法としての目標管理の運用に関する留意点について学ぶ。	
	④コーチング育成・実践	部下・後輩の指導・育成のため、その者の良い点を伸ばすためのコミュニケーションスキルとテクニックについて学ぶ。	チーム力を強化し、効果測定ができる能力を修得し、それを組織運営に反映させる役割を担う。
	⑤業務・人材マネジメント（人事評価者スキル含む）	管理職のマネジメント役割（組織・業務・部下など）の基本事項を学ぶ。	
	⑥経営・組織戦略	学院全体を俯瞰して、経営者をサポートする者としての思考法、行動原理を理解し、組織全体を最適化させるための留意事項やスキル等を学ぶ。	
	⑦諸法令・規則・規程等の運用者知識	学院全体の運営管理の基本となる諸規則・規程・マニュアル等について、その概要と運用上の主な留意事項について学ぶ。	
専門性向上	役割遂行に必要な専門的知識・スキル技能の修得（英語力の向上・強化等含む）	（各部署における研修）	職務遂行能力が向上する。
ガバナンス・コンプライアンス強化	ハラスメント、メンタルヘルスケア、ダイバーシティ等の知識	（人事課における研修など）	知識を習得し、適切な行動を行う。
自己啓発	職務能力向上に資する自己学習	（各自における研修など）	常に向上心を持ち、自己研鑽に励む。

学生の確保の見通し等を記載した書類

― 目次 ―

（１）新設組織の概要 …Ｐ２

①新設組織の概要 …Ｐ２

②新設組織の特色 …Ｐ２

（２）人材需要の社会的な動向等 …Ｐ３

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析 …Ｐ３

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析 …Ｐ４

③新設組織の主な学生募集地域 …Ｐ５

④既設組織の定員充足の状況 …Ｐ６

（３）学生確保の見通し …Ｐ７

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 …Ｐ７

②競合校の状況分析 …P12

③先行事例分析 …P16

④学生確保に関するアンケート調査 …P17

⑤人材需要に関するアンケート調査等 …P19

（４）新設組織の定員設定の理由 …P22

（１）新設組織の概要

（1）のポイント
・工学関係の「環境共生学部環境共生学科」（入学定員 120 人）を設置。
・自然環境や身近な環境における諸課題を工学的に解決する理工系人材を養成。
・工学関係の既設学科として建築学科、景観建築学科、社会情報学科、生活環境学科を有している。

①新設組織の概要

組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
武庫川女子大学 環境共生学部環境共生学科	１２０	—	４８０	兵庫県西宮市甲子園九番町１１－６８

②新設組織の特色

環境共生学部環境共生学科（以下、「本学部」と言う。）は、地球規模での気候変動、温暖化と海面の上昇、生物種の消失、自然災害の激甚化、気候難民の発生など複雑な要素からなる地球環境・自然環境問題、とりわけ環境の保全と利用に関わる諸課題に対して、独自に問題点や課題を見つけ出し、工学的に課題を解決する計画立案力・実践力を備えた人材を養成する。これを達成するために、ソーシャルデザインに関する科目、環境管理技術に関する科目、バイオテクノロジー・資源利用に関する科目などの科目群を、課題発見・課題解決能力と結びつくように自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める能力を習得させる。

学位の分野は、「工学関係」であり、生物学や化学などを基礎として、工学的方法論を集結し、自然環境や身近な環境における諸課題を工学的に解決する方法を探究する。そして、その学習を通じて、グリーンイノベーションに貢献できる能力を身に付けることを目的とする。「工学関係」の学位の分野を持つ既設学部は次のとおり。

学部・学科	学位の分野	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
建築学部 建築学科	工学関係	４５	—	１８０	兵庫県西宮市戸崎町１－１３
建築学部 景観建築学科	工学関係	４０	—	１６０	
社会情報学部 社会情報学科	工学関係	１８０	—	７２０	兵庫県西宮市池開町６－４６
生活環境学部 生活環境学科	工学関係 家政関係	１６５	３年次 ２０	７００	

本学部の新設に伴う既設組織の廃止は行わないが、生活環境学部生活環境学科の入学定

員を令和７年度より３０人増やし、１９５人とする予定（令和６年３月 19 日、収容定員変更関係学則変更認可申請）。

（２）人材需要の社会的な動向等

（２）のポイント
・雇用拡大が確実視される「グリーン分野」の理工系女性人材を育成。
・本学学生の約５割が兵庫県、約３割が大阪府の高校出身。中長期的には１８歳人口が減少するも、人口が多く大学進学率の高い兵庫県及び大阪府の女子の大学進学者数は今後 10 年間も横ばいまたは微増の見込み。
・既設組織は概ね定員を充足し、特に工学関係学部は堅実に学生を確保。一部未充足学科については、定員減少、教育内容の充実、入試方式変更等によるテコ入れを実施。

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

世界的な潮流として、脱炭素の潮流は特に化石燃料に関連する産業の雇用を減少させる一方、再生可能エネルギーに関する産業において新たな雇用を創出すると OECD（経済協力開発機構）が予測している。OECD「Green Growth Indicators 2017」を基に経済産業省が作成した資料によると、「太陽光・風力発電」「可燃性の再生エネルギー及び廃棄物由来の発電」分野の雇用が今後、大きく拡大することが見込まれている（資料１）。

日本政府全体の戦略・方針においても「デジタル」と「グリーン」を特定成長分野とされ、「第 6 次科学技術・イノベーション基本計画」で示されているようにグリーン分野について今後、カーボンニュートラルの実現、バイオマス燃料等の次世代エネルギーの開発、海洋プラスチックごみ問題解決といった分野での産業発展と人材需要の高まりは確実視されている[1]。環境省が環境産業の市場規模・雇用規模等の推計結果をまとめた「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」によると、令和 3 年の国内の環境産業の市場規模推計は、108 兆 908 億円（前年比 2.3%の増加、平成 12 年比約 1.7 倍）と拡大しており、2050 年（令和 32 年）にかけて上昇傾向を続け、約 123.7 兆円まで成長すると推計されており、環境産業が我が国の経済成長に与える影響は年々大きくなっている[2]。

一方、我が国では政府の教育未来創造会議の第一次提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」（令和 4 年 5 月 10 日）で指摘されているように、理工系人材の育成、特に女性の理工系分野への進出は喫緊の課題である。理工系学部への進学割合は OECD 平均の 27%に対して 17%にとどまっており、さらに、学部段階で理工系を専攻する

[1] 内閣府 HP「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」
https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html
[2] 環境省 HP「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書の公表について」
https://www.env.go.jp/press/109722_00002.html

女性はわずか７％と、男性の 28%に比べると低い状況にある（資料２）。OECD 平均の 15%と比べても大幅に低い状況にあり、当該分野についての知識や技術を身に付けた人材育成は十分とは言えないため、今後さらに拡大する需要に人材供給が追い付かない。

例えば、日本の大手企業を中心に構成された経済団体「日本経済団体連合会」（経団連）が令和５年９月から 10 月にかけて実施した調査によると、今後５年程度先を見越した理工系女性の採用については約６割の企業が「拡大する方向」と回答、特に積極的に採用したい専攻は「工学系」が約８割と最多であった（資料３）。イノベーション創出や事業推進のために理工系女性人材、特に工学系である本学部が養成する女性人材の育成は企業側からも強く求められていると言える。

このような状況の中、文部科学省ではデジタル・グリーン分野の学部への転換を行う大学を支援する「大学・高専機能強化支援事業」を展開しており、本学部もこの事業の選定を受け設置するものである。

以上のことから、地球環境・自然環境問題に関わる諸課題を解決する計画立案力・実践力を備えた理工系女性人材を養成する本学部の需要は高いと言える。

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

＜18 歳人口＞

我が国の 18 歳人口は、定員を変更する令和７年には 109.1 万人であるが、令和 16 年には約８％減の 100.6 万人となることが推計されている（資料４）。

本学の位置する兵庫県の 18 歳人口は、令和 7 年の 48,314 人から令和 16 年には 44,430 人まで約 5 千人減少、隣接する大阪府においても令和 7 年の 74,476 人から令和 16 年には 68,299 人まで約６千人減少することが予測されている。兵庫県、大阪府とも減少のスピード・割合は全国と比較しても同じであり、令和 7 年からの 10 年間で 18 歳人口は約 8%減少することが見込まれる（資料５）。

18 歳人口推計

地域	令和 7 年（2025 年）	令和 16 年（2034 年）	対令和 7 年指数
全国（男女合計）	1,090,562 人	1,005,782 人	92.2
全国（女子のみ）	533,094 人	492,590 人	92.5
兵庫県（男女合計）	48,314 人	44,430 人	92.0
兵庫県（女子のみ）	23,614 人	21,714 人	92.0
大阪府（男女合計）	74,476 人	68,299 人	91.7
大阪府（女子のみ）	36,669 人	33,679 人	91.9

※リクルート進学総研が「学校基本調査」のデータを基に推計

＜大学進学率＞

全国の男女別の大学進学率・進学者数を平成 24 年と令和 4 年で比較すると、男子が 4.1 ポイント増（55.6%→59.7%）、大学入学者数は 35 万人前後で横這いである一方、女子の大

学進学率は 7.6 ポイント増え（45.8%→53.4%）、年々、男子の割合に近づいている。また、女子の大学入学者数も約 2.6 万人増と、男子よりも顕著に上昇している。兵庫県においても、大学進学率を平成 19 年と令和 4 年で比較すると約 9 ポイント増（50%→59%）、大阪府では約 12 ポイント増（49%→61%）と、上昇を続けている[3]。

＜将来推計＞

「③新設組織の主な学生募集地域」において後述する通り、本学学生の出身高校所在地は兵庫県 47.4%、大阪府 30.2%、2 府県合計で約 8 割を占めることから、この 2 府県の 18 歳人口動向が本学の学生確保・定員充足にあたって直接的に影響する。18 歳人口推計と大学進学率のデータを基に、兵庫県及び大阪府の女子の大学進学者数を推計した。

令和 4 年度の大学進学率が今後も変わらないと仮定した場合、18 歳人口の減少と同じスピードで大学進学者数は減少し、兵庫県と大阪府の女子の大学進学者数は令和 7 年から 10 年で合計約 2,800 人減少する。一方、このままの割合で大学進学率が上昇し続けると仮定してシミュレーションを行った場合、兵庫県と大阪府の女子の大学進学者数は約 4,700 人増加する。ただし、今後も永久に進学率が上昇し続けることは考えづらいため、中央教育審議会大学分科会（第 174 回、令和 5 年 7 月 14 日）会議資料の「大学入学者数等の将来推計」で示された進学率上昇幅を一定の値で上限とする方法で推計した。

女子の進学率上昇を、「男子の令和 4 年度大学進学率＋ 5 %」を上限とし、兵庫県と大阪府の女子の大学進学者数を算出した場合、**令和 7 年からの 10 年間で約 500 人増加（兵庫県△237 人、大阪府＋758 人）**する結果となった（資料６）。このシミュレーションどおり、今後、このペースで女子の大学進学率が上昇し男子と同程度まで上昇すると、**18 歳人口は減少するものの本学の設置圏域である兵庫県及び大阪府の 2 府県合計の女子大学進学者数は増加傾向**にある。以上のことから、本学への入学対象人口は減少せず、学生確保に向けた取組みを続けることで定員充足は可能であると見込まれる。

③新設組織の主な学生募集地域

【添付データ】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）

＜兵庫県内大学：出身高校所在地県別入学者数＞

「学校基本調査」によると、令和 5 年度の兵庫県内大学への入学者 27,095 人のうち約半数にあたる 13,198 人（48.7%）が兵庫県の高校出身であった。続いて大阪府が 4,912 人（18.1%）と、兵庫県と大阪府の高校の出身者が全体の約 67%を占めた。なお、女子については、15,302 人中、兵庫県が 7,589 人（49.6%）、大阪府が 3,040 人（19.9%）と兵庫・大阪の高校出身者が全体の約 70%を占めている。

＜武庫川女子大学：出身高校所在地県別入学者数＞

---

[3] 中央教育審議会総会（第 137 回）会議資料　資料１－３「（参考資料）大学等進学者数に関するデータ 関係」P.6-7　https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000255573.pdf

令和 5 年度の本学入学者 2,257 人のうち、兵庫県の高校出身者は 1,070 人（47.4%）、大阪府は 681 人（30.2%）、2 府県合計で 1,751 人（77.6%）であった。特に本学は大阪に隣接した兵庫県の阪神地区に位置していることから、大阪府内の高校からの入学者の割合が兵庫県内大学の大阪府内高校出身入学者の割合（19.9%）と比較しても 10 ポイント以上高い結果となった。

以上のことから、18 歳人口が多く、大学進学率も高い兵庫県及び大阪府を本学の学生募集地域に設定することは妥当であり、２府県の高校からの進学者の割合が減少することは劇的な人口分布・社会構造の変化がない限りあり得ない。なお、外国人留学生及び現職社会人が本学部を受験・入学することは可能であるが、主要な入学者としては想定していない。

入学定員 120 人のうち、約 50%にあたる 60 人は兵庫県内、約 30%にあたる 35 人は大阪府内からの進学を想定している。残り 25 人は、本学が進学や高大連携における連携協定を締結している高等学校が所在する近畿他府県や中四国や北陸、そして 18 歳人口が増え続けている沖縄県からの進学が見込まれる（資料 7）。

④既設組織の定員充足の状況

【既設組織における今後の定員充足の見通し】

武庫川女子大学の令和 5 年度現在の収容定員は 8,700 人（募集停止学科を除く）、在学生数は 8,264 人で大学全体の収容定員充足率は 0.94 倍である。12 学部のうち、９学部が収容定員充足率は 0.94 倍～1.09 倍と適切な定員管理を実現しており、0.70 倍未満の学部は存在しない。ただし、文学部（0.89 倍）、音楽学部（0.70 倍）、薬学部薬学科【6 年制】（0.76 倍）が 0.9 倍未満となっており、定員未充足の状態にある。文学部については、併設する武庫川女子大学短期大学部の文学関係２学科（入学定員合計 200 人）の学生募集を令和７年度に停止することで一定の志願者が文学部に流入し、定員充足状況の改善を見込んでいる。薬学部については、定員未充足が続いている薬学科６年制の入学定員を令和６年度から半減（210 人→105 人）させることで令和６年度以降は定員が充足するものと見込んでいる。音楽学部については、定員が少ないことから単年度の入学者数の増減が充足率に大きく影響する学部であるが、令和８年度以降に演奏学科にミュージカルに関するコースを新設するなど教育課程をブラッシュアップさせることで定員充足は可能であると見込んでいる。

【収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科等】

令和 5 年度に収容定員充足率が 0.7 倍未満となった学科は全 19 学科中、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科（0.57 倍）、音楽学部演奏学科（0.52 倍）の２学科である。

健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科は令和 5 年度が開設初年度の学科であるが、初年度の入学生は定員 100 人に対して 57 人と、大幅な定員割れとなった。既存の健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科との教育課程の違いや学科の特色が十分に浸透していなかったことや歩留り予測を誤ったことが原因と分析している。令和６年度入試の学生募集にあたっては、学科紹介動画の作成やホームページリニューアルを通して学科の特

色をアピールするとともに、入試制度を変更した。具体的には、新たな受験者層を発掘することを目的に、「MUKOJO 未来教育総合型選抜」を導入し、令和５年９月に出願を受け付けたところ募集人員 10 人に対して 15 人から出願があり、13 人が合格した。その他の選抜方式と合わせて令和６年度の入学者は前年度より 30 人以上多い 91 人（令和６年４月１日現在集計速報）と、定員充足状況は大きく改善している。

演奏学科の定員未充足の原因は、コロナ禍の中、先行き不透明な時代に就職を見通すのが難しい音楽学部は敬遠されたこと、また全国的にミュージカルや電子機器を使ったオリジナル音楽を志向する傾向が高まっていることが、本学のような伝統的なクラシック音楽を学ぶ音楽学部の志願者数減の原因であると分析している。定員充足に向けた今後の取組みとしては、総合大学の利点を生かした確実な就職及び就職率の高さをアピールして就職面での受験生のネガティブなイメージを払しょくするため音楽学部ホームページのリニューアルや、教員が積極的に高校訪問して就職実績・支援体制を PR する。そして先述のように令和８年度以降に演奏学科にミュージカルコースを新設しクラシック音楽以外の分野に興味のある受験生を取り込むことで定員未充足の改善を目指す。

以上のように、収容定員が大幅に未充足の学科は、体育関係と音楽関係で１つずつあるが、**本学部と同じ工学関係の学位の分野を有する学部の収容定員充足率は、建築学部が 1.05 倍、社会情報学部は 1.02 倍、生活環境学部についても 1.06 倍と安定して学生を集めていることから、本学部の定員充足は可能と判断している。**

【添付データ】既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近５年間）（別紙２）

（３）学生確保の見通し

（３）のポイント
・大学広報戦略策定、大学案内等の配布、高校訪問、多様な入試制度、オープンキャンパス、Web サイトや SNS の活用など、多種多様な広報ツール・手法を駆使。
・定員変更に向け各種取組みの（メディア露出、OC 参加者数、高校訪問数、SNS 発信数・登録者数）の１割増を目標とする。
・工学関係の周辺領域を幅広くカバーする教育研究内容、経済的な負担に配慮した初年度納付金の設定、キャンパス立地、取得可能資格の充実など競合校との優位性の確立。
・高校２年生女子対象のアンケート結果で入学定員を上回る志願者、入学希望者を確認。
・企業・団体対象の人材需要アンケート調査において、高い社会的ニーズを確認。

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設組織における学生確保に向けた具体的な取組みは次のとおり。

（ア）広報戦略

本学では、法人創立 80 周年を迎えた令和元年、創立 100 周年に向けたブランディングプロジェクト「MUKOJO ACTION 2019→2039」をスタートさせた。「日本の女子大を、更新しよう。」をスローガンとし、「未来像」となるビジョンを策定、公表している。特設 Web サイトやポスター、大学案内等の各種広報媒体のビジュアルイメージを統一して大規模な広報戦略を展開し、女子総合大学としての本学の知名度向上に努めている。

（イ）大学案内や学科紹介パンフレット等の印刷物の配布

大学案内は約 8 万部を作成、また各学科紹介パンフレット、入試案内、募集要項を作成し、高校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会、保護者向け説明会、大学見学会、各地域での進学・入試相談会等において幅広く配布している。

（ウ）高校訪問、進学ガイダンス

本学の設置圏域である兵庫県、大阪府を中心に、全国の高等学校の進路指導部に訪問し、高校生や進路担当教諭に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。のべ訪問校数は令和 4 年度 26 府県 848 校、令和 5 年度は 21 府県 790 校にのぼる。また、生徒に対しては模擬授業や進路ガイダンスを通年開催し、高大連携の強化に努めている。

（エ）多様な入学選考（選抜）試験の実施

本学では、アドミッション・ポリシーに沿って、次のように多様な入試を実施している。

・MUKOJO 未来教育総合型選抜入試
・公募制推薦入試（前期）・公募制推薦入試（後期）
・一般選抜Ａ・一般選抜Ｂ・一般選抜Ｃ・一般選抜Ｄ（大学入学共通テスト利用型）
・演奏奨学生入試　　・スポーツ推薦入試
・指定校推薦入試　・附属高校推薦入試　・社会人特別選抜　・外国人留学生入試

また、遠隔地の受験生に対して利便性を図り、広く志願者を確保するため、公募制推薦入試及び一般選抜Ａ・Ｂでは全国 12 会場（東京、石川、愛知、京都、和歌山、鳥取、岡山、広島、香川、愛媛、福岡、沖縄）に試験場を設置している。

（オ）オープンキャンパス、各種説明会等

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者、教員等を対象に入試概要の説明や、学科ごとの企画プログラム（学科説明・施設見学・体験授業）、予備校講師による入試対策講座、学科別のＱ＆Ａコーナーにて入試・就職・資格・奨学金・寮・下宿など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。令和 5 年度のオープンキャンパスは 6 月 25 日、7 月 8 日・9 日、8 月 10 日・11 日、9 月 24 日の 6 日間にわたって開催し、のべ 5,252 人（保護者を含むと 10,849 人）の参加があった。5,252 人のうち、約半数の 2,783 人が高校 3 年生、残りが高校 1・2 年生であった。オープンキャンパス開催日以外にも受験生の大学見学については、常時受け付けられるようにしている。数人のグループや個人単位の訪問に対して、平日及び土曜日の午前中は入試センター職員が応対、また、入試センターが閉室となる土曜の午後や日祝日は、中央キャンパス内の“受験生の部屋” Muko ナビルームにて、学生スタッフが大学の授業や学生生活の紹介、キャンパス見学の案内、入試に関する

相談・質疑応答を行っている。また、学校単位でのキャンパス見学会や、高等学校教員向けの説明会や保護者向け説明会、附属高等学校向け説明会も開催している。

（カ）ホームページ、SNS による情報の提供

大学ホームページのほか、SNS として X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube、LINE 及び Instagram に本学の公式アカウントを開設し、SNS を利用した情報発信を積極的に実施している。学内施設や授業風景、学生生活についての動画配信等の情報発信を定期的に行い、本学で学ぶ具体的なイメージを掴めるように努めている。大学ホームページ、公式 SNS の概要は以下のとおり。

＜ホームページ＞

開設時期：平成 8 年 8 月

URL：https://www.mukogawa-u.ac.jp/

閲覧数：年間約 662 万回（月間 55 万回）

＜SNS>

メディア名	アカウント名	開設時期	登録者数	情報掲載件数
X（旧 Twitter）	@MWULavy	平成 23 年 7 月	7,438	約 11,000
Facebook	MWULavy	平成 24 年 11 月	3,157	約 500
YouTube	@MWULavy	平成 24 年 5 月	1,520	122
LINE	武庫川女子大学	平成 26 年 5 月	14,224	71
Instagram	mwu.mukogress	平成 29 年 9 月	2,529	556

※登録者、情報掲載件数は令和 6 年 2 月 1 日現在

（キ）新聞・雑誌、駅・車内広告等

新聞や雑誌等のマスメディアでの広告やインターネット広告、駅・電車内の交通広告を出稿し、受験生はもちろんのこと広く社会で知名度が向上するよう努めている。また、出版社、新聞社、予備校等が発行する受験情報誌等の媒体に積極的に情報掲載を行い、具体的な学修内容や大学生活の様子、受験情報等を提供している。

【添付データ】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙３）

イ 新設組織における取組とその目標

学生募集のための PR 活動は以下のとおり予定している。

<PR 活動の方針及び戦略>

例年実施しているオープンキャンパス等、対面での活動を利用しての PR を中心に、新聞等のマスメディア広告やホームページや SNS 等 Web 媒体を組み合わせて、効果的な PR 活動を行う。対象ステークホルダーが受験者層から保護者、高校教員と幅広いため、メディアミックスでの広報展開をする。特に受験生層には学びの内容や将来像を端的に訴求するた

めアニメーションを活用し、地域や本学志望者に絞ったダイレクト告知も行う。その他、学習支援アプリを活用し、同じ学問領域・分野を目指す受験生に広く当学部の魅力を伝えることを目的とした広報活動により志願者・入学者の確保を目指す（資料 8）。

＜実施計画・目標＞

（ア）オープンキャンパス

オープンキャンパスの冒頭に行う全体会において、本学部の特色を紹介する。令和 5 年度末からは、令和 7 年度以降の志願者獲得に向け、主に高校 2 年生・1 年生を対象とした春季オープンキャンパスを開催し、保護者を含む年間の参加者数は 12,000 人の参加を目標とする。また、オープンキャンパスにおいて学部学科別に実施している模擬授業等のプログラムを充実させ、年間 600 人の参加者を集めることを目標とする。

（イ）高等学校教員・予備校講師対象の入試説明会

本学学生の出身高校所在地は約 80%が兵庫県及び大阪府であることから、7 月に兵庫県と大阪府の会場で高等学校教員と予備校講師対象の入試説明会を開催し、本学部の特色を紹介する。約 100 校の参加を見込む。

（ウ）入試説明会

受験生及び進路決定に大きな影響を与える保護者等を対象に説明会を開催し、本学部の特色を紹介する。7 月に兵庫県（三宮・姫路）、大阪府（梅田・天王寺）、奈良県の 5 か所で開催し、約 500 人の参加を見込む。

（エ）進学相談会

受験生が志望校を決めることが多い 6 ～ 9 月頃に全国各地で入試相談会を単独で開催しており、本学部に興味を持つ受験生に対して個別に学部の内容を説明する。全国 28 都府県での開催を予定している。参加者数は令和 4 年度 570 人、令和 5 年度は 479 人の参加者があったが、定員変更後は年間 600 人の参加者目標とする。

（オ）高校訪問・高大連携強化

全国の高等学校を訪問し、進路指導担当教員に本学部の特色を紹介する。年間のべ 900 校の訪問を目標とする。兵庫県・大阪府を中心に、中国・四国地方を重点強化地域として訪問を増やす。特に教育連携校 9 校と附属高等学校では生徒・教員対象の説明会を開催し、確実な志願者・入学者へとつなげる。

さらに、令和 6 年度からは入試センターをアドミッションセンターに組織改編し、入試課と高大連携課の二課体制で、高等学校との連携強化を進める。

（カ）PR 動画配信

本学部の学びの内容や研究内容を分かりやすく紹介する動画や実写とアニメを融合したプロモーション動画を制作し、ホームページやサイネージ等で配信することで認知度アップを図る。

（キ）学部紹介リーフレットの制作

大学案内とは別に本学部のリーフレットを制作し、相談会での配付や資料請求者へ郵

送する。本学に興味を持つ受験生への配付が主であり、学びの内容や就職先を記載して、出願へ結びつける内容とする。発行部数は 1 万部を予定。

（ク）新聞広告・関連イベント開催

本学部の新設を伝える広告を新聞に出稿する。掲載する新聞は全国紙を中心とし、全面広告とする。主に武庫川女子大学の知名度アップを目標とする。また、10 月に受験生とその保護者を対象に環境をテーマにしたシンポジウムを武庫川女子大学公江記念講堂（収容人数 2,500 人）で開催し、本学部の PR を行う。シンポジウムの内容は新聞に採録記事広告として掲載する。

（ケ）メディア広告

メールアドレスへの Web DM 送信や YouTube 広告、学習支援アプリでの情報配信などで本学部の情報を発信する。これらの Web メディアが受験生に対してダイレクトで情報を伝えることができるため効果的に利用する。Web DM は資料請求者やオープンキャンパス参加者に対して年間 5 万通発信、学習支援アプリでの情報配信は年間約 20 回を予定している。

（コ）SNS

上記の取組みを通じて、本学 SNS 登録者を増やし、各 SNS の登録者数の 20%増を目標とする。SNS では PR 動画や学生生活の様子を発信し、ロイヤリティ（顧客が企業や企業のサービスなどに対して信頼や愛着を感じること）を高める。

なお、上記（カ）～（ケ）の取組みに、令和 6 年度に約 2 千万円の特別予算を編成して実施する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

＜オープンキャンパス＞

別紙 3 のとおり、令和 4 年度及び令和 5 年度におけるオープンキャンパスの取組みによる受験率は約 26%、入学率は約 11%。

＜進学相談会＞

同様に、進学相談会の取組みによる受験率は約 84%、入学率は約 39%。

＜入試説明会＞

同様に、入試説明会の取組みによる受験率は約 26%、入学率は約 11%。

＜高校ガイダンス＞

同様に、高校ガイダンスの取組みによる受験率は約 39%、入学率は約 11%。

＜大学案内＞

同様に、大学案内の配付の取組みによる受験率は約 16%、入学率は約 7%。

＜その他＞

SNS や広告などメディアを利用した広報活動によって就職率の高さ等を確認した上で入

学するものと見込んでいる。

以上の分析を踏まえた各取組による入学者数の見込みは次のとおり。

取組み	環境共生学部環境共生学科
オープンキャンパス	15 人
進学相談会	5 人
入試説明会	2 人
高校ガイダンス	1 人
大学案内配付	28 人
その他	70 人
合計	121 人

②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

＜競合校の選定理由＞

本学部の競合校として、関西大学化学生命工学部生命・生物工学科、関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科、関西学院大学生命環境学部生物科学科、近畿大学農学部応用生命化学科、大阪工業大学工学部環境工学科、甲南大学理工学部生物学科の 6 大学を選定した。以下、①～⑤の理由を総合的に勘案し、競合校に選定している。

【競合校として選定した大学・学部・学科の概要】

競合校	学校種	所在地	学力層	入学定員	学位	学位分野
関西大学化学生命工学部生命・生物工学科	私立 共学	大阪府	偏差値 57	105 人	学士(工学)	工学
関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科	私立 共学	大阪府	偏差値 60	88 人	学士(工学)	工学
関西学院大学生命環境学部生物科学科	私立 共学	兵庫県	偏差値 60	61 人	学士(理学)	理学
近畿大学農学部応用生命化学科	私立 共学	奈良県	偏差値 55	120 人	学士(農学)	農学
大阪工業大学工学部環境工学科	私立 共学	大阪府	偏差値 50	75 人	学士(工学)	工学
甲南大学理工学部生物学科	私立 共学	兵庫県	偏差値 60	45 人	学士(理学)	理学

①学校種

すべて私立大学の 4 年制学部・学科であること。

②所在地

本学の主たる学生募集地域に所在にあたる兵庫県又は大阪府に所在していること。なお、近畿大学農学部は奈良県奈良市に所在しているが、大阪府に隣接しており、兵庫県、大阪府に次いで本学志願者の多い地域である。

③学力層

志願者の学力層が重なっていること。

本学の工学分野の学科の一般入試 A 日程の偏差値を株式会社ベネッセコーポレーションの進学情報サイト「マナビジョン」で調査したところ、社会情報学部社会情報学科情報メディア専攻は偏差値 55、情報サイエンス専攻は 56、建築学部建築学科は 52、建築学部景観建築学科は 50 とされており、本学部も同程度を想定している。想定競合校の一般入試主要方式の偏差値は 50～60 の範囲であり、想定する学力層と同程度のものである。

※偏差値は 2023 年度第 3 回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試の B 判定値

※複数の日程・方式がある場合、一般前期で募集人員の多い日程・方式の値を抽出

④定員規模

入学定員規模は 120 人を予定しており、競合校と比較すると同程度または多い規模であることから、併願対象となり得る。

⑤学問分野の類似性

学位の分野（工学関係）と学問分野が同じ又は類似していること。想定競合校は工学関係の学科 3 つのほか、農学関係や理学関係に属するが、本学部の教育課程と近接する分野である。

＜競合校との比較分析＞（資料９）

①教育内容

想定競合校の学科概要や養成する人材像を各大学ホームページで調べたところ、関西大学化学生命工学部生命・生物工学科、関西学院大学生命環境学部生物科学科、甲南大学理工学部生物学科は学科名のとおり生物学的要素の強い教育内容となっている。一方、関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科は、省エネルギーやバイオマス、水素などの新エネルギー、環境修復、環境汚染防止など念頭に置きつつ「化学工学」を基盤としており、大阪工業大学工学部環境工学科は、省エネルギーや新エネルギー、環境の保全、修復及び資源循環といった「環境工学」を基盤とした教育内容となっている。近畿大学農学部応用生命化学科は、生物学的要素を中心に生命、資源、食糧、環境などさまざまな分野を掲げており、生物学と環境工学の周辺領域を広くカバーしている。

工学関係である本学部の教育内容は、関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科及び大阪工業大学工学部環境工学科に最も近く、競合校の選定理由で説明したとおり本学の学力層はその中間に位置することから両大学の志願者層を集めることができる。さらに女子大学では唯一の「環境共生学部」であり、教育面で競合する女子大学がない点も優位

性が認められる。

②入試方式等

・入試方式

各大学のホームページや株式会社ベネッセコーポレーションの進学情報サイト「マナビジョン」によると、競合校では入試方式を細分化しているところが多い。関西大学化学生命工学部生命・生物工学科の 15 方式を筆頭に、その他大学でも 10 種類前後の入試方式を設け、各方式の募集人員は少なく設定されている。本学では 7 方式にし、各募集人員も多めに設定していることから、シンプルで受験のしやすい入試方式となっている。

・入学手続き時期

令和 6 年度の各大学と本学の募集要項によると、本学では一般入試（前期・中期）の入学手続き期限を 3 月 1 日に設定している。競合他大学では 2 月中に設定している大学が多いため、受験生にとっては本学の入学手続き期限は選択肢が広がる有利な日程である。一般入試（後期）や大学入学共通テスト利用入試は、近畿大学を除き競合大学は本学と同じ 3 月 22 日に設定している。

③学納金・奨学金

競合校として想定している近隣の 5 大学 6 学科の初年度納入金は 1,603,500 円～1,780,000 円、平均は 1,714,450 円であったが、本学は 1,614,700 円であり、低めに抑えられている。学生の経済的な負担の軽減を最優先に考慮して設定した額であると言える。

奨学金では、本学のほか、想定競合校のうちすべての大学が高等教育修学支援新制度の対象機関となっている。大学独自の奨学金制度の充実度では、各大学とも給付・貸与を含めて独自の制度を設けており、優劣はない状況である。

④就職支援内容

各大学ホームページ掲載内容をもとに就職支援体制を比較したところ、すべての大学においてキャリアセンター、キャリア開発センターといったキャリア・就職支援の専門部署を置き、キャリアカウンセラーによる個別相談や履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、各種の就職支援講座や学内企業説明会などのイベントを行っていることが確認できた。そのほか、企業の集中する大阪や東京にサテライトキャンパス・事務所を設置して首都圏での就職支援を行っている大学（関西学院大学、関西大学、近畿大学、甲南大学）がある。本学においてもキャリアセンターが中心となり、ほぼ同様の支援を行っているほか、東京駅前に東京センターを設置していることから、就職支援体制は他大学と比較しても引けを取らない内容である。

⑤取得資格

本学部では、中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）のほか、博物館学芸員を取得できる予定。競合校として想定している各大学とも中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）を主要な資格として挙げていることから、本学部の資格ラインナップは競合するうえで最低限の基準は満たしていると考えられる。ただし一部大学では、高等学校教諭一種（農業）（工

業）の教員免許状も取得可能であることから、教員志望の受験生が志望校を選ぶ際に本学部が不利になる可能性は否めない。

⑥立地

本学部の所在する浜甲子園キャンパスは、大阪梅田と神戸三宮の両ターミナルの中間にあたる兵庫県西宮市内にあり、特急停車駅の阪神電車「甲子園駅」から徒歩圏内の好立地である。兵庫県内競合校の関西学院大学（三田市）は大阪梅田から直通バスで 60 分、神戸三宮から直通バスで 50 分、甲南大学（神戸市東灘区）は、大阪梅田から電車と徒歩で約 30 分、神戸三宮から電車とバスで約 25 分の立地であり、両ターミナルから電車と徒歩で 30 分程度の本学は競合校と同程度または有利な立地条件と言える。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 か年（令和 3 年度～ 5 年度）の入学志願状況を各大学ホームページ等で調査した（資料１０）。関西学院大学生命環境学部生物科学科の 3 年間の平均入学定員超過率は 1.04 倍、近畿大学農学部応用生命化学科は 1.10 倍、甲南大学理工学部生物学科は 1.22 倍と定員を充足しており、志願者数の平均 3 か年平均も関西学院大学生命環境学部生物科学科が 1,049 人、近畿大学農学部応用生命化学科は 2,588 人、甲南大学理工学部生物学科は 627 人と入学定員の約 14 倍から 21 倍の志願者を集めていることから、本学部についても関西圏において十分な志願者層が存在し、定員充足が可能であると判断している。なお、関西大学及び大阪工業大学については学科単位での入学者数等を公表していないが、学部単位でみると関西大学化学生命工学部が平均入学定員超過率 1.03 倍、環境都市工学部は 1.00 倍、大阪工業大学工学部は 1.04 倍と入学定員を超過していることが確認できた。以上の競合校の志願動向を踏まえ、本学部においても他大学同様に定員充足は可能であると見込んでいる。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

競合校として想定している大学は令和 5 年度現在、すべて収容定員を充足しているため記載を省略する。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

学部等を新設する際、本学では大学の経営に係る財務的な視点と学生への還元等、受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設･設備の充実を考慮するとともに、競合先となる近隣他大学の類似学部学科の状況を勘案したうえで、学生募集においても競争力を持った額となるよう学生納付金を設定している。本学部の初年度納入金は、以下のとおりである。

入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納入金
200,000 円	1,100,000 円	300,000 円	14,700 円	1,614,700 円

先述の分析のとおり、競合校よりも低めに抑えられていることから、学生の経済的な負担の軽減を最優先に考慮して設定した額であると言える。また、文部科学省「私立大学等の令和 5 年度入学者に係る学生納付金等調査」によると入学初年度年間納付金平均額（対象校 600 校）は理科系のうち理・工系で「1,551,040 円」であり、全国的にみても平均的な金額設定であると言える。

【想定競合校の学納金※令和 6 年度入学生対象】（単位：円）

近隣の競合する大学・学部	入学金	授業料	教育充実費等	実習費	諸会費等	初年度納入金
関西大学化学生命工学部生命・生物工学科	260,000	1,493,000			27,000	1,780,000
関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科	260,000	1,493,000			27,000	1,780,000
関西学院大学生命環境学部生物科学科	200,000	1,162,000	266,000	99,000	24,000	1,751,000
近畿大学農学部応用生命化学科	250,000	1,442,000			24,500	1,716,500
大阪工業大学工学部環境工学科	250,000	1,290,000	100,000		15,700	1,655,700
甲南大学理工学部生物学科	250,000	1,321,000			32,500	1,603,500

各大学 WEB サイト及び河合塾の大学入試情報サイト Kei-Net （URL:https://search.keinet.ne.jp/search/option/）にて調査。

③先行事例分析

本学部の設置は、既設組織を廃止して行うものではないが、設置を検討するにあたって武蔵野大学工学部サステナビリティ学科（東京都江東区）の改組事例を参考とした。

武蔵野大学では工学部環境システム学科（入学定員：70 人、学位の分野：工学関係）の学生募集を停止して改組し、令和 5 年 4 月に工学部サステナビリティ学科（入学定員：70 人、学位の分野：工学関係・社会学・社会福祉学関係）を設置した。

サステナビリティという人類最大の課題を克服するためには、環境エンジニアリングの知識とスキルを有し、社会において具体的な変化を起こすことができる人材を育成することを目的としており、本学部と設置趣旨を同じくするものである。武蔵野大学ホームページによると、初年度納入金は環境システム学科の 1,405,000 円から 1,475,000 円へと引上げが行われたものの令和 5 年度の入学定員超過率は 1.14 倍（入学定員 70 人に対して入学者数 80 人）と、開設初年度から学生募集は順調な滑り出しを見せている。ただし、女子学生比率が 34%から 31%へと微減している。開設初年度の状況でありその傾向が今後も続くかどうかは注視が必要であるが、取得資格において工学部環境システム学科では取得可能であった中学校・高等教育教諭一種免許状（理科）がサステナビリティ学科では取得資格から外れたことの影響も考えられる。このような先行事例を参考に、女子大学である本学部においては、中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）や博物館学芸員などの資格取得を可能と

し、女子学生の獲得を目指したい。

④学生確保に関するアンケート調査

本学部の設置を検討するにあたり、学生募集におけるニーズを客観的に捉えるため、学外の第三者機関に依頼し高校生アンケート調査を実施した。その概要は以下のとおりである。（資料１１）

目　的	武庫川女子大学が令和 7 年 4 月に設置を構想している環境共生学部環境共生学科（仮称）及び定員増を予定している生活環境学部生活環境学科について、学生確保の見通しを測ることを目的とする。
対　象	令和 7 年 3 月に高校卒業予定である高校 2 年生女子生徒。 武庫川女子大学既設学部に志願実績があり学生確保の基盤とする兵庫県・大阪府を中心に、志願者が見込まれる高校から協力を得た。54 校に調査依頼し、50 校から回答があった。（資料１２）
時　期	令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。（紙方式・web 方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
調査内容	選択肢式の全 9 問。（資料１３） 回答者の基本情報（居住地、性別、希望進路、興味のある学問分野）、武庫川女子大学が設置構想中の環境共生学部環境共生学科（仮称）及び定員増を構想中の生活環境学部生活環境学科への受験・入学意向等。
回収件数	50 校 5,955 人（男子生徒からの回答 1,680 人分は除外済）
調査委託会社	株式会社高等教育総合研究所

調査にあたっては、学部の目的、特色、養成する人材像、想定される進路、入学定員、初年度納付金、競合校、交通アクセス等を明示したリーフレットを配付した（資料１４）。なお、生活環境学部との複数選択を不可としているため、回答者の重複はない。

【結果概要】

全体の 7.1%にあたる 425 人が本学部に興味があると回答。そのうち、144 人が受験意向を示し（第一志望受験 25 人、第二志望受験 23 人、第 3 志望以降受験 96 人）、**入学意向者は 131 人（入学したい 35 人、上位志望校が不合格の場合入学 96 人）で、入学定員 120 人を上回る入学意向者の存在が確認できた。**

【クロス集計結果①】

「卒業後の進路：大学」「大学の設置者：私立」「興味ある分野：環境学、工学その他、生物、理学その他」でクロス集計した。243 人が本学部に興味があると回答。そのうち、98 人

が受験意向を示し（第一志望受験 16 人、第二志望受験 19 人、第三志望以降受験 63 人）、入学意向者は 91 人（入学したい 24 人、上位志望校が不合格の場合入学したい 67 人）であった。

【クロス集計結果②】

さらに確実な入学意向者数を確認するため、興味ある分野を「環境学」に限定し、「卒業後の進路：大学」「大学の設置者：私立」でクロス集計したところ、140 人が環境共生学部に興味があると回答。そのうち、62 人が受験意向を示し（第一志望受験 14 人、第二志望受験 13 人、第三志望以降受験 35 人）し、入学意向者は 59 人（入学したい 19 人、上位志望校が不合格の場合入学したい 40 人）であった。

以上のアンケート結果を分析し、入学見込み者数を算出した。

＜分析①：人口規模に基づく入学見込み者推計＞

本アンケートが抽出調査であることを踏まえ、全体の入学意向者数を算出する。

令和 5 年度学校基本調査によると、本学入学者の約 8 割を占める兵庫県及び大阪府の高校 2 年生女子生徒の総数は、兵庫県で 20,389 人、大阪府で 33,172 人である。一方で、立地や学力等の理由から、兵庫県・大阪の高校 2 年生女子全員が入学意向者となり得るとは想定しづらいため、本学への進学が見込まれる高校数の割合として、兵庫県及び大阪府の設置高校数のうち令和 5 年度入試において本学への進学実績があった高校数の割合を乗じることで、真に本学への入学意向者となり得る者の数を算出する。令和 5 年度入試において本学への進学実績のある高校数は、兵庫県で 205 校中 137 校、大阪府で 254 校中 169 校であることから、本学への進学が見込まれる高校数の割合は、兵庫県で 66.829%（137÷205）、大阪府で 66.535%（169÷254）となる。したがって、真に本学への入学意向者となり得る者の数は、兵庫県で 13,625 人（20,389×66.829%）、大阪府で 22,070 人（33,172×66.535%）となり、合わせて 35,695 人と見込むことができる。以上を踏まえ、アンケート有効回答者のうち入学希望者である者の割合（入学希望割合）を算出し、全体の入学意向者数を見込む。

「問 3 卒業後の進路：大学」「問 4 大学の設置者：私立」「問 5 興味ある分野：環境学」と回答した者のうち、「問 7 受験意向：第一志望(14)」と回答した者については、「問 8 入学意向：入学したい(12)、志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する(2)」の合計 14 人を、「問 7 受験意向：第二志望(13)、第三志望(35)」と回答した者については、「問 8 入学意向：入学したい(4、3)、志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する(9、29)」の合計 45 人に、既存工学関係 4 学科の令和 5 年度入試の平均歩留率 0.57 を乗じて得た 25 人をそれぞれ入学意向者とし、合わせて 39 人の入学意向者数を見込む。アンケート有効回答者数は 5,955 人であることから、入学希望割合は 0.655%（39÷5,955）と算出できる。

抽出調査により求めた入学希望割合 0.655%を、全体の入学意向者となり得る者である 35,695 人に乗じることで、**全体の入学意向者は 233 人となり、入学定員 120 人の約 1.9 倍を**

上回る結果となる。

これらの分析結果から、本学部の入学定員は妥当な規模であると考えられる。

【分析②：既設同分野学部の志願動向に基づく入学見込み者推計】

令和 5 年度入試における既設工学関係 4 学科の 1 学科当たりの実受験者数平均は 377 人（生活環境学科 557 人、建築学科 227 人、景観建築学科 113 人、社会情報学科 610 人）であったことを鑑みると、実際の志願者・入学意向者数は本調査結果の 2.5 倍以上となることが予想され、また、既存工学関係 4 学科の令和 5 年度入試の平均歩留り率 0.57（生活環境学科 0.63、建築学科 0.50、景観建築学科 0.63、社会情報学科 0.53）を考慮しても 120 人の入学定員は十分充足できると見込んでいる。（別紙２）

【分析③：過年度アンケート調査との比較】

本学では令和 2 年度に建築学部建築学科及び景観建築学科、食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科、令和 5 年度に社会情報学部社会情報学科を設置した。その際にも今回と同様の手法で高校生 2 年女子生徒対象の進学意向アンケート調査を実施したが、回答者数中の当該学科への入学意向者数の割合は、建築学科が 1.94%、景観建築学科は 1.25%、食物栄養学科が 5.63%、食創造科学科が 2.01%、社会情報学科が 3.02%であった。工学関係の建築学部建築学科及び景観建築学科と社会情報学部社会情報学科は開設初年度入学定員超過率が 1.00 倍から 1.24 倍と、十分な数の入学生を確保できた。

今回の調査では本学部の入学意向者数の割合は全回答者中 2.20%であったことから、過去の工学分野の学部等設置時の調査結果と比較して同等又は上回る割合であり、十分に定員充足が可能な高校生の反応があったと判断している（資料１５）。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学部の卒業生のニーズを客観的に捉えるため、就職が想定される業種の事業所を対象に人材需要の見通し調査を第三者機関に依頼し、アンケートによる調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである（資料１６）。

目　的	武庫川女子大学が令和 7 年 4 月に設置を構想している環境共生学部環境共生学科（仮称）及び定員増を予定している生活環境学部生活環境学科について、卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
対　象	環境共生学部環境共生学科（仮称）及び定員増を予定している生活環境学部生活環境学科の卒業後に就職先として想定され、本学卒業生の就職実績のある近畿圏・首都圏に拠点を置く全国の企業・団体 1,975 社に調査を依頼した。

時　期	令和 5 年 11 月～令和 5 年 12 月
方　法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施(紙方式・web 方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼)
調査内容	主に選択肢式の全１０問。※一部自由記述あり（資料１７） 回答元の基本情報（所在地、種別、勤務人数等)、武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科（仮称）及び生活環境学部生活環境学科の卒業生に対する採用意向等。
回収件数	有効回答数 416 件(回収率 21.1%)
調査委託会社	株式会社高等教育総合研究所

・社会的必要性

学部の目的、特色、養成する人材像等を明示し本学部の社会的必要性をたずねたところ、416 社中 24.8%にあたる 103 社が「ニーズは極めて高い」、56.3%にあたる 234 社が「ニーズはある程度高い」と回答しており、8 割以上の企業・団体が本学部の養成する人材の社会的ニーズを認めていることがわかった。

・採用意向

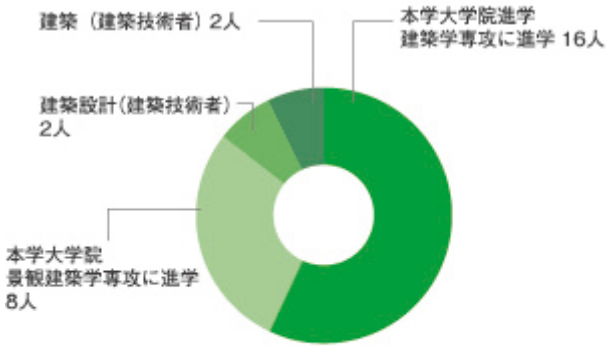
本学部卒業生に対する採用意向については、223 社が卒業生を「採用したいと思う」と回答した。さらにそれらの企業・団体に対し、本学部卒業生の単年度の採用人数を聞いたところ、合計 507 人の採用意向が確認でき、本学部の定員 120 人を 4 倍以上も上回る結果となっている。「（２）人材需要の社会的な動向等」で紹介した経団連調査（博士人材と女性理工系人材の育成・活躍に関するアンケート）の結果と同じく、企業・団体からの人材需要は高く、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考える。

＜既存組織の就職実績＞

工学関係の学位の分野を持つ既設学部・学科のうち、令和２年度設置の建築学部及び令和５年度設置の社会情報学部は学年進行中のため、卒業生が輩出していないが、建築学部の基礎となった生活環境学部建築学科及び社会情報学部の基礎となった生活環境学部情報メディア学科（いずれも募集停止中）及び生活環境学部生活環境学科の令和 4 年度卒業生の就職状況は次のとおり。

・生活環境学部建築学科

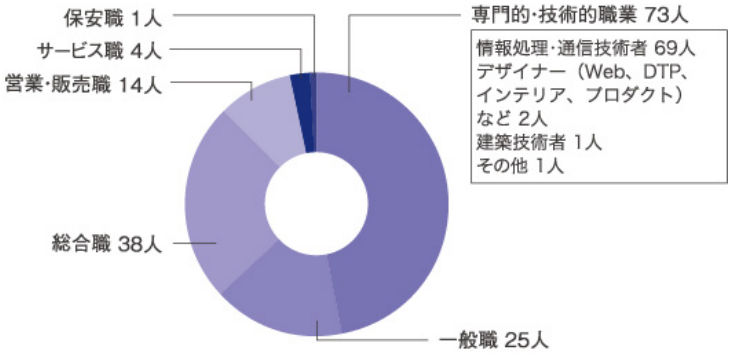
卒業者数 30 人、就職希望者数 4 人、就職者 4 人、大学院進学 24 人



就職率+進学率
100.0% ＝ 28人（就職4人+進学24人） / 28人（就職希望者4人+進学希望者24人）

・生活環境学部情報メディア学科

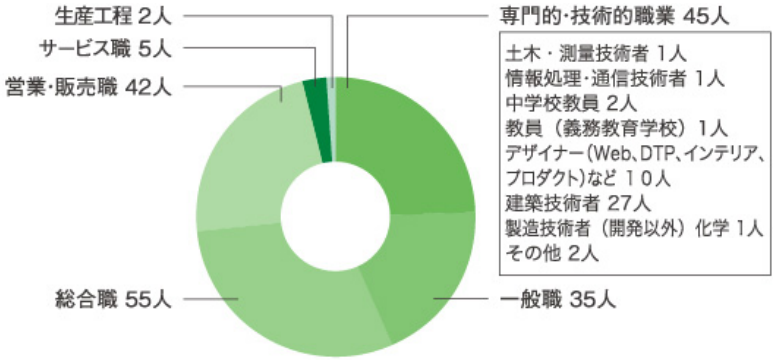
卒業者数 162 人、就職希望者数 156 人、就職者 155 人、大学院進学 1 人



就職率 99.4% ＝ 155人（就職者数） / 156人（就職希望者数）

・生活環境学部生活環境学科

卒業者数 196 人、就職希望者数 186 人、就職者 184 人、大学院進学 5 人



就職率 98.9% ＝ 184人（就職者数） / 186人（就職希望者数）

建築学科の就職率（就職者／就職希望者）は 100%、情報メディア学科は 99.4%、生活環境学科は 98.9%であり、本学の既存の工学関係学科の就職状況は良好であることから本学部についても卒業後の進路においては十分な見通しがあると考える。

（４）新設組織の定員設定の理由

（１）～（３）の分析を踏まえて、次の理由から新設の環境共生学部の入学定員は 120 人に設定した。

理由①成長分野に関連する学部である
（（２）人材需要の社会的な動向等①、（３）学生確保の見通し⑤）

工学関係の学位の分野を有し、今後、産業の成長が見込まれる分野であり、当該分野の学部は社会的な需要が高い。

理由②18 歳人口と女子の大学進学率（（２）人材需要の社会的な動向等②③）

18 歳人口は今後、減少するものの女子の大学進学者数は上昇を続けている。特に本学入学者の約 8 割を占める兵庫県及び大阪府では、女子の大学進学者数は現在よりも増加する。

理由③既設組織の状況（（２）人材需要の社会的な動向等④）

近接する工学関係の既存組織が定員を充足している。

理由④学生確保の見通し（（３）学生確保の見通し④）

近隣の競合他大学の定員充足状況やキャンパス立地、学納金など他大学との優位性、そして受験対象者へのアンケート結果を踏まえると、定員充足を見込める。

理由⑤教育課程や実習、インターンシップの実施体制（（１）新設組織の概要②）

本学部において展開する教育課程とキャパシティ（校地校舎、教員組織）を鑑みると、教育効果を発揮でき、かつ実施可能な最大限の定員設定である。

以上の理由を総合的に勘案し、本学部の定員充足は可能であると判断している。

学生の確保の見通し等を記載した書類

― 資料目次 ―

○添付データ

【別紙　１】新設組織が置かれる都道府県への入学状況　・・・P. 2
【別紙　２】既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近５年間）　・・・P. 3
【別紙　３】募集のための PR 活動の過去の実績　・・・P.22

○添付資料

【資料　１】脱炭素による雇用創出・喪失効果（経済産業省「第２ 回 未来人材会議」配付資料より抜粋）　・・・P.23
【資料　２】教育未来創造会議第一次提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」（抜粋）　・・・P.24
【資料　３】日本経済団体連合会「博士人材と女性理工系人材の育成・活躍に関するアンケート結果」（抜粋）　・・・P.25
【資料　４】リクルート進学総研マーケットリポート vol.106　・・・P.26
【資料　５】リクルート進学総研マーケットリポート vol.114　・・・P.27
【資料　６】兵庫県・大阪府の女子の大学進学率・進学者数推計　・・・P.28
【資料　７】教育連携校一覧　・・・P.30
【資料　８】環境共生学部開設に向けた広報・PR 戦略　・・・P.31
【資料　９】環境共生学部競合校との比較表　・・・P.32
【資料１０】環境共生学部競合校の入学志願動向　・・・P.33
【資料１１】高校生アンケート調査報告書　・・・P.34
【資料１２】調査対象高校一覧及び選定理由　・・・P.51
【資料１３】高校生アンケート調査用紙　・・・P.53
【資料１４】環境共生学部概要リーフレット　・・・P.55
【資料１５】受験生対象入学意向アンケート調査 過去の結果と開設初年度の定員充足状況　・・・P.58
【資料１６】人材需要アンケート調査報告書　・・・P.59
【資料１７】人材需要アンケート調査用紙　・・・P.78

以下の別紙資料については掲載を省略します。

【別紙　1】新設組織が置かれる都道府県への入学状況

【別紙　2】既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近５年間）

【別紙　3】募集のための PR 活動の過去の実績

1 （書類等の題名）

脱炭素による雇用創出・喪失効果　（【資料１】本文３ページ）

2 （出典）

経済産業省

3 （引用範囲）

「第２回 未来人材会議」配付資料より抜粋（69 ページ）

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/mirai_jinzai/pdf/002_03_00.pdf

1（書類等の題名）

教育未来創造会議第一次提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」（【資料２】本文４ページ）

2（出典）

内閣官房教育未来創造会議担当室

3（引用範囲）

教育未来創造会議第一次提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」より抜粋（６ページ）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html

1（書類等の題名）

日本経済団体連合会「博士人材と女性理工系人材の育成・活躍に関するアンケート結果」（【資料３】本文４ページ）

2（出典）

一般社団法人　日本経済団体連合会

3（引用範囲）

「博士人材と女性理工系人材の育成・活躍に関するアンケート結果」抜粋（2～3 ページ、27～33 ページ）

https://www keidanren or jp/policy/2024/015 html

1（書類等の題名）

リクルート進学総研マーケットリポート vol.106（【資料４】本文４ページ）

2（出典）

リクルート進学総研

3（引用範囲）

18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向（１～８ページ）
https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf

1（書類等の題名）

リクルート進学総研マーケットリポート vol.114（【資料５】本文４ページ）

2（出典）

リクルート進学総研

3（引用範囲）

18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向　近畿版（１～２ページ、４ページ）

https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2022_souken_report/2022_kinki_souken_report.pdf

兵庫県 大学進学率・進学者数（女子）　推計方法別の推計結果一覧

	１８歳人口	進学率①	進学者数①	進学率②	進学者数②	進学率③	進学者数③	備考
2018年	26,309	0.550	14,474	0.550	14,474	0.550	14,474	
2019年	25,954	0.555	14,392	0.555	14,392	0.555	14,392	
2020年	25,435	0.558	14,201	0.558	14,201	0.558	14,201	
2021年	24,823	0.568	14,098	0.568	14,098	0.568	14,098	
2022年	24,269	0.587	14,239	0.587	14,239	0.587	14,239	
2023年	24,103	0.587	14,148	0.596	14,365	0.596	14,365	
2024年	22,981	0.587	13,490	0.606	13,926	0.606	13,926	
2025年	23,614	0.587	13,861	0.616	14,546	0.616	14,546	開設年度
2026年	23,502	0.587	13,796	0.626	14,712	0.626	14,712	
2027年	23,818	0.587	13,981	0.636	15,148	0.636	15,148	
2028年	23,104	0.587	13,562	0.646	14,925	0.646	14,925	完成年度
2029年	23,554	0.587	13,826	0.656	15,451	0.656	15,451	
2030年	23,425	0.587	13,750	0.659	15,437	0.666	15,601	
2031年	22,739	0.587	13,348	0.659	14,985	0.677	15,394	
2032年	22,536	0.587	13,229	0.659	14,851	0.688	15,505	
2033年	21,913	0.587	12,863	0.659	14,441	0.699	15,317	
2034年	21,714	0.587	12,746	0.659	14,310	0.710	15,417	開設から10年後

2034-2025	**-1,900**	**0.000**	**-1,115**	**0.043**	**-237**	**0.094**	**871**	開設10年間の差
2034/2025	**92.0%**	**100.0%**	**92.0%**	**107.0%**	**98.4%**	**115.3%**	**106.0%**	開設10年間の変動率

18歳人口の推計方法

■2023年～2034年　→　学校基本調査より、各都道府県の以下のデータを拾い上げる。

2023年：2020年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R2学校基本調査）

2024年：2021年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R3学校基本調査）

2025年：2022年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R4学校基本調査）

2026年：2022年の中学校及び中等教育学校前期課程の３年生並びに義務教育学校の９年生の数（R4学校基本調査）

2027年：2022年の中学校及び中等教育学校前期課程の２年生並びに義務教育学校の８年生の数（R4学校基本調査）

…

2034年：2022年の小学校及び義務教育学校の１年生の数（R4学校基本調査）

■（参考）2035年～　→　社人研の将来推計人口を基に推計。

手順①：「R5社人研推計」より、各年の「18歳人口・全国計」を拾い上げる。

具体的には、『表1-9(1) 男女年齢各歳別人口(総人口):出生中位(死亡中位)推計』より、年齢が18である者の数を拾い上げる。

手順②：都道府県比率を求める。

ただし、都道府県ごとのデータは、「R5社人研推計」にはなく、「H30社人研推計」を用いることになる。

また、推計対象年が「５年ごと」であり、年齢も「５歳刻み」の区分のみしかないため、具体的には以下のとおり。

2035～2039年：「2035年・○○県・15～19歳」の数／「2035年・全国・15～19歳」の数

2040～2044年：「2040年・○○県・15～19歳」の数／「2040年・全国・15～19歳」の数

2045年～：「2045年・○○県・15～19歳」の数／「2045年・全国・15～19歳」の数

2023年度以降の進学率・進学者数の推計方法

シナリオ①：2022年度の進学率を据え置く

シナリオ②：文科省方式の準用

（2018-2022の各年の進学率に係る対前年度伸び率の平均値（単純）のまま、将来も伸び続けると想定。

ただし、男子は、2022年度の進学率＋５ポイントを上限とし、女子は、男子の推計値を上限とする。）

シナリオ③：②から、上限の設定を除く

（2018-2022の各年の進学率に係る対前年度伸び率の平均値（単純）のまま、将来も伸び続けると想定。）

大阪府　大学進学率･進学者数（女子）　推計方法別の推計結果一覧

	１８歳人口	進学率①	進学者数①	進学率②	進学者数②	進学率③	進学者数③	備考
2018年	41,006	0.519	21,278	0.519	21,278	0.519	21,278	
2019年	40,604	0.534	21,680	0.534	21,680	0.534	21,680	
2020年	39,590	0.542	21,441	0.542	21,441	0.542	21,441	
2021年	38,606	0.552	21,294	0.552	21,294	0.552	21,294	
2022年	37,866	0.577	21,830	0.577	21,830	0.577	21,830	
2023年	37,108	0.577	21,411	0.593	22,005	0.592	21,989	
2024年	35,489	0.577	20,477	0.609	21,613	0.608	21,598	
2025年	36,669	0.577	21,158	0.625	22,918	0.625	22,919	開設年度
2026年	36,520	0.577	21,072	0.642	23,446	0.641	23,442	
2027年	36,068	0.577	20,811	0.659	23,769	0.659	23,777	
2028年	35,694	0.577	20,595	0.677	24,165	0.677	24,165	完成年度
2029年	35,468	0.577	20,465	0.695	24,650	0.695	24,661	
2030年	35,112	0.577	20,260	0.703	24,684	0.714	25,072	
2031年	34,454	0.577	19,880	0.703	24,221	0.733	25,267	
2032年	33,710	0.577	19,451	0.703	23,698	0.753	25,389	
2033年	33,620	0.577	19,399	0.703	23,635	0.773	26,004	
2034年	33,679	0.577	19,433	0.703	23,676	0.794	26,753	開設から10年後

2034-2025	**-2,990**	**0.000**	**-1,725**	**0.078**	**758**	**0.169**	**3,835**	開設10年間の差
2034/2025	**91.8%**	**100.0%**	**91.8%**	**112.5%**	**103.3%**	**127.0%**	**116.7%**	開設10年間の変動率

18歳人口の推計方法

■2023年～2034年　→　学校基本調査より、各都道府県の以下のデータを拾い上げる。

2023年：2020年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R2学校基本調査）

2024年：2021年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R3学校基本調査）

2025年：2022年の中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数（R4学校基本調査）

2026年：2022年の中学校及び中等教育学校前期課程の３年生並びに義務教育学校の９年生の数（R4学校基本調査）

2027年：2022年の中学校及び中等教育学校前期課程の２年生並びに義務教育学校の８年生の数（R4学校基本調査）

…

2034年：2022年の小学校及び義務教育学校の１年生の数（R4学校基本調査）

■（参考）2035年～　→　社人研の将来推計人口を基に推計。

手順①：「R5社人研推計」より、各年の「18歳人口・全国計」を拾い上げる。

具体的には、『表1-9(1) 男女年齢各歳別人口(総人口):出生中位(死亡中位)推計』より、年齢が18である者の数を拾い上げる。

手順②：都道府県比率を求める。

ただし、都道府県ごとのデータは、「R5社人研推計」にはなく、「H30社人研推計」を用いることになる。

また、推計対象年が「５年ごと」であり、年齢も「５歳刻み」の区分のみしかないため、具体的には以下のとおり。

2035～2039年：「2035年・○○県・15～19歳」の数／「2035年・全国・15～19歳」の数

2040～2044年：「2040年・○○県・15～19歳」の数／「2040年・全国・15～19歳」の数

2045年～：「2045年・○○県・15～19歳」の数／「2045年・全国・15～19歳」の数

2023年度以降の進学率・進学者数の推計方法

シナリオ①：2022年度の進学率を据え置く

シナリオ②：文科省方式の準用

（2018-2022の各年の進学率に係る対前年度伸び率の平均値（単純）のまま、将来も伸び続けると想定。

ただし、男子は、2022年度の進学率＋５ポイントを上限とし、女子は、男子の推計値を上限とする。）

シナリオ③：②から、上限の設定を除く

（2018-2022の各年の進学率に係る対前年度伸び率の平均値（単純）のまま、将来も伸び続けると想定。）

教育活動に関する連携協定校一覧（令和5年度現在）

No.	所在地	学校名	締結年月
1	奈良県	育英西中学校・高等学校	令和4年4月
2	岡山県	就実中学校・高等学校	令和4年7月
3	香川県	英明高等学校	令和5年4月
4	和歌山県	和歌山信愛中学校・高等学校	令和5年4月
5	奈良県	奈良育英中学校・高等学校	令和5年4月
6	石川県	北陸学院高等学校	令和5年6月
7	沖縄県	興南高等学校	令和5年6月
8	沖縄県	沖縄尚学高等学校	令和5年6月
9	石川県	星稜高等学校	令和5年7月

環境共生学部開設に向けた広報・PR計画

設置構想中							開設							
2023年	2024年											2025年		
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	認知獲得					興味最大化				出願促進					
PR用キービジュアル＆ キャッチコピー完成	MUKOJO　ACTION 動画情報更新(1/22) ・HPトップに掲出	中央公論（2月9日発行） 表３に広告掲出	リーフレット完成 リーフレットDM発送(3月12日)	駅貼りポスター ・兵庫県内（JR・阪急・阪神） ・大阪府内（環状線7駅・京都線8駅）	地方テレビ局 10局で生CM	日経ＭＪＯＫ 「大学選びに迷ったら読む本」 記事出稿 全国の高校に配布	記者会見 開設記念シンポジウム開催 読売新聞に全15段採録掲載	朝日新聞　高校野球別刷り紙面（全5段） 甲子園球場で配布分	YouTube広告	ダイレクトリーチ WebDM	ダイレクトリーチ WebDM	ダイレクトリーチ 広域DM			
MUKOJO　ACTION 新ビジュアルに更新 ・HPバナー掲出 ・HPニュース掲載	毎日新聞元旦紙面(1月1日) 全国版全５段広告	日経新聞(2月19日) 全国版全15段広告	PR動画完成・公開(3/22)		阪神甲子園駅ホーム看板 意匠変更	神戸新聞「共座の大学へ行こう」 全15段記事広告	バーチャル高校野球にCM 朝日放送　女子高校野球		毎日新聞 「大学受験NOW」秋号 駿台模試会場配布(５万部)	神戸新聞 公募制推薦入試告知	日経新聞 トップメッセージ	神戸新聞 一般入試告知	神戸新聞 共通テスト解答下広告	
		朝リビエール発行(2/19) 資料請求者に発送	研究者動画完成（3月末）	テレビCM(地方10局) 4月1日～10日										
			YouTube広告（MUKOJO ACTION）	神戸まつり（4月21日） うちわ1000本配布	Tver広告 オープンキャンパス情報追加		日経STEAMシンポジウム 新学部ブース設置		ユニプレスに特集記事 冊子：2万部発行 2800高校に配布					
	毎日新聞地方版（1月12日） 近畿中四国14府県 全15段モノクロ		WebDM発信（3月29日）		Tver広告 オープンキャンパス情報追加									
		特設サイト完成・公開		阪急梅田駅自動通路前 看板掲出	進研アド 併願促進DM(5月21日～配信) 高校3年生4月模試組単日				毎日新聞 「大学受験NOW」秋号 駿台模試会場配布 新聞掲載 817,884部（近畿地方、中四国、北陸、三重県）	文化祭でチラシ配布 タイアップイベント 学生課＆広報室					
	プレスリリース発信 1月15日新学部開設予定	阪神梅田駅メガテンサイネージ 30秒CMを6分に1回放送 （2月19日～3月3日）	朝日新聞全国版（3月4日） 全15段広告			旺文社「大学の真の実力」 表２に全面広告								
			大学通信 「君はどの大学を選ぶべきか」 環境共生表２全面広告掲載 全国327高校送付	関急百貨店前グランドVision 朝日動画放送(4月15日～21日) ACTION＆アニメーション	キャンパスガイド発行	毎日新聞別刷り 「大学受験NOW」夏号 駿台模試会場配布 （関西エリア43,500部）								
		阪神梅田駅メガテンサイネージ 30秒CMを終日放送 （3月11日～17日）				毎日新聞本紙掲載 817,884部（近畿地方、中四国、北陸、三重県）								
		チラシ作成 3月23日オープンキャンパス 説求	大学通信 ファックス送信(3月12日～) 全国高校3800校に送信	パネル作成（学内に掲出）										
			毎日新聞全国版（3月8日） 全5段広告掲載（国際女性デー）											
		毎日新聞地方版（随時） 全5段、全15段広告		YouTube広告 （オリジナルアニメ）										
		YouTube広告 （MUKOJO ACTION）	毎日新聞地方版（3月8日） 近畿中四国14府県 全15段広告掲載（国際女性デー）											
			阪神電車内ポスター											
			サンデー毎日（3月発行） 東大京大号に表3広告											
			「買っ子」３・４月号 全面広告掲載											
			鳴尾駅看板2面意匠変更											
			近鉄奈良駅看板2面意匠変更											
			朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求	朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求	朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求	朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求	朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求	朝日新聞天声人語横 環境共生学部中心に訴求						
受験情報誌・Webに新学部情報掲載														
JS「進路徹底研究」 宅配：近畿67,9000部	スタディサプリforSCHOOL Web	Keiアドバンス スタートダッシュ号 宅配：1万5000部	マナビジョン（進研アド） 基本パッケージ フリー広告	スタディプラス 基本情報（アプリ内） アクティブユーザー 34万人	マイナビ パンフ取り寄せ号（表２） 冊子：3万部										
JS 奨学金ガイドブック 冊子：1万部		Kei-Net(web) 「進路の大学」	大学発見ナビ(進研アド) 冊子：7000部		マイナビ進学ガイド 学校情報号 冊子：関西５万部　＋Web										
JS 新学部情報掲載			マナビジョンＢＯＯＫ(進研アド) 冊子：4万部	進学辞典forSCHOOL	マイナビＳＯＬＵＴＩＯＮ 冊子：6万部発行										
大学通信ランキングブック 冊子：全国20万部			マイナビ進学（web）												
			JS パンフ請書類（Web） JS 大学マップ 冊子：西日本6万部	パスナビ（Web）											
			JS「日本の学校」（Web）												
			スタディサプリ進路（Web）	キャリタス進学（web）											
			Keiアドバンス 受験スタート特集号（冊子） 宅配：1万5000部												
スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー	スタディプラス　バナー						

環境共生学部競合校分析

学部・学科	①教育内容	②入試方式	③学納金・奨学金		④取得資格	⑤就職支援	⑥立地
			学納金	給付型奨学金			
武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科	複雑な事象からなる地球環境・自然環境に関わる諸課題に対して、独自に問題点や課題を見つけ出し、システム改善や技術開発の実施とする。幅広い視野・発表・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用し、それら諸課題を解決する計画立案力・実践力を備えた人材を養成する。	総合型選抜（MUKOJO未来教育総合型選抜） 公募制推薦前期 公募制推薦後期 指定校推薦 附属高校推薦 一般選抜前期 一般選抜後期 大学入学共通テスト利用型前期 大学入学共通テスト利用型後期	初年度納付金：1,614,700円	新1年生対象自宅外通学応援奨学：年額20万円 卒業学年対象貸与奨学金返還支援：年額上限30万円 武庫川学院奨学：次授業料の40％相当額・定年額20万円 武庫川学院創立80周年記念特別奨学：年額20万円 武庫川学院甲松会奨学：年額20万円 武庫川学院女性活躍給付金：上限30万円・奨学金20万円 武庫川学院オリンピック・パラリンピック選手育成支援　奨学金・褒賞金：支援金一律15万円・褒賞金30万円（五輪出場時）	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科） 学芸員 危険物取扱者[甲種]受験資格 自然再生士補	担当部署：キャリアセンター 特色ある取組み：小人数制のキャリアスポット講座、「わたしプロデュース！」キャリアプラン講座・セミナーの実施。武甲子園キャンパスの学生向けに就職専門スタッフを配置。 サテライトキャンパス：あり（東京）	武甲子園キャンパス（兵庫県西宮市） 大阪駅から約30分
関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科	本学科では、ＤＮＡやタンパク質の構造・機能を理解し、それらの相互作用に基づく高次の生命現象について学び、食品・医薬品開発や基礎研究、植物の育種などへ幅広く応用できる能力を身につけます。また、研究者・技術者に求められる高い倫理観を養うため、生命倫理に関する科目も配当し、多方面で活躍できる人材を育成します。チャレンジできる研究テーマのもとは、先端医療、遺伝子工学、地球環境保全、地球温暖化防止、食品安全などに直接または強く関連しています。	全学Ⅰ３教科型総問２ 全学Ⅱ３教科型総問 全学Ⅲ３教科型理科１ 全学Ⅲ３教科型理数重 共テ　前期４科目型 共テ　前期４科目数学理科型 共テ　併用５科目型数学力 共テ　併用４科目型数学力 共テ　併用４科目型数学理科 共テ　併用５科目型総合力 共テ　後期 公募制推薦 ＡＯＳＤＧｓ型 ＡＯ活動実績評価 ＳＦ９月募集	初年度納付金：1,780,000円	関西大学新入生給付奨学金：年額450,000円 関西大学学部給付奨学金：年額450,000円 姫田奨励金：年額500,000円 教師志兼育ちの寄付金による奨学金：年額240,000円 関西大学文化・学術活動等奨励金：年額200,000円を上限 国際交流助成基金交換派遣奨学奨学金：1学期間250,000円・2学期間500,000円 国際交流助成基金短期派遣奨学金：10,000円～120,000円 赤井・堀場・久井・野田奨学基金給付奨学金：年額240,000円 関西大学校友会学部給付奨学金：年額240,000円 転費外国人留学生入学者予約奨学金：入学年度、学部により異なる 転費外国人留学生奨学金：入学年度、学部により異なる スポーツ振興奨学・奨励金：年額上限300,000円 認定留学生に対する学費減免制度：授業料を全額減免 認定留学特別援助金：日本学生支援機構による修学支援新制度の授業料減免最上同等額	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科） 司書 司書教諭 学芸員 健康食品管理士受験資格 危険物取扱者[甲種]受験資格 中検・上級バイオ技術者受験資格 食品衛生管理者・監視員		
関西大学 環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科	やがて石油の供給不足が現実になるといわれ、地球環境の悪化も進行しています。これらの環境破壊を食い止め人類の持続的発展を推持するためには、今とは異なる新しいエネルギー体系を構築することが求められています。深刻化する地球温暖化問題に対しては、二酸化炭素の排出を最小化して、低炭素社会を構築する必要があります。そのためには省エネルギーの推進と既存エネルギーの変換効率の飛躍的向上に加えて、太陽光、風力、バイオマス、廃棄物や水素などの新エネルギーを利用する技術開発を進めていくことが重要です。本学科では、省エネルギーや新エネルギー、環境修復、環境汚染防止など、エネルギーと環境を主眼とした科目を配置。1年次から多くの実験・演習を通し、身に付けた実践的な知識・技術を生かして環境負荷の少ない新システムを構築できる人材を育成します。	全学Ⅰ３教科型総問２ 全学Ⅱ３教科型総問 全学Ⅲ３教科型理科１ 全学Ⅲ３教科型理数重 共テ　前期 共テ　併用５科目型数学力 共テ　併用４科目型数学理科 共テ　併用５科目型総合力 共テ　後期 公募制推薦 ＡＯ活動実績評価 ＳＦ９月募集	初年度納付金：1,780,000円	同上	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（工業） 司書 司書教諭 学芸員 毒物劇物取扱責任者 甲種消防設備士受験資格 危険物取扱者[甲種]受験資格	同上	千里山キャンパス（大阪府吹田市） 大阪駅から約30分
関西学院大学 生命環境学部 生物科学科	生物科学科では、多彩な実験・演習、フィールドワークを通じた体験学習、また生命現象の情報科学的解析技術の習得などを通じて、生物の多様性と環境適応の機構を科学的に分析する能力を養います。生物機能の高度を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけます。	前期日程 全学部日程均等配点型 全学部数学理科重視型 共テ　１月５科目英語・傾定 共テ　１月７科目型 共テ　１月５科目型理科１科 共テ　１月５科目型理科２科 共テ　併用日程数学 共テ　３月４科目型 グローバル１ スポーツ 学部特色 探究評価型	初年度納付金：1,751,000円	就学奨励奨学金：【理系学部】年額470,000円 経済支援奨学金：【理系学部】年額230,000円 産学協同育英奨学金：【理系学部】年額300,000円 ユニバース支援奨学金：【理系学部】年額470,000円 中谷記念奨学金：年額150,000円 奨励奨学金：【理系学部】年額450,000円 同窓会奨学金：年額500,000円 クレセント奨学金：【理系学部】年額300,000円 刑子婦励奨学金：1年間の刑子支払相当額 特別支援奨学金（給付制）：年額学費概当額の2分の1又は40万円のうち、いずれか少ない方 後援会奨学金（給付制）：年額学費概当額の2分の1又は40万円のうち、いずれか少ない方	中学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(理科) 司書教諭 危険物取扱者[甲種]受験資格 学芸員	担当部署：キャリアセンター 特色ある取組み：理系学生のビジネスマインド醸成を目的に、学部1年生から任意のキャリア意識を醸成させる「BiZCAFE」を設置。24時間・365日質問対応できる学生向けチャットボットや進路や就職に関する学生の質問に対応。 サテライトキャンパス：あり（東京丸の内・大阪梅田）	上ヶ原キャンパス（兵庫県西宮市） 大阪駅から約45分
近畿大学 農学部 応用生命化学科	応用生命化学は、人口の増加に伴うエネルギー危機や食糧危機、健康問題など、人類が地球規模で直面する諸問題を解決する鍵として注目を集める学問です。本学科では、生物の特性を生かした、さまざまな研究を展開しています。生命、資源、食糧、環境のキーの化のもと、機能性食品の開発、微生物代謝物や未利用植物資源の活用、生活を豊かにする研究に取り組んでいます。また、最先端技術を駆使し、マツタケの人工栽培、農薬・医薬品などの、実社会に役立つモノづくりにも挑戦しています。実学志向の環境のもとで、生物を化学的視点から理解し、産業界で即戦力となる人材を育成します。	前期Ａ日程 前期Ｂ日程 共テ　前期３教科３科目型 共テ　前期４教科４科目型 共テ　前期５教科５科目型 共テ　中期 共テ　併用方式Ａ日程 共テ　併用方式Ｂ日程 共テ　後期 共テ　併用方式後期 推薦 農系専門総合推薦	初年度納付金：1,716,500円	近畿大学入学前予約採用型給付奨学金：年額300,000円 近畿大学給付奨学金：年額300,000円	中学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種・(農業) 食品衛生管理者・監視員 危険物取扱者[甲種]受験資格 学芸員	担当部署：キャリアセンター、学生支援課（農学部） 特色ある取組み：「キャリアセンター」、「ライエゾンセンター」、「学園校友部」、「社会連携推進センター」が連携した「オープンキャリア・フィールド」による就職支援体制を構築。 サテライトキャンパス：あり（東京）	奈良キャンパス（奈良県生駒市） 大阪駅から約90分
大阪工業大学 工学部 環境工学科	環境工学科では、人と自然との共生、循環型社会の構築を目指して、生活環境、地球環境、自然環境における有機的なつながりを理解し、環境の保全、修復及び資源循環をリードする人材を育成します。	前期Ａ日程 前期Ｂ日程 後期Ｄ日程 共テ　前期Ａ Ｃ日程 共テ　前期Ｂ Ｃ日程 共テ　前期Ｃ日程 共テ　後期Ｄ Ｃ日程 共テ　後期Ｄ日程 公募制推薦 女子特別推薦 資通科特別推薦 ＡＯ 専門高校特別推薦	初年度納付金：1,655,700円	特待生奨学金:半間授業料相当額 入試選抜奨学金:入学初年度の授業料の半額相当額 成績優秀奨学金・テラサキ奨学金:半間授業料の半額相当額 学園校友会奨学基金奨学金:年額20,000～30,000円 特別奨学金:年額125,000円 副島奨学金:年額35,000円 柴山奨学金:年額310,000円 外国人留学生学内奨学金:月額20,000円 外国人留学生授業料減免制度:半間授業料の20％相当額	中学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(工業) 危険物取扱者[甲種]受験資格	担当部署：キャリア支援部 特色ある取組み：各学科に就職アドバイザーを配置。学生一人あたり約10回の面談を実施。 サテライトキャンパス：なし	大宮キャンパス（大阪市旭区） 大阪駅から約30分
甲南大学 理工学部 生物学科	生物学科では、基礎となる生命への理解を、遺伝子、タンパク質から脳型、個体、生態、進化に至る幅広い領域から深めます。	前期日程３教科型一般 前期３教科型外部英語 中期日程３教科型一般 中期３教科型外部英語 共テ　前期日程一般方式 共テ　前期日程外部英語活用 共テ　併用型前期日程３教科 公募推薦数学一般 公募推薦数学外部	初年度納付金：1,603,500円	甲南学園奨学金：月額25,000円 中川路奨学金：月額25,000円 甲南大学潮川奨学金：月額30,000円 甲南大学平生奨学金：：月額20,000円 甲南大学目軸甲南高等学校奨学金：月額20,000円 甲南大学八木信二"わがもちをすすめ"奨学金：月額45,000円 甲南大学父母の会奨学金：月額40,000円 甲南大学同窓会奨学金：月額20,000円 甲南大学"わがくる土星につなぐ"甲南の星奨学金：年額420,000円 甲南大学立野純三奨学金：：年額500,000円	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科） 博物館学芸員	担当部署：キャリアセンター 特色ある取組み：、学生がもつカを評価認定する「KONAN サーティフィケイト」制度を設置。 サテライトキャンパス：あり（東京）	岡本キャンパス（神戸市東灘区） 大阪駅から約30分

環境共生学部競合校の入学志願動向

【関西大学化学生命工学部生命・生物工学科】入試データ、事業報告書より抜粋。学部合計値、空欄不明

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率	
令和5年度	347	5,465		1,996	364	1.04	学科入定105
令和4年度	347	4,944		2,069	365	1.05	
令和3年度	347	4,617		1,969	346	0.99	

一般入試、共通テスト利用入試（併用・前期・後期）、AO入試、SF入試、公募制推薦入試、外国人学部留学生入試

【関西大学環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科】入試データ、事業報告書より抜粋。学部合計値、空欄不明

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率	
令和5年度	325	4,721		1,606	310	0.95	学科入定88
令和4年度	325	4,560		2,069	354	1.08	
令和3年度	325	4,435		1,424	321	0.98	

一般入試、共通テスト利用入試（併用・前期・後期）、AO入試、SF入試、公募制推薦入試、外国人学部留学生入試

【関西学院大学生命環境学部生物科学科】大学基礎データ2022より抜粋。

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
令和5年度	61	1,073	728	426	63	1.03
令和4年度	61	1,142	702	456	62	1.01
令和3年度	61	933	480	357	66	1.08

一般入試（全学部日程、共通テスト併用日程）、共通テスト利用入試
総合型選抜（探求評価型入学試験、グローバル入学試験、学部特色入学試験、スポーツ選抜入学試験）

【近畿大学農学部応用生命化学科】

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
令和5年度	120	2,592	1,896	826	142	1.18
令和4年度	120	2,571	1,841	1,089	116	0.96
令和3年度	120	2,602	1,892	1,212	134	1.11

推薦入試、一般入試・前期（A・B）、一般入試・後期、
共通テスト利用方式（前期・中期・後期）、共通テスト併用方式（A・B・後期日程）

【大阪工業大学工学部環境工学科】事業報告書より抜粋。空欄不明

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
令和5年度	75	551	458	232		
令和4年度	75	429	388	232		
令和3年度	75	659	523	248		

学部全体

入学定員	入学者数	入学定員超過率
900	914	1.01
900	914	1.01
900	1001	1.11

公募制推薦入試、普通科高校特別推薦入試、専門高校特別推薦入試、
一般入試前期A日程、前期AC日程、前期B日程、前期BC日程、前期C日程、後期D日程、後期DC日程、後期C日程、AO入試
社会人入試、帰国生徒入試、外国人留学生入試、編入学試験（3年次編入学）

【甲南大学理工学部生物学科】入試データ、事業報告書より抜粋

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
令和5年度	45	811	753	282	59	1.31
令和4年度	45	559	552	263	47	1.04
令和3年度	45	511	505	255	59	1.31

一般選抜（前期・中期）、共通テスト併用型（前期）、共通テスト利用型（前期）
公募制推薦入学試験、外国人留学生（正規留学生）入学試験、帰国生選抜入学試験、編入学試験

武庫川女子大学

2025年度構想についての高校生アンケート調査

「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」
「生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）」
に係る高校生アンケート調査

報告書

令和6年2月

株式会社高等教育総合研究所

目　　次

１．　高校生アンケート調査　概要　3

２．　調査実施高等学校等　一覧　4

３．　高校生アンケート調査　集計結果　5

４．　高校生アンケート調査　結果の要点　8

（添付資料）

高校生アンケート調査用紙　11

「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」リーフレット　13

「生活環境学部 生活環境学科」リーフレット　16

１．高校生アンケート調査　概要

調査目的	令和7年(2025年)度に設置構想中の「武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称）」(入学定員120名)と定員増構想中の「武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科」(入学定員165名→195名)における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	調査対象:　令和7年3月に高校卒業予定である高校2年生(令和5年度) 調査地域:　武庫川女子大学既設学部に志願実績があり学生確保の基盤とする兵庫県・大阪府を中心に、「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」・「生活環境学部 生活環境学科 」においても志願者が見込まれる高校から協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報(性別、居住地) ・卒業後の希望進路 ・希望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称)・生活環境学部 生活環境学科 への興味・関心、受験・入学意向
調査時期	令和5年12月～令和6年1月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。(紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼)
回収件数	有効回答数5,955件 ※本アンケートは男性も含めた7,635名が回答したが、問6以降は、問1の「女性」回答者5,955名のみで集計した。

２．調査実施高等学校等一覧

※回答者数は女子のみ

番号	高校名	回答者数	番号	高校名	回答者数
1	星稜高等学校	264	26	兵庫県立芦屋高等学校	132
2	北陸学院高等学校	163	27	兵庫県立須磨友が丘高等学校	123
3	大阪府立北千里高等学校	73	28	兵庫県立川西緑台高等学校	22
4	大阪府立東高等学校	63	29	兵庫県立西宮高等学校	140
5	大阪府立阿倍野高等学校	18	30	兵庫県立龍野高等学校	99
6	大阪府立高槻北高等学校	59	31	兵庫県立三田祥雲館高等学校	87
7	大阪府立箕面高等学校	50	32	兵庫県立宝塚西高等学校	51
8	大阪府立桜塚高等学校	37	33	仁川学院高等学校	229
9	大阪府立清水谷高等学校	139	34	賢明学院高等学校	38
10	大阪府立花園高等学校	172	35	武庫川女子大学附属高等学校	237
11	箕面自由学園高等学校	88	36	甲南女子高等学校	21
12	上宮高等学校	19	37	親和女子高等学校	157
13	プール学院高等学校	157	38	小林聖心女子学院高等学校	73
14	宣真高等学校	272	39	奈良県立生駒高等学校	41
15	好文学園女子高等学校	146	40	奈良県立奈良北高等学校	147
16	兵庫県立小野高等学校	64	41	奈良県立橿原高等学校	125
17	兵庫県立御影高等学校	147	42	奈良県立桜井高等学校	125
18	兵庫県立星陵高等学校	352	43	奈良市立一条高等学校	126
19	兵庫県立夢野台高等学校	40	44	奈良育英高等学校	126
20	兵庫県立北須磨高等学校	122	45	育英西高等学校	76
21	兵庫県立明石城西高等学校	145	46	和歌山県立海南高等学校	96
22	兵庫県立姫路飾西高等学校	100	47	和歌山信愛高等学校	114
23	兵庫県立須磨東高等学校	118	48	就実高等学校	345
24	兵庫県立尼崎北高等学校	119	48	英明高等学校	140
25	兵庫県立鳴尾高等学校	27	50	沖縄尚学高等学校	131
総　計					5,955

３．高校生アンケート調査　集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１ あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	女性	5,955	78.0%
2	男性	1,519	19.9%
3	答えたくない	144	1.9%
	（無回答）	17	0.2%
合計		7,635	100.0%

問２以降は問１で「女性」と回答した5,955人を集計対象とした。

問２ あなたのお住まいの府県をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	兵庫県	2,524	42.4%
2	大阪府	1,408	23.6%
3	奈良県	772	13.0%
4	京都府	37	0.6%
5	滋賀県	3	0.1%
6	和歌山県	195	3.3%
7	その他	987	16.6%
	（無回答）	29	0.5%
合計		5,955	100.0%

問３ 卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答であるため、回答数は延べ。構成比（%）＝各回答数÷回答者数（全回答者7,635人）

選択肢		件数	構成比
1	大学	5,371	90.2%
2	短期大学	306	5.1%
3	専門職大学	546	9.2%
4	専門職短期大学	45	0.8%
5	専門学校	696	11.7%
6	就職	135	2.3%
7	その他	27	0.5%

問４【問３で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」を選択の方対象】
志望する大学などの設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答であるため、回答数は延べ。構成比（%）＝各回答数÷回答者数（回答対象者5,582人）

選択肢		件数	構成比
1	私立	3,806	68.2%
2	公立	2,038	36.5%
3	国立	1,884	33.8%

問５ あなたが興味のある学問分野をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答であるため、回答数は延べ。構成比（%）＝各回答数÷回答者数（全回答者7,635人）

	選択肢		件数	構成比
1	工学	環境学	374	6.3%
2		機械工学	102	1.7%
3		電気通信工学	81	1.4%
4		土木建築工学	273	4.6%
5		工学その他	143	2.4%
6	家政	家政学	262	4.4%
7		被服学	206	3.5%
8		住居学	204	3.4%
9		食物学	416	7.0%
10		家政その他	37	0.6%
11	人文科学	文学	777	13.0%
12		史学	254	4.3%
13		哲学	228	3.8%
14		心理学	1,081	18.2%
15		人文科学その他	133	2.2%
16	社会科学	法学・政治学	452	7.6%
17		商学・経済学	910	15.3%
18		社会学	569	9.6%
19		社会科学その他	105	1.8%
20	理学	数学	82	1.4%
21		物理学	67	1.1%
22		化学	178	3.0%
23		生物	372	6.2%
24		地学	53	0.9%
25		理学その他	214	3.6%
26	農学	農学	191	3.2%
27		農芸化学	50	0.8%
28		獣医学畜産学	124	2.1%
29		農学その他	38	0.6%
30	社会科学	医学	282	4.7%
31		歯学	132	2.2%
32		薬学	423	7.1%
33		看護学	859	14.4%
34		その他医療	325	5.5%
35	商船	商船学	11	0.2%
36	教育	教育学	804	13.5%
37		学校教育課程	230	3.9%
38		教育その他	120	2.0%
39	芸術	美術	352	5.9%
40		デザイン	631	10.6%
41		音楽	351	5.9%
42		芸術その他	233	3.9%
43	その他	教養学	91	1.5%
44		総合科学	61	1.0%
45		国際関係学	676	11.4%
46		人間関係科学	216	3.6%
47		その他	298	5.0%

問６以降は、武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットを確認の上、回答を求めた。

問６ 武庫川女子大学が2025年度に設置の「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」または入学定員増予定の「生活環境学部 環境学科」のうち、あなたが興味のあるものをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

	選択肢	件数	構成比
1	環境共生学部 環境共生学科	425	7.1%
2	生活環境学部 生活環境学科	737	12.4%
3	興味のあるものはない	4,501	75.6%
	（無回答）	292	4.9%
合計		5,955	100.0%

問７【問６で「環境共生学部 環境共生学科」または「生活環境学部 生活環境学科」を選択した方対象】あなたは問６で興味があるとされた武庫川女子大学の学科を受験したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）
※本学実施予定の全入試方式を対象とします。

	選択肢	件数	構成比
1	第一志望として受験する	62	5.3%
2	第二志望として受験する	70	6.0%
3	第三志望以降として受験する	260	22.4%
4	受験しない	765	65.8%
	（無回答）	5	0.4%
合計		1,162	100.0%

問８ 【問７で「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択した方対象】
あなたが問７で受験するとされた武庫川女子大学の学科に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

	選択肢	件数	構成比
1	入学したい	100	25.5%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	265	67.6%
3	入学しない	18	4.6%
	（無回答）	9	2.3%
合計		392	100.0%

問９ 【問６で「興味のあるものはない」または問７で「受験しない」を選択した方対象】
武庫川女子大学が2025年度に設置または入学定員増を構想中の学科について、問６で興味のあるものはない、または興味はあるとしながら問７で受験しないとした理由をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答であるため、回答数は延べ。構成比（%）＝各回答数÷回答者数（回答対象者5,266人）

	選択肢	件数	構成比
1	武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	110	2.1%
2	武庫川女子大学「生活環境学部 生活環境学科」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	99	1.9%
3	武庫川女子大学の他の学科に興味があるから	410	7.8%
4	もっと興味・関心のある分野があるから	2,315	44.0%
5	国公立大学進学を希望しているから	1,196	22.7%
6	他の私立大学進学を希望しているから	1,321	25.1%
7	進路は未定だから	728	13.8%
8	通学に時間がかかりそうだから	304	5.8%
9	卒業後の進路がイメージできないから	252	4.8%
10	女子大学に進学したくないから	1,004	19.1%
11	学費が高いから	444	8.4%
12	その他	371	7.0%

４.高校生アンケート調査　結果の要点

要点１）武庫川女子大学　環境共生学部　環境共生学科(仮称)への受験・入学意向

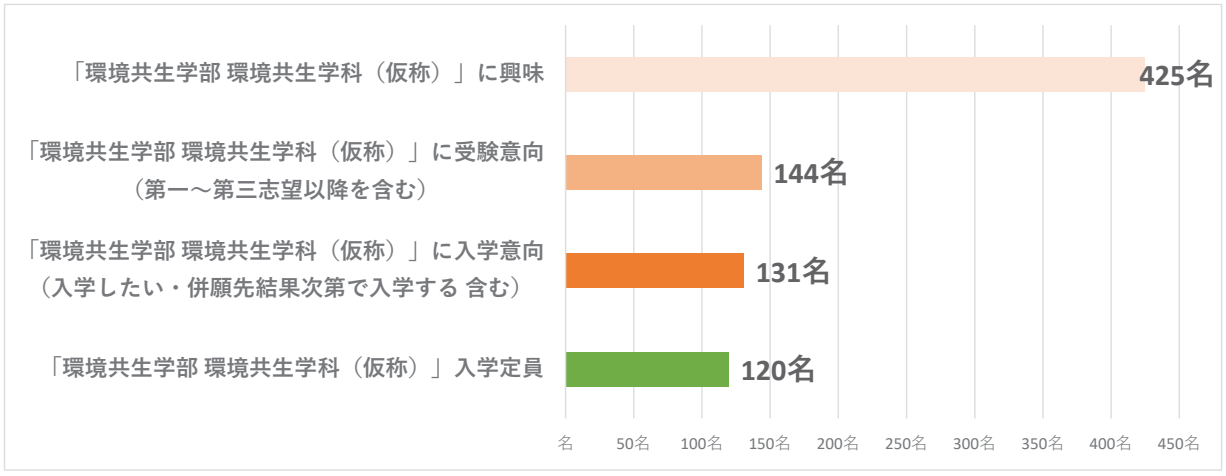
「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」に興味を持つ425名のうち、144名より受験意向が示された（第一志望～第三志望以下）。その上で合格した場合、予定する入学定員120名を上回る131名より「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」への入学意向が示される結果となった。

問７（受験意向）の結果

第一志望として受験する	25 名	5.9%	144 名	33.9%
第二志望として受験する	23 名	5.4%		
第三志望以降として受験する	96 名	22.6%		
合計			425 名	100.0%

問８（入学意向）の結果

入学したい	35 名	24.3%	131 名	91.0%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	96 名	66.7%		
合計			144 名	100.0%



要点２）武庫川女子大学　生活環境学部　生活環境学科への受験・入学意向

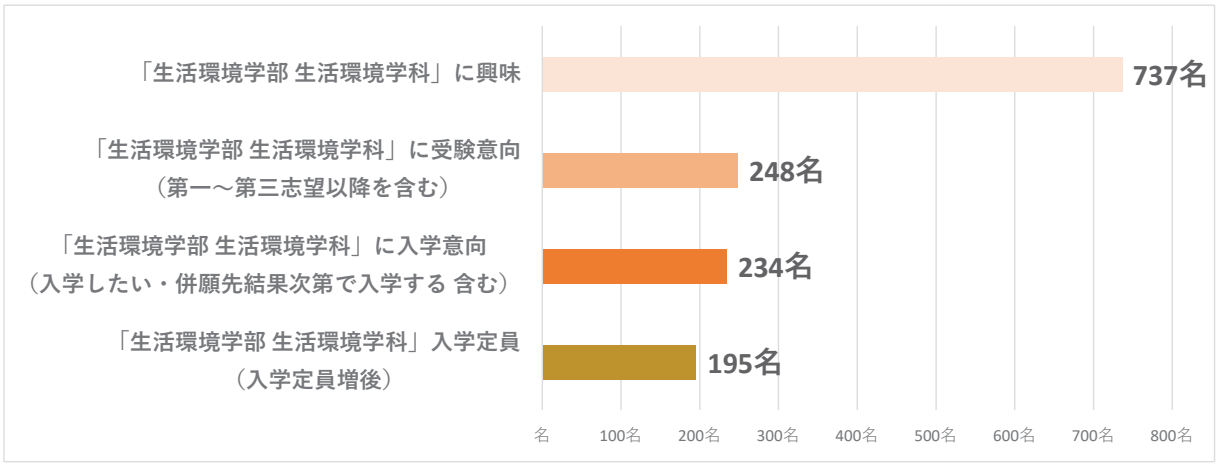
「生活環境学部 生活環境学科」に興味を持つ737名のうち、248名より受験意向が示された（第一志望～第三志望以下）。その上で合格した場合、予定する増員後の入学定員195名を上回る234名より「生活環境学部 生活環境学科」への入学意向が示される結果となった。

問７（受験意向）の結果

第一志望として受験する	37 名	5.0%	248 名	33.6%
第二志望として受験する	47 名	6.4%		
第三志望以降として受験する	164 名	22.3%		
合計			737 名	100.0%

問８（入学意向）の結果

入学したい	65 名	26.2%	234 名	94.4%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	169 名	68.1%		
合計			248 名	100.0%



要点３）クロス集計

				クロス条件 問３：大学 問４：私立 問５：関連する分野※	クロス条件 問３：大学 問４：私立 問５：環境学／家政学
問６で興味のある学部学科が「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」				243	140
	問７回答		1. 第一志望として受験する	16	14
			2. 第二志望として受験する	19	13
			3. 第三志望以降として受験する	63	35
			4. 受験しない	145	78
	問８回答	問７で「第一志望」	1. 入学したい	14	12
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	2	2
			3. 入学しない	0	0
		問７で「第二志望」	1. 入学したい	6	4
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	13	9
			3. 入学しない	0	0
		問７で「第三志望」以降	1. 入学したい	4	3
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	52	29
			3. 入学しない	5	3
		合計	1. 入学したい	24	19
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	67	40
			3. 入学しない	5	3
問６で興味のある学部学科が「生活環境学部 生活環境学科」				530	162
	問７回答		1. 第一志望として受験する	36	16
			2. 第二志望として受験する	37	16
			3. 第三志望以降として受験する	128	46
			4. 受験しない	326	83
	問８回答	問７で「第一志望」	1. 入学したい	34	16
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1	0
			3. 入学しない	0	0
		問７で「第二志望」	1. 入学したい	12	7
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	23	9
			3. 入学しない	0	0
		問７で「第三志望」以降	1. 入学したい	11	4
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	109	40
			3. 入学しない	6	2
		合計	1. 入学したい	57	27
			2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	133	49
			3. 入学しない	6	2

※問５クロス条件：環境共生は「環境学」「工学その他」「生物」「理学その他」、生活環境は「環境学」「土木・建築学」「家政学」「被服学」「住居学」「家政その他」「デザイン」のいずれかまたは複数選択の場合。

武庫川女子大学　2025 年度構想についての高校生アンケート調査

対象：2023（令和 5）年度　高校 2 年生の皆様

環境共生学部 環境共生学科
（仮称・設置構想中）

新設【120 名定員】

自然と地球が抱える問題に、
立ち向かう女性になる！

キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生

リーフレットはこちら！⇒



生活環境学部 生活環境学科

定員増【165 名→195 名】

暮らしの変化を視野に入れ
未来の暮らしを創造する女性になる！

キーワード：生活文化・衣生活・住環境

リーフレットはこちら！⇒

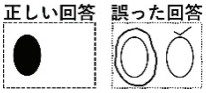


武庫川女子大学はこのアンケート調査を通して、2025 年度に大学進学時期を迎える現･高校 2 年生の皆さんからのご回答を参考に、学部等の新設・定員増計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は武庫川女子大学の 2025 年度構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は武庫川女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※アンケート及び別紙リーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

正しい回答　誤った回答



記入例を参考に、黒の鉛筆または黒のシャープペンシルでマークをしてください。

問 1　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

0 1.女性　0 2.男性　0 3.答えたくない

問 2　あなたのお住まいの府県をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

0 1.兵庫県　0 2.大阪府　0 3.奈良県　0 4.京都府　0 5.滋賀県　0 6.和歌山県

0 7.その他（　　）

問 3　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべてにマーク）

0 1.大学　0 2.短期大学　0 3.専門職大学　0 4.専門職短期大学　0 5.専門学校　0 6.就職

0 7.その他（　　）

問 4（問 3 で 1～4 の方はお答えください）志望する大学などの設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべてにマーク）

0 1.私立　0 2.公立　0 3.国立

問 5　あなたが興味のある学問分野をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

工学	0 9.食物学	0 17.商学・経済学	農学	0 34.その他医療	0 41.音楽
0 1.環境学	0 10.家政その他	0 18.社会学	0 26.農学	商船	0 42.芸術その他
0 2.機械工学	人文科学	0 19.社会科学その他	0 27.農芸化学	0 35.商船学	その他
0 3.電気通信工学	0 11.文学	理学	0 28.獣医学畜産学	教育	0 43.教養学
0 4.土木建築工学	0 12.史学	0 20.数学	0 29.農学その他	0 36.教育学	0 44.総合科学
0 5.工学その他	0 13.哲学	0 21.物理学	保健	0 37.学校教育課程	0 45.国際関係学
家政	0 14.心理学	0 22.化学	0 30.医学	0 38.教育その他	0 46.人間関係科学
0 6.家政学	0 15.人文科学その他	0 23.生物	0 31.歯学	芸術	0 47.その他
0 7.被服学	社会科学	0 24.地学	0 32.薬学	0 39.美術	
0 8.住居学	0 16.法学・政治学	0 25.理学その他	0 33.看護学	0 40.デザイン	

つづいて裏面の設問にお答えください。

以降は武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットをご覧の上、**女子の方**がお答えください。

環境共生学部 環境共生学科 （仮称・設置構想中） 新設【120名定員】 **自然と地球が抱える問題に、 立ち向かう女性になる！** キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生 リーフレットはこちら！⇒		生活環境学部 生活環境学科 定員増【165名→195名】 **暮らしの変化を視野に入れ 未来の暮らしを創造する女性になる！** キーワード：生活文化・衣生活・住環境 リーフレットはこちら！⇒	

問６　武庫川女子大学が 2025 年度に設置の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」または入学定員増予定の「生活環境学部 環境学科」のうち、あなたが興味のあるものをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1. 環境共生学部 環境共生学科(仮称)　⇒ 以下の問７にお答えください。
0 2. 生活環境学部 生活環境学科　⇒ 以下の問７にお答えください。
0 3. 興味のあるものはない　⇒ 以下の問９にお答えください。

問７　あなたは問６で興味があるとされた武庫川女子大学の学科を受験したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）
※本学実施予定の全入試方式を対象とします。

0 1. 第一志望として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 2. 第二志望として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 3. 第三志望以降として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 4. 受験しない　⇒ 以下の問９にお答えください。

問８　あなたが問７で受験するとされた武庫川女子大学の学科に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1.入学したい
0 2.志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
0 3.入学しない

問９は、問６で３ または 問７で４を選択した方のみお答えください。

問９　武庫川女子大学が 2025 年度に設置または入学定員増を構想中の学科について、問６で興味のあるものはない、または興味はあるとしながら問７で受験しないとした理由をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

0 1.武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
0 2.武庫川女子大学「生活環境学部 生活環境学科」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
0 3.武庫川女子大学の他の学科に興味があるから
0 4.もっと興味・関心のある分野があるから
0 5.国公立大学進学を希望しているから
0 6.他の私立大学進学を希望しているから
0 7.進路は未定だから
0 8.通学に時間がかかりそうだから
0 9.卒業後の進路がイメージできないから
0 10.女子大学に進学したくないから
0 11.学費が高いから
0 12.その他

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

環境共生学部　環境共生学科（仮称・設置構想中）

設置概要

学部・学科名	環境共生学部　環境共生学科	学位	学士（環境共生学）
入学定員	120名	開設場所	浜甲子園キャンパス（兵庫県西宮市）
修業年限	4年	初年度納付金※1	1,600,000円
開設時期	2025年4月 予定		
近隣の競合する大学・学部（初年度納付金）	関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科（1,753,000円）※2 関西大学 環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科（1,753,000円）※2 関西学院大学 生命環境学部 生物科学科（1,727,000円）※2 近畿大学 農学部 応用生命化学科（1,712,000円）※3 大阪工業大学 工学部 環境工学科（1,640,000円）※3 甲南大学 理工学部 生物学科（1,571,000円）※3		

※1 現時点での予定であり、今後変更になることがあります。初年度納付金には、入学金（20万円）、授業料（110万円）、教育充実費（30万円）を含みます。（2025年度入学者対象）
※2 2023年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）
※3 2024年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）

アドミッション・ポリシー

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科は、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシーを理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシーに則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受け入れます。

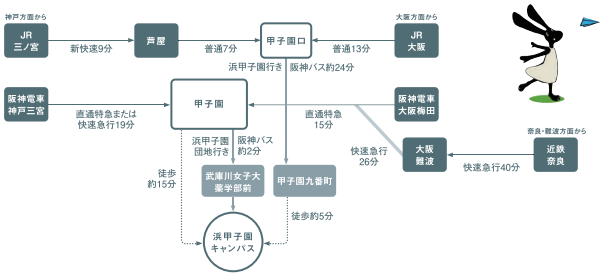
知識　社会を理解し、環境共生学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。具体的には自然科学に基づく生物学や化学などの理解力、様々な事象を定量的・確率的に表す数学的能力、国語や英語によるコミュニケーションおよび論理的思考の基本となる能力を有している。

姿勢　自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦する姿勢を有している。異なる学問分野の考え方を組み合わせるなどの柔軟な思考力や、自身の興味がある分野の高い専門性と技術を身につけて、自然環境の利用や保全に関する計画・デザインを行うことで、持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲を有している。

行動　自ら考えて表現すること、多様な人々と協働することへの意欲を有している。社会が抱える環境問題などの課題に目を向け、課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲を有している。

交通アクセス

武庫川女子大学 浜甲子園キャンパスへは、阪神電車・JRのご利用が便利です。
大阪難波と阪神尼崎を結ぶ「阪神なんば線」は、近鉄電車と相互乗り入れをしているため、奈良や大阪東部から乗り換え無しで通学できます。
※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。





武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス　文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス　薬学部、薬学研究科
上甲子園キャンパス　建築学部、建築学研究科

●お問い合わせ
入試センター　〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500　FAX. 0798-45-3563
テレフォンサービス（24時間）入試情報　TEL. 0798-45-8888　https://www.mukogawa-u.ac.jp/

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性（ひと）になる！

身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今、様々な環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育てるために、
武庫川女子大学に「環境共生学部 環境共生学科」が誕生します。アクティブな学びを楽しみながら、未来の地球にできることを探してみませんか？

現代社会の抱える問題とは？

気候の変動、海洋や大気の汚染、それらに起因する生物多様性の減少。現代は世界的に数多くの環境問題が浮き彫りとなり、社会からの関心も高まっています。さらに、急速に発展するデータサイエンス分野やグリーン（エネルギー・環境）分野への対応も必要となる今、理工系人材が圧倒的に不足しているのです。中でもグリーン分野を牽引できる女性人材の育成は、未来への急務と言われています。

環境共生学科が目指す未来

これらの問題に挑むには、専門知識だけでなく、自ら解決策を生み出し、社会で実行できる能力が必要です。そこで環境共生学科では、学生自身が自然のフィールドや環境保全施設などを巡り、課題をリサーチ。その発見に基づき、実践的な学びの中で解決と情報更新を重ねながら、複雑な環境問題に挑める力を養います。だからこそ環境系技術者、研究者、環境ビジネス従事者など、多彩な活躍分野が広がるのです。

学科の特長

冒険、発見、学び、発信

What's 環境共生学科？
～学びの特徴と魅力～

周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。

4年間の学びのイメージ

1年次（前期）　冒険

フィールド・環境施設実習
- フィールド・環境施設見学で環境問題を知り、興味分野を探します。
- 課題を発見！グループワークで解決策を模索します。

1年次（後期）～2年次～3年次　発見　学び

実践型社会連携プロジェクト
- フィールド・環境施設見学で発見した課題の解決に、グループワークで挑みます。
- 企業や環境活動団体の協力を受けながら、課題解決実行力を養います。

選択科目群
- プロジェクトを進めながら、深く追究したい知識を3つの科目群から選んで習得。
  - ❶環境保全系科目群（環境を管理する）…野生生物管理工学など
  - ❷環境資源応用系科目群（環境を利用する）…バイオマスエネルギー学（微細藻類を利用した燃料生産など）など
  - ❸環境共生系科目群（環境を知り、知らせる）…環境教育論など

ラボローテーション実習
- 様々な研究室を巡って技術を研修。専門分野以外の対応力も幅広く養います。

留学プログラム
- 海外の環境問題に触れ、将来に役立つ広い視野を育てます。

～4年次　発信

卒業研究・卒業活動
- これまでの学びや経験をもとに、取り組みたいテーマを追究。
- その成果を卒業研究・卒業活動で発表します。

KEYWORDS
マイクロプラスティック / 環境修復 / クリーンエネルギー / バイオマス燃料 / グリーンインフラ / サステナビリティ / 生態系 / エコ防災・減災 / カーボンニュートラル / 生物多様性 / 環境DNA

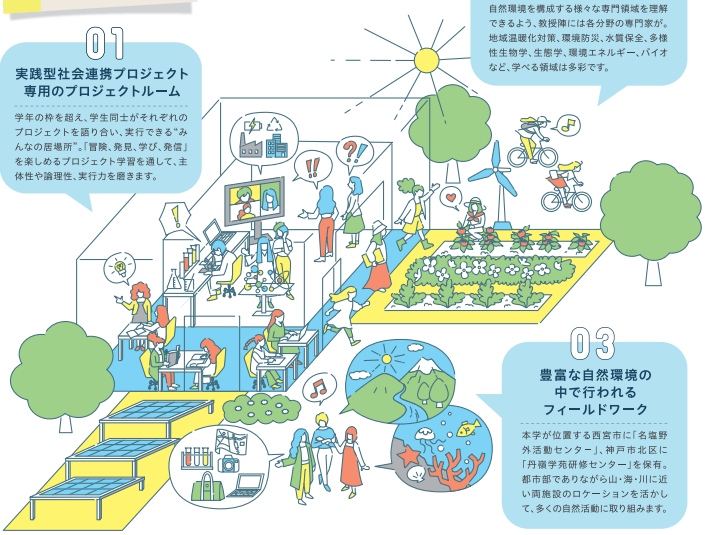
学びの環境

01 実践型社会連携プロジェクト専用のプロジェクトルーム

学年の枠を超え、学生同士がそれぞれのプロジェクトを語り合い、実行できる"みんなの居場所"。「冒険、発見、学び、発信」を楽しめるプロジェクト学習を通して、主体性や論理性、実行力を磨きます。

02 様々な環境分野をカバーする教授陣

自然環境を構成する様々な専門領域を理解できるよう、教授陣には各分野の専門家が。地域温暖化対策、環境防災、水質保全、多様性生物学、生態学、環境エネルギー、バイオなど、学べる領域は多彩です。



03 豊富な自然環境の中で行われるフィールドワーク

本学が位置する西宮市に「名塩野外活動センター」、神戸市北区に「丹嶺学苑研修センター」を保有。都市部でありながら山・海・川に近い両施設のロケーションを活かして、多くの自然活動に取り組みます。

取得可能な資格・免許（予定）
- 中学校教諭一種（理科）
- 高等学校教諭一種（理科）
- 学芸員
- 危険物取扱者（甲種）

予想される卒業後の進路
- 環境系技術者・調査員・研究者
- 環境・サステナビリティコンサルタント
- 応用化学系・バイオ系研究・技術者
- エネルギー系研究・技術者
- 環境ビジネス従事者
- 企業でのSDGs推進担当
- 自然ツーリスト
- 自然史博物館学芸員
- 公務員（国家、地方）
- 大学院進学［大学院開設計画中］
- 中学校・高校教員（理科）

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

環境共生学部　環境共生学科（仮称）　2025年（令和7年）開設予定 入学定員120名　学年別カリキュラム体系

1年生

環境問題を知り、興味のある分野を探そう！



自然環境問題に気づくための科目群

・フィールド・環境施設実習
・環境共生学入門
・SDGs論

専門導入科目群

・環境問題概論
・地球科学
・生態学

2年生

プロジェクト・コミュニケーションプログラム

実践型社会連携プロジェクト

PBL
(Project Based Learning)

課題解決学習で実践を積み実行力を養う。

プロジェクト具体例

●プラスチック汚染
●藻類バイオマス
●環境修復と適応

3年生

環境保全系

ー自然をきれいに保とう！ー



●環境情報工学
●野生生物管理工学
●環境イメージング技術

環境資源応用系

ー自然の物質と現象を利用しよう！ー



●バイオマスエネルギー学
●資源循環工学
●バイオテクノロジーⅠ～Ⅲ

環境共生系

ー自然の豊かさを守り、次世代へ伝えよう！ー



●環境教育論
●エコツーリズム論
●環境政策論

基礎実験・ラボローテーション実習

環境技術実験

4年生

留学プログラム（希望者）

卒業研究・卒業活動

卒業後の予想進路

公務員（国家・地方）
中学校・高等学校理科教諭
自然史博物館学芸員
環境系技術者・調査員・研究者
環境コンサルタント
応用化学系バイオ系研究者
エネルギー系研究・技術者
環境ビジネス企業
SDGs 推進企業
自然ツーリスト
大学院進学

教　職　課　程 → 中学校教諭一種免許（理科）
高等学校教諭一種免許（理科）

15

生活環境学部　生活環境学科

歴史紹介

私立大学で最も歴史のある「生活環境学科」。
ルーツとなる学科が誕生したのは大学開設の1949年。
1994年には全国の私立大学初の生活環境学科として設置され、2024年に30周年を迎えます。
伝統と実績を有する学科だけに社会からの信頼も抜群！
高い就職率がその証明です。

- 学科設立からの年数…29年
- 累計卒業者数…約6,000人（前身学科含む）
- 2022年度就職率…98.9%（就職者／就職希望者）
- 専任教員数…21名（教授10名、准教授11名）

※すべて2023年4月現在

学部・学科概要

名　　称	生活環境学部　生活環境学科
入学定員※1	195名※1
修業年限	4年
授与する学位	学士（生活環境学）
初年度納付金	1,445,000円※2 （入学金20万円、授業料99.5万円、教育充実費25万円）
近隣の競合する大学・学部学科	●京都女子大学 家政学部 生活造形学科 ●同志社女子大学 生活科学部 人間生活学科 ●甲南女子大学 人間科学部 生活環境学科 ●神戸女子大学 家政学部 家政学科 ●奈良女子大学 生活環境学部 文化情報学科 ●関西学院大学 建築学部 建築学科 ●関西大学 環境都市工学部 建築学科 ●近畿大学 建築学部 建築学科

※1　2025年4月から定員変更（165人→195人）構想中
※2　2024年度入学生対象の額であり、今後変更となる可能性があります。

アドミッション・ポリシー

衣服・雑貨・家具・インテリア・住居・建築・まち・都市などに興味のある人、未来に夢のある人、
暮らしに関心のある人、人に関することが好きな人…、そんな人を求めます。



01　好奇心が旺盛
文理を問わず幅広い科目に興味があり、高校で磨いた知識を社会で活躍できる専門力や実践力に高めたい人

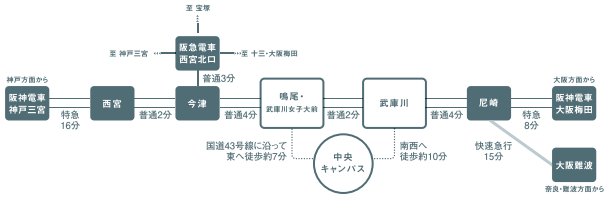
02　考える力が豊か
分析・考察・創造など、さまざまなアプローチから生活環境に関する学びを楽しみたい人

03　社会貢献が目標
社会のさまざまな課題を自ら発見でき、その解決を通して人や社会に貢献したい人

04　向上心がある
仲間と協力して何かを成し遂げたい人や、人生を通して学びや挑戦を続けたい人

交通アクセス

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。
阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。
※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス　生活環境学部、文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス　薬学部、薬学研究科
上甲子園キャンパス　建築学部、建築学研究科

●お問い合わせ
入試センター　〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500　FAX. 0798-45-3563
テレフォンサービス（24時間）入試情報　TEL. 0798-45-8888　https://www.mukogawa-u.ac.jp/

2025年4月、
未来の暮らしを創造する
生活環境学科はさらに充実し、定員を増やします



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

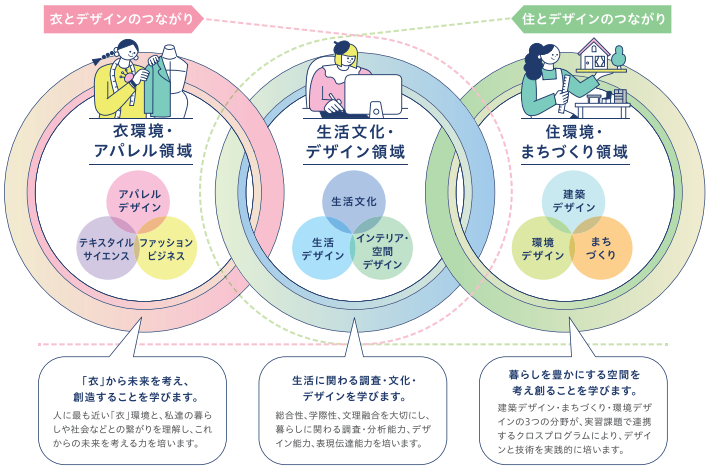
未来の暮らしを創造する 生活環境学科へ

学科の理念と養成する人材像

本学の生活環境学科は、歴史ある学科として多くの人材を社会に送りだしています。その間、日本は人口増加とともに豊かな暮らしを実現してきました。しかし、いま少子高齢化が進み、社会のデジタル化・SDGs・地球環境への配慮など社会課題が山積する時代を迎えています。高校生の皆さんが活躍される未来においても、この傾向は続きます。このような**暮らしの変化を視野に入れて、本学科は未来の暮らしを創造する学科へと、学びの方向を一層明確にし、充実させます。**生活環境は**衣服・雑貨・家具・インテリア・住居・建築・まち・都市**からとらえることができます。これらを幅広く学び、豊かな暮らしを創造できるように、**未来の社会を見通す視点**、社会の価値を見失わない**歴史的・文化的視点**、そして、これらを統合する**デザイン的視点**を重視します。具体的には、3領域（下の図参照）について**文理の枠を越えて実践的な学びの場**を設けます。一層充実した学びの場から、**豊かな人間性・専門性・想像力を備えた人**を社会に送り出すために、入学定員の増強を図ります。

さらに充実する学科の特徴は？

- **未来志向**
  現在・歴史をふまえ、未来への構想力を養います。
- **実体験を重視した学び**
  実際の物を作る実習、実験住宅での学びなど、実体験に即した学びを重視しています。
- **卒業研究・卒業制作**
  すべての学生は、学びの総括として研究・制作に取り組みます。
- **暮らし目線**
  利用者・生活者によりそった、暮らし目線で考えます。
- **横断的な学び**
  文系・理系に加え、造形系・デザイン系などを横断的に学びます。
- **少人数ゼミ**
  多様な興味や特性に即して指導を受けられます。
- **デザイン思考**
  デザイン実習などを通じて、創造的な問題解決力を養います。
- **地域に開かれた学び**
  フィールドワークやワークショップなど、地域へはたらきかける実践的学びを重視しています。
- **海外研修**
  ヨーロッパやアメリカでの研修を通じて、多様な文化に触れ、より広い視野を身につけます。



「衣」から未来を考え、創造することを学びます。
人に最も近い「衣」環境と、私達の暮らしや社会などとの繋がりを理解し、これからの未来を考える力を培います。

生活に関わる調査・文化・デザインを学びます。
総合性、学際性、文理融合を大切にし、暮らしに関わる調査・分析能力、デザイン能力、表現伝達能力を培います。

暮らしを豊かにする空間を考え創ることを学びます。
建築デザイン・まちづくり・環境デザインの3つの分野が、実習課題で連携するクロスプログラムにより、デザインと技術を実践的に培います。

活躍が期待される進路

- ファッション業界
- アパレル産業
- 繊維産業
- インテリア産業
- 設計事務所
- 企画・デザイン事務所
- 不動産業
- 住宅産業
- リフォーム産業
- 建設業
- まちづくりコンサルタント
- 出版社
- 教育職
- 研究職
- 学芸員
- 公務員
- 大学院進学

起業し、カフェや事業を経営している人もいます。

4年間の学びの特色とステップ



1年次 領域選択
生活環境の3領域を広く学ぶ
3領域の基礎について広く学習。自分が興味を持てる領域を見定め、後期から専門的な学びへの準備を徐々に進めます。

2年次
領域について基礎を学ぶ
1年次後期に選択した領域について幅広く学習。講義、実験、演習、実習を連動させて実践的にスキルアップ。

3年次 研究室配属
領域について専門性を高める
3年後期から研究室に所属。卒業研究に向け、少人数のゼミで専門性をさらに高めます。

4年次 卒業研究
学びの集大成、そして社会へ、大学院へ
学びの集大成として、少人数ゼミで卒業研究に取り組みます。1年を通じて自ら設定したテーマを追求します。

卒業研究発表会・卒業研究展
学科全体で卒業研究発表会を開催。さらに、パネルや模型などを使い卒業研究を展覧会形式で発表します。コロナ禍前は学外からの見学者も多く集めており、毎年、力作に熱い注目が集まっています。

取得可能な資格・免許（予定）

注：取得可能な資格等は領域によって異なります。

- 1級・2級テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）
- 一級建築士（登録には学部卒業後実務経験2年以上必要）※
- 二級建築士※
- 木造建築士※
- インテリアプランナー※
- 1級建築施工管理技士（学部卒業後実務経験3年以上必要）※
- 2級建築施工管理技士（学部卒業後実務経験1年以上必要）※
- 商業施設士補
- 高等学校教諭一種（家庭）
- 中学校教諭一種（家庭）
- 博物館学芸員
- 学校図書館司書教諭
- 図書館司書

他にも、インテリアコーディネーターや色彩検定など、本学科で学ぶ内容が資格試験受験時に役立つ資格が多数あります。

※受験資格：受験に必要な科目・単位数あり

学びの環境


染色・洗浄系実験室
染色の実験では、天然染料で布を染め、どのような色が現れるか試します。


アパレル生産実習室
縫製工場仕様の設備を用い、大量生産の実習を行います。


制作室
コンピュータグラフィックスや建築設計・アパレル設計用のPCが揃っています。


ユニバーサルデザインラボ
ユニバーサルデザインを学ぶキッチンなどの住宅設備が教室の中にあります。


照明ラボ
照明や内装材を決めてコーディネートし、住宅や店舗の空間を設営します。


工作実習室
材料を加工する機械や工具を使って、ものづくりの工程を学びます。


実体験ラボ
名作家具を継続的にコレクション。見て、触って、使ってインテリアを学びます。


ラウンジ
オンライン授業を受けたり、友達とランチを食べたりして過ごします。

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

調査対象とした高等学校名等の一覧						
No.	都道府県		学校名		主な選定理由	回答有無
1	奈良県	私立	育英西	高等学校	協定校	有
2	奈良県	奈良県立	生駒	高等学校	過去志願者数	有
3	奈良県	奈良県立	奈良北	高等学校	過去志願者数	有
4	奈良県	私立	奈良育英	高等学校	協定校	有
5	奈良県	奈良市立	一条	高等学校	過去志願者数	有
6	奈良県	奈良県立	橿原	高等学校	過去志願者数	有
7	奈良県	奈良県立	桜井	高等学校	過去志願者数	有
8	和歌山県	私立	和歌山信愛	高等学校	協定校	有
9	岡山県	私立	就実	高等学校	協定校	有
10	香川県	私立	英明	高等学校	協定校	有
11	大阪府	私立	プール学院	高等学校	過去志願者数	有
12	大阪府	大阪府立	高槻北	高等学校	過去志願者数	有
13	大阪府	私立	早稲田摂陵	高等学校	過去志願者数	有
14	大阪府	私立	上宮	高等学校	過去志願者数	有
15	大阪府	大阪府立	東	高等学校	過去志願者数	有
16	大阪府	私立	宣真	高等学校	過去志願者数	有
17	大阪府	大阪府立	東住吉	高等学校	過去志願者数	
18	大阪府	私立	四天王寺	高等学校	過去志願者数	有
19	大阪府	大阪府立	箕面	高等学校	過去志願者数	有
20	大阪府	私立	箕面自由学園	高等学校	過去志願者数	有
21	大阪府	大阪府立	桜塚	高等学校	過去志願者数	有
22	大阪府	私立	大阪学芸	高等学校	過去志願者数	
23	大阪府	私立	大阪女学院	高等学校	過去志願者数	
24	大阪府	大阪府立	清水谷	高等学校	過去志願者数	有
25	大阪府	大阪府立	花園	高等学校	過去志願者数	有
26	大阪府	大阪府立	東住吉	高等学校	過去志願者数	有
27	兵庫県	兵庫県立	小野	高等学校	過去志願者数	有
28	兵庫県	兵庫県立	御影	高等学校	過去志願者数	有
29	兵庫県	兵庫県立	星陵	高等学校	過去志願者数	有
30	兵庫県	兵庫県立	夢野台	高等学校	過去志願者数	有
31	兵庫県	兵庫県立	北須磨	高等学校	過去志願者数	有
32	兵庫県	兵庫県立	明石城西	高等学校	過去志願者数	有
33	兵庫県	兵庫県立	姫路飾西	高等学校	過去志願者数	有
34	兵庫県	兵庫県立	須磨東	高等学校	過去志願者数	有
35	兵庫県	兵庫県立	尼崎北	高等学校	過去志願者数	有
36	兵庫県	兵庫県立	鳴尾	高等学校	過去志願者数	有
37	兵庫県	兵庫県立	芦屋	高等学校	過去志願者数	有
38	兵庫県	兵庫県立	須磨友が丘	高等学校	過去志願者数	有
39	兵庫県	兵庫県立	川西緑台	高等学校	過去志願者数	有
40	兵庫県	私立	甲南女子	高等学校	過去志願者数	有
41	兵庫県	兵庫県立	西宮	高等学校	過去志願者数	有
42	兵庫県	兵庫県立	龍野	高等学校	過去志願者数	有
43	兵庫県	私立	親和女子	高等学校	過去志願者数	有

44	兵庫県	私立	小林聖心女子学院	高等学校	過去志願者数	有
45	兵庫県	兵庫県立	三田祥雲館	高等学校	過去志願者数	有
46	兵庫県	兵庫県立	宝塚西	高等学校	過去志願者数	有
47	兵庫県	私立	仁川学院	高等学校	過去志願者数	有
48	石川県	私立	星稜	高等学校	協定校	有
49	沖縄県	私立	沖縄尚学	高等学校	協定校	有
50	沖縄県	私立	興南	高等学校	協定校	
51	石川県	私立	北陸学院	高等学校	協定校	有
52	兵庫県	私立	武庫川女子大学附属	高等学校	附属校	有
53	大阪府	私立	賢明学院	中学高等学校	過去志願者数	有
54	大阪府	大阪府立	阿倍野	高等学校	過去志願者数	有
55	和歌山県	和歌山県立	海南	高等学校	過去志願者数	有
56	大阪府	私立	好文学園女子	高等学校	過去志願者数	有

武庫川女子大学　2025 年度構想についての高校生アンケート調査

対象：2023（令和 5）年度　高校 2 年生の皆様

環境共生学部 環境共生学科
（仮称・設置構想中）

新設【120 名定員】

自然と地球が抱える問題に、
立ち向かう女性になる！

キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生

リーフレットはこちら！⇒



生活環境学部 生活環境学科

定員増【165 名→195 名】

暮らしの変化を視野に入れ
未来の暮らしを創造する女性になる！

キーワード：生活文化・衣生活・住環境

リーフレットはこちら！⇒



武庫川女子大学はこのアンケート調査を通して、2025 年度に大学進学時期を迎える現･高校 2 年生の皆さんからのご回答を参考に、学部等の新設・定員増計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は武庫川女子大学の 2025 年度構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は武庫川女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※アンケート及び別紙リーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

正しい回答 ● 誤った回答 ⊘

記入例を参考に、黒の鉛筆または黒のシャープペンシルでマークをしてください。

問 1　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

○ 1.女性　○ 2.男性　○ 3.答えたくない

問 2　あなたのお住まいの府県をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

○ 1.兵庫県　○ 2.大阪府　○ 3.奈良県　○ 4.京都府　○ 5.滋賀県　○ 6.和歌山県

○ 7.その他（　　）

問 3　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべてにマーク）

○ 1.大学　○ 2.短期大学　○ 3.専門職大学　○ 4.専門職短期大学　○ 5.専門学校　○ 6.就職

○ 7.その他（　　）

問 4（問 3 で 1～4 の方はお答えください）志望する大学などの設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべてにマーク）

○ 1.私立　○ 2.公立　○ 3.国立

問 5　あなたが興味のある学問分野をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

工学	○ 9.食物学	○ 17.商学・経済学	農学	○ 34.その他医療	○ 41.音楽
○ 1.環境学	○ 10.家政その他	○ 18.社会学	○ 26.農学	商船	○ 42.芸術その他
○ 2.機械工学	人文科学	○ 19.社会科学その他	○ 27.農芸化学	○ 35.商船学	その他
○ 3.電気通信工学	○ 11.文学	理学	○ 28.獣医学畜産学	教育	○ 43.教養学
○ 4.土木建築工学	○ 12.史学	○ 20.数学	○ 29.農学その他	○ 36.教育学	○ 44.総合科学
○ 5.工学その他	○ 13.哲学	○ 21.物理学	保健	○ 37.学校教員養成課程	○ 45.国際関係学
家政	○ 14.心理学	○ 22.化学	○ 30.医学	○ 38.教育その他	○ 46.人間関係科学
○ 6.家政学	○ 15.人文科学その他	○ 23.生物	○ 31.歯学	芸術	○ 47.その他
○ 7.被服学	社会科学	○ 24.地学	○ 32.薬学	○ 39.美術	
○ 8.住居学	○ 16.法学・政治学	○ 25.理学その他	○ 33.看護学	○ 40.デザイン	

つづいて裏面の設問にお答えください。

以降は武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットをご覧の上、**女子の方**がお答えください。

環境共生学部 環境共生学科 （仮称・設置構想中） 新設【120名定員】 **自然と地球が抱える問題に、 立ち向かう女性になる！** キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生 リーフレットはこちら！⇒		生活環境学部 生活環境学科 定員増【165名→195名】 **暮らしの変化を視野に入れ 未来の暮らしを創造する女性になる！** キーワード：生活文化・衣生活・住環境 リーフレットはこちら！⇒	

問６　武庫川女子大学が 2025 年度に設置予定の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」または入学定員増予定の「生活環境学部 生活環境学科」のうち、あなたが興味のあるものをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1. 環境共生学部 環境共生学科(仮称)　⇒ 以下の問７にお答えください。
0 2. 生活環境学部 生活環境学科　⇒ 以下の問７にお答えください。
0 3. 興味のあるものはない　⇒ 以下の問９にお答えください。

問７　あなたは問６で興味があるとした武庫川女子大学の学科を受験したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）
※本学実施予定の全入試方式を対象とします。

0 1. 第一志望として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 2. 第二志望として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 3. 第三志望以降として受験する　⇒ 以下の問８にお答えください。
0 4. 受験しない　⇒ 以下の問９にお答えください。

問８　あなたは問７で受験するとした武庫川女子大学の学科に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1.入学したい
0 2.志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
0 3.入学しない

問９は、問６で３ または 問７で４を選択した方のみお答えください。

問９　武庫川女子大学が 2025 年度に設置または入学定員増を構想中の学科について、問６で興味のあるものはない、または興味はあるとしながら問７で受験しないとした理由をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

0 1.武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
0 2.武庫川女子大学「生活環境学部 生活環境学科」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
0 3.武庫川女子大学の他の学科に興味があるから
0 4.もっと興味・関心のある分野があるから
0 5.国公立大学進学を希望しているから
0 6.他の私立大学進学を希望しているから
0 7.進路は未定だから
0 8.通学に時間がかかりそうだから
0 9.卒業後の進路がイメージできないから
0 10.女子大学に進学したくないから
0 11.学費が高いから
0 12.その他

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

環境共生学部　環境共生学科（仮称・設置構想中）

設置概要

学部・学科名	環境共生学部　環境共生学科	学位	学士（環境共生学）
入学定員	120名	開設場所	浜甲子園キャンパス（兵庫県西宮市）
修業年限	4年	初年度納付金※1	1,600,000円
開設時期	2025年4月 予定		
近隣の競合する大学・学部（初年度納付金）	関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科（1,753,000円）※2 関西大学 環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科（1,753,000円）※2 関西学院大学 生命環境学部 生物科学科（1,727,000円）※2 近畿大学 農学部 応用生命化学科（1,712,000円）※3 大阪工業大学 工学部 環境工学科（1,640,000円）※3 甲南大学 理工学部 生物学科（1,571,000円）※3		

※1 現時点での予定であり、今後変更になることがあります。初年度納付金には、入学金（20万円）、授業料（110万円）、教育充実費（30万円）を含みます。（2025年度入学者対象）
※2 2023年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）
※3 2024年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）

アドミッション・ポリシー

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科は、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシーを理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシーに則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受け入れます。

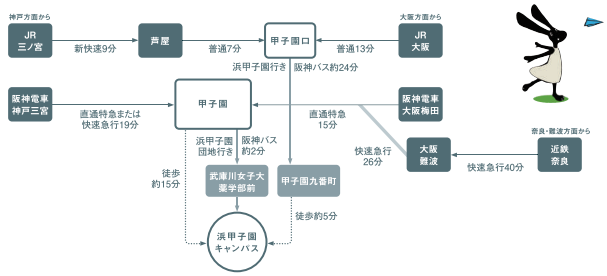
知識　社会を理解し、環境共生学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。具体的には自然科学に基づく生物学や化学などの理解力、様々な事象を定量的・確率的に表す数学的能力、国語や英語によるコミュニケーションおよび論理的思考の基本となる能力を有している。

姿勢　自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦する姿勢を有している。異なる学問分野の考え方を組み合わせるなどの柔軟な思考力や、自身の興味がある分野の高い専門性と技術を身につけて、自然環境の利用や保全に関する計画・デザインを行うことで、持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲を有している。

行動　自ら考えて表現すること、多様な人々と協働することへの意欲を有している。社会が抱える環境問題などの課題に目を向け、課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲を有している。

交通アクセス

武庫川女子大学 浜甲子園キャンパスへは、阪神電車・JRのご利用が便利です。
大阪難波と阪神尼崎を結ぶ「阪神なんば線」は、近鉄電車と相互乗り入れをしているため、奈良や大阪東部から乗り換え無しで通学できます。
※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。





武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス　文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス　薬学部、薬学研究科
上甲子園キャンパス　建築学部、建築学研究科

●お問い合わせ
入試センター　〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500　FAX. 0798-45-3563
テレフォンサービス（24時間）入試情報　TEL. 0798-45-8888　https://www.mukogawa-u.ac.jp/

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性（ひと）になる！

身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今、様々な環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育てるために、
武庫川女子大学に「環境共生学部 環境共生学科」が誕生します。アクティブな学びを楽しみながら、未来の地球にできることを探してみませんか？

現代社会の抱える問題とは？

気候の変動、海洋や大気の汚染、それらに起因する生物多様性の減少。現代は世界的に数多くの環境問題が浮き彫りとなり、社会からの関心も高まっています。さらに、急速に発展するデータサイエンス分野やグリーン（エネルギー・環境）分野への対応も必要となる今、理工系人材が圧倒的に不足しているのです。中でもグリーン分野を牽引できる女性人材の育成は、未来への急務と言われています。

環境共生学科が目指す未来

これらの問題に挑むには、専門知識だけでなく、自ら解決策を生み出し、社会で実行できる能力が必要です。そこで環境共生学科では、学生自身が自然のフィールドや環境保全施設などを巡り、課題をリサーチ。その発見に基づき、実践的な学びの中で解決と情報更新を重ねながら、複雑な環境問題に挑める力を養います。だからこそ環境系技術者、研究者、環境ビジネス従事者など、多彩な活躍分野が広がるのです。

学科の特長

冒険、発見、学び、発信

What's 環境共生学科？
～学びの特徴と魅力～

周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。

4年間の学びのイメージ

1年次（前期）　冒険

フィールド・環境施設実習
- フィールド・環境施設見学で環境問題を知り、興味分野を探します。
- 課題を発見！グループワークで解決策を模索します。

1年次（後期）～2年次～3年次　発見　学び

実践型社会連携プロジェクト
- フィールド・環境施設見学で発見した課題の解決に、グループワークで挑みます。
- 企業や環境活動団体の協力を受けながら、課題解決実行力を養います。

選択科目群
- プロジェクトを進めながら、深く追究したい知識を3つの科目群から選んで習得。
  - ❶環境保全系科目群（環境を管理する）…野生生物管理工学など
  - ❷環境資源応用系科目群（環境を利用する）…バイオマスエネルギー学（微細藻類を利用した燃料生産など）など
  - ❸環境共生系科目群（環境を知り、知らせる）…環境教育論など

ラボローテーション実習
- 様々な研究室を巡って技術を研修。専門分野以外の対応力も幅広く養います。

留学プログラム
- 海外の環境問題に触れ、将来に役立つ広い視野を育てます。

～4年次　発信

卒業研究・卒業活動
- これまでの学びや経験をもとに、取り組みたいテーマを追究。
- その成果を卒業研究・卒業活動で発表します。

KEYWORDS

マイクロプラスティック / 環境修復 / クリーンエネルギー / バイオマス燃料 / グリーンインフラ / サステナビリティ / 生態系 / エコ防災・減災 / カーボンニュートラル / 生物多様性 / 環境DNA

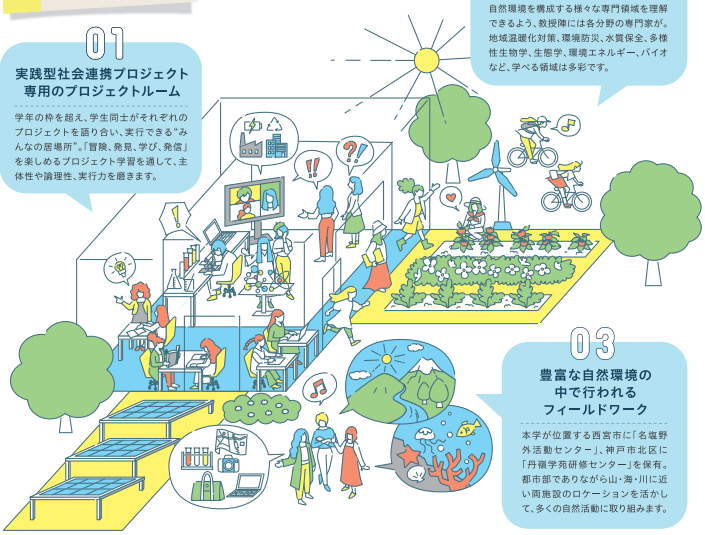
学びの環境

01 実践型社会連携プロジェクト専用のプロジェクトルーム

学年の枠を超え、学生同士がそれぞれのプロジェクトを語り合い、実行できる"みんなの居場所"。「冒険、発見、学び、発信」を楽しめるプロジェクト学習を通して、主体性や論理性、実行力を磨きます。

02 様々な環境分野をカバーする教授陣

自然環境を構成する様々な専門領域を理解できるよう、教授陣には各分野の専門家が。地域温暖化対策、環境防災、水質保全、多様性生物学、生態学、環境エネルギー、バイオなど、学べる領域は多彩です。



03 豊富な自然環境の中で行われるフィールドワーク

本学が位置する西宮市に「名塩野外活動センター」、神戸市北区に「丹嶺学苑研修センター」を保有。都市部でありながら山・海・川に近い両施設のロケーションを活かして、多くの自然活動に取り組みます。

取得可能な資格・免許（予定）

- 中学校教諭一種（理科）
- 高等学校教諭一種（理科）
- 学芸員
- 危険物取扱者（甲種）

予想される卒業後の進路

- 環境系技術者・調査員・研究者
- 環境・サステナビリティコンサルタント
- 応用化学系・バイオ系研究・技術者
- エネルギー系研究・技術者
- 環境ビジネス従事者
- 企業でのSDGs推進担当
- 自然ツーリスト
- 自然史博物館学芸員
- 公務員（国家、地方）
- 大学院進学［大学院開設計画中］
- 中学校・高校教員（理科）

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

環境共生学部　環境共生学科（仮称）　2025年（令和7年）開設予定 入学定員120名　学年別カリキュラム体系

1年生

環境問題を知り、興味のある分野を探そう！



自然環境問題に気づくための科目群

・フィールド・環境施設実習
・環境共生学入門
・SDGs論

専門導入科目群

・環境問題概論
・地球科学
・生態学

2年生

プロジェクト・コミュニケーションプログラム

実践型社会連携プロジェクト

PBL
(Project Based Learning)

課題解決学習で実践を積み実行力を養う。

プロジェクト具体例

●プラスチック汚染
●藻類バイオマス
●環境修復と適応

3年生

環境保全系

ー自然をきれいに保とう！ー



●環境情報工学
●野生生物管理工学
●環境イメージング技術

環境資源応用系

ー自然の物質と現象を利用しよう！ー



●バイオマスエネルギー学
●資源循環工学
●バイオテクノロジーⅠ～Ⅲ

環境共生系

ー自然の豊かさを守り、次世代へ伝えよう！ー



●環境教育論
●エコツーリズム論
●環境政策論

基礎実験・ラボローテーション実習

環境技術実験

4年生

留学プログラム（希望者）

卒業研究・卒業活動

卒業後の予想進路

公務員（国家・地方）
中学校・高等学校理科教諭
自然史博物館学芸員
環境系技術者・調査員・研究者
環境コンサルタント
応用化学系バイオ系研究者
エネルギー系研究・技術者
環境ビジネス企業
SDGs 推進企業
自然ツーリスト
大学院進学

教　職　課　程 → 中学校教諭一種免許（理科）
高等学校教諭一種免許（理科）

受験生対象入学意向アンケート調査　過去の結果と開設初年度の定員充足状況

①過年度調査

学部・学科	入学定員	学位分野	開設年度	回答高校	回答者数	受験する※	入学したい	入学意向／回答者	初年度実受験者数	初年度入学者数	初年度超過率
建築学部建築学科	45	工学関係	令和2年度	69校	5,822	958	113	**1.94%**	**320**	**56**	1.24
建築学部景観建築学科	40	工学関係	令和2年度				73	**1.25%**	**120**	**42**	1.05
食物栄養科学部食物栄養学科	200	家政関係	令和2年度				328	**5.63%**	**856**	**200**	1.00
食物栄養科学部食創造科学科	80	家政関係	令和2年度				117	**2.01%**	**156**	**61**	0.76
社会情報学部社会情報学科	180	工学関係	令和5年度	90校	10,105	2059	305	**3.02%**	**610**	**185**	1.02

※「受験したい」と回答した者の数は、当該学部ではなく、武庫川女子大学全体の受験希望者。

②今回調査

学部・学科	入学定員	学位分野	開設年度	回答高校	回答者数	受験する	入学したい	入学意向／回答者
環境共生学部環境共生学科	120	工学関係	令和7年度	50校	5,955	144	131	**2.20%**
生活環境学部生活環境学科	195	工学関係 家政関係	令和7年度			248	234	**3.93%**

武庫川女子大学

2025年度構想についての人材需要アンケート調査

「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」
「生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）」
に係る人材需要アンケート調査

報告書

令和6年2月
株式会社高等教育総合研究所

目　　次

１．　人材需要アンケート調査　概要　3

２．　人材需要アンケート調査　集計結果　4

３．　人材需要アンケート調査　結果の要点　9

（添付資料）

人材需要アンケート調査用紙　13

「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」リーフレット　15

「生活環境学部 生活環境学科」リーフレット　18

１．人材需要アンケート調査　概要

調査目的	令和7年(2025年)度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」(入学定員120名)と定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科 」(入学定員165名→195名)における卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」と「生活環境学部 生活環境学科」の卒業後に採用が見込まれる以下の業種・地域の事業所 （業種） 全業種(武庫川女子大学既設学部の採用実績先) （地域） 近畿圏・首都圏に拠点を置く全国の企業・団体 （依頼件数） 1975件
調査内容	・回答事業所の基本情報(業種・所在地・従業員規模) ・「環境共生学部 環境共生学科(仮称)」が養成する人材の社会的ニーズ、採用意向 ・「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材の社会的ニーズ、採用意向
調査時期	令和5年11月～12月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施(紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼)
回収件数	有効回答数416件(回収率21.1%)
調査結果	【環境共生学部 環境共生学科（仮称)】 人材需要:223事業所(53.6%)より採用意向が示された。 採用可能人数:採用の場合の採用可能人数は507名(223事業所)であった。 【生活環境学部 生活環境学科(定員増構想中)】 人材需要:240事業所(57.7%)より採用意向が示された。 採用可能人数:採用の場合の採用可能人数は593名(240事業所)であった。

２．人材需要アンケート調査　集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるもの１つをお答えください。（最もあてはまるもの 1 つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	農業、林業	1	0.2%
2	漁業	0	0.0%
3	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%
4	建設業	44	10.6%
5	製造業	66	15.9%
6	電気・ガス・熱供給、水道業	2	0.5%
7	情報通信業	9	2.2%
8	運輸業、郵便号	4	1.0%
9	卸売業、小売業	98	23.6%
10	金融業、保険業	20	4.8%
11	不動産業、物品賃貸業	14	3.4%
12	学術研究､専門・技術サービス業	4	1.0%
13	宿泊業、飲食サービス業	23	5.5%
14	生活関連サービス業、娯楽業	8	1.9%
15	教育、学習支援業	10	2.4%
16	医療、福祉	65	15.6%
17	複合サービス事業	3	0.7%
18	その他サービス	25	6.0%
19	公務	13	3.1%
20	その他	6	1.4%
	（無回答）	1	0.2%
合計		416	100.0%

問２ 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

	選択肢	件数	構成比
1	北海道	0	0.0%
2	青森県	0	0.0%
3	岩手県	0	0.0%
4	宮城県	0	0.0%
5	秋田県	0	0.0%
6	山形県	0	0.0%
7	福島県	0	0.0%
8	茨城県	0	0.0%
9	栃木県	1	0.2%
10	群馬県	2	0.5%
11	埼玉県	5	1.2%
12	千葉県	3	0.7%
13	東京都	85	20.4%
14	神奈川県	5	1.2%
15	新潟県	0	0.0%
16	富山県	2	0.5%
17	石川県	3	0.7%
18	福井県	1	0.2%
19	山梨県	0	0.0%
20	長野県	2	0.5%
21	岐阜県	1	0.2%
22	静岡県	5	1.2%
23	愛知県	4	1.0%
24	三重県	0	0.0%
25	滋賀県	2	0.5%
26	京都府	11	2.6%
27	大阪府	116	27.9%
28	兵庫県	75	18.0%
29	奈良県	5	1.2%
30	和歌山県	3	0.7%
31	鳥取県	2	0.5%
32	島根県	0	0.0%
33	岡山県	9	2.2%
34	広島県	12	2.9%
35	山口県	3	0.7%
36	徳島県	4	1.0%
37	香川県	2	0.5%
38	愛媛県	7	1.7%
39	高知県	0	0.0%
40	福岡県	3	0.7%
41	佐賀県	0	0.0%
42	長崎県	0	0.0%
43	熊本県	1	0.2%
44	大分県	0	0.0%
45	宮崎県	0	0.0%
46	鹿児島県	2	0.5%
47	沖縄県	1	0.2%
	（無回答）	39	9.4%
合計		416	100.0%

問３ 貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	～19人	0	0.0%
2	20～49人	9	2.2%
3	50～99人	10	2.4%
4	100～299人	111	26.7%
5	300～999人	130	31.3%
6	1,000～2,999人	93	22.4%
7	3,000～9,999人	41	9.9%
8	10,000人～	22	5.3%
	（無回答）	0	0.0%
合計		416	100.0%

問４以降は、武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットをご覧の上、お答えください。

問４ 武庫川女子大学が2025年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	ニーズは極めて高い	103	24.8%
2	ニーズはある程度高い	234	56.3%
3	ニーズはあまり高くない	24	5.8%
4	ニーズは高くない	13	3.1%
5	わからない	29	7.0%
	（無回答）	13	3.1%
合計		416	100.0%

問５ 武庫川女子大学が2025年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	採用したい	223	53.6%
2	採用しない	36	8.7%
3	わからない	157	37.7%
	（無回答）	0	0.0%
合計		416	100.0%

問６【問５で「採用したい」と回答された場合にお答えください】武庫川女子大学が2025年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称）」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	１名	92	41.3%
2	２名	61	27.4%
3	３名	20	9.0%
4	４名	4	1.8%
5	５名	17	7.6%
6	６名以上	20	9.0%
	（無回答）	9	4.0%
合計		223	100.0%

問７ 武庫川女子大学が2025年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	ニーズは極めて高い	118	28.4%
2	ニーズはある程度高い	225	54.1%
3	ニーズはあまり高くない	18	4.3%
4	ニーズは高くない	13	3.1%
5	わからない	42	10.1%
	（無回答）	0	0.0%
合計		416	100.0%

問８ 武庫川女子大学が2025年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	採用したい	240	57.7%
2	採用しない	39	9.4%
3	わからない	137	32.9%
	（無回答）	0	0.0%
合計		416	100.0%

問９【問８で「採用したい」と回答された場合にお答えください】武庫川女子大学が2025年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢		件数	構成比
1	１名	94	39.2%
2	２名	61	25.4%
3	３名	39	16.3%
4	４名	4	1.7%
5	５名	20	8.3%
6	６名以上	22	9.2%
	（無回答）	0	0.0%
合計		240	100.0%

問10 武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」「生活環境学部 生活環境学科」について期待される点、ご要望等がありましたらご自由にご記入ください。（特定学部・学科についてのコメントの場合、最初に学部・学科名をご記入ください）

※全37事業所から回答

両者において生活環境ニおけるニーズの汲み取りや課題解決等が育成されるのではないかと思いました。是非学生様にその力を発揮していただきたく存じます。
弊社は関東・中部・関西で２０代をターゲットに婦人服の企画生産販売をしている会社です。生活環境学科の衣環境アパレルs領域の学生さんの成長を手助けを出来ると考えます。
どちらの学科も現時点で当社に必要な人材を育成するかというところではわかりませんが、世の中的には今後必要な分野であると思います。また当社も将来的には考えてい必要がある分野だと感じました。
学問を通じて社会人に向けての人間力が培っていただければと期待します。
広い意味で関連してくると思われるが、わからないことが多い
この度は書類をご送付いただき誠にありがとうございます。通年採用活動をしておりますので、希望される方がいましたらお問合せくださいませ。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。
我々の様な「不動産管理」を事業とする会社にとって、「生活環境学部 生活環境学科」で建築（主に住空間）を学んでいる学生は非常に魅力的に映ります。 オフィスビル、商業施設、病院、大学、ホテル等、様々な用途の建物において、建物利用者のニーズは多種多様です。建築物は建てて終わりではありません。 設計・施工段階では想定されていなかったニーズが、竣工後建物運用段階で出てくる事も多いです。 そのような状況で臨機応変に建物利用者のニーズをくみ取り、各種制約がある中で、どう対応すべきか、どのような対策が打てるか、考え続けられる人材育成を期待します。

弊社も是非ご検討ください。 今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。
学科での実施している事項ももちろん大切ですが、各個人の考えやどんな人材になりたいか（なりたい姿）を持っているのかを重視しています。そのため、各学部や学科についての期待値はわからないとご回答ささていただきました。
今後の日本における少子高齢化に伴う生活環境の変化、環境保全に関わる重要な分野であると感じております。 設置とともに卒後の多方面でのご活躍を心待ちにしております。
学部学科の講義での学びだけでなく、学生生活の中で社会人に必要な基本的な礼儀や挨拶・コミュニケーション能力も学んで身につけていただきたいと思っております。
いつも大変お世話になっております。 当社は委託給食の事業において、全国約2,383カ所の事業所（食堂）を企画・運営しており、お客様に“食”を通じて「元気の源」をお届けしています。 採用につきましては、4年制全学部学科を対象に総合職の採用を行っております。 （食物栄養学部 /食物栄養学科・食創造学科） また、専門職として、管理栄養士職・栄養士職の採用を行っております。 今後も御校の学生様と多くの御縁があればと思っております。 今後とも何卒、よろしくお願いいたします。
弊社では取得資格、取得単位にかかわらず募集をしております。ものづくり、製造にかかわるエンジニアの育成を行っておりますので少しでもものづくりなどに関わる勉強をされた学生様にはぜひとも弊社にてご活躍いただきたいと考えております。もちろんまったく関係のない学科の学生様からのご応募もお待ちしております。
「環境共生学部 環境共生学科」は、弊社のような食品製造メーカーにとっては、取り組むべき環境問題についてを学ばれるので、最先端技術等の会社での展開を期待します。
昨年度は弊社の採用活動にご協力いただきましてありがとうございました。 24,25年卒も勢力的に活動を行っていきますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。
環境とドラッグストアは直接的に関係がないように思う方も多いと思うのですが、生活においてどちらもなくてはならないものだと考えています。 専門的に学ばれた方より知識を共有していただくことにより、今後の社会活動の先端を担うことができるのではないかと思います。
生活環境学科についてですが、ライフスタイル向上の意識が高い方が増えてきているため、社会に対しての必要性や将来性があると感じました。
生活環境学部　生活環境学科 建築デザインを学ぶ学生様は設計職を志望いただくことが多いのですが、実際の建物の収まりや構造などを理解いただいたうえで設計職につくというキャリアステップについても学生様へご周知いただけますと、より採用において良いご縁になることが増えるかと存じます。 何卒よろしくお願いいたします。
引き続きSDGs等グローバルな視野をお持ちの学生様への教育をよろしくお願いいたします。
弊社インターシップに参加してくれている学生は、積極的に参加してくださり大変嬉しいです。今後ともインターシップや学内セミナー等、何卒よろしくお願いいたします。
SDGｓの観点から多種多様な企業からのオファーが考えられるので、学部学科としても強化することは、学校としての強みに繋がっていくと思われます。
平素より大変お世話になっております。 弊社は小売からくらしを豊かにしていく事業を展開しておりますので、特に生活環境学科の学生さんには期待しております。 引き続き、何卒、よろしくお願いいたします。
自社が今後どう環境保全に寄与していくか、そうのような課題を考え解決していく人材が必要になっていくと考えております
貴校の取組について、スーパーのインスタントスープの売り場で初めて目にしました。女性には嬉しい商品で思わず手に取ってしまいました。味覚ともに栄養もとれる嬉しい商品で、ファンになりました。是非今後も身近なところで、社会の栄養となっていただきたく応援しております。
個性は非常に良く、独創的な思想ができる点は評価は高いですが、挨拶ができない、お礼が言えない等、社会的マナーが乏しい点が多々見受けられます。在学中にトータルマナーなどの授業を検討していただけると、企業側として幸いでございます。
両学部生の方ともぜひ採用させていただけたらと存じますが、具体的な人数についてはお答えできず申し訳ございません。
両学科とも、ニーズは高くないかもしれませんが、SDGsに関しては会社として強化したい点ではあります。弊社は食品卸業ですので、食に関するカリキュラムがあれば弊社として需要は十分にあるかと思います。
上記学部に限らず、学内での、説明会等ございましたらご案内頂けますと幸いです。 引き続きよろしくお願いいたします。
自然と地球に対しての取り組みが、これからの会社に何らかの取り組みで発揮していただけたらと、前向きな検討とさせていただきたいです。 アップサイクルだけではなく、根本的な、自然と地球のための取り組みに興味があります。 ぜひ、たくさんの知識を持った学生様に興味を持ってもらえる会社にしていきたいと思う所存です。
どちらの部も、これからの時代に切り離すことができない環境問題について学部方ができ、仕事をしていく中で知識を活かせるの人物が育成されるのは魅力だと思いました。
店舗内装業界に属しており、現在、生活環境学部をご卒業の方も当社でご活躍いただいております。また、例年当社へのエントリー及び選考に進んでいただく方も多くいらっしゃいますので、今後も良い出会いがあることを願っております。今後ともよろしくお願いいたします。
特に学部の指定はありませんので、優秀な学生は何人でも採用したい
当社は印刷会社であるが、顧客の環境に対する関心の高まりを受けて環境配慮型印刷を推進しており、各種の外部認証を取得している。その上で顧客のカタログやパンフレットに環境に配慮した印刷物であることをアピールするための外部認証マークを入れることを推奨しているが、今回同封してあった学部のパンフレットにはその類の表記が無く残念に思った。
特にございません。
第1次、2次産業への学びも取り入れられる事に期待しています。
弊社の事業内容では生活環境学部の専攻内容が非常に近しい分野になります。活躍の範囲も広い内容だと考えますので、今後も専門知識を有する学生様を育成いただけますと幸いです。
環境共生はこれからの時代、大切な事だと考えていますので、ぜひ進めて頂けたらと思います。当社での取組はまだまだ浅く、具体的なニーズはこれからと感じています。

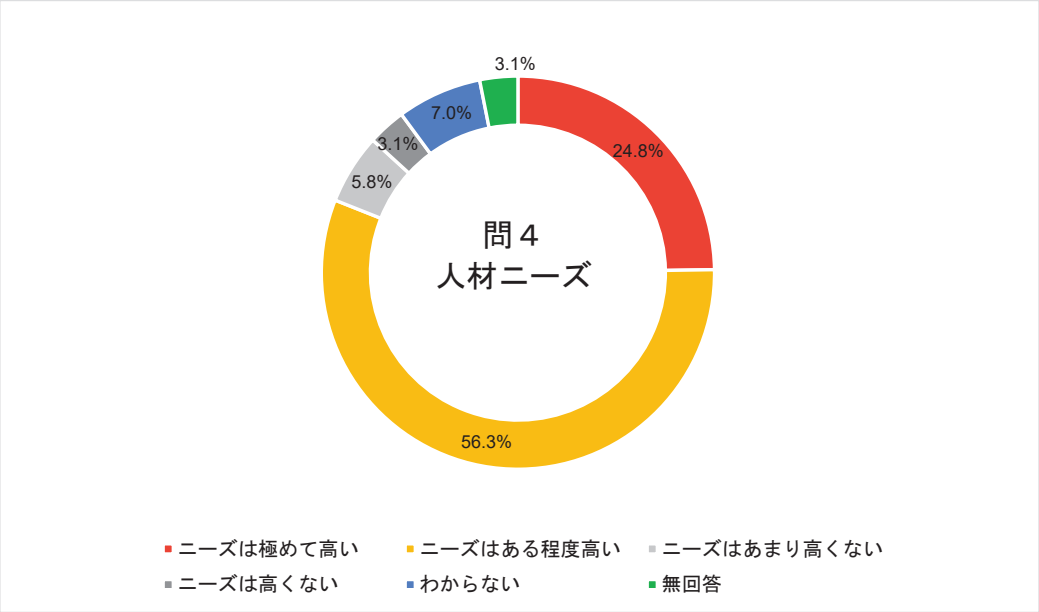
３．人材需要アンケート調査　結果の要点

要点１）武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）で養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の81.0%にあたる337事業所から「武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」で養成する人材のニーズは高い」との回答を得た（問４）。
同学科の養成人材像が、事業者から高い評価を得ていることが示された。

問４［環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）で養成する人材の社会的ニーズ］

人材ニーズは極めて高い・ある程度高い	337 事業所	81.0%
人材ニーズはあまり高くない・高くない・わからない・無回答	79 事業所	19.0%
合計	416 事業所	100.0%



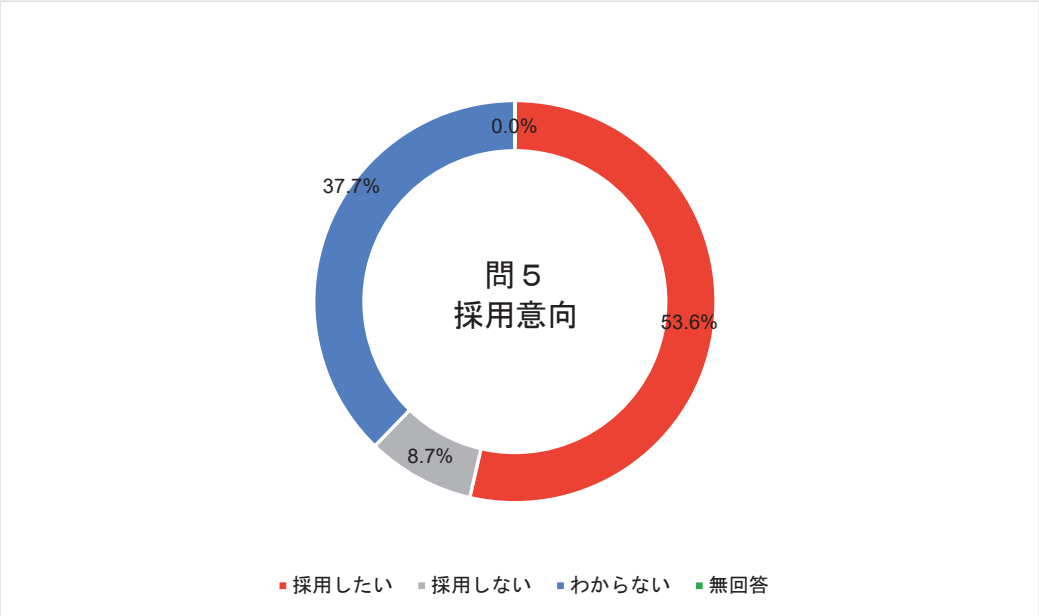
要点２）武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）の卒業生の人材需要

調査を行った事業所の53.6%にあたる223事業所から「武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）」の卒業予定者の人材需要が示された。
また、その223事業所における採用可能人数の合計は、入学定員の120名を上回る507名であった。

問５［ 環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中）の卒業生の人材需要］

採用したい	223 事業所	53.6%
採用しない・わからない・無回答	193 事業所	46.4%
合計	416 事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	507 名	－

※ 6名以上の回答は10名が3事業所
無記入のため6名扱いが17事業所

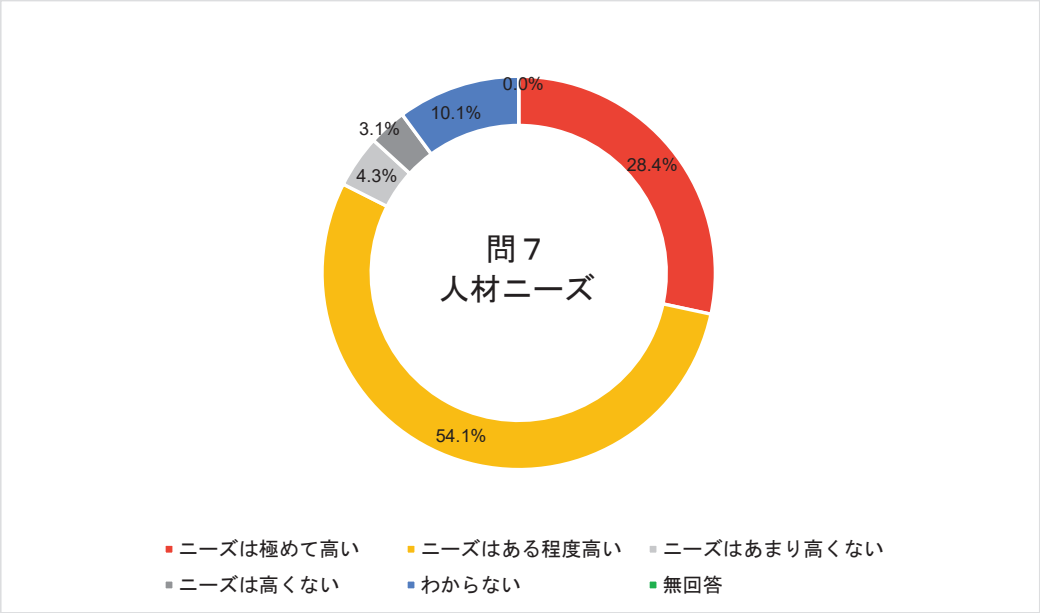


要点３）武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）で養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の82.5%にあたる343事業所から「武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）」で養成する人材のニーズは高い」との回答を得た（問７）。
同学科の養成人材像が、事業者から高い評価を得ていることが示された。

問７［生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）で養成する人材の社会的ニーズ］

人材ニーズは極めて高い・ある程度高い	343 事業所	82.5%
人材ニーズはあまり高くない・高くない・わからない・無回答	73 事業所	17.5%
合計	416 事業所	100.0%



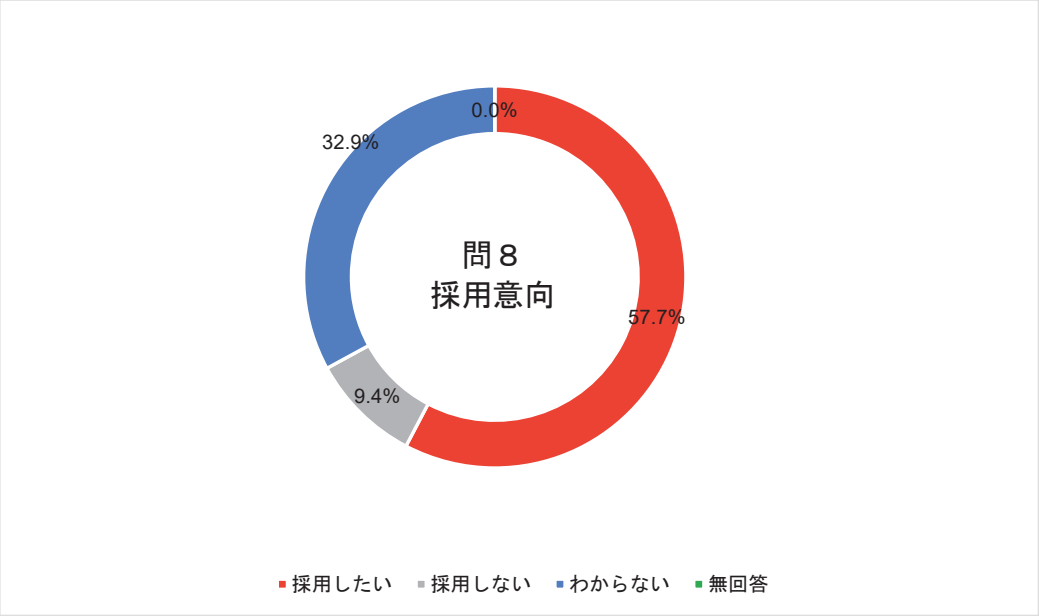
要点４）［武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）の卒業生の人材需要

調査を行った事業所の57.7%にあたる240事業所から「武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）」の卒業予定者の人材需要が示された。
また、その240事業所における採用可能人数の合計は、入学定員の195名を上回る593名であった。

問８［生活環境学部 生活環境学科（定員増構想中）の卒業生の人材需要］

採用したい	240 事業所	57.7%
採用しない・わからない・無回答	176 事業所	42.3%
合計	416 事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	593 名	－

※ 6名以上の回答は10名が3事業所
無記入のため6名扱いが19事業所



武庫川女子大学　2025 年度構想についての人材需要アンケート調査

対象：人事・採用ご担当者様

環境共生学部 環境共生学科

（仮称・設置構想中）

新設【120 名定員】

自然と地球が抱える問題に、
立ち向かう女性になる！

キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生

リーフレットはこちら！⇒



生活環境学部 生活環境学科

定員増【165 名→195 名】

暮らしの変化を視野に入れ
未来の暮らしを創造する女性になる！

キーワード：生活文化・衣生活・住環境

リーフレットはこちら！⇒



武庫川女子大学はこのアンケート調査を通して、将来２学科の卒業生の採用をご検討いただく皆様からのご回答を参考に、計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は武庫川女子大学の 2025 年度構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は武庫川女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケートに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

正しい回答　誤った回答

記入例を参考に、黒の鉛筆または黒のシャープペンシルでマークをしてください。

問１　貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるもの１つをお答えください。（最もあてはまるもの１つにマーク）

1. 農業、林業	2. 漁業	3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業	5. 製造業	6. 電気・ガス・熱供給、水道業
7. 情報通信業	8. 運輸業、郵便号	9. 卸売業、小売業
10. 金融業、保険業	11. 不動産業、物品賃貸業	12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業	14. 生活関連サービス業、娯楽業	15. 教育、学習支援業
16. 医療、福祉	17. 複合サービス事業	18. その他サービス
19. 公務	20. その他（　　）	

問２　貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

1.北海道	2.青森県	3.岩手県	4.宮城県	5.秋田県	6.山形県
7.福島県	8.茨城県	9.栃木県	10.群馬県	11.埼玉県	12.千葉県
13.東京都	14.神奈川県	15.新潟県	16.富山県	17.石川県	18.福井県
19.山梨県	20.長野県	21.岐阜県	22.静岡県	23.愛知県	24.三重県
25.滋賀県	26.京都府	27.大阪府	28.兵庫県	29.奈良県	30.和歌山県
31.鳥取県	32.島根県	33.岡山県	34.広島県	35.山口県	36.徳島県
37.香川県	38.愛媛県	39.高知県	40.福岡県	41.佐賀県	42.長崎県
43.熊本県	44.大分県	45.宮崎県	46.鹿児島県	47.沖縄県	

問３　貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

1. ～19 人	2. 20～49 人	3. 50～99 人
4. 100～299 人	5. 300～999 人	6. 1,000～2,999 人
7. 3,000～9,999 人	8. 10,000 人～	

つづいて裏面の設問にお答えください。

以降は武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットをご覧の上、お答えください。

【環境共生学部 環境共生学科(仮称)について】 リーフレットはこちら！⇒



問４　武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. ニーズは極めて高い　0 2. ニーズはある程度高い　0 3. ニーズはあまり高くない
0 4. ニーズは高くない　0 5. わからない

問５　武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. 採用したい　0 2. 採用しない　0 3. わからない

問６（問５で「採用したい」と回答された場合にお答えください）武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. １名　0 2. ２名　0 3. ３名
0 4. ４名　0 5. ５名　0 6. ６名以上（人数　　）

【生活環境学部 生活環境学科について】 リーフレットはこちら！⇒



問７　武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. ニーズは極めて高い　0 2. ニーズはある程度高い　0 3. ニーズはあまり高くない
0 4. ニーズは高くない　0 5. わからない

問８　武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. 採用したい　0 2. 採用しない　0 3. わからない

問９（問８で「採用したい」と回答された場合にお答えください）武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. １名　0 2. ２名　0 3. ３名
0 4. ４名　0 5. ５名　0 6. ６名以上（人数　　）

問 10　武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。(特定学部・学科についてのコメントの場合、最初に学部・学科名をご記入ください)

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

環境共生学部　環境共生学科（仮称・設置構想中）

設置概要

学部・学科名	環境共生学部　環境共生学科	学位	学士（環境共生学）
入学定員	120名	開設場所	浜甲子園キャンパス（兵庫県西宮市）
修業年限	4年	初年度納付金※1	1,600,000円
開設時期	2025年4月 予定		
近隣の競合する大学・学部（初年度納付金）	関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科（1,753,000円）※2 関西大学 環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科（1,753,000円）※2 関西学院大学 生命環境学部 生物科学科（1,727,000円）※2 近畿大学 農学部 応用生命化学科（1,712,000円）※3 大阪工業大学 工学部 環境工学科（1,640,000円）※3 甲南大学 理工学部 生物学科（1,571,000円）※3		

※1 現時点での予定であり、今後変更になることがあります。初年度納付金には、入学金（20万円）、授業料（110万円）、教育充実費（30万円）を含みます。（2025年度入学者対象）
※2 2023年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）
※3 2024年度入学者対象（各大学HPより。詳しくは各大学にお問合せください）

アドミッション・ポリシー

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科は、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシーを理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシーに則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受け入れます。

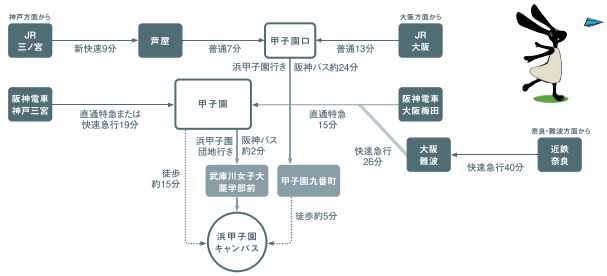
知識　社会を理解し、環境共生学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。具体的には自然科学に基づく生物学や化学などの理解力、様々な事象を定量的・確率的に表す数学的能力、国語や英語によるコミュニケーションおよび論理的思考の基本となる能力を有している。

姿勢　自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦する姿勢を有している。異なる学問分野の考え方を組み合わせるなどの柔軟な思考力や、自身の興味がある分野の高い専門性と技術を身につけて、自然環境の利用や保全に関する計画・デザインを行うことで、持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲を有している。

行動　自ら考えて表現すること、多様な人々と協働することへの意欲を有している。社会が抱える環境問題などの課題に目を向け、課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲を有している。

交通アクセス

武庫川女子大学 浜甲子園キャンパスへは、阪神電車・JRのご利用が便利です。
大阪難波と阪神尼崎を結ぶ「阪神なんば線」は、近鉄電車と相互乗り入れをしているため、奈良や大阪東部から乗り換え無しで通学できます。
※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。





武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス　文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス　薬学部、薬学研究科
上甲子園キャンパス　建築学部、建築学研究科

●お問い合わせ
入試センター　〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500　FAX. 0798-45-3563
テレフォンサービス（24時間）入試情報　TEL. 0798-45-8888　https://www.mukogawa-u.ac.jp/

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性（ひと）になる！

身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今、様々な環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育てるために、
武庫川女子大学に「環境共生学部 環境共生学科」が誕生します。アクティブな学びを楽しみながら、未来の地球にできることを探してみませんか？

現代社会の抱える問題とは？

気候の変動、海洋や大気の汚染、それらに起因する生物多様性の減少。現代は世界的に数多くの環境問題が浮き彫りとなり、社会からの関心も高まっています。さらに、急速に発展するデータサイエンス分野やグリーン（エネルギー・環境）分野への対応も必要となる今、理工系人材が圧倒的に不足しているのです。中でもグリーン分野を牽引できる女性人材の育成は、未来への急務と言われています。

環境共生学科が目指す未来

これらの問題に挑むには、専門知識だけでなく、自ら解決策を生み出し、社会で実行できる能力が必要です。そこで環境共生学科では、学生自身が自然のフィールドや環境保全施設などを巡り、課題をリサーチ。その発見に基づき、実践的な学びの中で解決と情報更新を重ねながら、複雑な環境問題に挑める力を養います。だからこそ環境系技術者、研究者、環境ビジネス従事者など、多彩な活躍分野が広がるのです。

学科の特長

冒険、発見、学び、発信

What's 環境共生学科？
～学びの特徴と魅力～

周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。

4年間の学びのイメージ

1年次（前期）　冒険

フィールド・環境施設実習
- フィールド・環境施設見学で環境問題を知り、興味分野を探します。
- 課題を発見！グループワークで解決策を模索します。

1年次（後期）～2年次～3年次　発見　学び

実践型社会連携プロジェクト
- フィールド・環境施設見学で発見した課題の解決に、グループワークで挑みます。
- 企業や環境活動団体の協力を受けながら、課題解決実行力を養います。

選択科目群
- プロジェクトを進めながら、深く追究したい知識を3つの科目群から選んで習得。
  - ❶環境保全系科目群（環境を管理する）…野生生物管理工学など
  - ❷環境資源応用系科目群（環境を利用する）…バイオマスエネルギー学（微細藻類を利用した燃料生産など）など
  - ❸環境共生系科目群（環境を知り、知らせる）…環境教育論など

ラボローテーション実習
- 様々な研究室を巡って技術を研修。専門分野以外の対応力も幅広く養います。

留学プログラム
- 海外の環境問題に触れ、将来に役立つ広い視野を育てます。

～4年次　発信

卒業研究・卒業活動
- これまでの学びや経験をもとに、取り組みたいテーマを追究。
- その成果を卒業研究・卒業活動で発表します。

KEYWORDS

マイクロプラスティック / 環境修復 / クリーンエネルギー / バイオマス燃料 / グリーンインフラ / サステナビリティ / 生態系 / エコ防災・減災 / カーボンニュートラル / 生物多様性 / 環境DNA

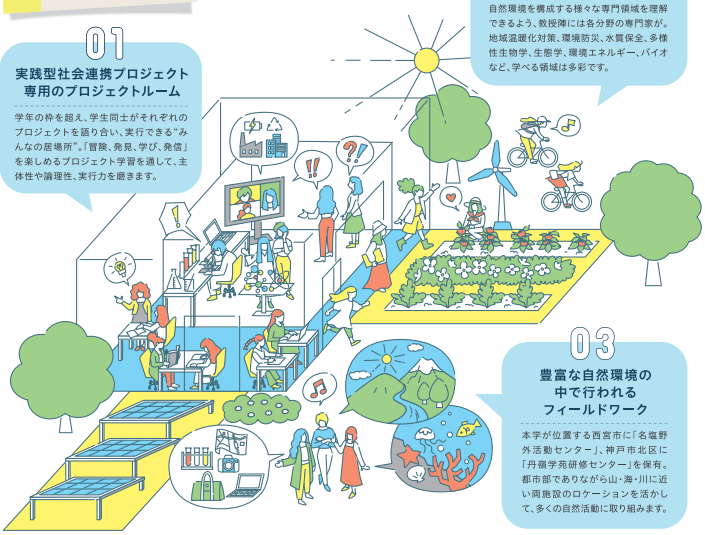
学びの環境

01 実践型社会連携プロジェクト専用のプロジェクトルーム

学年の枠を超え、学生同士がそれぞれのプロジェクトを語り合い、実行できる"みんなの居場所"。「冒険、発見、学び、発信」を楽しめるプロジェクト学習を通して、主体性や論理性、実行力を磨きます。

02 様々な環境分野をカバーする教授陣

自然環境を構成する様々な専門領域を理解できるよう、教授陣には各分野の専門家が。地域温暖化対策、環境防災、水質保全、多様性生物学、生態学、環境エネルギー、バイオなど、学べる領域は多彩です。



03 豊富な自然環境の中で行われるフィールドワーク

本学が位置する西宮市に「名塩野外活動センター」、神戸市北区に「丹嶺学苑研修センター」を保有。都市部でありながら山・海・川に近い両施設のロケーションを活かして、多くの自然活動に取り組みます。

取得可能な資格・免許（予定）

- 中学校教諭一種（理科）
- 高等学校教諭一種（理科）
- 学芸員
- 危険物取扱者（甲種）

予想される卒業後の進路

- 環境系技術者・調査員・研究者
- 環境・サステナビリティコンサルタント
- 応用化学系・バイオ系研究・技術者
- エネルギー系研究・技術者
- 環境ビジネス従事者
- 企業でのSDGs推進担当
- 自然ツーリスト
- 自然史博物館学芸員
- 公務員（国家、地方）
- 大学院進学［大学院開設計画中］
- 中学校・高校教員（理科）

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

環境共生学部　環境共生学科（仮称）　2025年（令和7年）開設予定 入学定員120名　学年別カリキュラム体系

1年生

環境問題を知り、興味のある分野を探そう！



自然環境問題に気づくための科目群

・フィールド・環境施設実習
・環境共生学入門
・SDGs論

専門導入科目群

・環境問題概論
・地球科学
・生態学

2年生

プロジェクト・コミュニケーションプログラム

実践型社会連携プロジェクト

PBL
(Project Based Learning)

課題解決学習で実践を積み実行力を養う。

プロジェクト具体例

●プラスチック汚染
●藻類バイオマス
●環境修復と適応

3年生

環境保全系

ー自然をきれいに保とう！ー



●環境情報工学
●野生生物管理工学
●環境イメージング技術

環境資源応用系

ー自然の物質と現象を利用しよう！ー



●バイオマスエネルギー学
●資源循環工学
●バイオテクノロジーⅠ～Ⅲ

環境共生系

ー自然の豊かさを守り、次世代へ伝えよう！ー



●環境教育論
●エコツーリズム論
●環境政策論

基礎実験・ラボローテーション実習

環境技術実験

4年生

留学プログラム（希望者）

卒業研究・卒業活動

卒業後の予想進路

公務員（国家・地方）
中学校・高等学校理科教諭
自然史博物館学芸員
環境系技術者・調査員・研究者
環境コンサルタント
応用化学系バイオ系研究者
エネルギー系研究・技術者
環境ビジネス企業
SDGs 推進企業
自然ツーリスト
大学院進学

教　職　課　程 → 中学校教諭一種免許（理科）
高等学校教諭一種免許（理科）

17

生活環境学部　生活環境学科

歴史紹介

私立大学で最も歴史のある「生活環境学科」。
ルーツとなる学科が誕生したのは大学開設の1949年。
1994年には全国の私立大学初の生活環境学科として設置され、2024年に30周年を迎えます。
伝統と実績を有する学科だけに社会からの信頼も抜群！
高い就職率がその証明です。

- 学科設立からの年数…29年
- 累計卒業者数…約6,000人（前身学科含む）
- 2022年度就職率…98.9%（就職者／就職希望者）
- 専任教員数…21名（教授10名、准教授11名）

※すべて2023年4月現在

学部・学科概要

名　　称	生活環境学部　生活環境学科
入学定員※1	195名※1
修業年限	4年
授与する学位	学士（生活環境学）
初年度納付金	1,445,000円※2 （入学金20万円、授業料99.5万円、教育充実費25万円）
近隣の競合する大学・学部学科	●京都女子大学 家政学部 生活造形学科 ●同志社女子大学 生活科学部 人間生活学科 ●甲南女子大学 人間科学部 生活環境学科 ●神戸女子大学 家政学部 家政学科 ●奈良女子大学 生活環境学部 文化情報学科 ●関西学院大学 建築学部 建築学科 ●関西大学 環境都市工学部 建築学科 ●近畿大学 建築学部 建築学科

※1　2025年4月から定員変更（165人→195人）構想中
※2　2024年度入学生対象の額であり、今後変更となる可能性があります。

アドミッション・ポリシー

衣服・雑貨・家具・インテリア・住居・建築・まち・都市などに興味のある人、未来に夢のある人、
暮らしに関心のある人、人に関することが好きな人…、そんな人を求めます。



01　好奇心が旺盛
文理を問わず幅広い科目に興味があり、高校で磨いた知識を社会で活躍できる専門力や実践力に高めたい人

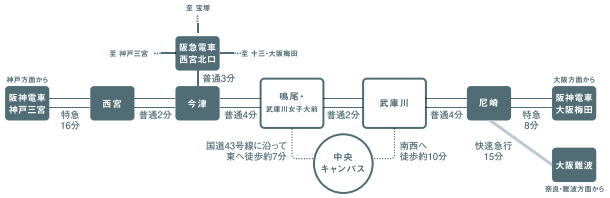
02　考える力が豊か
分析・考察・創造など、さまざまなアプローチから生活環境に関する学びを楽しみたい人

03　社会貢献が目標
社会のさまざまな課題を自ら発見でき、その解決を通して人や社会に貢献したい人

04　向上心がある
仲間と協力して何かを成し遂げたい人や、人生を通して学びや挑戦を続けたい人

交通アクセス

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。
阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。
※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス　生活環境学部、文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス　薬学部、薬学研究科
上甲子園キャンパス　建築学部、建築学研究科

●お問い合わせ
入試センター　〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500　FAX. 0798-45-3563
テレフォンサービス（24時間）入試情報　TEL. 0798-45-8888　https://www.mukogawa-u.ac.jp/

2025年4月、
未来の暮らしを創造する
生活環境学科はさらに充実し、定員を増やします



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

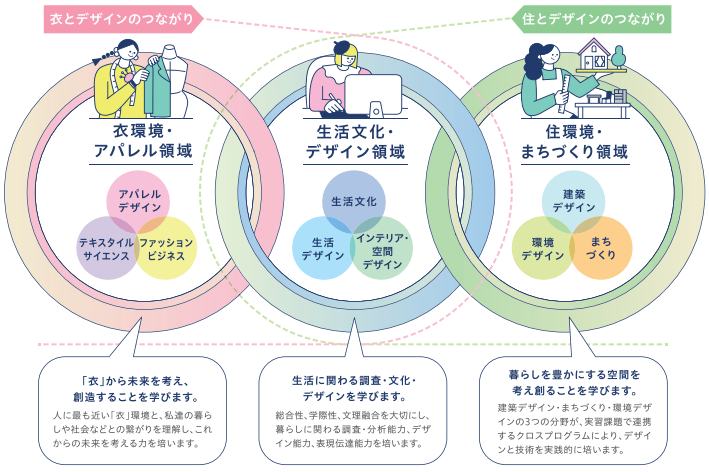
未来の暮らしを創造する 生活環境学科へ

学科の理念と養成する人材像

本学の生活環境学科は、歴史ある学科として多くの人材を社会に送りだしています。その間、日本は人口増加とともに豊かな暮らしを実現してきました。しかし、いま少子高齢化が進み、社会のデジタル化・SDGs・地球環境への配慮など社会課題が山積する時代を迎えています。高校生の皆さんが活躍される未来においても、この傾向は続きます。このような**暮らしの変化を視野に入れて、本学科は未来の暮らしを創造する学科へと、学びの方向を一層明確にし、充実させます。**生活環境は**衣服・雑貨・家具・インテリア・住居・建築・まち・都市**からとらえることができます。これらを幅広く学び、豊かな暮らしを創造できるように、**未来の社会を見通す視点**、社会の価値を見失わない**歴史的・文化的視点**、そしてこれらを統合する**デザイン的視点**を重視します。具体的には、3領域（下の図参照）について**文理の枠を越えて実践的な学びの場**を設けます。一層充実した学びの場から、**豊かな人間性・専門性・想像力を備えた人**を社会に送り出すために、入学定員の増強を図ります。

さらに充実する学科の特徴は？

- **未来志向**
  現在・歴史をふまえ、未来への構想力を養います。
- **実体験を重視した学び**
  実際の物を作る実習、実験住宅での学びなど、実体験に即した学びを重視しています。
- **卒業研究・卒業制作**
  すべての学生は、学びの総括として研究・制作に取り組みます。
- **暮らし目線**
  利用者・生活者によりそった、暮らし目線で考えます。
- **横断的な学び**
  文系・理系に加え、造形系・デザイン系などを横断的に学びます。
- **少人数ゼミ**
  多様な興味や特性に即して指導を受けられます。
- **デザイン思考**
  デザイン実習などを通じて、創造的な問題解決力を養います。
- **地域に開かれた学び**
  フィールドワークやワークショップなど、地域へはたらきかける実践的学びを重視しています。
- **海外研修**
  ヨーロッパやアメリカでの研修を通じて、多様な文化に触れ、より広い視野を身につけます。



「衣」から未来を考え、創造することを学びます。
人に最も近い「衣」環境と、私達の暮らしや社会などとの繋がりを理解し、これからの未来を考える力を培います。

生活に関わる調査・文化・デザインを学びます。
総合性、学際性、文理融合を大切にし、暮らしに関わる調査・分析能力、デザイン能力、表現伝達能力を培います。

暮らしを豊かにする空間を考え創ることを学びます。
建築デザイン・まちづくり・環境デザインの3つの分野が、実習課題で連携するクロスプログラムにより、デザインと技術を実践的に培います。

活躍が期待される進路

- ファッション業界
- アパレル産業
- 繊維産業
- インテリア産業
- 設計事務所
- 企画・デザイン事務所
- 不動産業
- 住宅産業
- リフォーム産業
- 建設業
- まちづくりコンサルタント
- 出版社
- 教育職
- 研究職
- 学芸員
- 公務員
- 大学院進学

起業し、カフェや事業を経営している人もいます。

4年間の学びの特色とステップ



生活環境の3領域を広く学ぶ
3領域の基礎について広く学習。自分が興味を持てる領域を見定め、後期から専門的な学びへの準備を徐々に進めます。

領域について基礎を学ぶ
1年次後期に選択した領域について幅広く学習。講義、実験、演習、実習を連動させて実践的にスキルアップ。

領域について専門性を高める
3年後期から研究室に所属。卒業研究に向け、少人数のゼミで専門性をさらに高めます。

学びの集大成、そして社会へ、大学院へ
学びの集大成として、少人数ゼミで卒業研究に取り組みます。1年を通じて自ら設定したテーマを追求します。

卒業研究発表会・卒業研究展
学科全体で卒業研究発表会を開催。さらに、パネルや模型などを使い卒業研究を展覧会形式で発表します。コロナ禍前は学外からの見学者も多く集めており、毎年、力作に熱い注目が集まっています。

取得可能な資格・免許（予定）

注：取得可能な資格等は領域によって異なります。

- 1級・2級テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）
- 一級建築士（登録には学部卒業後実務経験2年以上必要）※
- 二級建築士※
- 木造建築士※
- インテリアプランナー※
- 1級建築施工管理技士（学部卒業後実務経験3年以上必要）※
- 2級建築施工管理技士（学部卒業後実務経験1年以上必要）※
- 商業施設士補
- 高等学校教諭一種（家庭）
- 中学校教諭一種（家庭）
- 博物館学芸員
- 学校図書館司書教諭
- 図書館司書

他にも、インテリアコーディネーターや色彩検定など、本学科で学ぶ内容が資格試験受験時に役立つ資格が多数あります。

※受験資格：受験に必要な科目・単位数あり

学びの環境


染色・洗浄系実験室
染色の実験では、天然染料で布を染め、どのような色が現れるか試します。


アパレル生産実習室
縫製工場仕様の設備を用い、大量生産の実習を行います。


制作室
コンピュータグラフィックスや建築設計・アパレル設計用のPCが揃っています。


ユニバーサルデザインラボ
ユニバーサルデザインを学ぶキッチンなどの住宅設備が教室の中にあります。


照明ラボ
照明や内装材を決めてコーディネートし、住宅や店舗の空間を設営します。


工作実習室
材料を加工する機械や工具を使って、ものづくりの工程を学びます。


実体験ラボ
名作家具を継続的にコレクション。見て、触って、使ってインテリアを学びます。


ラウンジ
オンライン授業を受けたり、友達とランチを食べたりして過ごします。

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

武庫川女子大学　2025 年度構想についての人材需要アンケート調査

対象：人事・採用ご担当者様

環境共生学部 環境共生学科
（仮称・設置構想中）

新設【120 名定員】

自然と地球が抱える問題に、
立ち向かう女性になる！

キーワード：環境保全・環境資源応用・環境共生

リーフレットはこちら！⇒



生活環境学部 生活環境学科

定員増【165 名→195 名】

暮らしの変化を視野に入れ
未来の暮らしを創造する女性になる！

キーワード：生活文化・衣生活・住環境

リーフレットはこちら！⇒



武庫川女子大学はこのアンケート調査を通して、将来２学科の卒業生の採用をご検討いただく皆様からのご回答を参考に、計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は武庫川女子大学の 2025 年度構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は武庫川女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケートに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

正しい回答　誤った回答



記入例を参考に、黒の鉛筆または黒のシャープペンシルでマークをしてください。

問１　貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるもの１つをお答えください。（最もあてはまるもの１つにマーク）

0 1. 農業、林業	0 2. 漁業	0 3. 鉱業、採石業、砂利採取業
0 4. 建設業	0 5. 製造業	0 6. 電気・ガス・熱供給、水道業
0 7. 情報通信業	0 8. 運輸業、郵便号	0 9. 卸売業、小売業
0 10. 金融業、保険業	0 11. 不動産業、物品賃貸業	0 12. 学術研究、専門・技術サービス業
0 13. 宿泊業、飲食サービス業	0 14. 生活関連サービス業、娯楽業	0 15. 教育、学習支援業
0 16. 医療、福祉	0 17. 複合サービス事業	0 18. その他サービス
0 19. 公務	0 20. その他（　　）	

問２　貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1.北海道	0 2.青森県	0 3.岩手県	0 4.宮城県	0 5.秋田県	0 6.山形県
0 7.福島県	0 8.茨城県	0 9.栃木県	0 10.群馬県	0 11.埼玉県	0 12.千葉県
0 13.東京都	0 14.神奈川県	0 15.新潟県	0 16.富山県	0 17.石川県	0 18.福井県
0 19.山梨県	0 20.長野県	0 21.岐阜県	0 22.静岡県	0 23.愛知県	0 24.三重県
0 25.滋賀県	0 26.京都府	0 27.大阪府	0 28.兵庫県	0 29.奈良県	0 30.和歌山県
0 31.鳥取県	0 32.島根県	0 33.岡山県	0 34.広島県	0 35.山口県	0 36.徳島県
0 37.香川県	0 38.愛媛県	0 39.高知県	0 40.福岡県	0 41.佐賀県	0 42.長崎県
0 43.熊本県	0 44.大分県	0 45.宮崎県	0 46.鹿児島県	0 47.沖縄県	

問３　貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 1. ～19 人	0 2. 20～49 人	0 3. 50～99 人
0 4. 100～299 人	0 5. 300～999 人	0 6. 1,000～2,999 人
0 7. 3,000～9,999 人	0 8. 10,000 人～	

つづいて裏面の設問にお答えください。

以降は武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」
各リーフレットをご覧の上、お答えください。

【環境共生学部 環境共生学科(仮称)について】 リーフレットはこちら！⇒



問４　武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. ニーズは極めて高い　0 2. ニーズはある程度高い　0 3. ニーズはあまり高くない
0 4. ニーズは高くない　0 5. わからない

問５　武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. 採用したい　0 2. 採用しない　0 3. わからない

問６（問５で「採用したい」と回答された場合にお答えください）武庫川女子大学が 2025 年度に設置構想中の「環境共生学部 環境共生学科（仮称)」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. １名　0 2. ２名　0 3. ３名
0 4. ４名　0 5. ５名　0 6. ６名以上（人数　　）

【生活環境学部 生活環境学科について】 リーフレットはこちら！⇒



問７　武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. ニーズは極めて高い　0 2. ニーズはある程度高い　0 3. ニーズはあまり高くない
0 4. ニーズは高くない　0 5. わからない

問８　武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」」が養成する人材を貴社・貴機関で採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. 採用したい　0 2. 採用しない　0 3. わからない

問９（問８で「採用したい」と回答された場合にお答えください）武庫川女子大学が 2025 年度に定員増構想中の「生活環境学部 生活環境学科」が養成する人材について、よろしければ単年度で採用したいと思われる人数をお答えください。(あてはまるもの１つにマーク)

0 1. １名　0 2. ２名　0 3. ３名
0 4. ４名　0 5. ５名　0 6. ６名以上（人数　　）

問 10　武庫川女子大学「環境共生学部 環境共生学科（仮称・設置構想中)」「生活環境学部 生活環境学科」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。(特定学部・学科についてのコメントの場合、最初に学部・学科名をご記入ください)

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学　　長	ｾｸﾞﾁ　ｶｽﾞﾖｼ 瀬口　和義 ＜平成30年4月＞		理学博士		武庫川女子大学学長 （平30.4～令9.3）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（環境共生学部　環境共生学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基 （主専）	教授 （学部長）	アオノ　ミツコ 青野　光子 ＜令和8年9月＞		博士 （理学）		植物生理学		2後	2	1	国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域 副領域長 （平31.4）	○	○			5日	
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
2	基 （主専）	教授 （学科長）	キマチ　テツタロウ 來海　徹太郎 ＜令和7年4月＞		博士 （薬学）		基礎化学	○	1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 （平14.4）	○	○			5日	
							エコツーリズム実習　※		1通	0.4	1							
							合成化学		1後	2	1							
							環境生物有機化学	○	2前	2	1							
							基礎実験　※	○	1後	1.5	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
3	基 （主専）	教授	アイカワ　マサヒデ 藍川　昌秀 ＜令和7年4月＞		博士 （工学） 博士 （農学）		環境問題概論	○	1前	2	1	北九州市立大学 国際環境工学部 教授 （平28.4）	○				5日	
							地球科学		1後	2	1							
							環境情報工学	○	2後	2	1							
							フィールド・環境施設実習　※	○	1前	1.4	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
4	基 （主専）	教授	クノウ　タツキ 久能　樹 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		初期演習Ⅰ	○	1前	1	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 招聘研究員 （令5.4）	○				5日	
							初期演習Ⅱ（環境共生学）	○	1後	1	1							
							環境微生物学		2前	2	1							
							環境レメディエーション工学	○	2前	2	1							
							バイオテクノロジーⅢ（細胞工学）	○	2後	2	1							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境技術実験　※	○	3後	0.9	3							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
5	基 （主専）	教授	タカハシ カズアキ 高橋　一彰 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		基礎環境工学	○	1前	2	1	横浜市 温暖化対策総括本部企画調整部 部長 （令3.7）	○	○			5日	
							SDGs論　※	○	1前	0.8	1							
							環境政策論	○	2後	2	1							
							資源循環工学	○	3前	2	1							
							プロジェクトコミュニケーションⅠ	○	2後	1.5	1							
							プロジェクトコミュニケーションⅡ	○	3前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
6	基 （主専）	教授	オオタニ ソウスケ 大谷　壮介 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		水質管理工学	○	3前	2	1	大阪公立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科 准教授 （令4.4）	○	○			5日	
							環境モニタリング	○	3後	2	1							
							生態工学	○	3前	2	1							
							フィールド・環境施設実習　※	○	1前	1.1	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
7	基 （主専）	教授	タジマ　ユウスケ 田島　右副 ＜令和7年9月＞		博士 （理学）		分析化学		2前	2	1	国立研究開発法人理化学研究所 専任研究員 （平10.4）	○				5日	
							高分子化学		2前	2	1							
							高機能材料工学	○	3後	2	1							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境技術実験　※	○	3後	0.9	3							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
8	基 （主専）	教授	ムラタ　シゲノリ 村田　成範 ＜令和7年4月＞		博士 （理学）		初期演習Ⅰ	○	1前	1	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 （平19.4）	○	○			5日	
							初期演習Ⅱ（環境共生学）	○	1後	1	1							
							生命情報科学	○	1後	2	1							
							バイオテクノロジーⅡ（遺伝子工学）	○	2後	2	1							
							環境英語演習（留学プログラム）		3前	2	1							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境技術実験　※	○	3後	0.9	3							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
							生命科学入門		1前	2	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
9	基 （主専）	教授	ヤノ　ヨシアキ 矢野　義明 ＜令和7年4月＞		博士 （薬学）		環境イメージング技術	○	2前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 （令3.4）	○	○			5日	
							環境エネルギー概論	○	2前	2	1							
							機器分析学		2後	2	1							
							環境共生学入門（学習設計）	○	1前	1	1							
							基礎実験　※	○	1後	1.5	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
							薬の歴史と未来　※		1後	1.6	1							
10	基 （主専）	教授	ヨシダ　マサキ 吉田　昌樹 ＜令和7年9月＞		博士 （理学）		バイオマスエネルギー学	○	2前	2	1	株式会社アルガルバイオ 基盤研究・共同開発グループ リーダー （令3.3）	○				5日	
							バイオマス利活用工学	○	3前	2	1							
							環境エネルギー技術		3前	2	1							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境技術実験　※	○	3後	0.9	3							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
11	基 （主専）	准教授	ホサカ　ノリコ 穂坂　紀子 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		初期演習Ⅰ	○	1前	1	1	仙台高等専門学校 総合工学科 准教授 （平20.4）	○				5日	
							初期演習Ⅱ（環境共生学）	○	1後	1	1							
							SDGs論　※	○	1前	1.2	1							
							物理学と環境工学		2前	2	1							
							環境教育論	○	2後	2	1							
							環境教育実践		3前	1	1							
							プロジェクトコミュニケーションⅠ	○	2後	1.5	1							
							プロジェクトコミュニケーションⅡ	○	3前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
							物理学実験		2後	1	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
12	基 （主専）	准教授	ミウラ　タケシ 三浦　健 ＜令和7年4月＞		博士 （薬学）		基礎生物学　※	○	1前	1.5	1	武庫川女子大学 薬学部 准教授 （平26.4）	○	○			5日	
							細胞生物学		1後	2	1							
							バイオテクノロジーⅠ（分子生物学）	○	2前	2	1							
							基礎実験　※	○	1後	1.5	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
13	基 （主専）	准教授	イシニワ　ヒロコ 石庭　寛子 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		基礎生物学　※	○	1前	0.5	1	福島大学 環境放射能研究所 特任講師 （平29.6）	○				5日	
							生態学		1後	2	1							
							環境放射線工学		2前	2	1							
							野生生物管理工学		3前	2	1							
							フィールド・環境施設実習　※	○	1前	1.3	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
14	基 （主専）	准教授	ヒラオカ(ミズガキ)　マリノ 平岡(水垣)　真合乃 ＜令和7年4月＞		博士 （理学）		資源管理学		2後	2	1	筑波大学 生命環境系 非常勤研究員 （令4.6）	○				5日	
							防災技術Ⅰ	○	2後	2	1							
							防災技術Ⅱ	○	3前	2	1							
							フィールド・環境施設実習　※	○	1前	0.9	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅰa	○	2前	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅰb	○	2前	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
							地学実験		2後	1	1							
15	基 （主専）	講師	アマヌマ　エリ 天沼　絵理 ＜令和7年4月＞		修士 （農学）		データ分析・統計学	○	1後	2	1	国立研究開発法人国立環境研究所 気候変動適応センター 准特別研究員 （令2.7）	○				5日	
							環境経済学		1後	2	1							
							エコツーリズム実習　※		1通	0.6	1							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境技術実験　※	○	3後	0.9	3							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
16	基 （主専）	講師	サワダ　シュンスケ 澤田　隼佑 ＜令和7年4月＞		博士 （ナノメディシン科学）		環境・バイオ産業論		2後	2	1	武庫川女子大学 薬学部 助手 （令4.4）	○				5日	
							グリーンケミストリー		3前	2	1							
							毒性学		3後	2	1							
							フィールド・環境施設実習　※	○	1前	1.3	3							
							社会連携プロジェクトⅠ	○	1後	3	1							
							社会連携プロジェクトⅡ	○	2前	3	1							
							ラボローテーション実習Ⅱa	○	2後	1.5	1							
							ラボローテーション実習Ⅱb	○	2後	1.5	1							
							環境研究英語Ⅰ	○	4前	1	1							
							環境研究英語Ⅱ	○	4後	1	1							
							卒業研究・活動	○	4通	6	1							
17	その他	教授	ワタナベ　マサシ 渡邉　昌史 ＜令和7年9月＞		博士 （人間科学）		遊びの人類学		1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 （平25.4）						
18	その他	教授	フジムラ　マサト 藤村　匡人 ＜令和7年4月＞		修士 （芸術学）		ヨーロッパの名歌歌唱法　※		1前・後	0.9	2	武庫川女子大学 音楽学部 教授 （平26.4）						
19	その他	教授	イズミ　キョウコ 和泉　京子 ＜令和7年9月＞		博士 （保健学）		女性と子どものヘルスケア　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （平25.4）						
20	その他	教授	カタヤマ　メグミ 片山　恵 ＜令和7年9月＞		博士 （看護学）		女性と子どものヘルスケア　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （平27.4）						
21	その他	教授	ホンマ　ユウコ 本間　裕子 ＜令和7年9月＞		Ph.D. in Nursing （カナダ）		女性と子どものヘルスケア　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （平27.4）						
22	その他	教授	モロオカ　ユキ 師岡　友紀 ＜令和7年9月＞		博士 （保健学）		女性と子どものヘルスケア　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （令2.4）						
23	その他	教授	ホソノ　ケンジ 細野　健二 ＜令和7年4月＞		Ph.D. （英国）		英語で学ぶやさしい経済学		1前	2	1	武庫川女子大学 文学部 教授 （令3.4）						
							英語で学ぶお金の知識		1後	2	1							
24	その他	教授	ツル　ヒロフミ 鶴　宏史 ＜令和7年4月＞		博士 （社会福祉学）		現代の教育・保育事情　※		1前・後	2.2	4	武庫川女子大学 教育学部 教授 （平25.4）						
25	その他	教授	モリ　アツシ 森　篤嗣 ＜令和7年4月＞		博士 （言語文化学）		現代の教育・保育事情　※		1前・後	2.2	4	武庫川女子大学 教育学部 教授 （令5.4）						
26	その他	教授	スズキ　トシトモ 鈴木　利友 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		建築と社会		1前	2	1	武庫川女子大学 建築学部 教授 （平16.4）						
27	その他	教授	ハギモリ　マサヨリ 萩森　政頼 ＜令和7年9月＞		博士 （薬学）		薬の歴史と未来　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 （令2.4）						
28	その他	教授	ヨシダ　ミヤコ 吉田　都 ＜令和7年9月＞		博士 （薬学）		薬とからだ　※		1後	0.7	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 （平20.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
29	その他	教授	イチノセ　トモコ 一ノ瀬　智子 ＜令和7年9月＞		博士 （教育情報学）		音楽から見る人と世界		1後	2	1	武庫川女子大学 音楽学部 教授 （平16.4）						
30	その他	教授	タカハシ　チエコ 高橋　千枝子 ＜令和7年4月＞		博士 （商学）		女性のためのマーケティング		1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 教授 （平30.4）						
31	その他	教授	シミズ　サチコ 清水　佐知子 ＜令和7年9月＞		博士 （経済学）		現代社会と保健医療		1後	2	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （平27.4）						
32	その他	教授	ハンバ　リミカ 半羽　利美佳 ＜令和7年9月＞		M.SW （米国）		社会福祉の学び		1後	2	1	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授 （平18.4）						
33	その他	教授	クドウ　ヤスヒロ 工藤　康宏 ＜令和7年9月＞		博士 （スポーツ健康科学）		スポーツツーリズムと地域創生		1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 （令4.4）						
34	その他	教授	ニシオ　アキコ 西尾　亜希子 ＜令和7年4月＞		Ph.D. （英国）		女性と教育 ジェンダーとアイデンティティー ジェンダーと社会		1前・後 1前・後 1前・後	8 8 8	4 4 4	武庫川女子大学 共通教育部 教授 （平21.4）						
35	その他	教授	ヨシトミ　シヅヨ 吉富　志津代 ＜令和7年4月＞		博士 （人間・環境学）		特別英語演習Ⅰ 特別英語演習Ⅱ 特別中国語演習Ⅰ 特別中国語演習Ⅱ 特別ハングル演習Ⅰ 特別ハングル演習Ⅱ 海外演習Ⅰ 海外演習Ⅱ		1前・後 1前・後 1前 1前 1前 1前 1前 1前	8 8 2 2 4 4 1 2	2 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授 （令4.4）						
36	その他	教授	カワバタ　キョウコ 川端　京子 ＜令和7年4月＞		博士 （看護学）		知っておきたい応急処置		1前	2	1	武庫川女子大学 看護学部 教授 （平27.4）						
37	その他	教授	キムラ　マイコ 木村　麻衣子 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語ライティングⅠ TOEIC演習Ⅰ TOEIC演習Ⅱ TOEIC演習Ⅲ Basics for Presentation Ⅰ Basics for Presentation Ⅱ Reading & Critical Thinking Career Workshop ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ フランス語ⅠA フランス語ⅠB 中国語Ⅰ ハングルⅠ 留学準備演習		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 2前 2後 4前 4後 1前・後 1前・後 1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後	4 4 2 2 2 2 1 1 1 1 4 4 1 1 4 4 2	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 教授 （平5.4）						
38	その他	准教授	ナガシマ　アカネ 永島　茜 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		現代フランスの音楽事情 フランスの音楽と芸術文化		1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 音楽学部 准教授 （平20.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
39	その他	准教授	ハセガワ　ヒロキ 長谷川　裕紀 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		音楽の科学 データサイエンスの基礎とExcel データサイエンスの応用とExcel データリテラシー・AIの基礎	 ○	1前・後 1前・後 1前・後 1後	4 4 4 2	2 2 2 1	武庫川女子大学 共通教育部 准教授 （平19.4）						
40	その他	准教授	イズミ　シホ 和泉　志穂 ＜令和7年4月＞		博士 （情報メディア学）		色彩情報		1前	2	1	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 （平22.4）						
41	その他	准教授	タケモト　ユミコ 竹本　由美子 ＜令和7年4月＞		博士 （生活環境学）		科学から考える衣服と生活		1前	2	1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 （平21.4）						
42	その他	准教授	アニータ　リン　エイデン Anita Lynn Aden ＜令和7年4月＞		Ed.D. （米国）		International Perspectives Ⅰ International Perspectives Ⅱ Speaking & Listening Ⅲ Presentation Current Events English for Studying Abroad Trends in Society Leadership Development		1前 1後 3前 3後 4前 1前・後 1前・後 4後	2 2 1 1 1 2 2 1	1 1 1 1 1 2 2 1	武庫川女子大学 共通教育部 准教授 （平21.4）						
43	その他	准教授	マツムラ　ケンイチ 松村　憲一 ＜令和7年9月＞		修士 （人間科学）		心理学トピックス		1後	2	1	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授 （平20.4）						
44	その他	准教授	ナカオ　カヨコ 中尾　賀要子 ＜令和7年4月＞		Ph.D. （米国）		セクシュアリティ入門Ⅰ セクシュアリティ入門Ⅱ		1前・後 1前・後	6 4	3 2	武庫川女子大学 教育総合研究所 准教授 （平22.4）						
45	その他	准教授	マツバラ　ヨウコ 松原　陽子 ＜令和7年4月＞		博士 （言語文化学）		英語圏の文学・文化		1前・後	4	2	武庫川女子大学 文学部 准教授 （平27.4）						
46	その他	准教授	シタラ　カオル 設樂　馨 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		日本語の世界		1前・後	4	2	武庫川女子大学 文学部 准教授 （平17.2）						
47	その他	准教授	ヒゴ　ユキコ 肥後　有紀子 ＜令和7年4月＞		修士 （芸術文化）		メディア技術と文字デザイン		1前	2	1	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 （平14.4）						
48	その他	准教授	エナミ　ナオコ 榎並　直子 ＜令和7年9月＞		博士 （工学）		データリテラシー・AIの基礎	○	1後	2	1	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 （平22.4）						
49	その他	准教授	アキハラ　カズノリ 穐原　寿識 ＜令和7年4月＞		博士 （経営学）		スポーツと現代社会		1前・後	4	2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 准教授 （平28.4）						
50	その他	准教授	タケオカ　ケンジ 武岡　健次 ＜令和7年9月＞		修士 （学術）		マッサージ実習		1後	1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 准教授 （平20.4）						
51	その他	准教授	キタオ　ミカ 北尾　美香 ＜令和7年9月＞		博士 （看護学）		女性と子どものヘルスケア　※		1後	0.4	1	武庫川女子大学 看護学部 准教授 （平28.4）						
52	その他	講師	ヤノ　ヒロトシ 矢野　裕俊 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		現代の教育・保育事情　※		1前・後	1.6	4	武庫川女子大学 名誉教授 （平23.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
53	その他	講師	タケベ　トモコ 武部　智子 ＜令和7年4月＞		文学修士		神話・伝説の世界から		1前・後	8	4	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 （平4.4）						
54	その他	講師	オオツキ　フクコ 大槻　福子 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		平安朝文学の世界 歌舞伎鑑賞入門		1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平元.9）						
55	その他	講師	シロサカ　シンジ 城阪　真治 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		日常生活からの哲学入門		1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平27.4）						
56	その他	講師	サカグチ　ユウコ 坂口　裕子 ＜令和7年4月＞		修士 （音楽）		ミュージカル歌唱法 ヨーロッパの名歌歌唱法　※		1前・後 1前・後	2 1.1	2 2	武庫川女子大学 音楽学部 講師 （平31.4）						
57	その他	講師	スズキ　タカヒロ 鈴木　貴博 ＜令和7年4月＞		修士 （芸術学）		自己発見アート 未来造形		1前・後 1前・後	2 2	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平22.4）						
58	その他	講師	ステファニー　ディライト　バーチュ Stephanie Delight Bartsch ＜令和7年4月＞		M.Div （米国）		日本の文化Ⅰ 日本の文化Ⅱ Current Affairs in Japan　Ⅰ Current Affairs in Japan　Ⅱ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 （平31.4）						
59	その他	講師	ヤスダ　ユキコ 安田　由基子 ＜令和7年4月＞		文学士		日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平11.4）						
60	その他	講師	ナカムラ　カズコ 中村　和子 ＜令和7年4月＞		M.S. （米国）		生涯福祉論 社会福祉とボランティア		1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平13.4）						
61	その他	講師	ヤマサキ　セイジ 山崎　清治 ＜令和7年9月＞		学士 （工学）		福祉レクリエーションの実際		1後	2	1	NPO法人生涯学習 サポート兵庫 理事長 （平15.4）						
62	その他	講師	ヤナギハラ　リカコ 柳原　利佳子 ＜令和7年4月＞		修士 （教育学）		子育てと家族関係 子育てと母性の気づき		1前 1前	2 2	1 1	神戸常磐大学 教育学部 講師 （平24.4）						
63	その他	講師	ヨネダ　ノリコ 米田　紀子 ＜令和7年4月＞		学士 （法学）		現代社会と憲法		1前・後	4	2	神戸グレース法律事務所 弁護士 （令2.7）						
64	その他	講師	スギイ　シュンスケ 杉井　俊介 ＜令和7年4月＞		博士 （法学）		教養としての法律 暮らしと法律		1前 1後	2 2	1 1	桃山学院大学 法学部 准教授 （令6.4）						
65	その他	講師	ソメカワ　ミチヨ 染川　美千代 ＜令和7年4月＞		準学士 （教養学）		消費者生活論		1前	4	2	武庫川女子大学 生活環境学部 非常勤講師 （令5.4）						
66	その他	講師	ナカジマ　ヒロミ 中島　弘美 ＜令和7年4月＞		社会学士		カウンセリングの実際 実践カウンセリング		1前 1後	6 6	3 3	ＣＯＮカウンセリングオフィス中島 代表 （平7.11）						
67	その他	講師	シンカイ　ヒサアキ 真貝　寿明 ＜令和7年9月＞		博士 （理学）		生活の中の物理学 最先端物理学が描く宇宙		1後 1後	2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 教授 （平18.4）						
68	その他	講師	キム　ボヨン 金　宝英 ＜令和7年4月＞		学術博士		韓国文化の理解		1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平18.4）						
69	その他	講師	ショウ　カイハ 蒋　海波 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		中国文化論		1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平18.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
70	その他	講師	マツナミ トモコ 松並　知子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		世界の中の日本人 女性の身体とセクシュアリティ メディアに見るジェンダー		1前 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平24.4）						
71	その他	講師	タワ　マキ 田和　眞希 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		女性のためのライフプランニング 英語リーディングⅠ		1前・後 1前・後	4 6	2 6	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平9.4）						
72	その他	講師	アキタ　ヒサコ 秋田　久子 ＜令和7年4月＞		文学士		自己アピールトレーニング		1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平17.4）						
73	その他	講師	ユカワ　カナ 湯川　カナ ＜令和7年9月＞		修士（学術）		ビジネスプラン構築概論		1後	2	1	一般社団法人リベルタ学舎 代表理事 （平26.8）						
74	その他	講師	イワイ　マキ 岩井　麻紀 ＜令和7年4月＞		M.Ed.（米国）		英語リーディングⅡ		1前・後	2	2	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 非常勤講師 （平28.4）						
75	その他	講師	クロカワ トモコ 黒川　知子 ＜令和7年4月＞		M.S.in Education（米国）		英語リーディングⅡ		1前・後	2	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平14.9）						
76	その他	講師	トリイ　タカシ 鳥居　孝司 ＜令和7年4月＞		修士（言語科学）		英語ライティングⅠ		1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 （平25.4）						
77	その他	講師	ジョージ　クリントン　デニソン George Clinton Denison ＜令和7年4月＞		M.S. in Education（米国）		英語ライティングⅡ Successful English Discussion Speaking & Listening Ⅰ Speaking & Listening Ⅱ Writing Ⅰ Writing Ⅱ Global IssuesⅠ Global IssuesⅡ		1前 1前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	1 2 1 1 1 1 1 1	1 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 講師 （平24.9）						
78	その他	講師	タナカ　リエ 田中　梨恵 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		English for Careers		3前	1	1	株式会社ラジュネス企画 PRコーディネーター （令2.4）						
79	その他	講師	ウエノ　トモコ 植野　智子 ＜令和9年9月＞		Ph.D（アイルランド）		Reading & Discussion		3後	1	1	武庫川女子大学 教育学部 非常勤講師 （平25.4）						
80	その他	講師	ハシキ　イクコ 橋木　郁子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ		1前・後 1後	8 2	4 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平7.4）						
81	その他	講師	イダカ コウイチ 井高　浩一 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 （平5.9）						
82	その他	講師	イチナリ ナオコ 市成　直子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1前・後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （昭58.10）						
83	その他	講師	カ ケイリン 何　景琳 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1前・後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平3.4）						
84	その他	講師	リュウ イェンズ 劉　燕子 ＜令和7年4月＞		修士（中国文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1前・後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平31.4）						
85	その他	講師	マンニーノ　マッシミリアノ Mannino Massimiliano ＜令和7年4月＞		Laurea（イタリア）		イタリア語ⅠA イタリア語ⅠB		1前・後 1前・後	2 2	2 2	（株）アップルケイ・ランゲージ イタリア語講師 （平25.1）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
86	その他	講師	ツボイ　ユキエ 坪井　幸栄 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平26.4）						
87	その他	講師	チョン　ソンヒ 田　皇姫 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		ハングルⅠ		1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平28.4）						
88	その他	講師	マツイ　セイイチロウ 松井　聖一郎 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		ハングルⅠ ハングルⅡ ハングル検定演習		1前・後 1前 1後	4 2 1	2 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平21.4）						
89	その他	講師	カイ　タカヒロ 甲斐　隆浩 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		Webデザイン基礎 Webデザイン応用 グラフィックデザイン基礎 フォトレタッチ基礎		1前・後 1前・後 1後 1前	4 4 2 2	2 2 1 1	Plus Project 代表 （平16.4）						
90	その他	講師	ナカムラ　カツノリ 中村　勝則 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		データサイエンスのためのPython 実用的ITリテラシー		1前・後 1前・後	6 6	3 3	武庫川女子大学 共通教育部 講師 （平24.9）						
91	その他	講師	オオタ　マサオ 太田　雅夫 ＜令和7年4月＞		修士（体育学）		生涯スポーツ論		1前	2	1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平31.9）						
92	その他	講師	ヨシカワ　サユリ 吉川　小百合 ＜令和7年4月＞		学士（健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学）		スポーツ実技（テニス）		1前・後	4	4	マーズプランニング テニスインストラクター （平25.4）						
93	その他	講師	マツムラ　クミコ 松村　公美子 ＜令和7年4月＞		文学士		スポーツ実技（ゴルフ）		1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平23.4）						
94	その他	講師	アダチ　マナブ 足立　学 ＜令和7年4月＞		修士（学校教育学）		スポーツ実技（バレーボール）		1前・後	4	4	園田学園女子大学 人間健康学部 准教授 （平20.4）						
95	その他	講師	タカハシ　ミカ 高橋　美佳 ＜令和7年4月＞		修士（体育方法学）		スポーツ実技（バドミントン）		1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平26.4）						
96	その他	講師	トヨナガ　ジュンコ 豊永　洵子 ＜令和7年9月＞		修士（体育学）		スポーツ実技（ジャズダンス）		1後	1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 講師 （令3.4）						
97	その他	講師	サカタ　ジュンコ 坂田　純子 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技（エアロビクス）		1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平19.4）						
98	その他	講師	ミウラ　エイキ 三浦　栄紀 ＜令和7年4月＞		短期大学卒		スポーツ実技（スリムエアロ）		1前・後	2	2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 （平19.4）						
99	その他	講師	カネコ　リュウダイ 金子　竜大 ＜令和7年9月＞		修士（スポーツ科学）		スポーツ実技（水泳）		1後	1	1	天理大学 体育学部 助教 （令5.4）						
100	その他	講師	イワシタ　ユリコ 岩下　由利子 ＜令和7年4月＞		体育学士		スポーツ実技（軽スポーツ）		1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平18.4）						
101	その他	講師	オオヤ　マサコ 雄谷　昌子 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技（ヨガ） スポーツ実技（エアリアルワーク）		1前・後 1前・後	4 4	4 4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平20.4）						
102	その他	講師	ヒガシデ　マスヨ 東出　益代 ＜令和7年4月＞		修士（臨床教育学）		からだと気づきと姿勢法 スポーツ実技（バンジーエクササイズ）		1前・後 1前・後	3 3	3 3	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （平26.9）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
103	その他	講師	アサガ　ソノエ 浅賀　園恵 ＜令和7年4月＞		高等学校卒		スポーツ実技（スタイルジャズ）		1前・後	2	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 （令3.4）						
104	その他	講師	ウノ　ヒロム 宇野　博武 ＜令和7年4月＞		修士 （体育学）		スポーツ実技（フットサル）		1前・後	4	4	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 講師 （令4.4）						
105	その他	講師	イシダ　ケンイチロウ 石田　健一郎 ＜令和8年9月＞		博士 （理学）		生命と地球環境		2後	1	1	筑波大学 生命環境系 教授 （平18.4）						
106	その他	講師	イトウ　フミヒコ 伊藤　文彦 ＜令和9年4月＞		博士 （世界遺産学）		世界遺産学		3前	1	1	三重県環境生活部文化振興課 主幹兼係長 （平18.4）						
107	その他	講師	カサギ　ヒロオ 傘木　宏夫 ＜令和8年4月＞		高等学校卒		環境アセスメント論		2前	2	1	NPO地域づくり工房 代表理事 （平14.3）						
108	その他	講師	ヨシムラ　シズエ 吉村　志津江 ＜令和7年4月＞		学士 （文学）		情報リテラシー	○	1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 非常勤講師 （平27.4）						
109	その他	講師	マスダ　ショウコ 増田　祥子 ＜令和7年4月＞		修士 （言語文化学）		情報リテラシー	○	1前	2	1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 （平26.9）						
110	その他	講師	モニカ　ランキン Monica Rankin ＜令和8年4月＞		M.S. in Education （米国）		環境英語Ⅰ 環境英語Ⅱ 環境英語Ⅲ 環境英語Ⅳ	○ ○ ○ ○	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 （平29.9）						
111	その他	講師	ディープティ　ミシロ Deepti Mishiro ＜令和8年4月＞		M.A. in Arts （インド）		環境英語Ⅰ 環境英語Ⅱ 環境英語Ⅲ 環境英語Ⅳ	○ ○ ○ ○	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	大阪公立大学 非常勤講師 （令4.4）						
112	その他	講師	アンドリュー　フィルポット Andrew Philpott ＜令和8年4月＞		Ph.D （Applied Linguistics） （豪州）		環境英語Ⅰ 環境英語Ⅱ 環境英語Ⅲ 環境英語Ⅳ	○ ○ ○ ○	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	関西学院大学 言語教育研究センター 言語特別講師 （平24.8）						
113	その他	講師	オクノ　ケイタロウ 奥野　圭太朗 ＜令和9年4月＞		修士 （社会学）		エコツーリズム論		3前	1	1	京都産業大学 文化学部 講師 （令2.4）						
114	その他	講師	クリタ　ヨシノリ 栗田　佳典 ＜令和9年4月＞		学士 （社会学）		NPO・NGO論		3前	2	1	特定非営利活動法人 関西NGO協議会 事務局長・理事 （令3.12）						
115	その他	講師	ヤマグチ　ユタカ 山口　豊 ＜令和7年4月＞		修士 （学校教育学）		現代の教育・保育事情　※		1前・後	2.2	4	武庫川女子大学 教育学部 非常勤講師 （平29.4）						
116	その他	助教	キシモト　チアキ 岸本　千秋 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		SNSから日本語を見る		1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 助教 （平26.4）						
117	その他	助教	フモト　カナ 麓　加菜 ＜令和7年9月＞		博士 （薬学）		薬とからだ　※		1後	1.3	1	武庫川女子大学 薬学部 助教 （平21.4）						
118	その他	助教	ハヤシ　マリア 林　麻利亜 ＜令和7年4月＞		博士 （薬学）		健康生活とライフステージ		1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 助教 （平22.4）						
119	その他	助教	フジイ　ヨシト 藤井　善仁 ＜令和7年9月＞		修士 （経済学）		キャリアビジョンと人物評価		1後	2	1	武庫川女子大学 経営学部 助教 （平31.4）						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　授	博　士	人	人	1人	4人	4人	人	1人	10人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	3人	人	1人	人	人	4人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	4人	4人	5人	人	1人	15人	
	修　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	